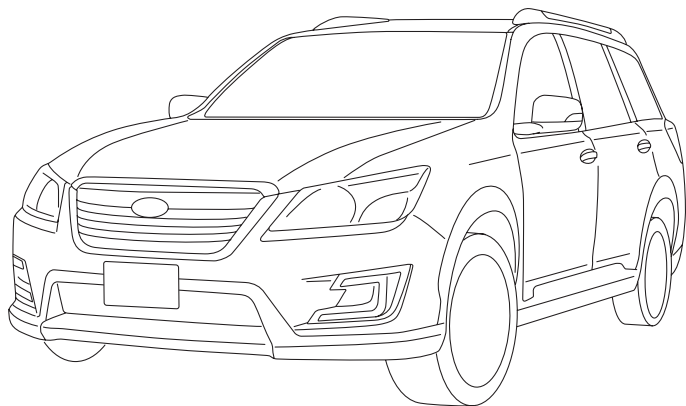


このたびは「エクシーガ クロスオーバー セブン」を お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。
安全で快適にお使いいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が
うたわれています。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。



- 交通ルール・マナーを守って運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- 「EyeSight」の取り扱いについては、別冊の取扱説明書をお読みください。
- スバル販売店で取り付けられた装備（ディーラーオプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。

車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますので
ご了承ください。

本書の見かた

表示やマークについて

安全に関する表示

お車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が傷害を受ける可能性のあることや、お車が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。

 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害を負う可能性があります。
---	---------------------------------

 注意	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、お車が損傷する可能性があります。
---	--

禁止行為は禁止マークが入っています。

	禁止事項を示しています。
---	--------------

その他の表示

 アドバイス	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
--	-------------------------------

	グレードやオプションなどにより異なる装備については よつばマークがついています。
---	---

本文の見かた

タイトル
階層により区別
してあります。

ヘッダー
ページの内容を
案内しています。

ツメタイトル
各章のタイトルを
案内しています。

前ページを
参照ください。

ハンドルとミラーの調整

チルトステアリング

運転姿勢に合わせてハンドル位置を上下に調整できます。

- ① チルトレバーを押下げます。
- ② ハンドル位置を合わせます。



運転する前に

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動（マニュアル車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② クラッチペダルをいばいに踏み込みます。
- ③ エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

アドバイス

<クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいばいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

■エンジンの始動（オートマチック車）

●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。（[N]でも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。）

●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

警告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

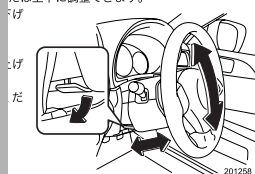
注意

エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
10秒以上スターターを回し続けしないでください。
スターターが故障する原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。
エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。

動いて危険です。
表に固定してください。固定が不十分な重大な事故につながる可能性があります。

ステアリング

たは上下に調整できます。



2-93

3-30

警告
前ページを
参照ください。

注意
前ページを
参照ください。

アドバイス
前ページを
参照ください。

※ このページはサンプルページです。記載されている内容は実際のお車とは異なります。

検索について

本書では、色々な方法で目的のものを検索できるようにしてあります。

エアコンの使い方は？

4

全内装用品の使いかた

エアコン

吹き出し口の調整	4-2
吹き出し口表示と使用目的	4-3
マニュアルエアコン	4-5
フルオートエアコン（シングルタイプ）	4-9
フルオートエアコン（左右独立タイプ）	4-17

→ 2-22 / → 2-23 / → 2-24

タイトルから探す

本書の目次

ツメタイトル

各章の目次

ワイパーを動かしたい

場所から探す

イラスト目次

シートの調整方法は？

し

CDについて	4-16
シートの調整	2-36, 2-37
シートヒーター	2-38
シートベルト	2-47
シートベルト警告灯	3-25

名称から探す

さくいん

エンジンがかからない!?

お車の症状から探す

困ったときのQ&A

?

?



MEMO

本書の目次

イラスト目次

1

必読！安全で快適な
運転のポイント

1-1

- お車をお使いいただく上で…1-2
- お出かけ前には…1-4
- お子さまを乗せるときの注意…1-9

2

運転する前に

2-1

- キーレスアクセス&プッシュ
スタート…2-2
- 各部の開閉…2-31

3

運転するとき

3-1

- スイッチの使いかた…3-2
- コンビネーションメーター…3-14
- 運転装置の使いかた…3-31

4

室内装備品の使いかた

4-1

- エアコン…4-2

5

寒冷地での使いかた

5-1

- 冬の前の準備、点検…5-2

6

日常点検・お車の手入れ

6-1

- 日常点検…6-2

7

万一のとき

7-1

- 工具、スペアタイヤ…7-2
- パンクしたとき…7-7
- 発炎筒…7-14

8

サービスデータ

8-1

さくいん

困ったときのQ&A

- CVT車の特徴と運転上の注意…1-12
- 走行するときには…1-17
- アイドリングストップ使用上の注意…1-22
- 雪道走行するときには…1-25
- 駐・停車するときには…1-26
- SRSエアバッグシステム…1-28
- 燃料を給油するときには…1-30
- こんなことにも注意を…1-31
- イベントデータレコーダー…1-37

1

- セキュリティシステム…2-47
- シート…2-54
- シートベルト…2-73
- お子さまの安全…2-82
- SRSエアバッグシステム…2-103
- ハンドルとミラーの調整…2-121

2

- CVT車の運転…3-32
- AWD車の運転…3-51
- VDC…3-57
- アイドリングストップ…3-44
- ブレーキ…3-53
- ハンドル…3-62

3

- 室内装備…4-14

4

- 走行する前に…5-6
- 走行するとき、駐車するとき、洗車するとき…5-8

5

- お車の手入れ…6-9

6

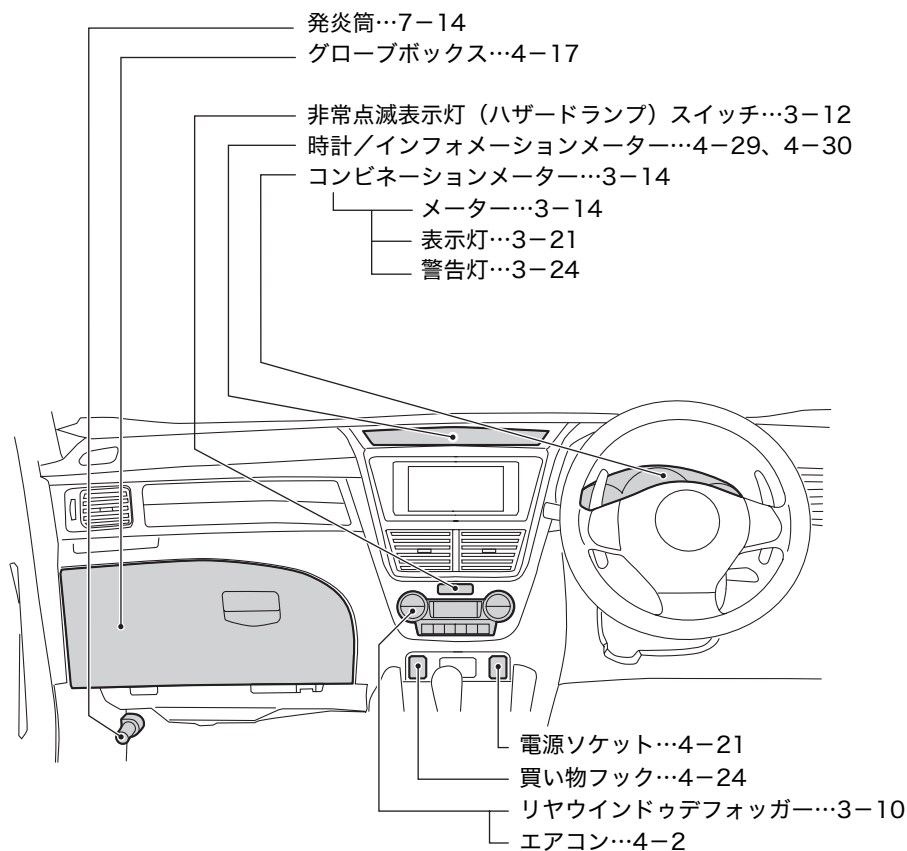
- 故障したとき…7-16
- けん引のとき…7-18
- オーバーヒートしたとき…7-24
- バッテリーが上がったとき…7-26
- 事故が起きたとき…7-29

7

8

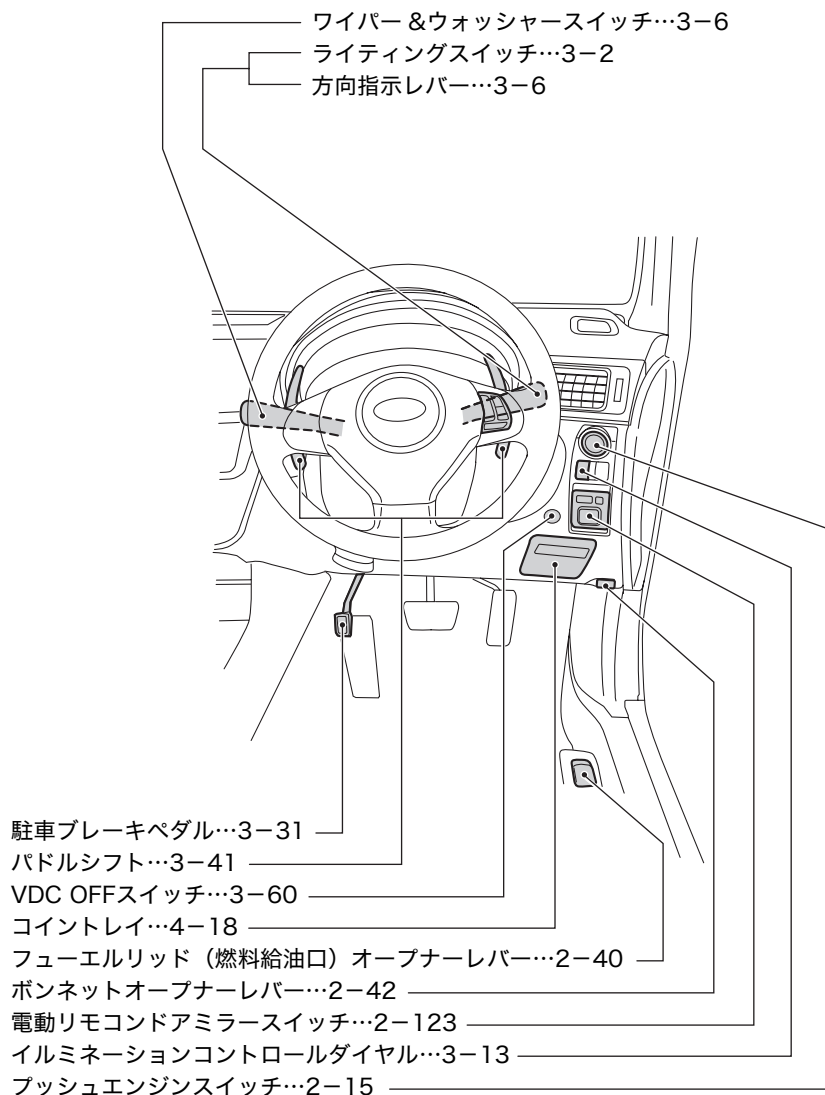
イラスト目次

インストルメントパネル周辺



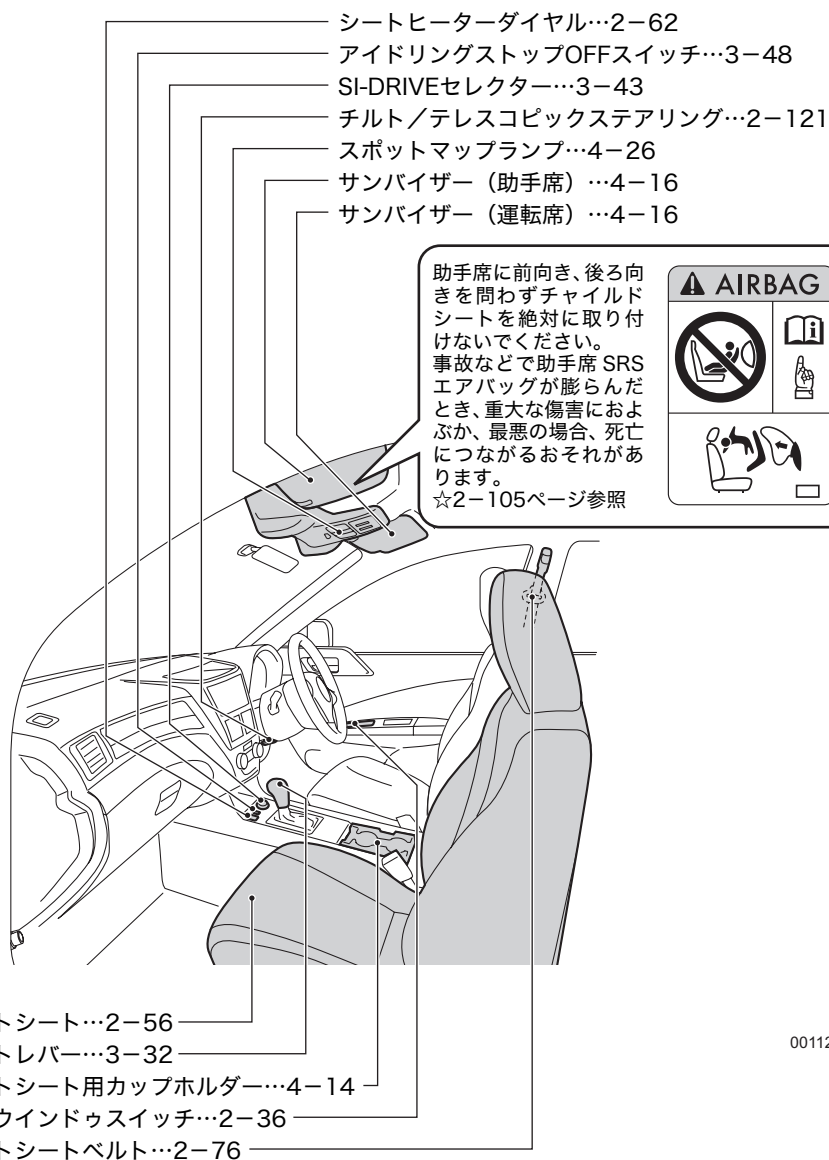
001118

ハンドル周辺



001119

室内・前側



001120

室内・後側

リクライニング調整レバー…2-71

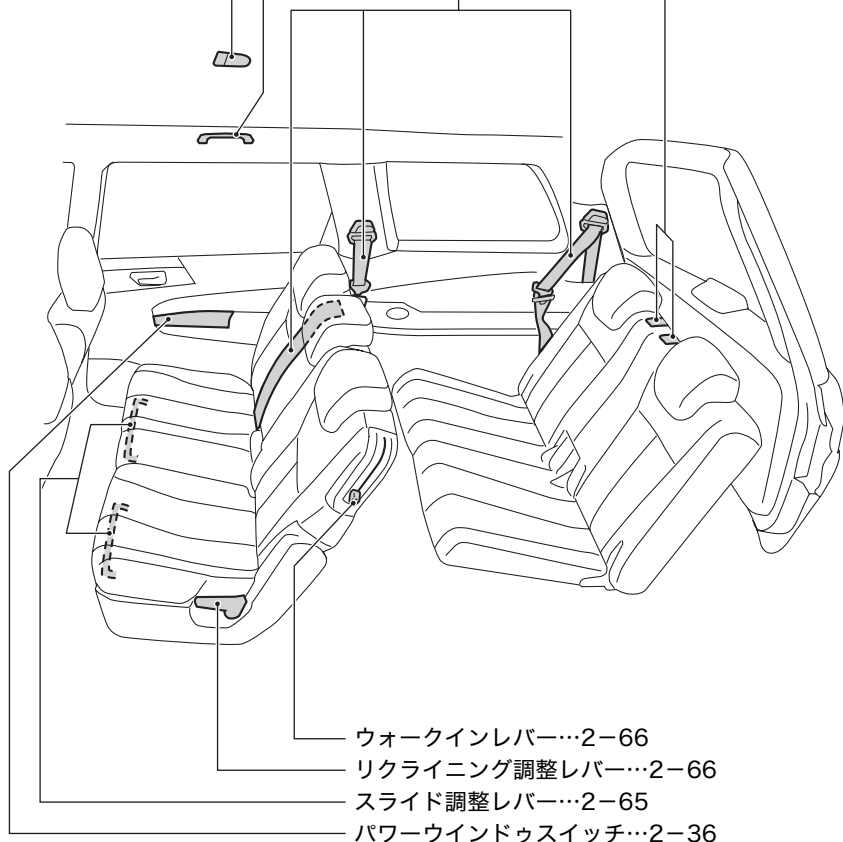
セカンドシートベルト、

サードシートベルト…2-80

アシストグリップ

(回転式) …4-23

ルームランプ…4-26



001311

ウォークインレバー…2-66

リクライニング調整レバー…2-66

スライド調整レバー…2-65

パワーウィンドウスイッチ…2-36

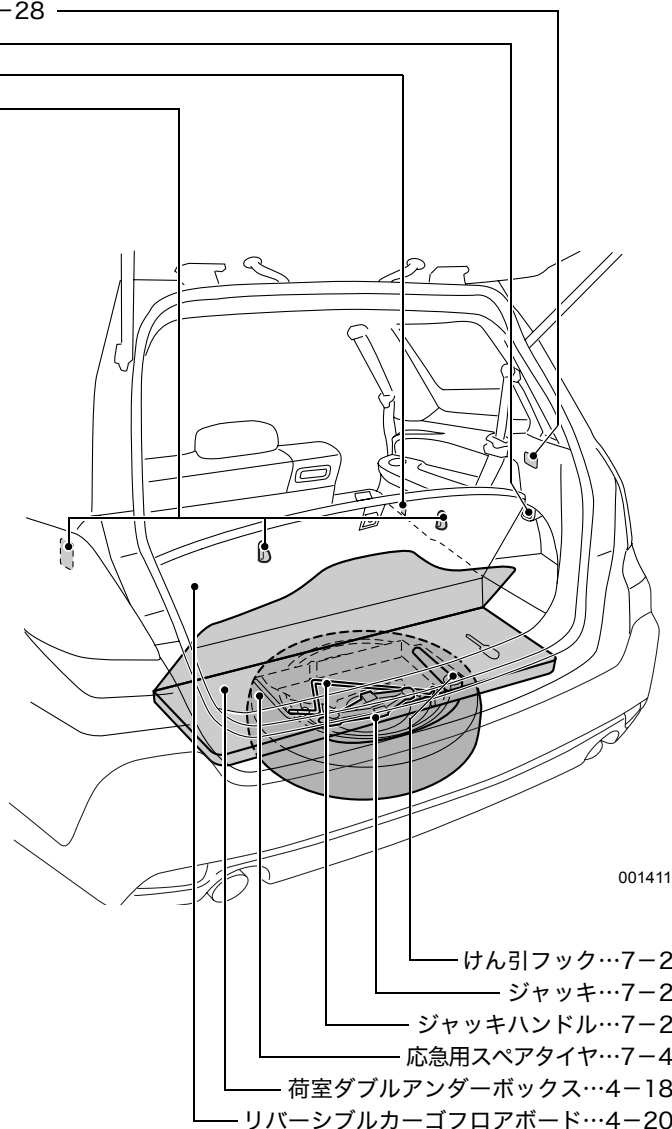
荷室

カーゴルームランプ…4-28

電源ソケット…4-21

カーゴフック…4-23

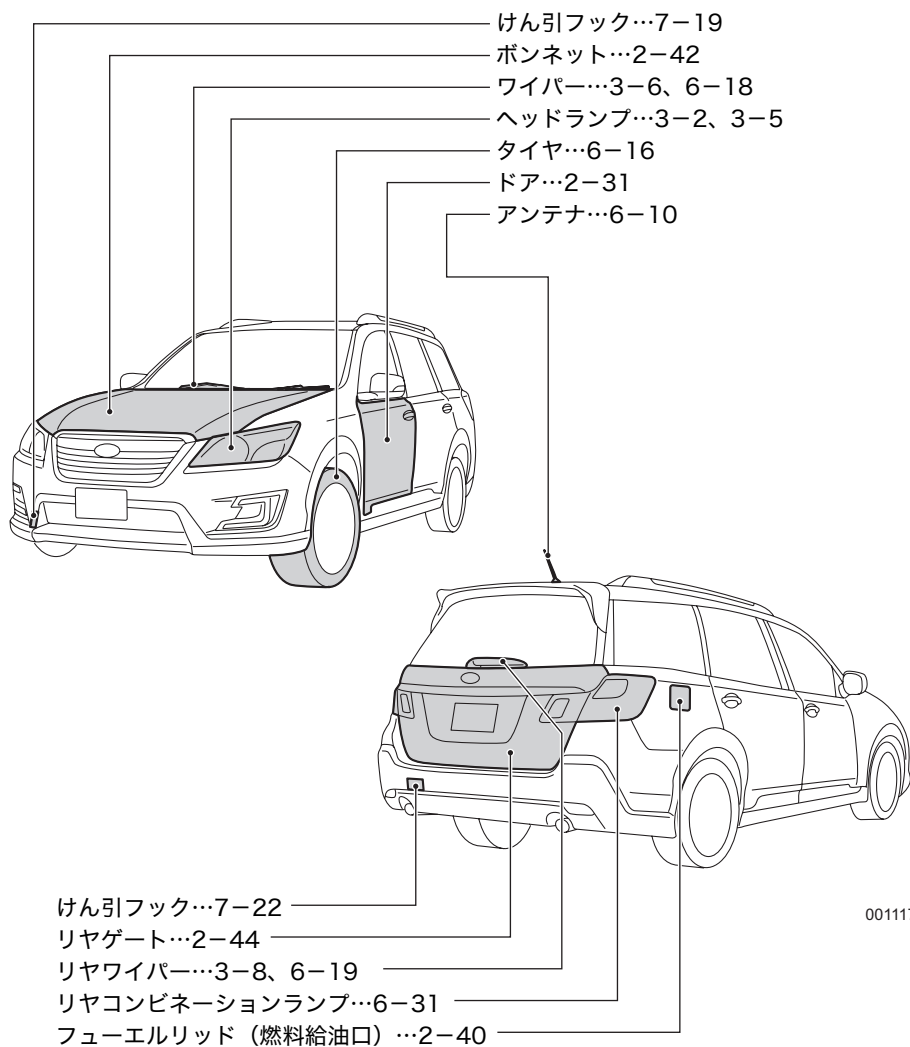
買い物フック…4-24



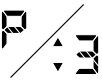
001411

※ 本イラストはグレードやオプションなどにより実物と一部異なります。

外観



表示灯

	方向指示器表示灯…3-21		VDC OFF表示灯 …3-22、3-61
	ライティングスイッチ 表示灯…3-21		I (インテリジェントモード) 表示灯…3-22
	ハイビーム／パッシング 表示灯…3-21		S (スポーツモード) 表示灯…3-23
	セキュリティ表示灯 …2-48		S# (スポーツシャープ モード) 表示灯…3-23
	Info-ECO (インフォ・エコ) 表示灯…3-21		アイドリングストップ 表示灯 (緑色) …3-23、3-48
	セレクトインジケーター／ シフトポジション表示 …3-22		アイドリングストップOFF 表示灯 (黄色) …3-23、3-49

警告灯

	ブレーキ警告灯…3-24		チャージ警告灯…3-27
	シートベルト警告灯 …2-78、3-24		エンジン警告灯…3-28
	半ドア警告灯…3-25		燃料残量警告灯…3-28
	ABS警告灯 …3-25、3-54		VDC警告灯/ VDC作動表示灯 …3-28、3-59
AWD	AWD警告灯…3-26		オートヘッドランプレベ ラー警告灯…3-29
	SRSエアバッグ警告灯 …3-26		ステアリング制御警告灯 …3-30
	オイルプレッシャー警告灯 …3-27		キー無し警告灯…3-30
AT OIL TEMP	AT油温警告灯…3-27		アイドリングストップ 警告灯（黄色）…3-30、 3-49

MEMO

1

必読！安全で快適な 運転のポイント

1

お車をお使いいただく上で	1 - 2
お出かけ前には	1 - 4
お子さまを乗せるときの注意	1 - 9
CVT車の特徴と運転上の注意	1 - 12
走行するときには	1 - 17
アイドリングストップ使用上の注意	1 - 22
雪道走行するときには	1 - 25
駐・停車するときには	1 - 26
SRSエアバッグシステム	1 - 28
燃料を給油するときには	1 - 30
こんなことにも注意を	1 - 31
イベントデータレコーダー	1 - 37

お車をお使いいただく上で

■ユーザーカスタマイズ機能

- お客様のお好みにより、機能の設定を変更することができます。スバル販売店にて変更することができますので、詳しくはスバル販売店にご相談ください。項目によっては、お客様自身で設定を変更することができる機能があります。
- 盗難警報装置については、本書の使用説明、注意事項をよく読み、お客様のお好みや、駐車場所の状況により設定してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

●お客様自身でも変更可能な機能

項目	機能の内容	設定	初期設定	参照ページ
盗難警報装置	警報の作動	作動あり／作動なし	作動なし	2-51

●スバル販売店でのみ変更可能な機能

項目	機能の内容	設定	初期設定	参照ページ
盗難警報装置	警報の監視開始時間の設定	0秒／30秒	30秒	—
	衝撃センサーの作動（ディーラーオプション）	作動あり／作動なし	作動なし	—
	衝撃センサーの感度（ディーラーオプション）	11段階の中から設定可能	標準	—
キーレス エントリー／ キーレスアクセス	非常点滅表示灯（ハザードランプ）の点滅作動	作動あり／作動なし	作動あり	—
	アンサーバックブザーの作動	作動あり／作動なし	作動あり	—
	自動施錠の作動および作動時間	作動あり／作動なし 20秒／30秒／ 40秒／50秒／60秒	作動あり 30秒	—
キー閉じ込み防止	キー閉じ込み防止の作動	作動あり／作動なし	作動あり	—
リヤウインドウ デフォグガー （フロントワイパー デアイサー、ヒーター ドアミラー）	リヤウインドウ デフォグガーの作動 （フロントワイパー デアイサー、ヒーター ドアミラーと連動）	15分作動／連続作動	15分作動	—
室内ランプ	次のランプのオフタイレイ作動 ・ ルームランプ ・ スポットマップランプ	作動あり／作動なし 短／標準／長	作動あり 長	—
	警報作動時における次の ランプの点灯作動 ・ ルームランプ ・ スポットマップランプ	作動あり／作動なし	作動なし	

項目	機能の内容	設定	初期設定	参照ページ
半ドア対策機能	半ドアのバッテリー上がり防止機能の作動	作動あり／作動なし	作動あり	—
オートライト	感度調整	1（弱）～4（強）	2（標準）	—
アイドリングストップ	アイドリングストップの作動およびアイドリングストップ後の再始動の条件	方向指示器の条件有効／無効	無効	—

■キーナンバープレート、セキュリティIDプレートの保管

- キーナンバーはスペアキーを作るときに、またセキュリティIDナンバーは作ったスペアキーをイモビライザーへ登録するときに、必要となります。これらのナンバーが打刻してあるプレートは、盗難防止のためお車の中には置かず、大切に保管してください。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお奨めします。登録の消去は、スバル販売店でのみ行えます。
スバル販売店にご相談ください。

☆2-2ページ参照

■盗難警報装置について

この機能の初期設定は「作動なし」となっています。

☆2-49ページ参照

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）以外でドアが開けられたとき、または車両が衝撃を受けたとき（ディーラーオプションの衝撃センサー装備車のみ）に警報（ホーン音と非常点滅表示灯（ハザードランプ）の点滅）で周囲に異常を知らせる装置です。

また、次のように警報が作動する場合、または作動しない場合がありますので取り扱いには充分注意して使用してください。

- メカニカルキーによる施錠、車外からのキーを使わない施錠では盗難警報装置は監視状態（警報が作動可能な状態）に入りません。
- 盗難警報装置が監視状態（警報が作動可能な状態）のとき、メカニカルキーで解錠した場合、車内からキーを使わずに解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けてしまうと警報が作動します。

☆2-29、2-32、2-33ページ参照

また、警報を作動させてしまったときには解除方法として次のいずれかの操作をすると解除できます。

- アクセスキーのいずれかのボタンを押す
- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してACCにする

お出かけ前には

■点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

☆「メンテナンスノート」参照

■タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法律で義務づけられています。タイヤ空気圧は空気圧ゲージを使用して、ドライブの前や、定期的（最低月1回程度）に点検・調整してください。応急用スペアタイヤも忘れずに点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると、走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆6-6、8-5ページ参照

■バッテリーの液量はときどき点検して

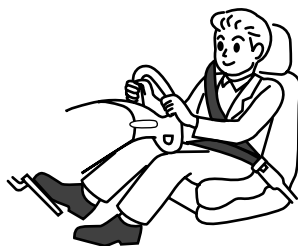
バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

☆「メンテナンスノート」参照

■正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☆2-54、2-121ページ参照



100028

■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ずシートベルトを正しく着用し、走行中はシートベルトを外さないでください。
- 乗員は全員、シートベルトを着用してください。後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

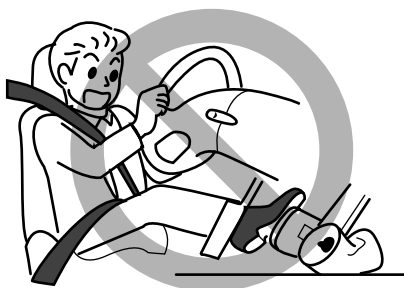
☆2-73ページ参照



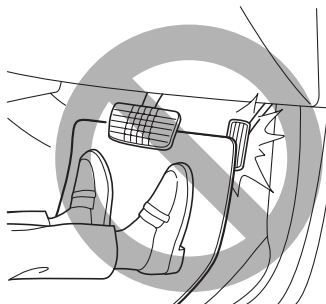
100029

■運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を放置しないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットはお車に合ったものを正しく敷いてずれないように固定クリップなどで固定してください。また、フロアマットを2枚以上重ねて使用しないでください。フロアマットがずれてアクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スバル純正のフロアカーペットをご用意しています。詳しくはスバル販売店にご相談ください。



100230



100972

■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■室内に荷物を積むとき

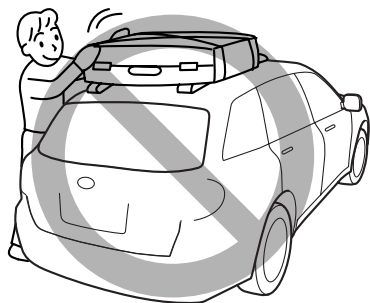
- 荷物はできるだけ低くし、背もたれの高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながる可能性があります。
- 荷物が荷室から飛び出した状態でリヤゲートを閉めないでください。荷物が破損するおそれがあります。



100231

■ルーフに荷物を積むとき

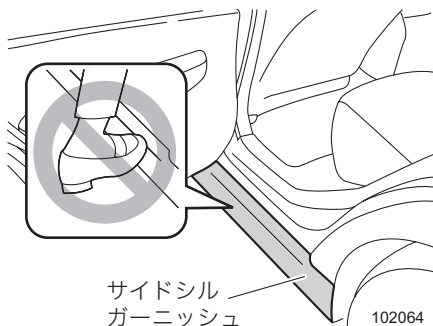
- ルーフやルーフレールに直接荷物を積んだり、不用意にロープ掛けをしないでください。荷くずれを起こしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ルーフに荷物を積むときは、別売のスバル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。スバル純正品以外を使用すると、車体に損傷を与えることがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 荷物を積むときは、リヤゲート開閉の邪魔にならないようにしてください。
- 固定方法や最大積載量などの取り扱い上の注意については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに付属の取扱説明書を必ずお読みください。



101750

■サイドシルガーニッシュに足をのせないで

サイドシルガーニッシュはステップではありません。絶対に足をのせないでください。車体に損傷を与えたり、外れて思わぬけがをしたりするおそれがあります。

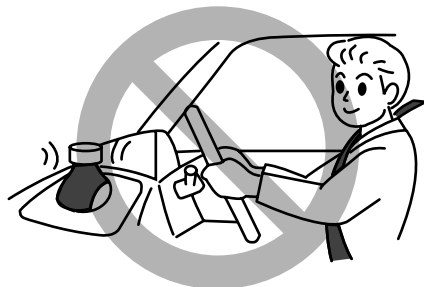


102064

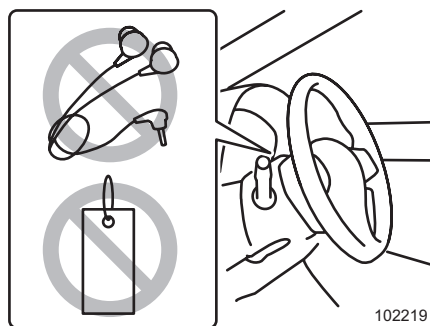
■インストルメントパネルの上やハンドル、スイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スwitchの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、場合によっては故障や加熱・火災の原因になります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っ掛けたりしないでください。スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

☆2-103、2-106、2-107、2-108、
2-109、2-121ページ参照



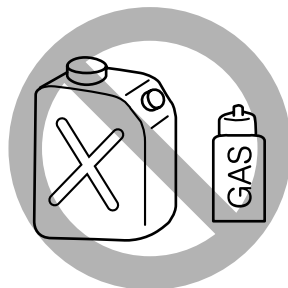
100232



102219

■危険物の持ち込みはやめて

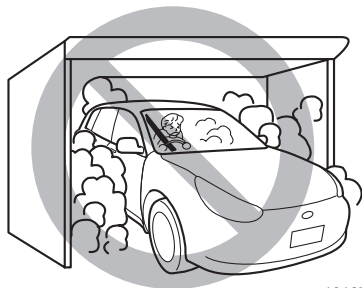
燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは、炎天下で車内が高温になったとき、火災の原因になるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。



100233

■排気ガスの換気に気をつけて

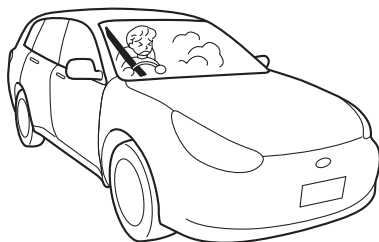
車庫など換気の悪い場所でエンジンを始動したままにしないでください。車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。



101673

■車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

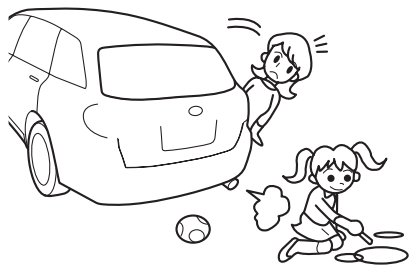
すみやかに窓を開け、換気してください。
そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。



101674

■お車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、お車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。



101675

■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

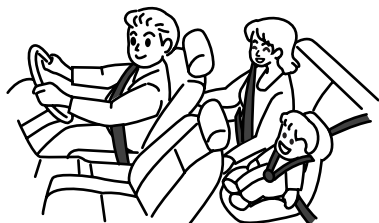
次の場合はお車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき

お子さまを乗せるときの注意

■お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席に座らせ、必ずシートベルトを着用させてください。6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ずチャイルドシートを後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。



☆2-104ページ参照

100036

■チャイルドシートを使用して

- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したISO FIX固定バーを標準装備しています。
- ECE R44[※]の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

グループ0: ~10 kg

グループ0+: ~13 kg

グループⅠ: 9~18 kg

グループⅡ: 15~25 kg

グループⅢ: 22~36 kg

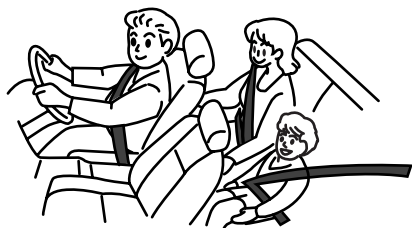
※ ECE R44は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまには、チャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていると、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままでのシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまを SRS エアバッグの前やシートの上に立たせた状態では走行しないでください。



100037



100234

■ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドブルーフをご利用ください。

☆2-35ページ参照

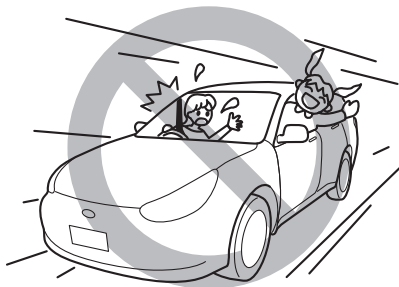
- ドア開閉時、ドアハンドルに指・爪などを挟まないように注意してください。



101676

■窓から顔や手を出させないで

走行中、車外の物などに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。



101677

■パワーウィンドウに気をつけて

- パワーウィンドウが閉まるときには大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、操作をする前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので、小さなお子さまにはスイッチ操作をさせないでください。
- お子さまを乗せるときには、パワーウィンドウのロックスイッチをロック状態にしておいてください。
お子さまがいたずらして、手や首を挟むことを防止します。



100235

☆2-36ページ参照

■アームレストを動かすときは

アームレストの可動部に指などが挟まれると危険ですので、お子さまが指などを挟み込まないように注意してください。

■お車から離れるときは一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや体の不自由な方は、絶対に車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり、熱中症など短時間のうちに重大な障害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

エアコンを作動させていても途中で止まることもあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- お子さまが駐車ブレーキなど運転装置をいたずらして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



101678

CVT車の特徴と運転上の注意

■クリープ現象があります

- エンジンが始動しているとき、セレクトレバーが[P]または[N]以外でアクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりとお車が動き出す現象を、クリープ現象といいます。
- 停車中はお車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため（アイドルアップ）、クリープ現象が強くなることがありますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。



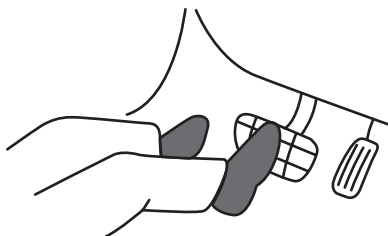
101679

■強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- マニュアルモードを選択しているときは、キックダウンはできません。キックダウンを行う必要のあるときは、[D]に戻してください。

■ブレーキペダルは右足で

- エンジンを始動する前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。



100953

■セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まないと[P]から動かないようになっています。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため、後退した後はセレクトレバーをすみやかに[R]から[P]または[N]にする習慣をつけてください。

■セレクトレバー位置は目で確認

エンジンを始動するときは[P]、前進するときは[D]、後退するときは[R]の位置にあることを目で確認してください。



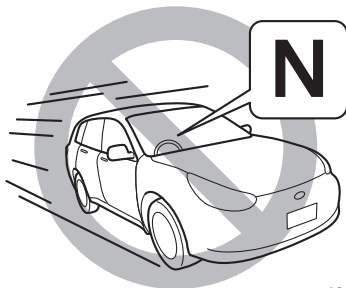
100078

■発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと、急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

■走行中はセレクトレバーを[N]にしないで

エンジンブレーキが効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



101680

■走行中（前進時）は、[R]にしないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

■セレクトレバーは正しい位置で

セレクトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、[R]に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

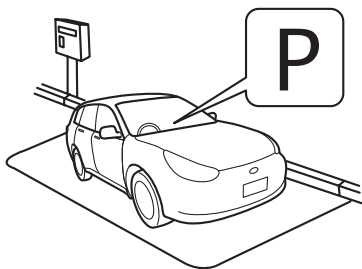
■お車が完全に止まらないうちに[P]に入れないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

■駐車するときは[P]にしてプッシュエンジンスイッチをOFFにし、駐車ブレーキを確実に

お車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーを[P]にしてプッシュエンジンスイッチをOFFにし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

☆1-27ページ参照



101681

■停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。



101682

■お車から離れるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにして

- クリープ現象でお車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーを **P** にして駐車ブレーキを確実にかけプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。



101679

■ **R** に入れるとブザーが鳴ります

R に入れるとブザーが鳴り、**R** であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんが注意してください。

■シフトロックシステムがついています

シフトロックシステムは、セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- [P]からのレバー操作は、プッシュエンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないといけません。
 - ー セレクトレバーを[P]から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- セレクトレバーが[P]以外ではプッシュエンジンスイッチをOFFにできません。
- セレクトレバーが[N]でプッシュエンジンスイッチをOFFにしようとした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので、直ちにブレーキペダルを踏みながら[P]に操作してください。
もし、セレクトレバーが[N]から[P]に操作できないときは、プッシュエンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。
- プッシュエンジンスイッチがONでセレクトレバーを操作できないときは、プッシュエンジンスイッチをACCにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。(60秒以内) 上記の処置をしてもセレクトレバーが操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。

■[P]からセレクトレバーが操作できないとき

プッシュエンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でもセレクトレバーを操作できないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。

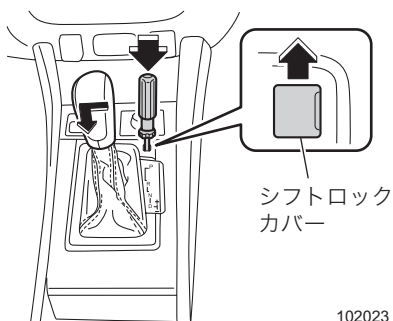
② シフトロックカバーを外します。

シフトロックカバーを外すときにマイナスドライバーを使用する場合は、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。

③ ブレーキペダルを踏みます。

④ シフトロック解除ボタンをドライバーなどで押しながらセレクトレバーを操作します。

セレクトレバーが操作できないときは、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。



102023

走行するときには

■タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能に影響し、事故につながる可能性があります。タイヤの交換を行う場合は、次の事項をお守りください。

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。

☆6-16、6-17、7-4、8-5ページ参照

■走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3-24ページ参照

- ボンネットを開けて点検するときは、高温部に触れないでください。ボンネット内部は高温のため、やけどをすることがあります。
- エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を負うおそれがあります。
- エンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

☆7-24ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちにお車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。



101683

■ペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。



100236

■走行中はプッシュエンジンスイッチを操作しないで

- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中プッシュエンジンスイッチをOFFにしないでください。ハンドルがロックされ、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。

■ABSを過信しないで

ABSは必ずしも制動距離を短くするものではありません。

次の状況などではABSが作動した場合、ABSが付いていない車よりも制動距離が長くなる場合があります。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 道路のつなぎ目などの段差を走行しているとき
- 凹凸路、石畳などの悪路を走行しているとき
- 下り坂で旋回をしているとき
- 路肩に草や砂利が多い道路を走行しているとき
- 砂利道を走行しているとき
- 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路など）を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

ABSが付いていない車と同様、十分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。

☆3-53ページ参照

■洗車後や水たまりを走行した後はブレーキの効き確認を

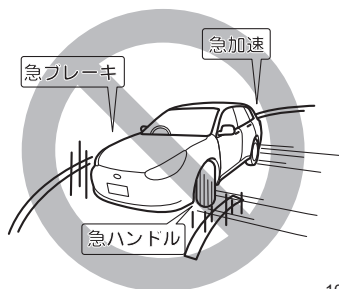
水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効が悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。



101684

■ぬれた路面や滑りやすい路面では慎重に

ぬれた路面や滑りやすい路面の走行は、慎重に行ってください。とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転数が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。



101685

■雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。
通常より注意して安全運転を心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水にのった状態（ハイドロブレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。スピードを落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロブレーニング現象が起りやすいので注意してください。

■冠水した道路を走行しないで

冠水した道路を走行すると、エンストするだけでなく、電装品のショート、エンジン損傷などの重大な車両故障につながるおそれがあります。

万一、水中に浸かってしまったときは、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

■下り坂ではエンジンブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

〈エンジンブレーキとは〉

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

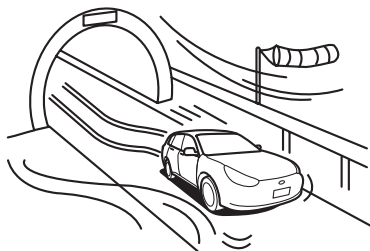
〈シフトダウンとは〉

- パドルシフトの⊖側レバーを手前に引くまたは、セレクトレバーをDからマニュアルゲートに動かし、セレクトレバーを⊖側（ダウン側）に操作することで、低速ギヤへ変速することをいいます。
- シフトダウンによるエンジンブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

■横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転してください。

走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風でお車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。



101686

■高速道路に入る前には

- 高速道路に入る前には、燃料を十分に給油してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態では高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆8-5ページ参照

- 万一のために停止表示板（または停止表示灯）をお車に備えておいてください。高速道路上に停車する場合は、停止表示板（または停止表示灯）の設置が法律で義務づけられています。（別売り）

■燃えやすいものに注意して

路上に燃えやすいもの（枯葉など）があると排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。燃えやすいものの上や付近で停車または走行するときは、注意してください。



101687

■こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- むかるみなどでタイヤがスタック（立ち往生）したときはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンルーム内および車体床下に、ねこやねずみなどの小動物がいないことを確認してください。エンジン始動時に、ファンやベルトに小動物が巻き込まれ、車体に損傷を与えることがあります。

■適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

■ブレーキパッドの摩耗警報

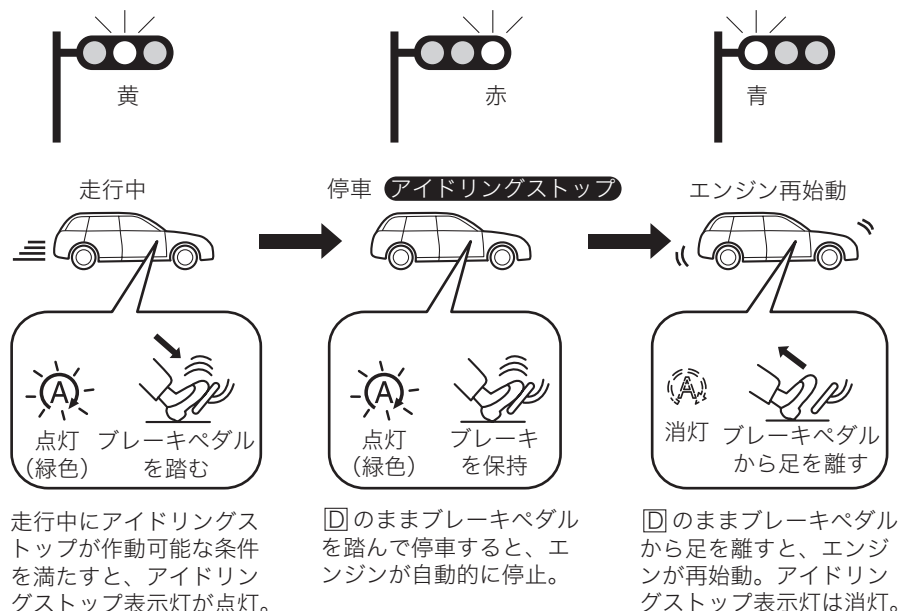
パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。

音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

アイドリングストップ使用上の注意

■アイドリングストップの作動を確認

☆3-44ページ参照



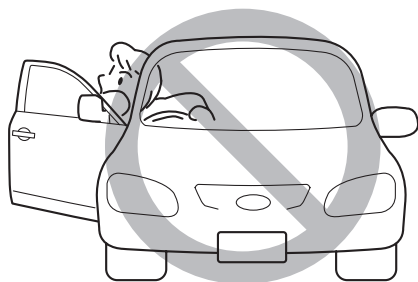
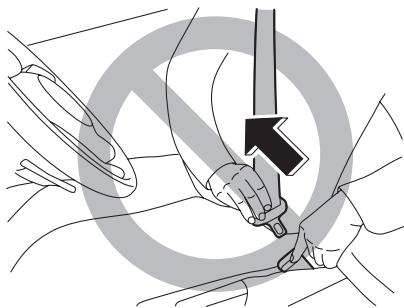
102086

■アイドリングストップ使用中の注意点

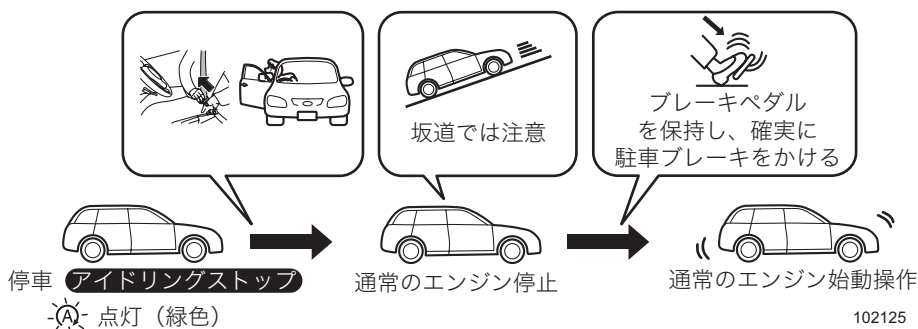
アイドリングストップは運転者や外部からの操作により、ブレーキペダルを踏んだままでも、安全確保のためにエンジンが停止、または再始動することがあります。

■アイドリングストップ中に運転席シートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりしないで

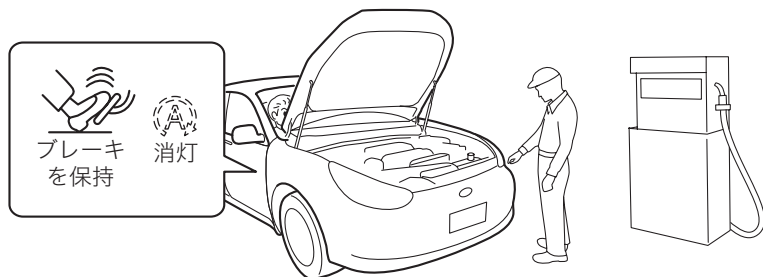
アイドリングストップ中に運転席シートベルトを外したり、運転席ドアを開けたりすると、自動的に通常のエンジン停止状態になります。ブレーキペダルから足を離すと、坂道で車が動くなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



102087



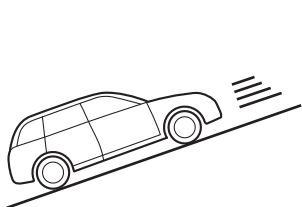
■アイドリングストップ中にボンネットを開けないで



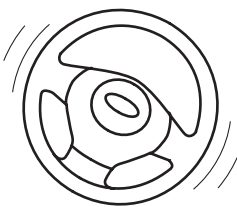
102089

運転者が車内でブレーキペダルを踏んでいても、アイドリングストップ中にボンネットを開けると、安全を確保するため通常のエンジン停止状態になります。

この場合、坂道でお車が動く、ハンドル操作が重くなる、ブレーキが効きにくくなるなどの可能性があります危険です。



坂道で動く



ハンドルが重くなる



ブレーキが効きにくくなる

102090

■車外に出るときは

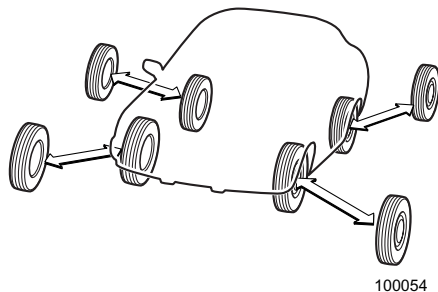
お車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだままの状態ですらブレーキを確実にかけます。

セレクトレバーを **P** に入れ、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

雪道走行するときには

■4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

- 雪道走行が予測される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一レッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。



■控えめな運転を心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、お車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。セレクトレバーをマニュアルモードの2速にします。マニュアルモード選択時にはパドルシフトで2速にすることもできます。

☆3-42ページ参照

■タイヤチェーンは前輪に

- タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、前輪に装着してください。
- タイヤチェーンを取り付けると、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑り出すと、ハンドルでお車の進路をコントロールすることが難しくなります。急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避け、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- タイヤチェーンはスバル純正品を使用してください。



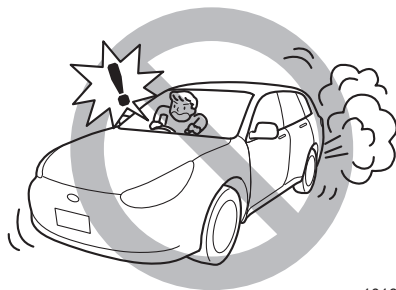
駐・停車するときには

■燃えやすいものの近くにお車を止めないで

- 路上に燃えやすいもの（枯葉など）があるところには、お車を止めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- お車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して止めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

■停車中は空吹きをししないで

排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。



101682

■坂道に駐車するときは

坂道に駐車する場合には、無人でお車が動き出すなど思わぬ事故につながる可能性があるよう、次の処置をしてください。

- ① 駐車ブレーキを充分にかけ、お車が動き出さないことを確認します。
- ② セレクトレバーを[P]に入れます。
- ③ 輪止め（タイヤストッパー）をします。輪止め（タイヤストッパー）は車載されていませんので必要に応じて準備してください。

なお、急な坂道での駐車は避けてください。

■お車の移動はエンジンを始動して

坂道などで、エンジンを始動しなくてもお車を動かせる場合でも、必ずエンジンを始動して移動してください。エンジンを始動しないで移動すると、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

■お車から離れるときは

- 必ず駐車ブレーキをかけ、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
- 必ず施錠をしてください。
- お子さまや体の不自由な方は、絶対に車内に残したままにしないでください。炎天下の車内は高温となり、熱中症など短時間のうちに重大な障害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

■いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してゆっくりと開けてください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があります。思わぬ事故につながるおそれがあります。



101689

■駐車するときはプッシュエンジンスイッチをOFFにして

- 仮眠するときは必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- 雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンを始動したままにしないでください。エンジンを始動した状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

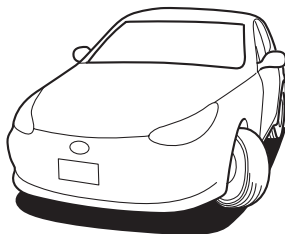
■ハンドルをいっぱいに回した状態を続けしないで

車庫入れなどで、エンジンを始動したままハンドルをいっぱいに回した状態を続けしないでください。

ハンドルをいっぱいに回した状態を続けると、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。

これはコンピューターがシステムの過熱を防止するために作動を制限している現象で、異常ではありません。

しばらくハンドル操作を抑えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。



101690

■冷却ファンに注意

ボンネットを開ける場合は、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。やむを得ず、プッシュエンジンスイッチがONでボンネットを開ける際は、冷却ファンに注意してください。エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもプッシュエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがあります。回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

SRSエアバッグシステム

■SRSエアバッグシステムとは

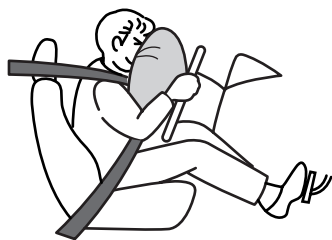
SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはプッシュエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

<運転席SRSエアバッグ>



100224

<助手席SRSエアバッグ>



100225

<SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグ>



101215

必読！安全で快適な運転のポイント

■シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2-54、2-73ページ参照

■お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルドシートを使用してください。
チャイルドシートの使用法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。
SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-104ページ参照

燃料を給油するときには

■必ず指定燃料をご使用ください

- 無鉛レギュラーガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。
- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、軽油、アルコール系燃料※など）やガソリン添加剤を使用すると、エンジンの始動性が悪くなり、ノッキングが発生し、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品が損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

※ アルコールが主成分の高濃度アルコール含有燃料。日本工業規格（JIS）や「揮発油の品質の確保に関する法律」が定めたガソリン規格に適合しているETBEやE3などのバイオガソリンは使用できます。

■給油時には必ず次のことをお守りください

- プッシュエンジンスイッチを必ずOFFにしてください。
- お車のドア、窓は閉めてください。
- 給油時は火気厳禁です。
タバコなどの火気を絶対に近づけないでください。引火して火災を引き起こすおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。
- 燃料の取り扱いは屋外で行ってください。
- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります、やけどするおそれがあります。
- フューエルキャップを開ける場合は、必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がしたときは、その音が止まってからゆっくり開けてください。急に開けると燃料給油口より燃料の吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど、給油操作は必ずお一人で行ってください。燃料給油口に他の人を近づけないでください。
- 給油するときは燃料給油口に給油ガンのノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かしたり、浅く挿入し継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 給油中は、車内のシートに戻らないでください（座ることで帯電することがあります）。
- 給油は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 給油後は、フューエルキャップを“カチッ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。キャップが確実に締まっていないと走行中に燃料が漏れ、火災になるおそれがあります。
- お車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- 給油中に、燃料をお車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。こぼれた燃料はすみやかに拭き取ってください。

■給油時に気化した燃料を吸いこまないように注意してください

燃料の成分には有害な物質を含んでいるものもあります。気化した燃料を吸いこまないよう、注意してください。

こんなことにも注意を

■AWD車は万能ではありません

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、滑りやすい路面、積雪路などでは2WD（二輪駆動）車に比べて安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆3-51ページ参照

■走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話などを手で保持して通話したり、メールの送受信などのために画面を注視することは禁止されています。



100237

■アクセサリーの取り付けに注意

ウインドウにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席 SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。



100238

■洗車やワックスがけのとき

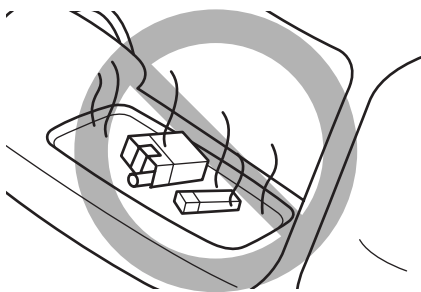
洗車やワックスがけを行う場合は、車体の一点に強い力がかからないように注意してください。
力のかけ具合や場所によっては、車体がへこむおそれがあります。



101513

■車内にガスライター、スプレー缶などを放置しないで

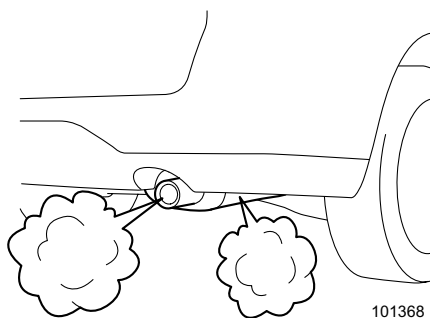
炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶などを放置しないでください。車内が高温になるためガスライターやスプレー缶などが爆発するおそれがあります。



100239

■排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。



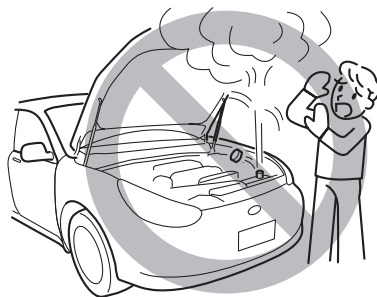
101368

■リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

■ラジエーターが熱いときキャップを外さないで

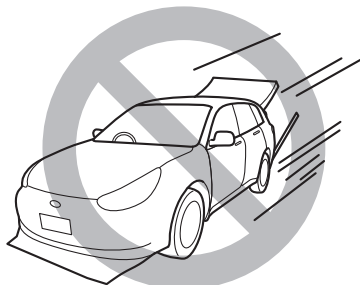
ラジエーターやリザーバタンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。



101691

■不正改造は絶対にしないで

- お車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながる場合があります。
- スバルが国土交通省に届け出た部品以外のものを取り付けると、不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください（タイヤ、ホイール、マフラーなど）。



101692

■電装品を取り付けるときには

次の場合、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 取り付け、取り扱いを誤る
- 容量の異なるヒューズを使用する
- スバル純正以外の部品を使用する

詳しくはスバル販売店にご相談ください。

■RF送信機の取り付けについて

RF送信機は、次のような電子システムに影響を与える可能性がありますので、取り付けないでください。

- 燃料噴射システム
- クルーズコントロールシステム
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRSエアバッグシステム
- プリテンショナー付シートベルト
- キーレスアクセス&プッシュスタート

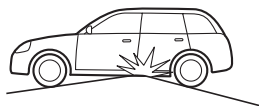
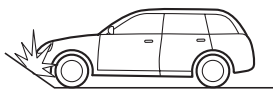
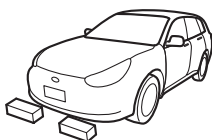
■故障診断コネクタに機器を取り付けないで

車の故障診断コネクタには、点検整備用の故障診断装置のみが接続できます。故障診断装置以外の機器を接続すると、車両システムに悪影響をおよぼしたり、バッテリーが上がるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。特定機器以外の接続に起因する不具合については、メーカー保証の対象にはなりません。

■車止めなどに注意して

次のような場合には、バンパーやマフラーなど車体下部を損傷するおそれがありますので、充分に注意してください。

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ（穴）のある個所の通過



101693

■純正部品をお奨めします

マフラー、エアクリーナーエレメント、オイル、オイルフィルター、冷却水、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合や、故障の原因になることがあります。

例えば、マフラーやエアクリーナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。スバル純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

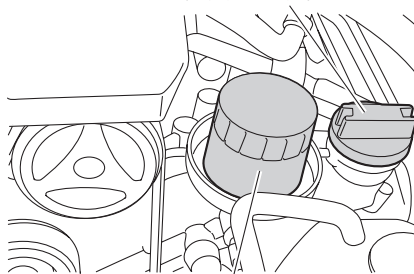
■水銀含有部品について

HIDヘッドランプのバルブには、微量の水銀が含有されています。廃棄物処理法や自治体の指針に従い、適切に処理してください。

■点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えています。お客様が安心してお車にお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検をするときは、プッシュエンジンスイッチがOFFでエンジンが冷えていることを確認してください。やむを得ずプッシュエンジンスイッチがONでエンジンルーム内の点検を行う際は、駐車ブレーキを確実にかけてお車が動き出さないようにしてください。
- エンジン温度が高いときにプッシュエンジンスイッチをONにすると、冷却ファンが回ることがありますので注意してください。
- エンジン始動中または停止後は、エンジンオイルフィルターが高温になっています。エンジンが完全に冷えるまで、エンジンオイルフィルターには触れないでください。
- エンジンオイル注入口のキャップを脱着するときは、オイルフィルターに触れないよう充分注意してください。手や指を挟んだりやけどをするなど、思わぬけがをするおそれがあります。

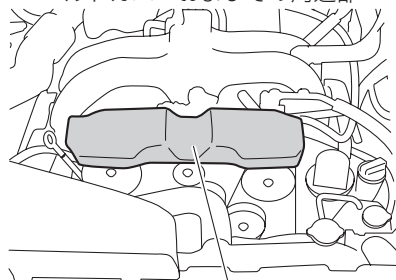
エンジンオイル注入口のキャップ



エンジンオイルフィルター 101812

- エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分注意してください。思わぬけがをすることがあります。
また、ベルトカバーやベルト周辺部に触れないでください。手がすべるなどして、思わぬけがをするおそれがあります。

ベルトカバーおよびその周辺部



ベルトカバー 102188

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRSエアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDRは次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や障害が発生した状況を把握するのに役立ちます。



注意

EDRは衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせ使用することがあります。EDRで記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両またはEDRへ接続する必要があります。スバルに問わず、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両またはEDRに接続した場合でも情報を読み出すことができます。

■EDRデータの情報開示

次の場合を除き、スバルはEDRで記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関など法的強制力のある要請に基づく場合
- スバルが訴訟で使用する場合

ただし、スバルは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

※ ここでいうスバルは、株式会社SUBARUを意味しています。

MEMO

キーレスアクセス&プッシュスタート

キーレスアクセス	2-2
キーレスアクセスによる施錠・解錠	2-6
電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠	2-11
プッシュスタート	2-14
エンジンの始動と停止のしかた	2-17
警告音および警告表示による警報	2-21
キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法	2-28
アクセスキーが正常に作動しないとき	2-29

各部の開閉

ドア	2-31
チャイルドブルーフ	2-35
パワーウィンドウ	2-36
フューエルリッド（燃料給油口）	2-40
ボンネット	2-42
リヤゲート	2-44

セキュリティシステム

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）	2-47
盗難警報装置	2-49

シート

正しい運転（乗車）姿勢	2-54
フロントシート	2-56
セカンドシート	2-63
サードシート	2-70

シートベルト

シートベルトの正しい着用	2-73
フロントシートベルト	2-76
セカンドシートベルトおよびサードシートベルト	2-80

お子さまの安全

チャイルドシート	2-82
ISO FIX固定バー方式で固定するチャイルドシートについて	2-85
シートベルトで固定するチャイルドシートについて	2-99

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム	2-103
SRSエアバッグが作動するとき、しないとき	2-110
SRSエアバッグ警告灯	2-119
車両の整備作業やカー用品を装着するとき	2-119

ハンドルとミラーの調整

チルト/テレスコピックステアリング	2-121
ルームミラー	2-122
ドアミラー	2-123

キーレスアクセス&プッシュスタート

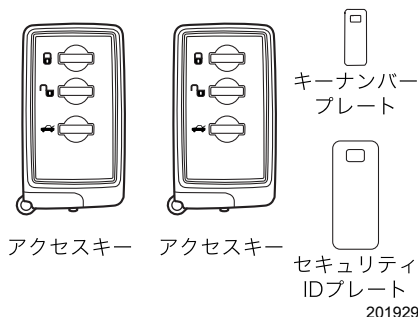
キーレスアクセス

■キーの種類

車両には、次のキーがついています。

アクセスキーにはイモビライザー機能が装備されています。

☆2-47ページ参照



⚠ 警告

キーレスアクセス&プッシュスタートシステムにおいて、植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方は、車両側発信アンテナから約22 cm以内の範囲に植込み型心臓ペースメーカーなどを近づけないようにしてください。

車両側発信アンテナの電波により植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を装着されている方は、後述の“キーレスアクセス&プッシュスタートで使用している電波について”を参考に医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。車両側発信アンテナの電波により医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

- キーレスアクセス&プッシュスタート機能の作動あり／作動なしを設定することができます。設定方法は「キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法」を参照してください。また、スバル販売店でも設定変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

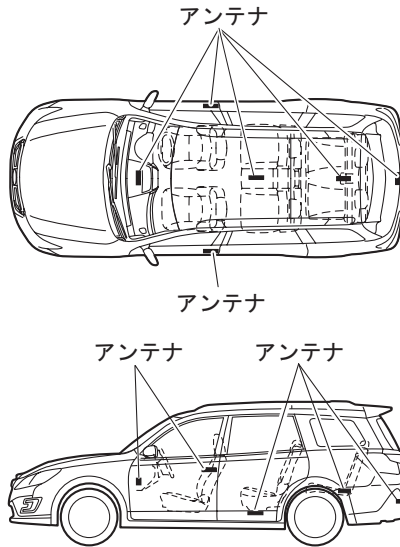
☆2-28ページ参照

キーレスアクセス&プッシュスタートで使用している電波について

- キーレスアクセス&プッシュスタートでは、次の規則により定められた微弱電波を使用しています。
 - 一 電波法施行規則第6条第1項第1号
- キーレスアクセス&プッシュスタート機能は、電波式リモコンドアロック機能の電波に加え、次の周波数の電波※を使用しています。その電波は次のイラストの車両側アンテナから周期的に出力しています。

※ 電波周波数：134 kHz

- アクセスキーは電波法の認証に適合しています。
必ず次のこともお守りください。
- ー 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ー 必ず日本国内でご使用ください。



202786

 注 意

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムでは微弱な電波を使用しているため、次のようなアクセスキーの状態、周囲の状況によっては、アクセスキー・車両間の通信の妨げとなり、施錠・解錠およびエンジンの始動ができなくなることがあります。

- 近くに放送施設、送電線などの強い電波を発生する設備があるとき
- 他の車両のアクセスキーまたはリモコンキーなどの電波を発信するような製品を使用しているとき
- アクセスキーの近くに携帯電話などの無線通信機があるとき
- アクセスキーの近くに空気清浄機があるとき
- アクセスキーの電池が消耗しているとき
- アクセスキーを次のような製品と同時に携帯しているとき
 - － 他の車両のアクセスキーまたはリモコンキー
 - － パソコンや携帯情報端末
 - － デジタルオーディオプレーヤー
 - － ポータブルゲーム機器
- アクセスキーが次のような金属製の物に接していたり、覆われたりしているとき
 - － アクセサリー
 - － アルミ箔などの金属が貼られたカード
 - － アルミ箔を使用したタバコの箱
 - － 金属製の財布やカバン
 - － 小銭
 - － カイロ
 - － CDやDVDなどのメディア
- 充電器など電子機器の近くにアクセスキーを置いたとき
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 純正用品以外の部品を取り付けたとき

アクセスキーは、次の場所に絶対に放置・保管しないでください。

- **車室内（インストルメントパネルの上、小物入れ、シートの上など）または荷室内**

アクセスキーを車内に閉じ込めたり、電池が急激に消耗するおそれがあります。また、アクセスキーの位置によってはプッシュエンジンスイッチが切り替わらないことがあります。

- **車両周辺2 m以内（車庫での保管など）**

電池が急激に消耗するおそれがあります。

長期間お車を使用しないとき、機能自体を使用しないとき、やむをえずアクセスキーを車室内やお車の周辺に保管したいときは、キーレスアクセス機能を停止させることができます。

☆2-28ページ参照

また、スバル販売店でも設定を変更することができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

アクセスキーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。

- アクセスキーの電池は、お客様ご自身で交換することができますが、交換の際に破損などのおそれがあるためスバル販売店での交換をお奨めします。
- 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
- パソコン、家電製品の近くに放置しないでください。アクセスキーが誤作動し、電池切れの原因となります。
- 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、充分に乾かしてください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 磁気を帯びた物に近づけないでください。
- ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
- 超音波洗浄機などで洗浄しないでください。
- 湿気やホコリが多い場所に放置しないでください。アクセスキー故障の原因となります。

航空機内はアクセスキーなどの無線機器の使用が禁止されています。航空機内ではアクセスキーのボタンを押さないでください。

アドバイス

- アクセスキーは車両との通信のために、常時受信動作をし、常に電池を消耗しています。電池の寿命は使用状況によりますが、約1年～2年です。電池が切れた場合、新しい電池と交換してください。

☆6-45ページ参照

- アクセスキーを落下させた場合、内蔵されているメカニカルキーが外れることがあります。メカニカルキーの紛失に注意してください。

☆2-29ページ参照

- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお奨めします。登録の消去は、スバル販売店でのみ行えます。スバル販売店にご相談ください。
- スペアのアクセスキーが必要な場合はスバル販売店にご相談ください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- アクセスキーは最大7つまで登録できます。
- アクセスキーに付属のキーナンバープレート、セキュリティIDプレートは大切に保管してください。車両修理やアクセスキーの追加登録などが必要になります。
- 盗難防止のため、キーナンバープレートとセキュリティIDプレートは車内に置かないでください。また、万一に備えてキーナンバーとセキュリティIDをメモしておいてください。
- アクセスキーはドアポケットやダッシュボードなどの車内の収納場所に放置しないでください。(振動による破損や勝手にスイッチが入って閉じ込める危険性があります)
- アクセスキーを次の場所に置かないでください。アクセスキーを車内に閉じ込めたり、電源の切り替えやエンジンを始動できないことがあります。また、誤って警告を通知したり、通知できないことがあります。
 - ー インストルメントパネル上
 - ー フロア上
 - ー グローブボックス内
 - ー ドアトリムのポケット
 - ー 後席シート
 - ー カーゴルーム

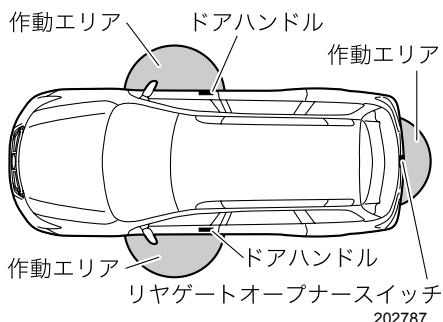
キーレスアクセスによる施錠・解錠

キーレスアクセスはアクセスキーを携帯することにより、全てのドアとリヤゲートの施錠・解錠が行えるシステムです。また、電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠もアクセスキーのボタン操作で行うことができます。

☆2-11ページ参照

■作動エリア

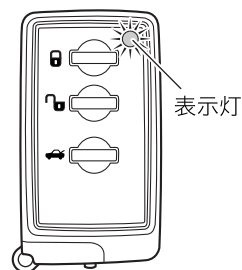
ドアおよびリヤゲートの施錠・解錠機能の作動エリアは、前席のドアハンドルとリヤゲートオープナースイッチを中心に約 40 ～ 80 cmが目安となります。



ドアが施錠している状態で前席のドアハンドルの作動エリアに入ると、アクセスキーのLEDの表示灯が点滅します。

キーレスアクセス機能を停止させた場合は、アクセスキーのボタンを押さないとLEDの表示灯は点滅しません。

☆2-28ページ参照



202209



アドバイス

- プッシュエンジンスイッチの電源を OFF にしてからドアの施錠操作を行ってください。電源がOFF以外では、リクエストスイッチまたはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- 施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのドアハンドルおよびリクエストスイッチのみになります。
- 誤作動防止のため、ドアまたはリヤゲートリクエストスイッチによる施錠操作を行ったときは、約3秒間ドアハンドルまたはリヤゲートオープナースイッチによる解錠ができません。
- 操作が早すぎると施錠・解錠が完了していない場合があります。施錠後は、リヤドアのドアハンドルを操作して確認することをお奨めします。
- アクセスキーを車体に近づけ過ぎるとキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。作動しないときは少し離れて操作をやり直してください。
- アクセスキーを地面近くや地面から高い位置に置くと、図示した作動エリア内でもキーレスアクセス機能がうまく作動しない場合があります。
- アクセスキーが作動エリア内にあれば、アクセスキーを持たない方でもキーレスアクセス機能を使用できます。ただし、施錠・解錠操作ができるのは、アクセスキーを検知している作動エリアのドアハンドルおよびリクエストスイッチになります。
- アクセスキーの状態、周囲の電波状況によってキーレスアクセス機能が正常に作動しない可能性があります。このような場合は、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してください。

☆2-29ページ参照

- アクセスキーが車内にある場合は施錠できません。但しアクセスキーの状態、周囲の状況によって施錠しアクセスキーを閉じ込める可能性があります。施錠する際はアクセスキーを持っていることを確認してください。

運転
する
前に

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- アクセスキーの電池が消耗しているときや、強い電波、ノイズのある場所（例：TV 塔や発電所、放送局、大型ディスプレイ、空港、電照看板、無線機器使用場所など）、携帯電話通話中は、作動エリアが狭くなる場合や、作動しないことがあります。このような場合は、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してください。

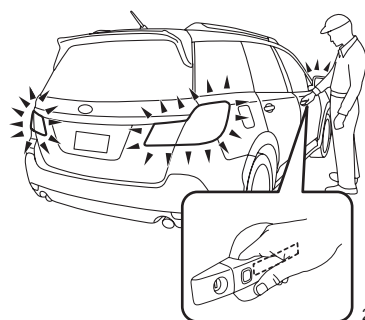
☆2-29ページ参照

- ドア（リヤゲート含む）が開いているときは施錠できません。全てのドアおよびリヤゲートを閉めてから、施錠操作を行ってください。
- 手袋をつけてドアハンドルを握った場合、解錠が遅れたり、解錠できないことがあります。
- アクセスキーが作動エリア内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかったときは、ドアが解錠することがあります。解錠された場合は、施錠してください。ただしドアの開閉操作がない場合は、約30秒後に自動施錠されます。

■キーレスアクセス機能の使いかた

●解錠

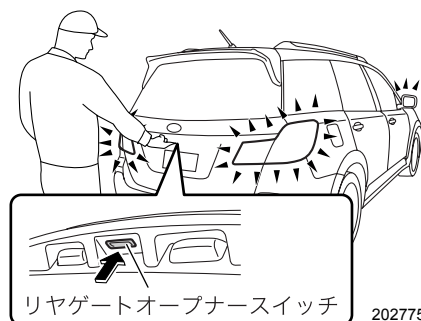
アクセスキーを携帯し、運転席または助手席のドアハンドルを握ります。全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



202774

▼リヤゲートからの解錠

アクセスキーを携帯し、リヤゲート中央のリヤゲートオープナースイッチを押します。リヤゲートと全てのドアが解錠し、リヤゲートが開きます。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

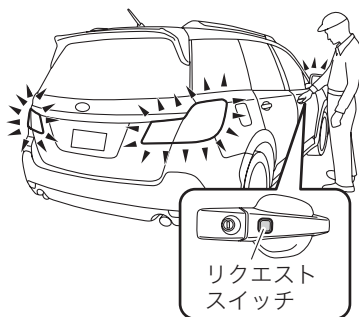


リヤゲートオープナースイッチ

202775

●施錠

アクセスキーを携帯し全てのドア（リヤゲート含む）を閉めてから、運転席または助手席のドアハンドルのリクエストスイッチを押します。全てのドアが施錠します。このときブザーが1回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



202776

▼リヤゲートからの施錠

アクセスキーを携帯し全てのドアを閉めてから、リヤゲートオープナー右端のリヤゲートリクエストスイッチを押します。リヤゲートと全てのドアが施錠します。このときブザーが1回鳴り、非常点滅表示灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



202955



アドバイス

- 誤作動防止のため、ドアまたはリヤゲートリクエストスイッチによる施錠操作を行ったときは、約3秒間ドアハンドルまたはリヤゲートオープナースイッチによる解錠ができません。
- 半ドアで施錠操作を行った場合はブザーが5回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が5回点滅し、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いていることをお知らせします。

運転する前に

■その他の機能

●オフディレイ機能

ドアおよびリヤゲートが閉まっているとき、次の操作をすると室内ランプが一旦点灯し、徐々に消灯していきます。

- ルームランプ、スポットマップランプ（スイッチがDOOR位置の時）
 - ー 解錠またはドア（リヤゲート除く）を開けて閉めたとき
 - ー アクセスキーを携帯し車両に近づいたとき

点灯中次の操作をすると、室内ランプは消灯します。

- リクエストスイッチを押して施錠した場合
- アクセスキーのボタンを押して施錠した場合
- プッシュエンジンスイッチを押してACCまたはONにした場合

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。自動施錠する約5秒前よりブザーでお知らせします。

このとき、盗難警報装置は監視状態に入ります。

●節電機能

アクセスキーの電池と車両のバッテリー保護のため、次の場合キーレスアクセス&プッシュスタートを停止します。

- 全てのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で2週間以上キーレスアクセス&プッシュスタートおよび電波式リモコンドアロックを使用しない場合
- 全てのドア（リヤゲート含む）を施錠した状態で作動エリア内にアクセスキーを10分以上放置した場合

▼復帰方法

次のいずれかを行うとキーレスアクセス&プッシュスタートは復帰します。

- ドア（リヤゲート含む）のリクエストスイッチを押して施錠する。
- 電波式リモコンドアロックで解錠または施錠する。
- メカニカルキーで解錠し、施錠する。

●ユーザーカスタマイズ機能

スバル販売店で次の機能の設定を変更することができます。

- 解錠時や施錠時に点滅する非常点滅表示灯（ハザードランプ）の作動あり／作動なし
- 解錠時や施錠時に鳴るブザーの作動あり／作動なし
- 室内ランプのドア連動の作動あり／作動なしおよび点灯時間の設定
- 自動施錠の作動あり／作動なしおよび自動施錠されるまでの時間の設定

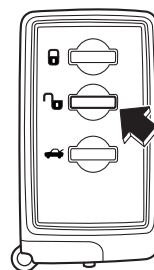
☆1-2ページ参照

電波式リモコンドアロックによる施錠・解錠

アクセスキーのボタンを押すと電波により、お車から離れたところから全てのドア（リヤゲート含む）の施錠・解錠ができます。

■解錠

お車のまわりからアクセスキーの「」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。

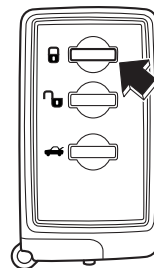


201138

運転する前に

■施錠

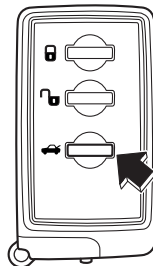
お車のまわりからアクセスキーの「」ボタンを押すと全てのドア（リヤゲート含む）が施錠します。このときブザーが1回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が1回点滅します。



201139

■リヤゲートの解錠

お車のまわりから  ボタンを押すとリヤゲートが解錠します。このときブザーが2回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が2回点滅します。



201140



アドバイス

- お車から離れるときは、リヤドアのドアハンドルを引き、施錠されていることを確認してください。
- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

☆6-45ページ参照

- 半ドアで施錠操作を行った場合はブザーが5回鳴り、同時に非常点滅表示灯（ハザードランプ）が5回点滅し、いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いていることをお知らせします。

■その他の機能

●オフディレイ機能

ドアおよびリヤゲートが閉まっているとき、次の操作をすると室内ランプが一旦点灯し、徐々に消灯していきます。

- ルームランプ、スポットマップランプ（スイッチがDOOR位置の時）
 - ー 解錠またはドア（リヤゲート除く）を開けて閉めたとき
 - ー アクセスキーを携帯し車両に近づいたとき

点灯中次の操作をすると、室内ランプは消灯します。

- リクエストスイッチを押して施錠した場合
- アクセスキーの  ボタンを押して施錠した場合
- プッシュエンジンスイッチを押してACCまたはONにした場合

●自動施錠

解錠してから30秒以内にドアまたはリヤゲートを開けなかった場合は、自動的に施錠されます。自動施錠する約5秒前よりブザーでお知らせします。

このとき、盗難警報装置は監視状態に入ります。

●ユーザーカスタマイズ機能

スバル販売店で次の機能の設定を変更することができます。

- 解錠時や施錠時に点滅する非常点滅表示灯（ハザードランプ）の作動あり／作動なし
- 解錠時や施錠時に鳴るブザーの作動あり／作動なし
- 室内ランプのドア連動の作動あり／作動なしおよび点灯時間の設定
- 自動施錠の作動あり／作動なしおよび自動施錠されるまでの時間の設定

☆1-2ページ参照

注意

- 航空機内はアクセスキーなどの無線機器の使用が禁止されています。航空機内ではキーのボタンを押さないでください。
- キーには電子部品が組み込まれています。故障を防ぐため、次のことをお守りください。
 - － ダッシュボードの上など直射日光が当たったり高温になる場所には絶対に放置しないでください。電池の損傷や回路故障の原因になります。
 - － 強い衝撃を与えないでください。
 - － 電池交換時以外は分解しないでください。電池交換の際は電池のショートおよび⊕、⊖の方向に注意してください。
 - － 水にぬらさないでください。水にぬれた場合はすみやかに拭き取り、十分に乾かしてください。

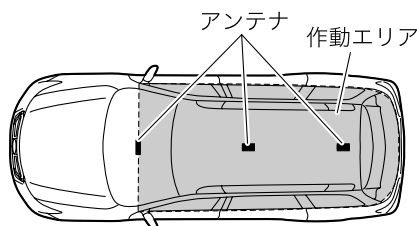
アドバイス

- 電波式リモコンドアロックはお車の周囲約1m以内で作動しますが、周囲に強い電波やノイズがある場合（例：TV 塔や発電所、放送局、大型ディスプレイ、空港、電照看板、無線機器使用場所など）は、作動距離が変わることがあります。
- お車を離れるときは、リヤドアのドアハンドルを引いて施錠を確認してください。
- ドアまたはリヤゲートが開いているときは施錠できません。

プッシュスタート

アクセスキーを携帯して車内に入ると車両の電源の切り替えおよびエンジンを始動することができます。

■エンジン始動の作動エリア



202788



アドバイス

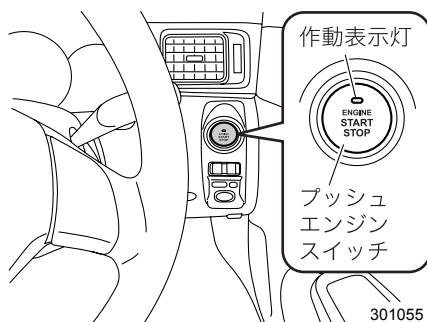
- 車内アンテナの作動エリア内でアクセスキーが検知されない場合、電源切り替えおよびエンジン始動はできません。
- 車外にアクセスキーがある場合でも、ガラス周辺に近づきすぎたときはエンジンを始動できることがあります。
- アクセスキーがバッテリー切れの場合は、「アクセスキーが正常に作動しないとき」の方法でエンジンを始動してください。その後、すみやかに電池を交換してください。

☆2-29、6-45ページ参照

■電源の切り替えかた

プッシュエンジンスイッチを押すごとに、電源が切り替わります。

- ① アクセスキーを携帯し、運転席に座ります。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。
- ③ ブレーキペダルを踏まずにプッシュエンジンスイッチを押します。押すごとに電源がOFF→ACC→ON→OFFの順に切り替わります。エンジン停止時、プッシュエンジンスイッチがACC または ON のときはプッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が橙色に点灯します。



電源の状態	表示灯の色	各作動の動き
OFF	消灯	電源が切れる
ACC	橙色	次の電装品が使用できる オーディオ、電源ソケットなど
ON	橙色（エンジン停止）	全ての電装品が使用できる
	消灯（エンジン回転中）	



アドバイス

- プッシュエンジンスイッチを操作するときは、奥まで確実に押してください。
- プッシュエンジンスイッチを早押しした場合、電源が切り替わらないことがあります。

●ステアリングロックの解除

プッシュエンジンスイッチを押したとき、スイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅している場合は、ステアリングロックが解除されていません。

解除するには、ハンドルを左右に動かしながらプッシュエンジンスイッチを押します。



アドバイス

バッテリーが上がるとステアリングロックが解除できません。バッテリーを充電してください。

▼ステアリングロックの初期化

バッテリー上がりおよびバッテリー交換後はステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動できない場合があります。

- ① セレクトレバーを[P]にします。
- ② プッシュエンジンスイッチをOFFにして運転席ドアを開閉し、約10秒間保持します。
システムが初期化され、ステアリングがロックします。

●バッテリー上がり防止機能

ACCにした状態で約1時間放置するとバッテリー上がり防止のため自動的に電源がOFFになります（セレクトレバーが[P]のとき）。



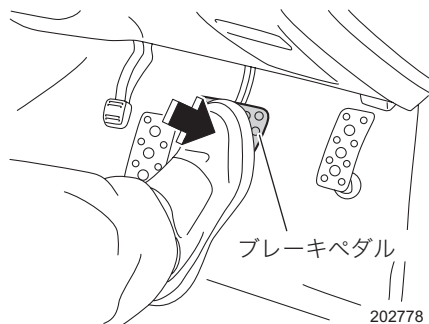
注意

- 電源がONまたはACCのまま長時間放置すると、車両のバッテリー上がりの原因となります。
- セレクトレバーが[P]以外では電源をOFFにすることはできません。
- プッシュエンジンスイッチに水やその他の液体をこぼさないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチを油などの付いた手で触れないでください。故障の原因となります。
- プッシュエンジンスイッチの作動に引っかかりがあるときは、プッシュエンジンスイッチを操作せず、すみやかにスバル販売店に連絡してください。
- 車幅灯を点灯してもプッシュエンジンスイッチの照明が点灯しないときは、スバル販売店で点検を受けてください。
- 炎天下で長時間車両を放置すると、プッシュエンジンスイッチの表面が熱くなる場合があります。やけどしないよう注意してください。

エンジンの始動と停止のしかた

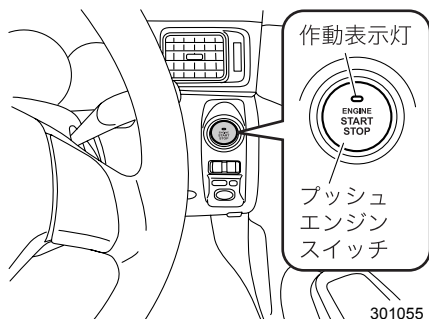
■エンジンの始動

- ① アクセスキーを携帯し、運転席に座ります。
- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③ セレクトレバーが[P]であることを確認します（[N]でも始動できますが、安全のため[P]で始動してください）。
- ④ プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（[N]で始動する場合、作動表示灯は緑色になりません）。



運転する前に

- ⑤ ブレーキペダルを確実に踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。エンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



警告

- 必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンを始動したままにしないでください。車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- エンジンの始動操作をしたときに、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅している場合は、けん引等も含め絶対に車両の移動はしないでください。ステアリングロックが解除されていない状態のため、ハンドル操作ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- 10秒以上プッシュエンジンスイッチを押し続けしないでください。スターターが回り続けるため、故障の原因になります。
- プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が橙色に点滅しているときは、車両の異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- エンジン始動前にエンジンルーム内および車体床下に、ねこやねずみなどの小動物がいないことを確認してください。

アドバイス

- プッシュエンジンスイッチをONにした後、スターターが回っている間にセレクトレバーを操作しないでください。
 - エンジンの始動操作をしたとき、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅しているときは、ステアリングロックが解除されていません。
- ☆2-16ページ参照
- プレーキペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押すと最大 10 秒間スターターが回ります。エンジンが始動するとスターターは止まります。
 - エンジンの始動直後は、急激な空吹きや、急加速などをしないでください。
 - 停車時にアクセルを踏み込んでも、エンジンが高回転まで上がらないようになっています。
 - エンジンが始動した後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドリング回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。

- 使用するガソリンや使用状態（水温計の指針が動かない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンが始動しにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがあります。異常ではありません。
- 電装品をOFFにした方が、容易に始動します。
- ブレーキペダルを踏みながらプッシュエンジンスイッチを押せば、どの電源の状態からでもエンジンを始動することができます。
- エンジン始動時にセキュリティ表示灯が点灯してエンジンが始動しない場合は、一度プッシュエンジンスイッチを押して電源をOFFにしてから、再度エンジン始動を行ってください。
- エンジンが始動しない場合は、ブレーキペダルから足を離し、プッシュエンジンスイッチを押して一度電源をOFFにしてください。10秒間放置してからもう一度ブレーキペダルを強く踏みながらプッシュエンジンスイッチを押してください。
- バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は、エンジンが始動しないことがあります。その場合はプッシュエンジンスイッチをONにし、10秒以上経過してからエンジンを始動してください。エンジン始動直後はアイドリングが不安定になることがあります。異常ではありません。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、スバル純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンが始動しにくい場合や、スパークプラグのくずぶりを引き起こすことがあります。
- エンジンが始動していないときは、ブレーキペダルが硬く感じる場合があります。そのときは通常よりも強くブレーキペダルを踏んでスイッチ内の作動表示灯が緑色になることを確認してからプッシュエンジンスイッチを押し、エンジンを始動してください。

☆3-55ページ参照

- 周辺の電波状況により、通常手順のドアの施錠・解錠およびエンジン始動ができないことがあります。そのときは、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してドアの施錠・解錠およびエンジン始動を行ってください。

☆2-29ページ参照

緊急時のエンジン始動方法

通常の手順でエンジンが始動しないときは、次の方法を行ってください。エンジンが始動する場合があります。（緊急時以外は、この方法でエンジンを始動しないでください。）

- セレクトレバーを[P]にします。電源をACCにしてブレーキペダルを踏み、プッシュエンジンスイッチを約15秒以上押し続けてください。

■エンジンの停止

車両を完全に停止させ、プッシュエンジンスイッチを押してください。このときエンジンが停止し、電源がOFFになります。

ただし、セレクトレバーを[P]に入れてからプッシュエンジンスイッチを押さないと電源がOFFになりません。

警告

- 走行中はプッシュエンジンスイッチにさわらないでください。
プッシュエンジンスイッチを約3秒以上押し続ける、またはすばやく3回以上連続で押すとエンジンが停止します。エンジンが停止するとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。
また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。緊急時以外は走行中にエンジンを停止させないでください。
- 走行中にエンジンが停止した場合、安全な場所で車両が停止するまでプッシュエンジンスイッチを操作したりドアを開けたりしないでください。ステアリングロックが作動する可能性があり危険です。安全な場所に停止させた後、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

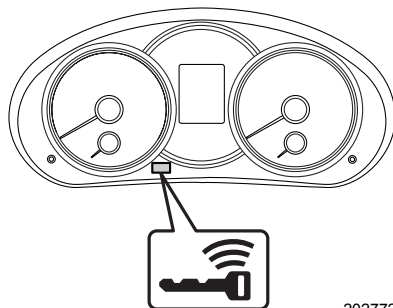
注意

セレクトレバーが[P]以外でエンジンを停止しないでください。[P]以外でエンジンを停止した場合、電源はACCになるためそのまま放置するとバッテリー上がりの原因となります。

警告音および警告表示による警報

キーレスアクセス & プッシュスタートでは誤操作や盗難を防止するため警告音や警告灯の点滅または、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯の点滅により警告します。
この場合は適切な処置を行ってください。

■警告音とキー無し警告灯の点滅による警報



202772

●半ドア警告

いずれかのドア（リヤゲート含む）が開いている状態でリクエストスイッチによる施錠操作を行うと警告音が鳴ります。



アドバイス

ドアを閉めて施錠してください。

●閉じ込み防止警告

車内にアクセスキーが放置されている状態で、「キーを使わない車外からの施錠」により全てのドアを施錠しようとした場合、室外ブザーが2秒間鳴り、全てのドア（リヤゲート含む）が解錠されます。

☆2-33ページ参照



アドバイス

車内からアクセスキーを取り出して、再度施錠してください。

●キー置き忘れ警告

電源がOFFのとき車内にアクセスキーが放置されている状態で、ドアを閉め、リクエストスイッチで施錠操作をした場合、室外ブザーが2秒間鳴ります。



アドバイス

車内からアクセスキーを取り出して、再度施錠してください。

●キー無し警告

車内にアクセスキーがない状態で走行した場合、室内ブザーが鳴ります。
このときメーターのキー無し警告灯も点滅します。



アドバイス

アクセスキーを携帯し走行してください。

●電源切り忘れ警告

次のときにアクセスキーを携帯した状態でリクエストスイッチを押すと、室外ブザーが最長で60秒間鳴り続けます。

- 電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]のとき



アドバイス

- 電源をOFFにしてからドアの施錠操作を行ってください。電源がOFF以外では、リクエストスイッチまたはアクセスキーのボタン操作による施錠はできません。
- アクセスキーを車内に戻すか、電源をOFFにすれば警告ブザーは停止します。
- キー持ち出し警告が作動している場合、キー無し警告灯は点滅を続けます。

●エンジン始動警告

▼キー無し警告表示

アクセスキーが車内にない状態でプッシュエンジンスイッチを押したとき、警告音が鳴りキー無し警告灯が点滅します。



アドバイス

- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを操作してください。
- アクセスキーが車内検知エリア内にあっても、アクセスキーの状態、周囲の状況によってはキー無し警告表示をする場合があります。

●キーバッテリー残量警告

アクセスキーの電池残量が低下しているときに、プッシュエンジンスイッチを押して電源をOFFにしたときに、警告音が鳴ります。



アドバイス

アクセスキーの電池を交換してください。

●キー持ち出し警告

▼キー持ち出し警告表示

電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]のとき、アクセスキーを携帯した状態で車外に出て、運転席ドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅します。



アドバイス

- 電源をOFFにしてお車の外に出てください。
- アクセスキーを窓から外へ出しただけでは警告しません。

▼同乗者のキー持ち出し警告表示

電源がOFF以外で同乗者がアクセスキーを車外に持ち出し、運転席以外のドアを閉めた場合、警告音が鳴り、キー無し警告灯が点滅します。



アドバイス

アクセスキーを窓から外へ出しただけでは警告しません。

●セレクトレバー位置警告表示

電源がOFF以外でセレクトレバーが[P]以外の位置のときに次の操作をした場合、警告音が鳴ります。

- 運転席ドアを開けたとき



アドバイス

警告があった場合は、セレクトレバーを[P]にし、電源をOFFにしてお車の外に出てください。

- 運転席ドアを閉めたとき



アドバイス

- セレクトレバーを[P]にし、電源をOFFにしてお車の外に出てください。
- アクセスキーを窓から外へ出しただけでは警告しません。

■プッシュエンジンスイッチ作動表示灯の点滅による警報

●キーレスアクセス&プッシュスタートシステム異常警告

キーレスアクセス & プッシュスタートシステムに異常がある場合プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が橙色に点滅します。



注意

作動表示灯が橙色に点滅したときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

●ステアリングロック未解除警告

エンジン始動操作時にステアリングロックが解除されていない場合、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅します。



警告

エンジンの始動操作をしたときに、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点滅している場合は、けん引等も含め絶対に車両の移動はしないでください。ステアリングロックが解除されていない状態のため、ハンドル操作ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

再度エンジン始動操作を行っても作動表示灯が緑色に点滅している場合は、ステアリングロックの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。



アドバイス

ステアリングロックを解除し、エンジン始動してください。

☆2-16ページ参照

■警告一覧表

室内ブザー 警報	室外ブザー 警報	メーター内 キー無し 警告灯表示	プッシュ エンジン スイッチ内 作動表示灯	状況	対処方法
ピーツ、 ピーツ、 ・・・ (断続吹鳴)	—	—	—	セレクトレバーが [P]でプッシュエンジン スイッチの電源が ACCのとき、運転席ド アを開けた。	運転席ドアを閉めてか ら電源をOFFにしてく ださい。 ※車両から離れるとき は必ず電源をOFFに してください。
				運転席ドアが開いてい るとき、電源をOFFに した。	運転席ドアを閉めてく ださい。
—	ピー (2秒間 吹鳴)	—	—	<u>閉じ込み防止警告</u> 車内にアクセスキーが 放置されている状態で 「キーを使わない車外 からの施錠」(2 - 33 ページ)により、いず れかのドアを施錠しよ うとした。	アクセスキーを車外に 持ち出した上でドアの 施錠操作を行ってくだ さい。 ※室内にアクセスキー がある状態ではドア の施錠操作はできま せん。 ※警告ブザーとともに 全ドアが解錠されま す。
				<u>キー置き忘れ警告</u> 電源がOFFのとき、ア クセスキーが車内にあ る状態でリクエストス イッチを押した。	アクセスキーを車外に 持ち出した上でドアの 施錠操作を行ってくだ さい。 ※室内にアクセスキー がある状態ではドア の施錠操作はできま せん。
—	ピッピッピッ ピッピッ (5回吹鳴)	—	—	<u>半ドア警告</u> 電源がOFFのとき、い ずれかのドア(リヤ ゲート含む)が開いて いる状態で、リクエス トスイッチまたはアク セスキーの  ボタンを 押した。	ドアを確実に閉めて施 錠操作を行ってくださ い。 ※いずれかのドア(リ ヤゲート含む)が開 いている状態では施 錠できません。

運転
する
前に

室内ブザー 警報	室外ブザー 警報	メーター内 キー無し 警告灯表示	プッシュ エンジン スイッチ内 作動表示灯	状況	対処方法
—	ピー—— (最長 60秒間 吹鳴)	※	—	電源切り忘れ警告 セレクトレバーが[P]で 電源がOFF以外のと き、アクセスキーを携 帯した状態でリクエ ストスイッチを押した。	アクセスキーを車内に 戻すか、電源をOFFに してください。 ※電源をOFFにしない とドアの施錠操作は できません。
ピッ	—		—	キー無し警告 車内にアクセスキーが ない状態で走行した。 キー無し警告 車内にアクセスキーが ない状態でプッシュエ ンジンスイッチを押し た。	アクセスキーを携帯し て走行してください。 アクセスキーを携帯し てプッシュエンジンス イッチを押してくださ い。
ピッ	ピッピッピッ (3回吹鳴)		—	キー持ち出し警告 セレクトレバーが [P]で電源がOFF以外 のとき、アクセスキー を携帯した状態で車外 に出て運転席ドアを閉 めた。 同乗者のキー持ち出し 警告 電源がOFF以外で同乗 者がアクセスキーを車 外に持ち出し、運転席 以外のドアを閉めた。	電源をOFFにした上で 車外に出てください。 アクセスキーを車内に 戻すか、電源をOFFに してください。
ピー—— (連続吹鳴)	ピー—— (連続吹鳴)		—	セレクトレバー位置 警告 電源がOFF以外でセレ クトレバーが[P]以外 のとき、アクセスキー を携帯した状態で車外 に出て運転席のドアを 閉めた。	セレクトレバーを[P]に し、電源をOFFにした 上で車外に出てくださ い。
ピー—— (連続吹鳴)	—	—	—	セレクトレバー位置 警告 電源がOFF以外でセレ クトレバーが[P]以外 のとき、運転席ドアを 開けた。	セレクトレバーを[P]に し、電源をOFFにした 上で車外に出てくださ い。

※ キー持ち出し警告が作動している場合、キー無し警告灯は点滅を続けます。

室内ブザー 警報	室外ブザー 警報	メーター内 キー無し 警告灯表示	プッシュ エンジン スイッチ内 作動表示灯	状況	対処方法
ピッ	—	—	—	キーバッテリー残量 警告 電源をOFFにした。	アクセスキーの電池を 交換してください。
—	—	—	緑点滅 (最長 15秒間)	ステアリングロック 未解除警告 エンジン始動操作をし たが、ステアリング ロックが解除されてい ない。	ハンドルを軽く左右に 回しながら、ブレーキ ペダルを踏み、プッ シュエンジンスイッチ を押してください。
—	—	—	橙点滅	キーレスアクセス& プッシュスタート異常 警告 電源システムやステア リングロックの異常が 検出された。	直ちにスバル販売店に 連絡し、点検を受けて ください。

運
転
す
る
前
に

キーレスアクセス&プッシュスタート機能の停止方法

次の場合、キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止することができます。

- 植込み型心臓ペースメーカーまたは植込み型除細動器の機器を装着されている方がお車に乗車するとき
- 長期間お車を使用しないとき、または機能自体を使用しないとき

キーレスアクセス&プッシュスタート機能を停止させた場合でも電波式リモコンドアロックは作動します。



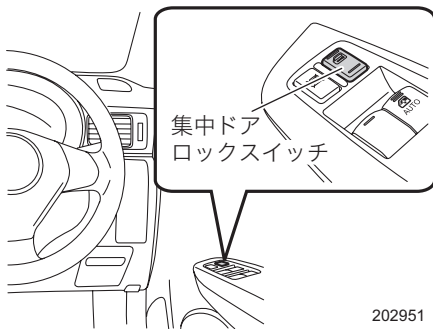
アドバイス

- この設定は、スバル販売店でもできます。詳しくは、スバル販売店にご相談ください。
- 機能を停止させた状態でエンジンを始動させるときは、「アクセスキーが正常に作動しないとき」を参照してください。

☆2-29ページ参照

■機能を停止させるとき

- ① 運転席に座りドアを閉めます。
- ② 集中ドアロックスイッチの後ろ側（解錠側）を押します。
- ③ ②の操作後、5秒以内に運転席ドアを開けます。
- ④ ③の操作後、5秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの後ろ側（解錠側）を2回押します。
- ⑤ ④の操作後、30秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を2回行います。
- ⑥ ⑤の操作後、30秒以内にドアを開けたまま集中ドアロックスイッチの後ろ側（解錠側）を2回押します。
- ⑦ ⑥の操作後、30秒以内に運転席ドアを「閉める→開ける」の操作を1回行います。
- ⑧ ⑦の操作後、5秒以内にドアを閉めます。ブザー（ピー）が鳴り、機能が停止します。



202951



アドバイス

④および⑥の操作では集中ドアロックスイッチはゆっくりと押してください。スイッチを押す間隔が短い場合、機能が停止しない場合があります。

■機能を復歸させるとき

機能の停止手順をもう一度行くと機能を復歸させることができます。

このときブザー（ビッ）が鳴ります。

アクセスキーが正常に作動しないとき

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり施錠・解錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。

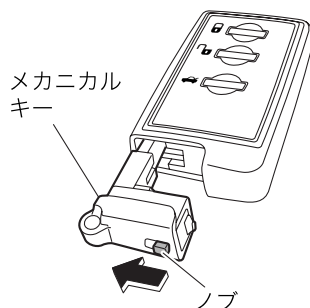
☆6-45ページ参照

■メカニカルキーによる施錠・解錠

アクセスキーのノブを引きながらメカニカルキーを取り出します。

メカニカルキーで運転席ドアを施錠・解錠します。

☆2-32ページ参照



201149

運転する前に



アドバイス

- 盗難警報装置が監視状態のときは警報が鳴ります。
プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにすると、警報は解除されます。アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合は「アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動」を参照してプッシュエンジンスイッチの操作で電源ON、またはエンジン始動をしてください。

☆2-30ページ参照

- 紛失防止のため、使用後は必ずメカニカルキーをアクセスキーに装着してください。
- メカニカルキーによる施錠では、盗難警報装置は監視状態に入りません。

☆2-49ページ参照

■アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

① 駐車ブレーキが確実にかけられていることを確認します。

② セレクトレバーが[P]であることを確認します。

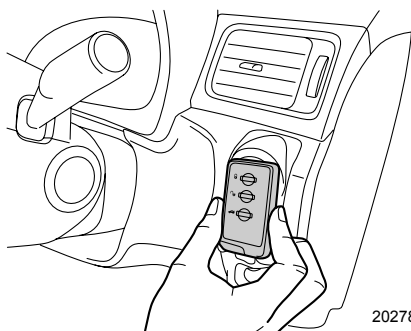
③ ブレーキペダルを踏みます。

④ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。

アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー（ピッ）が鳴り、プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点灯します。

⑤ 作動表示灯が緑色に点灯してから約 5 秒以内に次の操作を行います。

- ・エンジンを始動するときは、ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押します。
- ・電源をONにするときは、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押します。



202789

⚠ 注意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びた物、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

🏠 アドバイス

- ・ドアの開閉後、しばらくして操作をするとブザーが鳴らない場合があります。ブザーが鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。ブザーが鳴らない場合でも、作動表示灯が緑色に点灯していればエンジン始動および電源ONは可能です。
- ・アクセスキーのボタン側をプッシュエンジンスイッチに近づけた場合、反応しない場合があります。

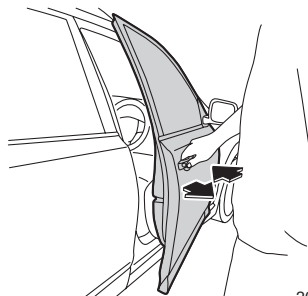
各部の開閉

ドア

■ドアの開閉

ドアを開けるときは、ドアハンドルを手前に引きます。

ドアを閉めるときは、確実に閉め、半ドアになっていないことを確認してください。



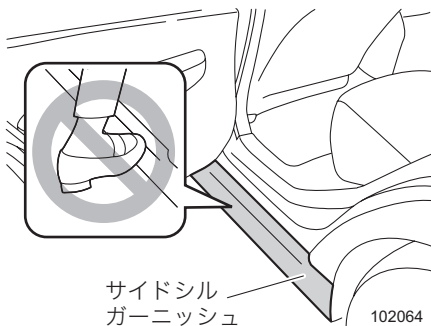
202790



注意

- ドアを開けるときは周囲の安全を充分に確認してください。不用意に開けると後続車、自転車、オートバイなどにぶつかることがあります。
- ドアを開閉するときは傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してください。
- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは開くことがあります。
- ドアを閉めるときは、手や指などを挟まないように注意してください。
- サイドシルガーニッシュはステップではありません。

絶対に足をのせないでください。車体に損傷を与えたり、外れて思わぬけがをしたりするおそれがあります。



サイドシル
ガーニッシュ

102064

🏠 アドバイス

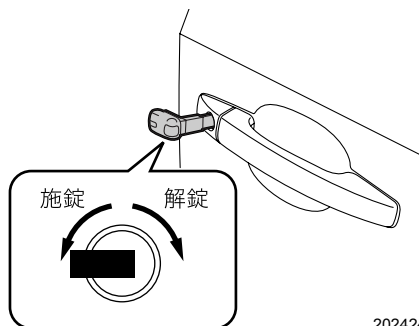
- ドアハンドルを操作するときには、爪などを挟まないよう気をつけてください。
- お車から離れる場合はプッシュエンジンスイッチをOFFにし、キーを持っていることを必ず確認してからドアを施錠してください。
- 施錠しても車内に貴重品などを置かないようにしてください。
- 乗車中の施錠、解錠については次のような特徴がありますので、状況に合わせて選択してください。
 - ー 施錠している場合は、お子さまなどの同乗者が誤ってドアを開けることを防いだり、停車時に車外からの不意の侵入者を防ぎます。また、シートベルトの着用と併せ、事故時に車外に投げ出される可能性が少なくなります。
 - ー 解錠している場合は、万一の事故のとき車外からの救援活動が受けやすくなります。

■車外からキーによる施錠・解錠

メカニカルキーを確実に差し込んでお車の後ろ側に回すと施錠され、前側に回すと解錠されます。

メカニカルキーは、アクセスキーから取り出して使用します。

☆2-29ページ参照



202424

🏠 アドバイス

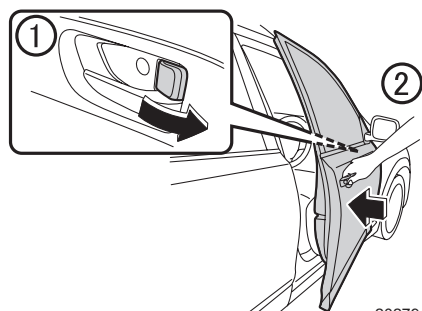
- 車外から施錠・解錠できるのは運転席ドアだけです。その他のドアはドアロックノブまたは集中ドアロックスイッチで施錠・解錠してください。
- 盗難警報装置が監視状態のとき、メカニカルキーによる解錠を行った場合、盗難警報装置は解除されません。ドアを開けた場合、警報が作動します。
- 紛失防止のため、使用後は必ずメカニカルキーをアクセスキーに装着してください。
- メカニカルキーによる施錠では、盗難警報装置は監視状態に入りません。

☆2-49ページ参照

■キーを使わない車外からの施錠

●フロントドア

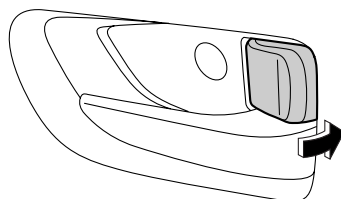
- ① ドアロックノブを後ろ側に引きます。
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉めます。



202791

●リヤドア

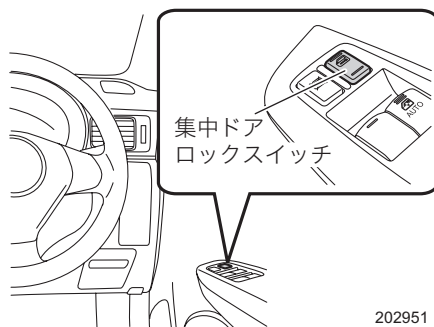
ドアロックノブを後ろ側に引いてドアを閉めます。



201205

■車内から集中ドアロックによる施錠・解錠

運転席ドアの集中ドアロックスイッチの前側を押すと全てのドア（リヤゲート含む）が施錠されます。後ろ側を押すと全てのドア（リヤゲート含む）が解錠されます。



202951

⚠ 注意

ドアロックノブで運転席ドアを施錠または解錠しただけでは、集中ドアロックは作動しません。必ず集中ドアロックスイッチで施錠または解錠してください。

●キー閉じ込み防止機能

キーが車内に残された状態で、ドアが施錠されないようにする機能です。この機能は、プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに作動します。

▼キー閉じ込み防止機能が作動するとき

運転席ドアを開けた状態で、集中ドアロックスイッチの前側を押したとき

▼キー閉じ込み防止機能が作動しないとき

- ドアロックノブで施錠しドアを閉めたとき
- 車外からスペアキーを使い施錠したとき

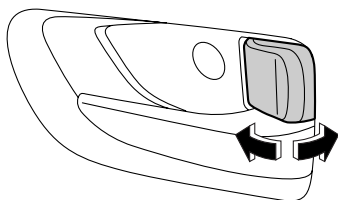


アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

■車内からドアロックノブによる施錠・解錠

ドアロックノブを後ろ側に引くと施錠され、前側に押すと解錠します。(施錠されると赤マークが見えなくなります)



201207

■半ドア対策機能

半ドアなどで次の照明が点灯し続けた場合、バッテリー上がりを防止するため、約20分後に自動的に消灯します。

- ルームランプ（ドア連動時）
- スポットマップランプ（ドア連動時）



アドバイス

- お車から離れるときは、必ずドアが確実に閉まっているかを確認してください。
- プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときこの機能は作動しません。

■その他の機能

●ユーザーカスタマイズ機能

スバル販売店で次の機能の設定を変更することができます。

- キー閉じ込み防止機能の作動あり／作動なし
- 半ドア対策機能の作動あり／作動なし

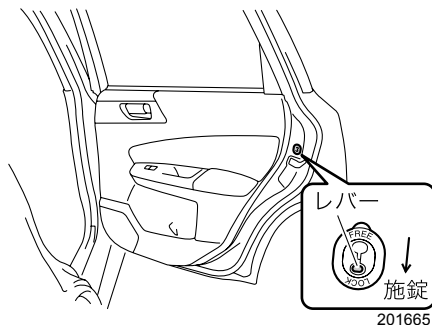
☆1-2ページ参照

チャイルドブーフ

左右のリヤドアにあります。後席にお子さまを乗せたときに使用してください。

■使いかた

チャイルドブーフのレバーを「LOCK」側に動かしてドアを閉めると、車内のドアハンドルではリヤドアを開けられなくなります。解除するときはレバーを「FREE」側に動かしてください。



運転する前に

■チャイルドブーフが働いているときのドアの開けかた

ドアを解錠し、車外からドアハンドルを引いて開けます。

車内から開けるときは、ドアロックノブを解錠にし、ウィンドウを下げ車外のドアハンドルを引いて開けます。

パワーウィンドウ

パワーウィンドウは、プッシュエンジンスイッチがONのとき使用できます。

警告

- パワーウィンドウが閉まるときには大きな力が働きます。挟めると危険ですので閉める前に窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟めると危険ですので小さなお子さまにはスイッチ操作させないでください。
- お子さまを乗せるときにはロックスイッチをロック状態にしておいてください。お子さまがいたずらして手や首を挟むことを防止します。

☆2-38ページ参照

注意

- ウィンドウの全閉、全開後に同じ方向にスイッチを押し続けしないでください。パワーウィンドウの故障の原因になります。
- 車両から離れる場合は、必ずお子さまも一緒にお連れください。お子さまのいたずらなどによる誤操作で、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 車体の構造上、後席のウィンドウを全開にすることはできません。
 - 次の操作を行うとパワーウィンドウのブレーカーが作動してウィンドウの開閉ができなくなることがあります。
 - ー 運転席ウィンドウを全閉または全開にした後、スイッチを同じ方向へ数秒間操作し続ける。
 - ー 3 席以上のウィンドウを全閉または全開にした後、それぞれのスイッチを同時に同じ方向へ操作し続ける。
- この場合、ブレーカー復帰後に必ずパワーウィンドウの初期設定を行ってください。初期設定がされていないと、運転席ウィンドウの自動全開（全閉）およびウィンドウ反転機能は作動しません。

☆2-39ページ参照

■スイッチの操作

●運転席ウインドウの開閉操作方法

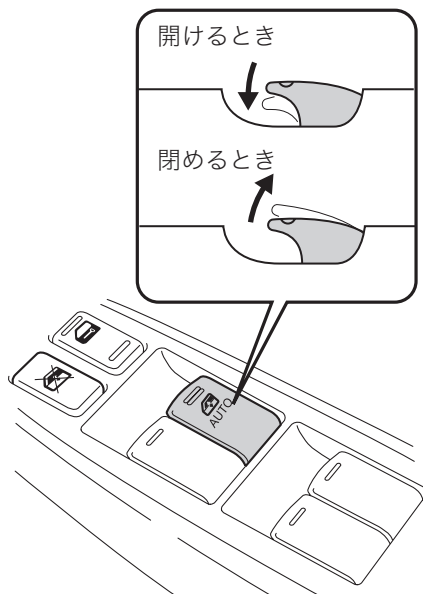
スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開（全閉）します。

開けるとき：

- スwitchを軽く押します。押している間ウインドウが下降します。
- スwitchを強く押すと自動で全開になります。途中でウインドウの下降を停止させるときは、スイッチを軽く引き上げます。

閉めるとき：

- スwitchを軽く引き上げます。引き上げている間ウインドウが上昇します。
- スwitchを強く引き上げると自動で全閉になります。途中でウインドウの上昇を停止させるときは、スイッチを軽く押します。



運転する前に

202950



アドバイス

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドウの初期設定をしてください。

初期設定がされないと運転席ウインドウは自動で全開（全閉）しません。

☆2-39ページ参照

●オフディレイ機能（プッシュエンジンスイッチOFF後の作動）

運転席のウインドウはプッシュエンジンスイッチをONからOFFにした後でも、約30秒間は昇降することができます。ただし、その約30秒の間に運転席のドアを開けて閉めると、ウインドウの昇降はできなくなります。

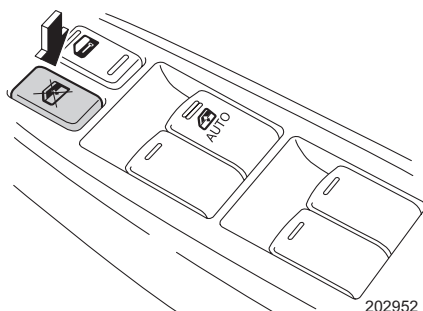


アドバイス

昇降ができる状態のときは、スイッチの照明が点灯しています。

●ロックスイッチの操作方法

ロックスイッチを押すと助手席と後席のウィンドウは開閉できなくなります。(ロック状態)

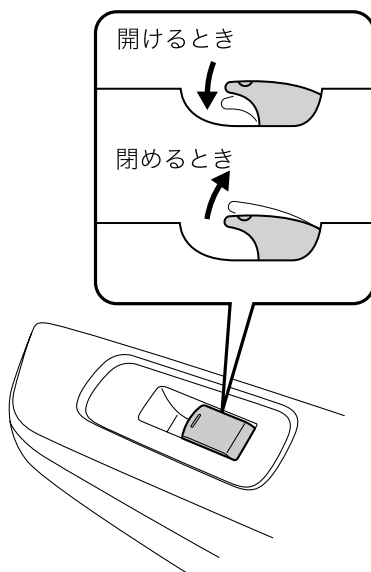


●助手席、後席ウィンドウの操作方法

それぞれのウィンドウを開閉します。スイッチを操作している間作動します。

開けるとき：スイッチを押します。

閉めるとき：スイッチを引き上げます。



■ ウインドウ反転機能

運転席のウインドウが自動全閉中、窓枠とウインドウとの間に異物の挟み込みを感知すると、ウインドウの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

注意

ウインドウを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、挟み込みを感知しない領域があります。指など挟まないようにしてください。

アドバイス

- 環境、走行条件により異物を挟んだときと同じ衝撃がウインドウに加わるとウインドウ反転機能が作動することがあります。
- ウインドウ反転機能が作動した後、数秒間はスイッチを操作してもウインドウの操作をすることができません。
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドウの初期設定をしてください。
初期設定がされないと、ウインドウ反転機能が作動しません。

■ パワーウインドウの初期設定

バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、必ずパワーウインドウの初期設定を行ってください。パワーウインドウの初期設定がされていないと、次の機能は作動しません。

- 運転席ウインドウの自動全開（全閉）

☆2-37ページ参照

- ウインドウ反転機能

● 初期設定のしかた

- ① ドアを閉め、プッシュエンジンスイッチをONにします。
- ② 運転席ウインドウスイッチを下に押し、半分くらいまでウインドウを開けます。
- ③ 運転席ウインドウスイッチを上を引き続け、ウインドウを全閉にします。全閉後、約1秒間スイッチを上を引き続けてください。

フューエルリッド（燃料給油口）

メーターの燃料計にフューエルリッド（燃料給油口）が右側にあることをお知らせする表示があります。

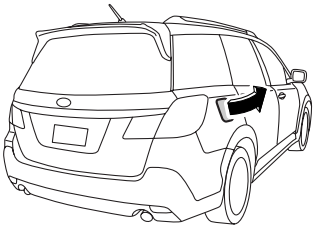
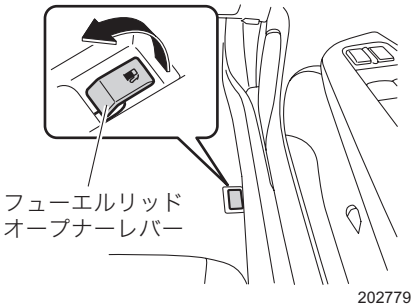


202085

使用燃料	タンク容量
無鉛レギュラーガソリン	約65L

■フューエルリッドの開閉

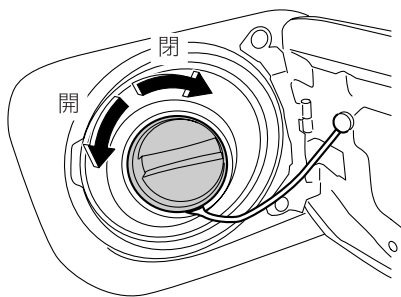
開けるときは、運転席右下にあるフューエルリッドオープナーレバーを引き上げます。



閉めるときは、ロックするまでフューエルリッド（燃料給油口）を手で押し付けてください。

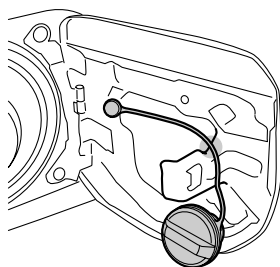
■フューエルキャップの開閉

フューエルキャップを左に回して開けます。
燃料給油後は、「カチッ」と音がするまで右に
回して閉めます。



201563

フューエルキャップを外したときは、キャップ
についているコードを図のように溝部に
かけてください。



202781



警告

給油時には必ず次のことをお守りください。

- ガソリンは非常に引火しやすいため、燃料給油時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- プッシュエンジンスイッチを必ずOFFにしてください。
- フューエルキャップを開けるときはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。急に開けると燃料が給油口から吹き返すおそれがあります。
- フューエルキャップは確実に閉めてください。閉まっていないと走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。
- 静電気除去キャップを採用していますので、フューエルキャップはお車に合ったスバル純正品を使用してください。

☆1-30ページ参照



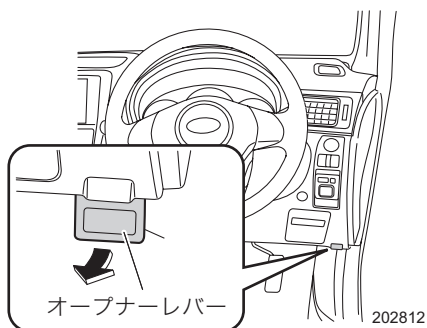
注意

セルフ給油のときは、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。

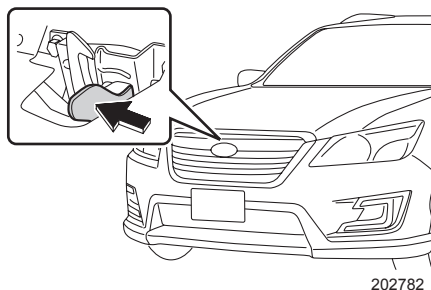
ボンネット

■開けるとき

- ① 運転席側インストルメントパネル右下にある、ボンネットオープナーレバーを引きます。



- ② フロントグリルとボンネットのすき間からレバーを左に押してロックを外し、ボンネットを持ち上げます。



■閉めるとき

ボンネットをゆっくり降ろしてボディに近くなったら（約15 cm）手を離します。確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

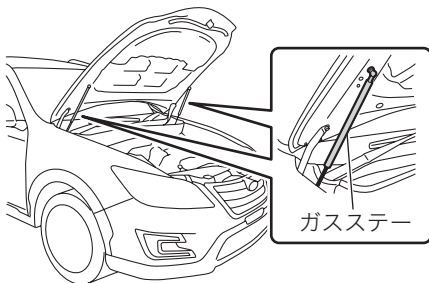
ボンネットを開閉するときは次のことに注意してください。

- 必ず走行前にボンネットが確実にロックされていることを確認してください。確実にロックされていないまま走行すると、走行中開くことがあり非常に危険です。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
- 走行後すぐに開けるときには、部品が熱くなっているので、やけどしないように注意してください。
- ボンネットを開けるときにはワイパーアームは起こさないでください。また、ワイパーを作動させないでください。ボンネットとワイパーアームが接触しボンネットを傷つけるおそれがあります。
- ボディ近くまで降ろして手を離す際には指や他の物を挟まないよう充分注意してください。
- ボンネットを閉めるときにはボンネットを上から強く押しつけないでください。ボンネットがへこむことがあります。
- 風の強いときには充分注意して開けてください。ボンネットが閉まる場合があります。

- ボンネットにはボンネットを支えるためのガスステーが取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

ー ガスステー部分にうすいビニール袋、テープなどが噛み込まないように注意してください。また、点検や清掃のときにステー部分に傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ボンネットが自然に閉じてしまう場合があります。

- ー ボンネットにスパル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。ボンネットの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。
- ー ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。ステーが曲がり、ボンネットが開閉できなくなるおそれがあります。



202783

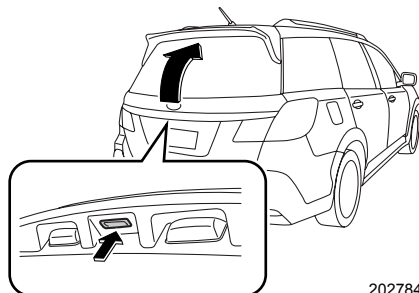
リヤゲート

リヤゲートは次を操作することで施錠・解錠ができます。

- 電波式リモコンドアロック
- 集中ドアロックスイッチ
- キーレスアクセス機能

■開けるとき

リヤゲートオープナースイッチを押してリヤゲートを少し開けます。手で支えながらゆっくりと最上部（全開位置）まで持ち上げます。



202784

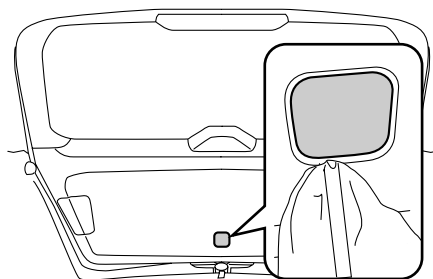
■閉めるとき

リヤゲートをゆっくり下げて、上から手で押さえつけるように閉めます。半ドアでないことを確かめます。

■リヤゲートの解錠ができなくなったとき

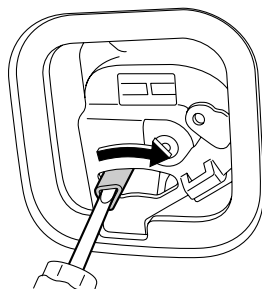
万一、バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障などでリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

① リヤゲートトリムのカバーを外します。



202453

- ② マイナスドライバーなどを使用してレバーを矢印の方向に動かし、リヤゲートを開けます。



800487

⚠ 注意

- リヤゲートを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 開閉や荷物の出し入れのとき、リヤゲートが頭や顔にぶつからないように注意してください。
- リヤゲートを閉めるときは、他の人の手（とくにお子さまには気をつけてください）や荷物を挟まないように注意してください。
- エンジンを始動したまま荷物の出し入れをするとき、排気ガスの熱でやけどをしないように注意してください。
- 走行前には、リヤゲートを完全に閉めてください。走行中に開くと荷物が落ちることがあります。
- 強風時の開閉には充分注意してください。リヤゲートが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- リヤゲートを開ける前に、リヤゲートに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでリヤゲートが突然閉まるおそれがあります。
- 走行中や長時間のアイドリングをしているときはリヤゲートを完全に閉めてください。車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。
- 応急処置用解錠レバーは指で操作しないでください。けがをするおそれがありますので、必ずドライバーなどを使用してください。
- リヤゲートを支えているガスステー部にうすいビニール袋、テープなどが噛み込まないように、また、荷物の積み下ろしなどで傷をつけないように注意してください。ステーのガス抜けにより、ゲートが自然に閉じてしまう場合があります。
- リヤゲートにスバル純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。リヤゲートの重量が極端に重くなると、開けたときにステーが支えきれなくなるおそれがあります。



アドバイス

- リヤゲートオープナースイッチを押すと同時にリヤゲートを開けようとした場合、リヤゲートが開かないことがあります。
- キャリアなどに積んだ荷物に当たらないように気をつけて開けてください。
- 傾斜した場所では、平坦な場所よりもリヤゲートの開閉がしにくかったり、急に開閉してしまう場合があります。

セキュリティシステム

イモビライザー（盗難防止用エンジン始動ロックシステム）

アクセスキーにはイモビライザー機能が装備されています。

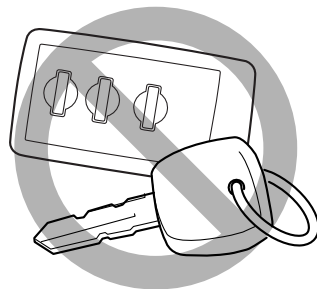
キーには、個々の違った識別コードが登録されています。

キーの識別コードが正しければエンジンを始動できますが、未登録のキーや識別コードの異なるキーなどではエンジンを始動することができません。



注意

- イモビライザーはキーと車両の識別コードを電子的に照合します。次のことに注意してください。
 - ー 強い磁石の近くにはキーを置かないでください。イモビライザーの誤作動の原因になるおそれがあります。
 - ー ダッシュボードの上など高温になる場所にキーを置かないでください。
 - ー キーを水にぬらさないでください。
 - ー 次のような場合、車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンの始動ができない場合があります。
 - ① キーに金属製の物が接しているとき
 - ② キーに他のキーの金属部が接しているとき
 - ③ キーが他の車両のイモビライザーシステム用キー（信号発信機内蔵の物）と近いとき
 - ④ キーが他の信号発信機と近いときや接しているとき



202262

- イモビライザーのメンテナンスは不要です。
- システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



アドバイス

- イモビライザー機能は車両自体の盗難を防ぐ装置であり、車室内への侵入を防ぐ機能はありません。お車から離れるときは必ずドアを施錠してください。
- キーは、最大7つまで登録できます。スペアのキーが必要な場合は、スバル販売店にご相談ください。
- セキュリティIDプレートは車両以外の場所で大切に保管してください。セキュリティIDプレートに打刻されているセキュリティIDがスペアキーを作る際、必要になります。
- 万一、キーを紛失したときには、盗難を防ぐため紛失したキーの登録を消去するようお願いいたします。登録の消去は、スバル販売店でのみ行えます。スバル販売店にご相談ください。

■セキュリティ表示灯



セキュリティ表示灯はイモビライザー機能の作動および盗難警報装置の状態を示します。

盗難警報装置の作動については2-49ページをご覧ください。

プッシュエンジンスイッチを押していないときはゆっくり1回点滅をしています。正規のアクセスキーを携帯し、プッシュエンジンスイッチを押すと消灯します。

正規のアクセスキー以外を携帯し、プッシュエンジンスイッチを押した場合、表示灯は点滅したままでエンジンを始動できません。



アドバイス

エンジン停止中、プッシュエンジンスイッチがACCでドアを開けるまたは閉めるとセキュリティ表示灯が点滅します。このとき、正規のアクセスキーを携帯していればエンジンを始動できますが、携帯していないときはエンジンの始動はできません。

盗難警報装置

キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）以外でドア（リヤゲート含む）が開けられたとき、または車両が衝撃を受けたとき（ディーラーオプションの衝撃センサー装備車のみ）次の警報で周囲に異常を知らせます。

- 30秒間、車両ホーンが鳴り、非常点滅表示灯（ハザードランプ）が点滅します。

☆2-8、2-11ページ参照

この機能の初期設定は「作動なし」となっています。この機能を使用する場合、警報の設定を「作動あり」に設定してください。

☆2-51ページ参照



注意

盗難警報装置は特定条件で作動し警報などで周囲に知らせる装置であり、盗難を防止するものではありません。
お車から離れるときは、車内に貴重品などを置かないでください。



アドバイス

- 30秒間鳴り続けた後も、ドアが開いたままになっている場合、最長3分間、警報が鳴り続けます。また、ドアを閉めると最長30秒後には警報は止まります。
- 一旦、盗難警報装置を監視状態にすると、キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）以外では解除できません。

■盗難警報装置を監視状態（警報が作動する状態）にするには

プッシュエンジンスイッチをOFFにして、全てのドア（リヤゲート含む）を閉めます。次の操作で施錠すると約30秒の待機時間（監視を行なわない状態）の後、監視状態に入ります。

- アクセスキーを携帯し、リクエストスイッチを押す
- アクセスキーのボタンを押す

監視状態に入るとメーター内のセキュリティ表示灯が2回連続の点滅を繰り返します。この方法以外（メカニカルキーによる施錠、車外からキーを使わない施錠）では盗難警報装置は監視状態に入りません。

☆2-32、2-33ページ参照



アドバイス

- 待機状態中は、セキュリティ表示灯  がすばやく点滅します。
- 30秒の待機状態中に次のことを行った場合、監視状態には入りません。
 - ー キーレスエントリーでドアを解錠したとき
 - ー いずれかのドア（リヤゲートも含む）を開けたとき
 - ー アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押して ACC にしたとき
- 30秒の待機時間のあり／なしの設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

- 自動施錠の機能が作動した場合にも盗難警報装置が監視状態に入ります。
- 監視状態のままバッテリーが上がったときは、キーレスエントリーでは解錠できません。メカニカルキーを使用して解錠してください。ただしバッテリーを充電、もしくは新品に交換した際に監視状態で復帰するため、ドアを開けたままにしておいたり、そのままドアを開けると警報が作動します。
- キーレスアクセス機能や電波式リモコンドアロックによる施錠や自動施錠時、ドアを施錠動作の直前で開くと警報が鳴り始める場合があります。

■盗難警報装置の監視状態を解除するには

次の操作で解錠すると監視状態が解除されます。解除されるとメーター内のセキュリティ表示灯  はゆっくりとした点滅に変わります。

- アクセスキーの  ボタンを押す
- アクセスキーを携帯しフロントドアハンドルを握る
- アクセスキーを携帯し、リヤゲート中央のリヤゲートオープナースイッチを押す



アドバイス

ドアのキーシリンダーにメカニカルキーを差して解錠、もしくは車内からキーを使わず解錠した場合、盗難警報装置は解除されません。そのままドアを開けてしまうと警報が作動します。

☆2-32ページ参照

■警報を作動させてしまったときには

解除方法として次のいずれかの操作をすると解除できます。

- アクセスキーのいずれかのボタンを押す
- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してACCにする



アドバイス

アクセスキーの電池残量が少なくなった場合は、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてACCにしてください。

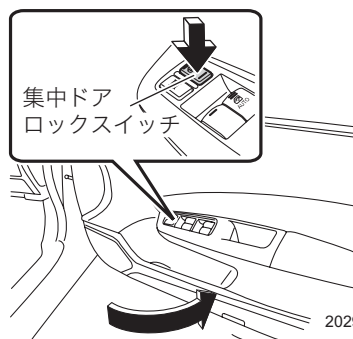
☆2-30ページ参照

■警報の作動の設定

盗難警報装置は作動あり／作動なしの設定を切り替えることができます。

次の方法で切り替えます。

- ① 運転席に座り、全てのドア（リヤゲート含む）が閉まっていることを確認します。
- ② プッシュエンジンスイッチを押してON（エンジンが始動していない状態）にします。
- ③ 運転席ドアを開けると同時に集中ドアロックスイッチの後ろ側（解錠側）を押し、10秒間保持すると設定が切り替わります。



202954

- ④ 設定が切り替わるとホーンが鳴り、新しい設定がオドメーター／トリップメーターに表示されます。
 - 作動あり…ホーンが1回鳴ります。
メーター表示 “AL on”
 - 作動なし…ホーンが2回鳴ります。
メーター表示 “AL oF”



アドバイス

この設定は、スバル販売店でもできます。

☆1-2ページ参照

■警報の作動履歴

メーター内のセキュリティ表示灯  が点滅して、警報が作動したことを運転者に知らせます。警報が作動した原因により点滅の回数が変わります。

プッシュエンジンスイッチをONにしたとき1秒間点灯した後に、次の点滅で運転者に知らせます。

- ドア（リヤゲートを含む）が開けられた場合：5回
- 強い衝撃を受けたときまたは、衝撃を何回も受けたとき：2回
（ディーラーオプションの衝撃センサー装備車のみ）
- 弱い衝撃を受けたとき：1回
（ディーラーオプションの衝撃センサー装備車のみ）



アドバイス

警報の作動履歴は、盗難警報装置を再度監視状態にすると消去されます。

■衝撃センサー（ディーラーオプション）

ディーラーオプションの衝撃センサーが装備されている場合は、車両に衝撃が加えられたときに警報が作動します。

また、センサーの配線が切断した場合にも警報が作動します。

軽い衝撃を受けたときは、短時間のホーンと非常点滅表示灯（ハザードランプ）の点滅による警告、強い衝撃、または衝撃を何回も受けたときは約30秒間のホーン音と非常点滅表示灯（ハザードランプ）の点滅による警報が作動します。



アドバイス

- 衝撃センサーは必ずしも全ての破壊行為に対して検知できるものではありません。また、振動が加わらないような破壊行為の場合（脱出用工具によるガラス破壊など）は、本センサーでは検知できません。
- また、次のような振動が車両に加わった場合、警報が鳴る可能性がありますので駐車する場所に応じて警報、衝撃センサーの設定を行ってください。
例) 工事現場からの振動
 立体駐車場の振動
 電車通過による振動
 フェリー乗船中の駐車時の振動
 など
- 衝撃センサーの取り付け・取り外しは、特殊な設定が必要になります。スバル販売店にお申し付けください。
- 衝撃センサーをスバル販売店以外で取り外した場合、センサーの配線が切断されたと判断し、警報が作動します。取り外しはスバル販売店にお申し付けください。
- スバル純正リモコンエンジンスターターでエンジンを始動している間は衝撃センサーの機能は停止します。

■その他の機能

●室内ランプ点灯

ルームランプ、スポットマップランプのスイッチがDOOR位置にあるとき、警報が作動するとランプが点灯します。

この機能の初期設定は「作動なし」となっています。この機能を使用する場合、室内ランプの設定を「作動あり」に設定してください。

●ユーザーカスタマイズ機能

スバル販売店で次の機能の設定を変更することができます。

- 30秒の待機時間のあり／なし
- 室内ランプ点灯の作動あり／作動なし
- 衝撃センサーの作動あり／作動なしおよび感度の設定

☆1-2ページ参照

シート

正しい運転（乗車）姿勢

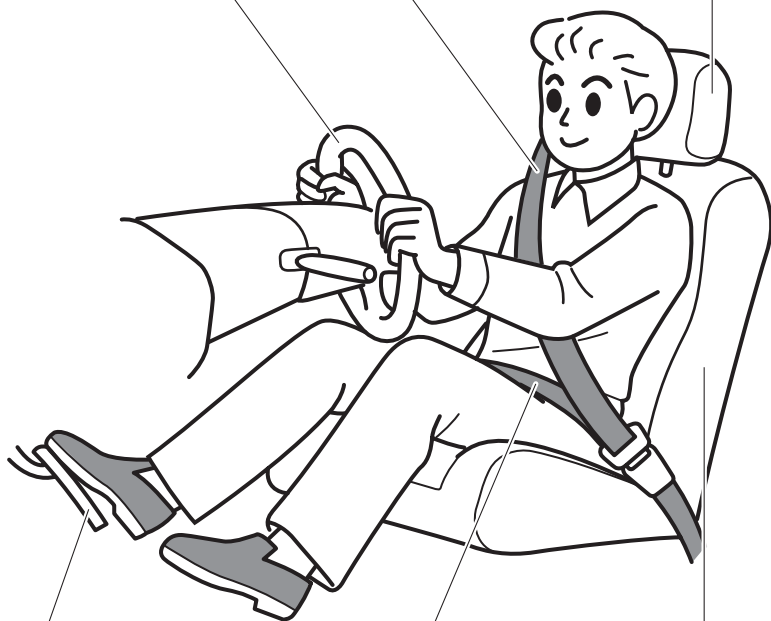
無理のない、正しい運転（乗車）姿勢がとれるようにシートを調整します。ミラーも調整します。そしてシートベルトを正しく装着します。

☆2-73ページ参照

ハンドル操作が
楽にできること
（運転席）

ねじれ、たるみがなく
肩に充分かかること

ヘッドレストの中央が耳の後方にくること
（フロントヘッドレストのみ）



ペダルが十分に
踏み込めること
（運転席）

腰骨のできるだけ
低い位置に密着さ
せること

背もたれはできるだけ立てて背中を
離さず、深く腰掛けること
（ハンドルに近づき過ぎないこと）

202937

 警告

シートなどを調整するときは、次の事項を必ず守ってください。重大な傷害につながるおそれがあります。

- シート調整は、必ず走行を始める前に行ってください。とくに運転席は運転中に行わないでください。加速、減速でシートが動いてペダルに足が届かなくなる、背もたれが倒れてハンドルに手が届かなくなる、運転への注意がそれて運転ミスを起こすなどの重大な事故や傷害につながるおそれがあります。
- シートを調整した後はシートを軽くゆさぶり「確実に固定されていること」を確かめてください。不完全なままではシートが動いたり、シートベルトの機能が十分に働かないことがあります。
- 走行中は助手席も含めて背もたれを必要以上に倒さないでください。万一のとき、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため危険です。
- フロントシートおよびセカンドシートの下に物を置かないでください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドレストを外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。前席ヘッドレストは、ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。後席ヘッドレストは、格納位置から一段上げた位置で使用してください。
- セカンドシートの中央席に座る場合は、左右に分割しているシートのスライド位置を合わせてください。
- フロントシートの座面と背もたれの間に後席乗員の足をのせたり、物を入れたりしないでください。SRSエアバッグやパワーシートが正常に作動しなくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

 注意

- シートの調整は必ず大人が行い、シートや動いている部分に手や足を近づけないでください。また、同乗者や荷物にも注意してください。挟まれたり、荷物を損傷したりすることがあります。
- フロントシート、セカンドシート、サードシートそれぞれのヘッドレストは各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えしないでください。

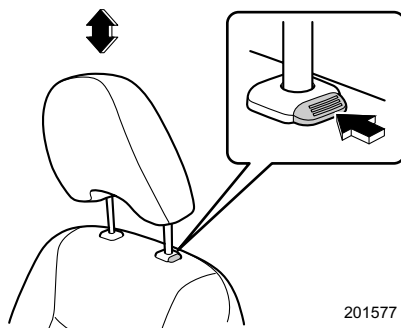
 アドバイス

納車時のシートダストカバー（シート汚れ防止用のポリエチレン製カバー）やフロアマットの汚れ防止フィルムは取り外してから使用してください。

フロントシート

■ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは、固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。
- 取り付けるときは、固定解除ボタンを押しながら挿し込みます。



201577

⚠ 警告

- ヘッドレストは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。
- ヘッドレスト中央が耳の後方になるように高さを調整してください。
- ヘッドレストの高さ調整は、走行中行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付ける際は、前後の向きを間違えないように注意してください。
- フロントシート、セカンドシート、サードシートそれぞれのヘッドレストは各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えしないでください。

🏠 アドバイス

ヘッドレストが天井に当たって取り外しにくいときは、背もたれを倒すと取り外せます。

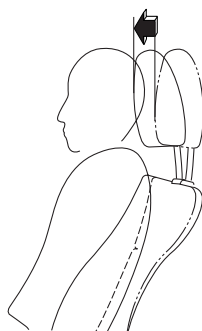
■アクティブヘッドレスト

フロントシートのヘッドレストには、アクティブヘッドレストが装備されています。

この装置は、後方から追突されたとき、前方に少し傾斜するようになっています。

これにより、頭や首を保護し、むち打ち症などを軽減します。

万一の衝突事故に備え、ヘッドレストの乗員保護効果を最大限にするため、ヘッドレストの高さを正しく調整してください。



100089

⚠ 注意

ヘッドレストに物を引っかけたり、つかまったりしないでください。充分な効果が発揮できなかったり、故障につながるおそれがあります。

■パワーシート

シートのドア側のスイッチ操作で調整ができます。

⚠ 注意

操作するときはスイッチ部に異物を挟まないように注意してください。走行中、予期しないときに動くことがあります。

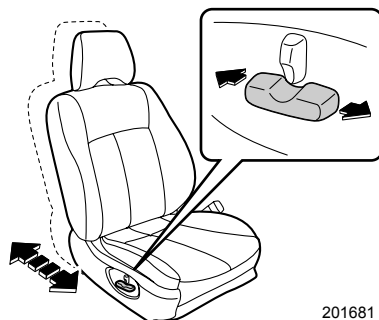
🏠 アドバイス

エンジンが始動しているときに調整してください。バッテリー上がりの原因となります。

- 操作するときは背もたれに過度の力を加えないでください。故障の原因になります。
- 操作するときは調整できる終点まで移動させたときにスイッチを押し続けしないでください。故障の原因になります。
- シートが人や物に当たった場合、それ以上無理に操作しないでください。故障の原因になります。

●スライド調整（前後の調整）

スイッチ全体を前後に動かして調整します。



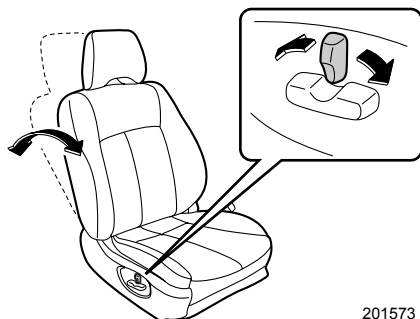
201681

⚠ 注意

後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●リクライニング調整（背もたれの角度調整）

リクライニングスイッチを前後に動かして背もたれの角度を調整します。



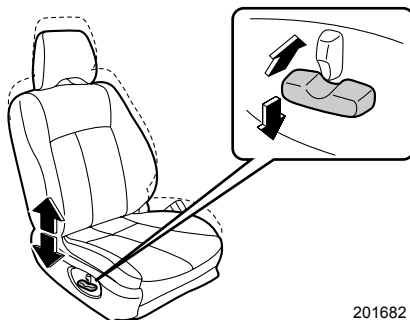
201573

🏠 アドバイス

リクライニング調整中は、リクライニング調整と他の調整を同時に行わないでください。

●上下調整

スイッチの後ろ側を上下に動かしてシートの高さを調整します。



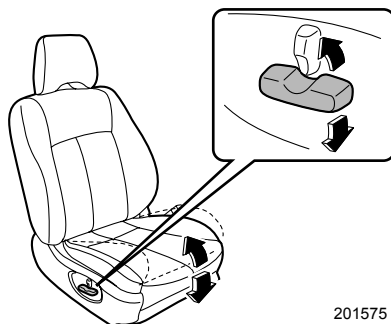
201682

⚠ 注意

上下に調整する際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。

●座面前側の高さ調整

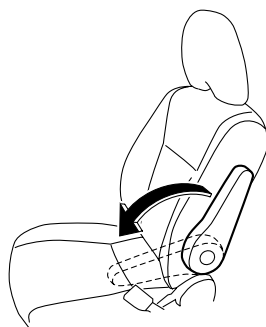
スイッチの前側を上下に動かして前側の高さを調整します。



201575

■アームレスト

前に倒して、ひじ掛けとして使います。

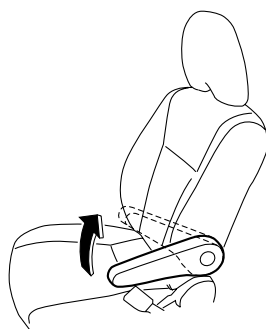


201578

●角度調整

シートのリクライニング調整（背もたれの角度）に合わせて、アームレストの角度を調整することができます。

- 低くするときには、アームレストを一度上まで引き上げてから、一番下の位置まで下げます。
- 高くするときには、アームレストを一番下の位置からお好みの高さに引き上げます。

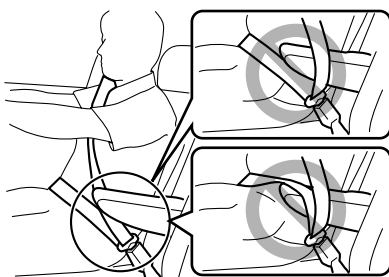


201579

⚠ 警告

シートベルトの着用は、アームレストに引っ掛けたりしないでください。

万一の場合、シートベルト本来の機能が発揮できないなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



201589

⚠ 注意

- アームレストの可動部に指などが挟まれると危険ですので、お子さまが指などを挟み込まないように注意してください。
- アームレストを使うとき上に乗ったり、重いものをのせないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

■ソフトフラットシート

フロントシートは、背もたれを倒すとセカンドシートとフラットな状態にできます。

●ソフトフラットにすると

- ① 安全な場所に駐車し、確実に駐車ブレーキをかけます。
- ② セカンドシートを最後尾位置までスライドさせます。

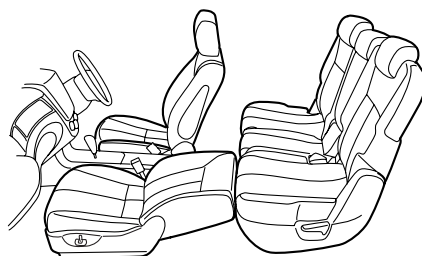
☆2-65ページ参照

- ③ フロントシートのヘッドレストを取り外します。
- ④ フロントシートを最前方位置までスライドさせます。

☆2-58ページ参照

- ⑤ 背もたれを倒して固定します。

☆2-58ページ参照



202819

運転する前に

⚠ 警告

走行中はソフトフラットにして使用しないでください。万一のときシートベルトの効果が得られず重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ソフトフラットにした状態でシートの上を走り回らないでください。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んで、ゆっくりと移動してください。シートを踏み外したり、シートの間に足を挟むなどして、けがをすることがあります。
- 助手席およびセカンドシートに人が乗っているときは、ソフトフラットにしないでください。シートが当たるなどしてけがをすることがあります。

■シートヒーター

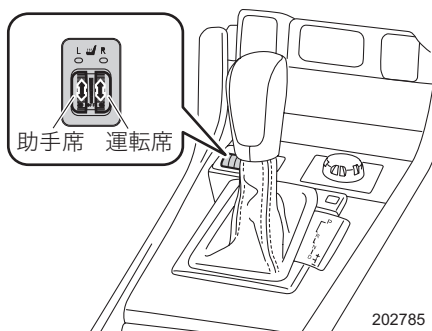
プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、ダイヤルを回すとシートが暖まります。暖かさは4段階に調整することができます。

作動中は表示灯が点灯します。

停止させるときは、ダイヤルをOFFに戻してください。

4： 早く暖めたいときに使います。
暖まったら好みの位置にダイヤルを回してください。

1～3：保温するときに使います。
お好みにより温度調整ができます。
通常はこの段階でご使用ください。



202785

⚠ 注意

- 長時間使い続けるとやけどの原因になることがあります。お子さま、皮ふの弱い方、体の不自由な方などは注意してください。
- 毛布や座ぶとんなどをのせて使用しないでください。
- 水やその他の液体をこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取り、充分乾かしてから使用してください。

🏠 アドバイス

- エンジンが始動しているときに使用してください。バッテリー上がりの原因となります。
- シートに硬い物や突起のある物をのせないでください。

セカンドシート

■ヘッドレスト

乗員が座っているときは、必ずヘッドレストを引き上げた状態で使用してください。



202219

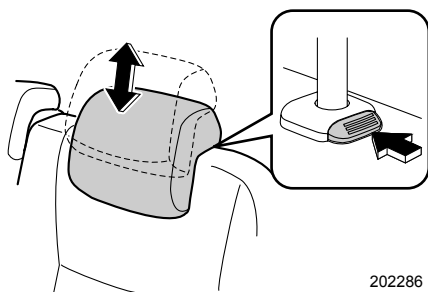
運転する前に

●ヘッドレストの高さ調整

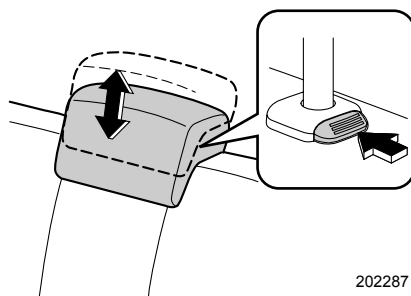
- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押したまま押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押したまま引き抜きます。
- 取り付けるときは、固定解除ボタンを押しながら挿し込みます。

<外側席用>

<中央席用>



202286



202287



警告

ヘッドレストは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付ける際は、前後の向きを間違えないように注意してください。
- フロントシート、セカンドシート、サードシートそれぞれのヘッドレストは各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えしないでください。

🏠 アドバイス

乗員がいなときは下げておくと、後方視界が良くなります。

■アームレスト

引き出して、ひじ掛けとして使います。



202288

⚠ 警告

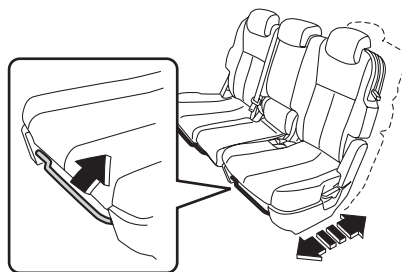
シートベルトの着用は、アームレストに引っ掛けたりしないでください。万一の場合、シートベルト本来の機能が発揮できないなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

アームレストを使うとき上に乗ったり、重いものをのせないでください。アームレストが損傷したり、思わぬけがをすることがあります。

■スライド調整（前後の調整）

レバーを完全に引き上げた状態で前後に動かして調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



202837



警告

中央席に乗員が座る場合は、左右のスライド位置を合わせてください。左右のシート位置が合っていないとシートベルトを正しく着用できず、万一の時乗員の姿勢が不安定になったり、シートベルト本来の機能が発揮できないなど重大な傷害につながるおそれがあります。

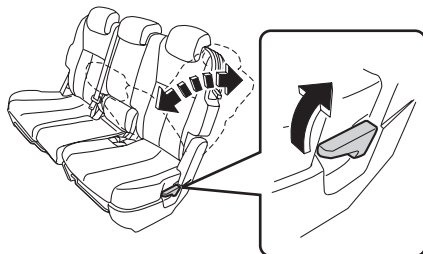


注意

- 後方にスライドする際には、後席の乗員の足が挟まれないように注意してください。
- チャイルドシートを装着したとき、スライド操作を行わないでください。

■リクライニング調整（背もたれの角度調整）

レバーを完全に引き上げた状態で背もたれの角度を調整します。レバーを下ろし、ロックを確認します。



202838



注意

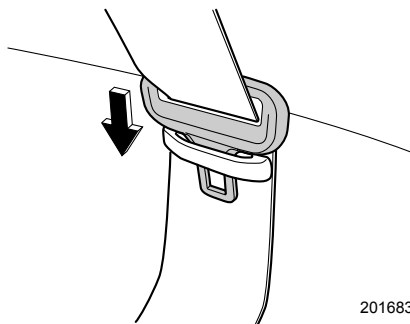
- 背もたれを起こすときは、背もたれを押さえながらゆっくりと戻してください。
背もたれが急に戻り、顔や身体にけがをするおそれがあります。
- リクライニング操作後は、背もたれをゆすって、確実に固定されていることを確認してください。また、走行中は必要以上に背もたれを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- チャイルドシートを装着したとき、リクライニング操作を行わないでください。
- リクライニング操作をするときは、手や足などを挟んだりしないように充分注意してください。

■ウォークイン機構

セカンドシートの背もたれを前方へ倒すことにより、左右どちら側からでもサードシートへ乗り降りできます。

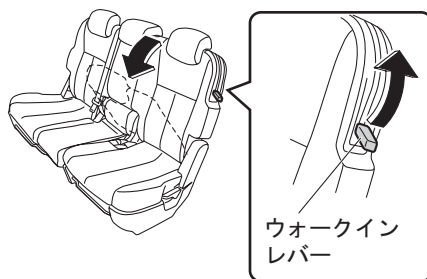
●操作するとき

セカンドシートの外側席シートベルトのタングプレートを通りム側にある格納ホルダーに差し込み固定します。



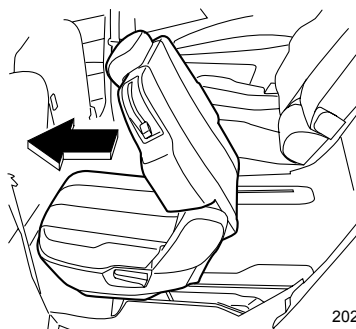
201683

ウォークインレバーを操作すると、背もたれが前方に倒れます。



202835

シートを前方に押すと移動します。



202292

運転する前に

●元に戻すとき

背もたれを起こし、シートを後方に移動すると一定の位置に固定されます。背もたれを倒したままではシートが固定されません。必ずシートが固定されていることを確認してください。



警告

セカンドシートを元に戻したときは、背もたれやシートクッションを軽く前後にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。固定されていない場合、急ブレーキをかけたときや衝突したときに、背もたれが倒れたりシートが移動し、重大な傷害を受けることがあります。



注意

操作するときは、操作する人やまわりの人の手や指などを挟まないように充分注意してください。

■セカンドシートの背もたれを倒し、荷室を広くするとき

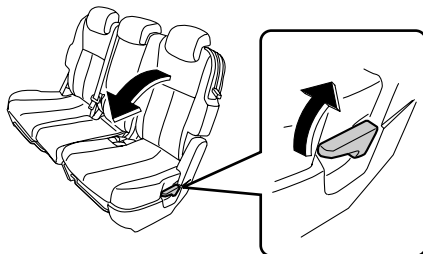
サードシートを倒し荷室として使用しているとき、セカンドシートの背もたれを倒すことにより、荷室を広くすることができます。

背もたれは左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

☆2-72ページ参照

●背もたれを倒すとき

レバーを引き上げながら背もたれを倒します。



202293

●背もたれを元に戻すとき

背もたれを起こし、確実にロックします。

警告

- 背もたれを倒して荷室として使用する場合は、お子さまも含めて走行中、人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものを乗せたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し重大な傷害を受けることがあります。
☆2-55ページの注意事項もお守りください。
- 背もたれを元に戻したときは、背もたれを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 背もたれを元に戻したときは、シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

**注意**

- 背もたれは、バネにより前に倒れます。背もたれ横にあるレバーを引くときは、必ず背もたれを支えた状態でレバーを操作してください。
- チャイルドシートを取り付けているときは、背もたれを倒さないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを倒すとき、シートベルトバックルをシートに格納してください。

☆2-81ページ参照

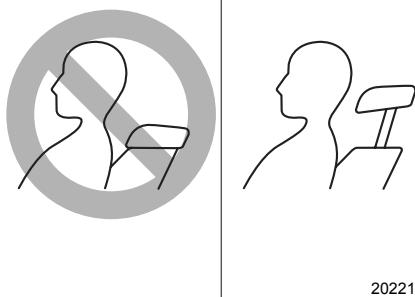
**アドバイス**

上り坂などで背もたれが倒れないときは、手で倒してください。

サードシート

■ヘッドレスト

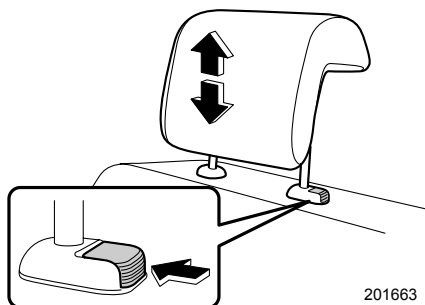
乗員が座っているときは、必ずヘッドレストを引き上げた状態で使用してください。



202219

●ヘッドレストの高さ調整

- 上げるときはそのまま引き上げます。
- 下げるときは固定解除ボタンを押した状態で押し下げます。
- 取り外すときは固定解除ボタンを押した状態で引き抜きます。
- 取り付けるときは、固定解除ボタンを押しながら挿し込みます。



201663

⚠ 警告

ヘッドレストは確実に取り付けてください。
外したり、固定できる高さを超えての使用は、万一のとき頭や首を保護できず重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- ヘッドレストを取り付ける際は、前後の向きを間違えないように注意してください。
- フロントシート、セカンドシート、サードシートそれぞれのヘッドレストは各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。



アドバイス

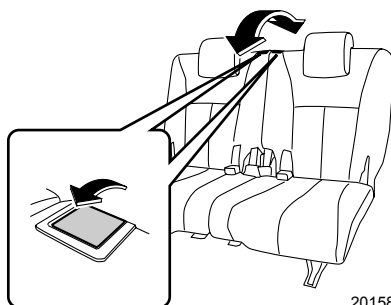
後部座席に乗員がいないときは、ヘッドレストを下げておくとう視界を妨げません。

■リクライニング調整（背もたれの角度調整）

背もたれの上にあるレバーを引き上げた状態で、背もたれの角度を調整します。

左右独立して行えます。

※セカンドシートのような背もたれを戻すスプリングはありません。



201587



注意

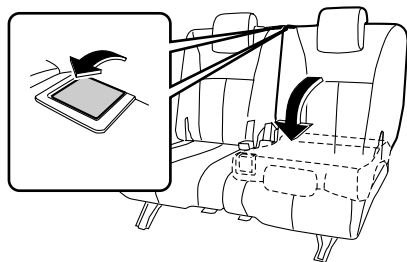
- 操作するときは、指などを挟まないように注意してください。
- チャイルドシートを装着したとき、リクライニング操作を行わないでください。

■荷室として使用するとき

サードシートの背もたれを倒すことにより、荷室として広く使うことができます。背もたれは左右に分割されているシートをそれぞれ倒すことができます。

●背もたれを倒すとき

背もたれの上にあるレバーを引いた状態で、背もたれを前に倒します。



201588

●背もたれを元に戻すとき

背もたれを起こし、確実にロックします。

⚠ 警告

- 背もたれを倒して荷室として使用する場合は、お子様も含めて走行中、荷室に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受けることがあります。
- 荷物や長いものを乗せたときは、荷物を固定してください。急ブレーキをかけたときなど荷物が飛び出し重大な傷害を受けることがあります。
- 背もたれを元に戻したときは、背もたれを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトが背もたれに挟まれていないことを確認してください。シートベルトが背もたれに挟まれていると、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

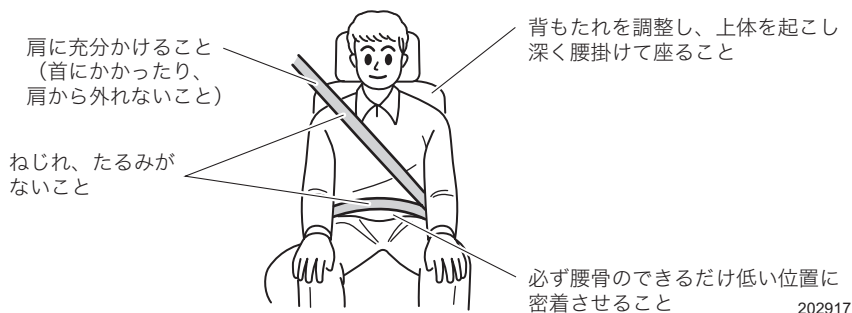
⚠ 注意

- リクライニング操作後は、背もたれ上端を前後にゆすり、シートが確実に固定されていることを確認してください。また、走行中は必要以上に背もたれを倒さないでください。万一のとき、シートベルトが肩から外れ、シートベルト本来の機能が発揮されないことがあります。
- 操作するときは、指などを挟まないように注意してください。

シートベルト

シートベルトの正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用し、同乗者にも必ず着用させてください。走行中はシートベルトを外さないでください。



運転
する
前
に

⚠ 警告

シートベルトの着用は、次の事項を必ず守ってください。重大な傷害につながるおそれがあります。

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは一人用です。二人以上で一本のベルトを使用しないでください。
- シートベルトのタングプレートを正しいバックルに確実に装着してください。
- シートベルトはねじれたり、裏返しにならないように使用してください。ねじれたり裏返しになっているとベルトの幅が狭くなったり、局部的に強い力を受けて万一のとき危険です。
- シートベルトは腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。柔らかい腹部にかけた場合は万一のとき強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 肩ベルトは脇の下を通さずに確実に肩にかけてください。肩に充分にかかっていないと上半身が拘束されず充分な効果を発揮しません。
- シートベルトは上体を起こし、シートに深く腰掛けた状態で着用してください。正しい姿勢については「正しい運転（乗車）姿勢」（2-54ページ）をご覧ください。
- シートの背もたれを必要以上に倒して走行しないでください。衝突したときなどに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

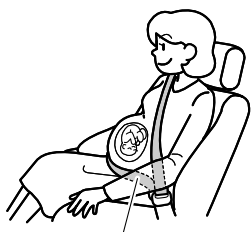
次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ハンドルやインストルメントパネルに必要以上近づいて運転しないでください。
- シートベルトを洗濯バサミやクリップなどでたるませないでください。十分な効果を発揮しません。

⚠ 警告

- 妊娠中の方や疾患のある方も、万一のときに備えシートベルトを着用してください。局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。肩ベルトは確実に肩に通し、腹部を避けて胸部にかかるように着用してください。



腰骨のできるだけ低い位置



胸部に
かかるように

201918

- シートベルトのバックルに異物が入らないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらなくなり、走行中に外れる場合があります。
- お子さまは後席に乘坐してください。
- お子さまもシートベルトを必ず着用させてください。膝の上でお子さまを抱いていても、急ブレーキや衝突したときなどに充分支えることができず、お子さまへの重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは大人用に設計されています。シートベルトを着用したときベルトが首、あご、顔などに当たるお子さまはチャイルドシート（別売）を使用してください。万一のとき、ベルトによる負傷を防ぎます。チャイルドシートの使用方法是チャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

警告

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにシートベルトを体に巻きつけて遊んだりすると、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。万一、シートベルトが体に巻きついて外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



200364

- シートベルトにほつれや切り傷ができたり、金具部などが正常に動かなくなったときは、シートベルトを交換してください。また、装着した状態で万一事故にあった場合は、外観に異常がなくても必ずスバル販売店で交換してください。そのまま使用すると正常に働かず、十分な効果を発揮しません。
- シートベルトを交換するときは、交換するシートベルト位置用として認可された、スバル純正品を使用してください。
- シートベルトの改造や取り外しなどはしないでください。衝突などのとき十分な効果を発揮せず重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。

注意

炎天下に長時間駐車し、室内が高温になっている場合は、金属部分を持たずに、樹脂部分を持ってシートベルトを着用してください。シートベルトの金属部が熱くなっている場合があり、やけどにつながるおそれがあります。

アドバイス

スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入の際はスバル販売店へお問い合わせください。

フロントシートベルト

シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとすると、ベルトが自動的にロックされます(ELR機構)。

■3点式シートベルト

●着用のしかた

- ① タングプレートを手で持って、ゆっくり引き出します。



202827

- ② ベルトがねじれないようにし、タングプレートをバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。



202828

- ③ 正しい姿勢で腰掛け、腰のベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させます。



201921

●外すとき

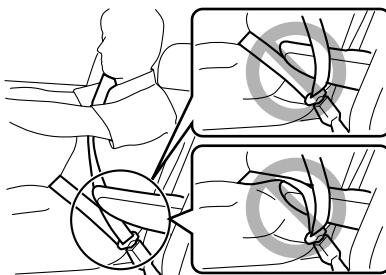
外すときはバックルの「PRESS」ボタンを押し、タングプレートを手で持ってゆっくり巻き取ります。

ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

⚠ 警告

シートベルトの着用は、アームレストに引っ掛けたりしないでください。

万一の場合、シートベルト本来の機能が発揮できないなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



201589

🏠 アドバイス

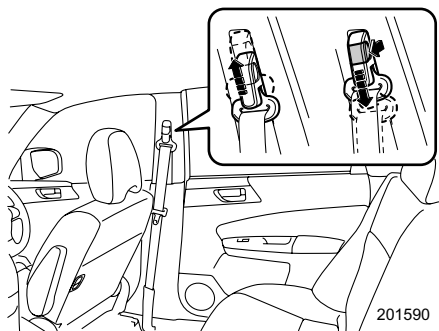
- ベルトが首に当たったり、肩から外れて腕にかかってしまうときは、ショルダーアジャスターでベルトの高さを調整します。
- ベルトが引き出せないときはベルトをゆるめてもう一度ゆっくり引き出します。

それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからベルトをゆるめ、再度ゆっくりと引き出します。

■シートベルトの高さ調整（ショルダーアジャスター）

座高に合わせてシートベルトの位置を調整できます。

- ① 上げるときはショルダーアジャスター本体を上動かします。下げるときはノブを引きながらショルダーアジャスターを動かして最適な位置を選びます。
- ② ショルダーアジャスターが固定されていることを確認します。



201590

警告

ショルダーアジャスターを調整するときは、次のことをお守りください。
守らないと衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。

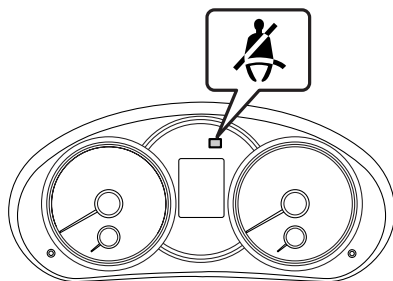
- シートベルトが首に当たらないように、また、肩の中央に充分かかるようにできるだけ高い位置に調整してください。
- 調整した後は、確実に固定されていることを確認してください。

アドバイス

アジャスターが上がらない場合、ベルトが引き出せず固定された状態になっている場合があります。ベルトが引き出せる状態にしてから、アジャスターを操作してください。

■シートベルト警報

プッシュエンジンスイッチが ON でシートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。シートベルト未着用のまま車速約 20 km/h 以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約 2 分間続きます。約 2 分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。



202029

アドバイス

車速が約 20 km/h 以下になっても、上記作動はシートベルトを着用するまで約 2 分間続きます。

■プリテンショナー付シートベルト（フロントシートのみ）

プリテンショナー付シートベルトは、前方向からの強い衝撃を受けると作動し、シートベルトを瞬間的に引き込んで前席乗員をシートにしっかり固定し、シートベルトの効果をいっそう高めます。

運転席のプリテンショナーは肩ベルトおよび腰ベルトに、助手席のプリテンショナーは肩ベルトに装備されています。

運転席側



助手席側



運転する前に

⚠ 注意

プリテンショナー付シートベルトの効果を発揮させるため次の事項を必ず守ってください。

- シートを正しい位置に調整する。

☆2-54ページ参照

- シートベルトを正しく着用する。

次のような作業をするときは、必ずスバル販売店にご相談ください。

- シートベルトを取り外すとき
- シートベルトを廃棄するとき
- 廃車するとき

🏠 アドバイス

- プリテンショナー付シートベルトは、シートベルトを着用していなくても作動します。一度作動すると、ベルトの引き出し、巻き取りができなくなります。
- プリテンショナー付シートベルトが作動した場合は、必ず運転席、助手席とも同時にスバル販売店で交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトは、SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

セカンドシートベルトおよびサードシートベルト

3点式シートベルトが装備されています。

シートベルトは、身体の動きに合わせて自由に巻き取り、引き出しができますが、強い衝撃を受けたときやベルトを急激に引き出そうとすると、ベルトが自動的にロックされます(ELR機構)。

☆2-76ページ参照

■セカンドシート外側席用シートベルトおよびサードシートベルト

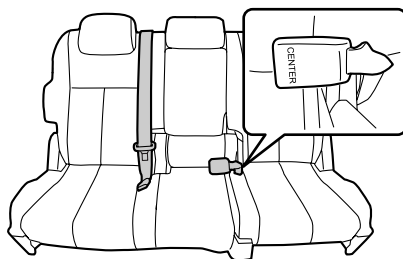
フロントシートベルトと同じ方法で着用および外します。

☆2-76ページ参照

■セカンドシート中央席用シートベルト

左右のシートのスライド位置を合わせ、フロントシートベルトと同じ方法で着用および外します。このとき、必ず中央席用のバックルを使用してください。バックルには「CENTER」印があります。

☆2-65、2-76ページ参照



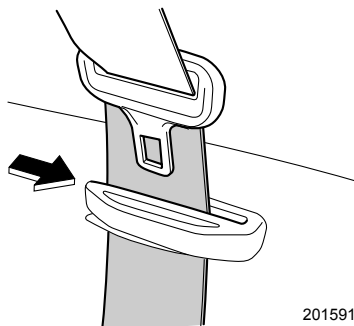
202294

警告

中央席に乗員が座る場合は、左右のスライド位置を合わせてください。左右のシート位置が合っていないとシートベルトを正しく着用できず、万一の時乗員の姿勢が不安定になったり、シートベルト本来の機能が発揮できないなど重大な傷害につながるおそれがあります。

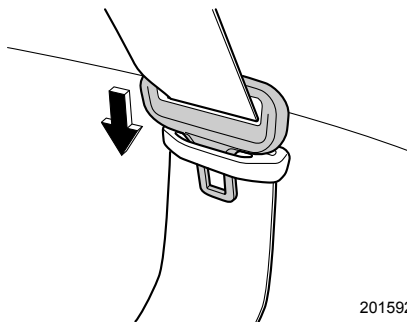
■シートベルトを格納するとき（セカンドシート外側席およびサードシート）

- ①バックルの「PRESS」ボタンを押します。
- ②シートベルトを巻き取り、トリム側にある格納ホルダーの溝に差し込みます。



201591

- ③ タングプレート（舌板）を格納ホルダーに差し込み固定します。



201592

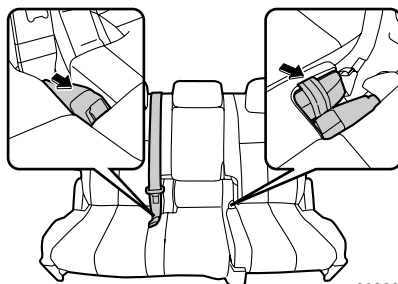


注意

使用しないときは、シートベルトを格納しておいてください。

■バックルを格納するとき（セカンドシート）

それぞれのバックルをシートに格納できます。



202296

お子さまの安全

チャイルドシート

お子さまが乗車するときは、チャイルドシートを使用し安全を確保してください。

■知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせ、適切なチャイルドシートを選んでください。
- チャイルドシートの取り付け方法および取り外し方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- この車は、2006年10月1日施行の保安基準に適合したISO FIX固定バーを標準装備しています。

■チャイルドシートの種類

ECE R44※の基準に適合するチャイルドシートは、お子さまの体重によって次の5つの質量グループに分類されます。

グループ0	: ~10kg
グループ0+	: ~13kg
グループⅠ	: 9~18kg
グループⅡ	: 15~25kg
グループⅢ	: 22~36kg

※ECE R44は、チャイルドシートに関する国際的な安全基準です。

スバル純正チャイルドシートは、次のカテゴリーの商品をご用意しています。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

- チャイルドシート（ISO FIX固定バー方式）
 - － 体重の目安：～18kg
- 新保安基準の質量グループ0および0+に適合しています。



202603

●チャイルドシート（ベルト固定専用）

－ 体重の目安：～18kg

新保安基準の質量グループ0、0⁺ およびⅠ
に適合しています。



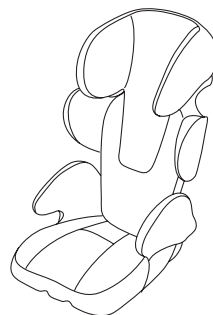
201937

●ジュニアシート（ベルト固定専用）

－ 体重の目安：15～36kg

－ 年齢の目安：3～12歳

新保安基準の質量グループⅡ およびⅢに適合しています。



202402

運転する前に



警告

- 背もたれが確実にロックされているか、背もたれを軽く前後にゆさぶり確実に固定されていることを確認してください。固定されていないと急ブレーキ時などに背もたれが倒れたり、荷室内の物が飛び出すなど思わぬ事故につながり重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。
- チャイルドシート取り付け後は、チャイルドシートを取り付けたシートは動かさないでください。衝突したときなどに重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- チャイルドシートは、お子さまの年齢や体格に合ったものをご使用ください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。とくにシートベルトを体に巻きつけて遊んだりすると、窒息などの重大な傷害につながるおそれがあります。万一、シートベルトが体に巻きついて外せなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



200364

- チャイルドシートは、お子さまを乗せていないときでもしっかりとシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でも、ロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 取り外したヘッドレストはカーゴルームに収納し、固定してください。ヘッドレストを車内に置いた場合、急停止または急カーブによりヘッドレストが乗員や物に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。



アドバイス

お子さまに最適なチャイルドシートについては、スバル販売店、チャイルドシート製造業者または販売店にご相談ください。

ISO FIX固定バー方式で固定するチャイルドシートについて

セカンドシートの外側席には、乳児用（ベビー）／幼児用（チャイルド）のスパル純正ISO FIXチャイルドシートを固定するための専用のISO FIX固定バーとテザーアンカーが装備されています。

■適合性一覧表（ISO FIX方式での取り付け）

お子さまの体格に合わせ、チャイルドシートを適切にご使用ください。

質量グループ (お子さまの体重)	サイズ等級	固定具	車両ISO FIX位置
			セカンドシート
			外側席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	IL1
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1	IL1
	D	ISO/R2	IL1
	C	ISO/R3	IL1
I (9～18kgまで)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IL2またはIUF
	B1	ISO/F2X	IL2またはIUF
	A	ISO/F3	IL2またはIUF
II (15～25kgまで)			×
III (22～36kgまで)			×

記号の説明

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISO FIX対応の前向きチャイルドシートに適しています。

IL1：スパル純正ISO FIXチャイルドシート（後ろ向き）

IL2：スパル純正ISO FIXチャイルドシート（前向き）

×：ISO FIXチャイルドシートを取り付けることはできません。

●取り付け可能なチャイルドシート

質量グループ	サイズ 等級	固定具	ISO FIXチャイルドシート	使用の 向き	カテゴリー
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	スバル純正ISO FIX チャイルドシート	後ろ向き	準汎用
0+ (13kgまで)	E	ISO/R1			
	D	ISO/R2			
	C	ISO/R3			
I (9～18kg)	B	ISO/F2		前向き	
	B1	ISO/F2X			
	A	ISO/F3			



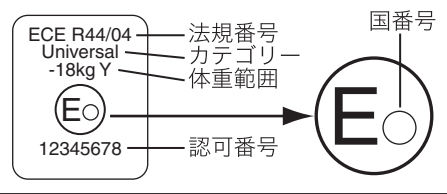
アドバイス

- チャイルドシートを購入する際は、ISO FIX サイズ等級に一致した商品をお選びください。

サイズ 等級	固定具	お子さまの 体格	使用の向き	形状、大きさ
A	ISO/F3	幼児	前	大型
B	ISO/F2	幼児	前	中型
B1	ISO/F2X	幼児	前	中型
C	ISO/R3	幼児	後ろ	大型
D	ISO/R2	幼児	後ろ	中型
E	ISO/R1	乳児	後ろ	小型

- 「IU」のチャイルドシートには、ECE R44 認可表示と取扱説明書に「UNIVERSAL ISO FIX」と案内があります。

EC認可表示の例



- スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入およびご使用に際してはスバル販売店にご相談ください。

警告

- 必ずISO FIX固定バーとテザーアンカーまたはサポートレッグをセットで使用してください。
セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- ISO FIXチャイルドシートを取り付ける際は、次の部分に異物やシートベルトの噛み込みがないことを確認してください。
 - ー ISO FIX固定バー
 - ー ベースシートのシート取り付け部
 - ー テザーベルトのフック
 シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。
- 詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。

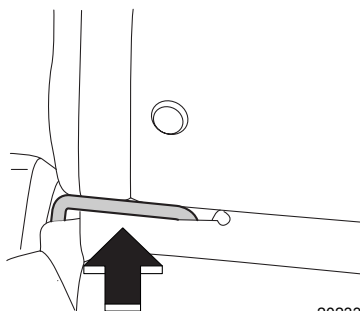
■ISO FIX固定バー

背もたれの下部に ISO FIX 固定バーが装備されていることを示すマークがついています。



202297

ISO FIX 固定バーにベースシートを差し込みます。



202330

ベビーシートまたはチャイルドシートをベースシートに確実に固定します。



202604

⚠ 注意

可動部分に指や物を挟まないよう充分注意してください。

🏠 アドバイス

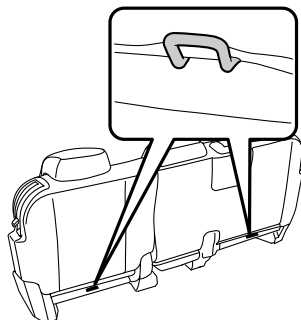
長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。

■テザーアンカー

⚠ 警告

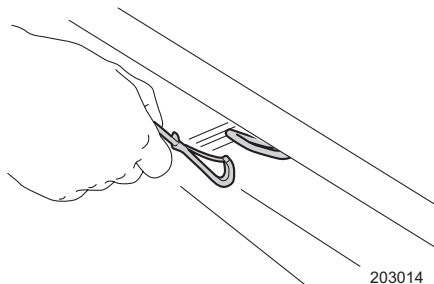
- 必ずISO FIX固定バーとテザーアンカーをセットで使用してください。セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 詳しくは、ベビーシート（別売）およびチャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。

セカンドシート背もたれの後ろ側にテザーアンカーがあります。



202299

テザーベルトのフックを、図のようにテザーアンカーに引っかけます。



203014

■ スバル純正ISO FIXチャイルドシート（サポートレッグ式）を後ろ向き（乳児用）として使用する場合

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（サポートレッグ式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

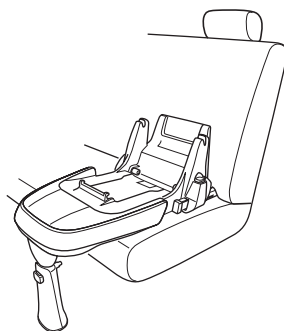
- 必ずISO FIX固定バーとサポートレッグをセットで使用してください。
セットで使用しない場合は、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。
- ISO FIXチャイルドシートを取り付ける際は、ISO FIX固定バーおよびベースシートのシート取り付け部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

チャイルドシートを取り付ける際に、可動部分などに手を挟まないよう、気をつけてください。

●ベースシートの取り付け

ベースシートをISO FIX固定バーに固定し、サポートレッグが床につくよう調整します。



202605



注意

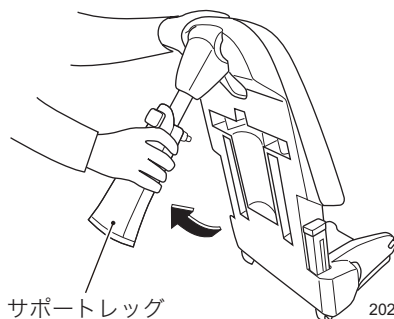
ベースシートだけを取り付けたまま放置しないでください。突起部分で頭などをぶつけるおそれがあります。ベースシートを車室内に置く場合は、安全のためISO FIX固定バーに取り付けたベースシートにチャイルドシートを固定してください。



アドバイス

長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。

- ① 後席の背もたれを、チャイルドシートが正しく取り付けられる位置まで起こします。
- ② サポートレッグを“カチッ”と音がするまで引き出し、確実にロックします。



202606



警告

ロックをしていないと、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。

- ③ コネクター調整ボタンを押した状態で、コネクターを全て押し出します。



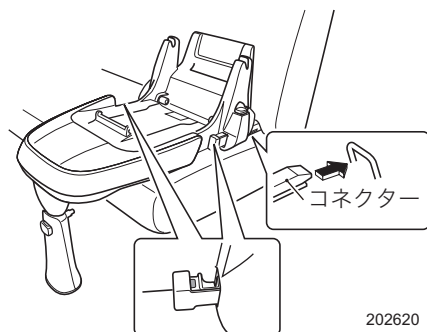
202607

- ④ セカンドシートの背もたれとシートクッションのすき間にある、ISO FIX固定バーの位置を確認します。



202297

- ⑤ コネクター部を ISO FIX 固定バーに“カチッ”と音がし、両方のインジケーターの赤色部分が緑色に変わるまで差し込みます。



202620

警告

コネクターを必ず正しいロック状態にしてください。正しくロックしていないと、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。

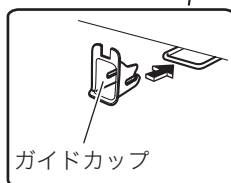
次ページへ ⇒

⇒前ページより



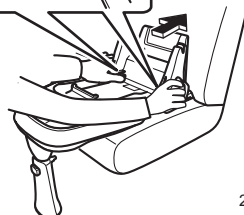
アドバイス

取り付けにくいときは、ISO
FIX 固定バーに付属のガイド
カップを差し込み、ご使用く
ださい。



202608

- ⑥ 両側のコネクター調整ボタンを押しながら、ベースシートをシートにしっかりと押さえつけます。



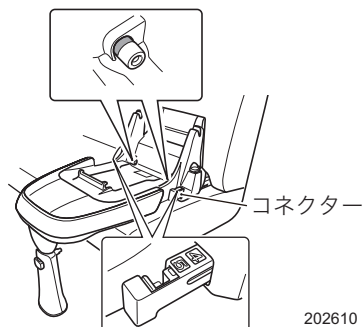
202609



アドバイス

しっかりと押さえつけてもベースシートとシートの間にすき間が生じるもの
があります。できるだけすき間が小さくなるようにリクライニングで角度を
調整してください。

- ⑦ 左右のコネクター調整ボタンがロック位置（緑のラベルが見える状態）まで戻っていること、またコネクターの左右の数字が同じことを確認してください。



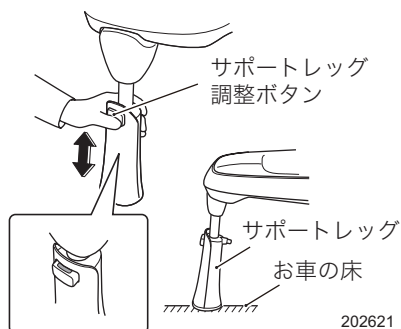
202610



アドバイス

コネクター調整ボタンがロック位置に戻っていない場合（緑色のラベルが見えていない状態）は、ベースシートを前後にゆさぶりロックしてください。

- ⑧ サポートレッグ調整ボタンを押し、サポートレッグの先端が必ず床に接触するように高さを調整してください。また、調整後はボタンの緑色の表示が見え、ロックされていることを確認してください。



202621



警告

- サポートレッグの先端は必ず床に接触させてください。接触していない場合、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- ボタンがロックされているか必ず確認してください。ロックされていない場合、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。



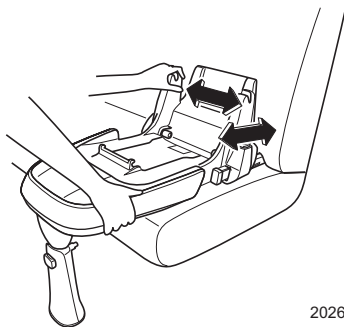
アドバイス

- サポートレッグを床に接触させると、シートとベースシートの底面に少しすき間ができる場合があります。
- 事故などの際、強い衝撃を受けるとロックが解除できなくなる場合があります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

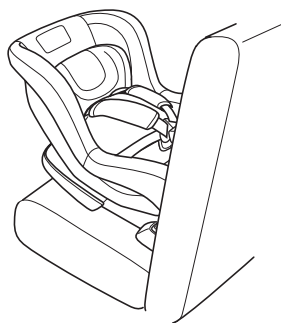
- ⑨ ベースシートがしっかりと取り付けられていることを前後左右にゆさぶり確認します。ぐらつきがある場合は手順③からやり直してください。



202626

●ISO FIXチャイルドシート（サポートレッグ式）の取り付け＜後ろ向き＞

車両の前進方向に対し、後ろ向きになるようチャイルドシートをベースシートに取り付けます。



202612



警告

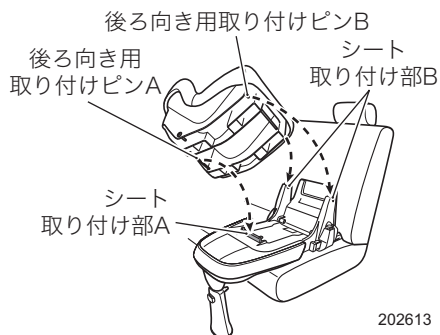
ベースシートの上に物が無いことを確認してから本体を取り付けてください。ベースシートの上に物があると本体が正しくロックできず、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。



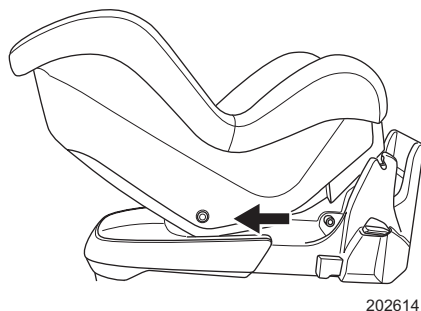
アドバイス

長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。

チャイルドシート底面の3箇所のピンを次の手順でベースシートのシート取り付け部に差し込みます。

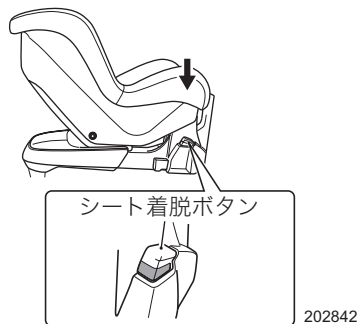


- ① チャイルドシートをベースの上に置き、滑らすようにしてシートの「後ろ向き用取り付けピンA」をベースシートの「シート取り付け部A」にロックします。



- ② チャイルドシートの前端を押し付け、チャイルドシートの「後ろ向き用取り付けピンB」をベースシートの「シート取り付け部B」にロックします。

- ③ 正しくロックされると、ベース側面のシート着脱ボタンが上がり、緑色のラベルが見える状態になります。必ず左右両方ともロックされているか確認してください。



警告

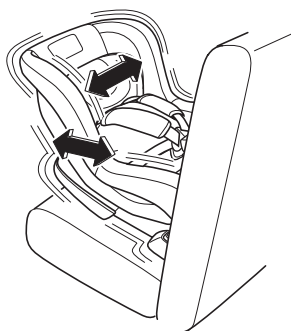
全てのピンが正しくロックされていないと、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。

次ページへ ⇒

運転する前に

⇒前ページより

- ④ チャイルドシートがベースシートにしっかりと取り付けられていることを前後左右にゆさぶり確認します。ぐらつきがある場合は手順①からやり直してください。



202829

■スバル純正ISO FIXチャイルドシート（サポートレッグ式）を前向き（幼児用）として使用する場合

詳しい取り付け、取り外し方法については、別売のスバル純正 ISO FIX チャイルドシート（サポートレッグ式）に付属の取扱説明書をご覧ください。

⚠ 警告

- 必ずISO FIX固定バーとサポートレッグをセットで使用してください。
セットで使用しない場合には、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 詳しくは、チャイルドシート（別売）に付属の取扱説明書をご覧ください。
- ISO FIXチャイルドシートを取り付ける際は、ISO FIX固定バーおよびベースシートのシート取り付け部にシートベルトや異物の噛み込みがないことを確認してください。
シートベルトや異物が噛み込んだ場合、確実にロックされず、衝撃を受けたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

チャイルドシートを取り付ける際に、可動部分などに手を挟まないよう、気をつけてください。

●ベースシートの取り付け

☆2-90ページ参照

●ISO FIXチャイルドシート（サポートレッグ式）の取り付け＜前向き＞

車両の前進方向に対し、前向きになるようチャイルドシートをベースシートに取り付けます。



202604

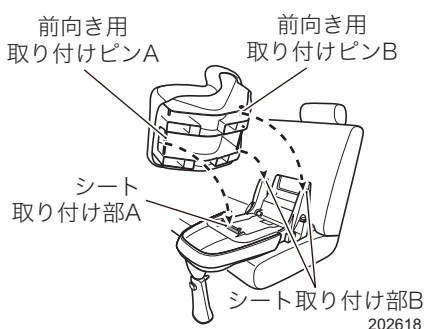
警告

ベースシートの上に物がないことを確認してから本体を取り付けてください。ベースシートの上に物があると本体が正しくロックできず、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

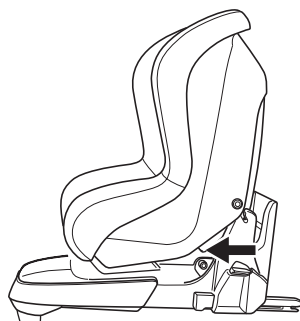
長期間チャイルドシートを取り付けることにより、シート跡がつく場合があります。

チャイルドシート底面の3箇所のピンを次の手順でベースシートのシート取り付け部に差し込みます。



202618

- ①チャイルドシートをベースシートの上に置き、滑らすようにしてシートの「前向き用取り付けピンA」をベースシートの「シート取り付け部A」にロックします。



202619

- ②チャイルドシートの前端を押し付け、チャイルドシートの「前向き用取り付けピンB」をベースシートの「シート取り付け部B」にロックします。

- ③正しくロックされると、ベースシート側面のシート着脱ボタンが上がり、緑色のラベルが見える状態になります。必ず左右両方ともロックされているか確認してください。



202622

警告

全てのピンが正しくロックされていないと、事故時に重大な傷害につながるおそれがあります。

- ④チャイルドシートがベースシートにしっかりと取り付けられていることを前後左右にゆさぶり確認します。ぐらつきがある場合は手順①からやり直してください。



202830

シートベルトで固定するチャイルドシートについて

■適合性一覧表（シートベルトを使用して取り付け）

お子さまの体格に合わせ、チャイルドシートを適切にご使用ください。

質量グループ (お子さまの体重)	着座位置	
	前席	後席
	助手席	(セカンドシートおよびサードシート)
0 (10kgまで)	×	L1
0+ (13kgまで)	×	L1
I (9～18kgまで)	×	L2
II (15～25kgまで)	×	L3
III (22～36kgまで)	×	L3

記号の説明

L1：スバル純正チャイルドシート（後ろ向き）

L2：スバル純正チャイルドシート（前向き）

L3：スバル純正ジュニアシート

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。

●取り付け可能なチャイルドシート

質量グループ	チャイルドシート	使用の向き	カテゴリー
0 (10kgまで)	スバル純正チャイルドシート	後ろ向き	汎用
0+ (13kgまで)		前向き	汎用
I (9～18kg)		前向き	汎用
II (15～25kg)	スバル純正ジュニアシート	前向き	汎用
III (22～36kg)		前向き	汎用



警告

セカンドシート中央席にチャイルドシートを取り付ける場合は、左右のスライド位置を合わせてください。左右のシート位置が合っていないとチャイルドシートを正しく取り付けることができず、万一の時、重大な傷害につながるおそれがあります。

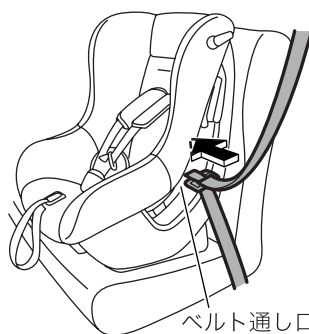


アドバイス

- チャイルドシートに関する国際的な安全基準である ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- チャイルドシートを購入する際は、質量グループに一致した商品をお選びください。
- スバル純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入およびご使用に際してはスバル販売店にご相談ください。

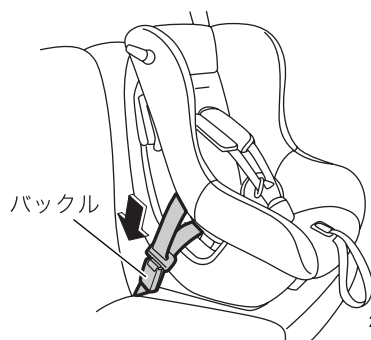
■チャイルドシートの取り付け

- ① ヘッドレストを取り外します。
- ② チャイルドシートを、後席にまっすぐに置きます。このとき、チャイルドシート背面と背もたれの間にすき間ができないように、背もたれの角度を調整します。
- ③ チャイルドシート背面のベルト通し口に、シートベルトをねじれないように通します。



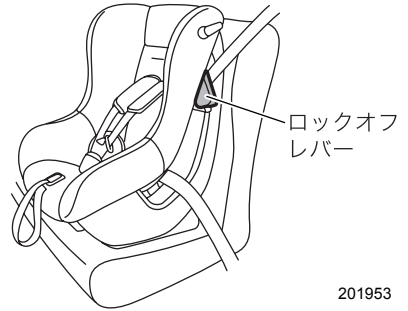
ベルト通し口 201951

- ④ シートベルトのタングプレート（舌板）をバックルの中へ、“カチッ”と音がするまで差し込みます。

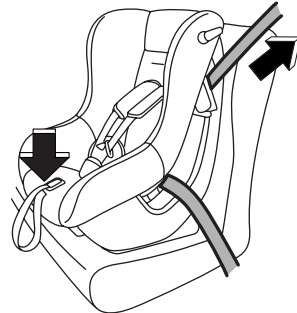


201952

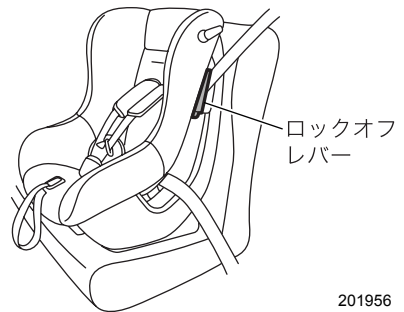
- ⑤ チャイルドシートのロックオフレバーを開き、肩ベルトをロックオフレバーの下に通します。



- ⑥ チャイルドシートに体重をかけてシートに押しつけながら、肩ベルトをたるみがなくなるまで巻き取らせてます。



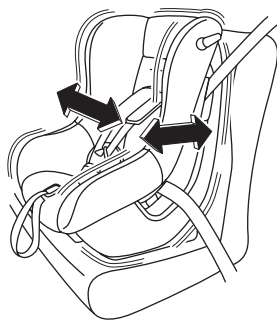
- ⑦ チャイルドシートのロックオフレバーを閉じ、肩ベルトを固定します。



次ページへ ⇒

⇒前ページより

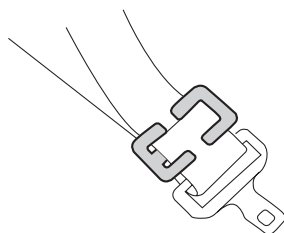
- ⑧ チャイルドシートやシートベルトが確実に固定されていることを前後左右にゆさぶり確認します。ぐらつきがある場合は手順②からやり直してください。



202834

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップを使用して固定します。

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。



202006

■解除のしかた

バックルの「PRESS」ボタンを押して、シートベルトを外します。



アドバイス

- 詳しい取り付け、取り外し方法については、それぞれチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。
- ロックングクリップについて、詳しくはスバル販売店にご相談ください。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグのSRSとはSupplemental Restraint Systemの略で、乗員補助拘束装置の意味です。

全てのSRSエアバッグはプッシュエンジンスイッチがONのときのみ作動可能になります。運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS カーテンエアバッグは車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

■シートベルトは必ず正しく着用してください

警告

- SRSエアバッグシステムはシートベルトを補助する装置で、シートベルトに代わるものではありません。SRSエアバッグシステムだけでは身体の飛び出しなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRSエアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-73ページ参照

- 正しい乗車姿勢になるようシート位置、ハンドル位置を調整してください。不適切な乗車姿勢ではSRSエアバッグシステムの効果を発揮させることができず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆2-54ページ参照

■乗員とSRSエアバッグの間に物を置かないでください

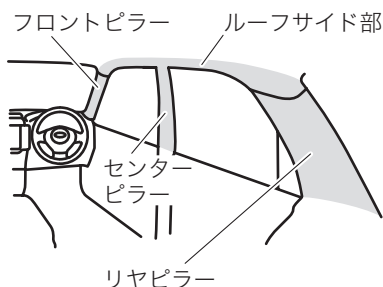
警告

膝の上に物をかかえるなど、乗員とSRSエアバッグの間に物を置いた状態で走行しないでください。SRSエアバッグが膨らんだときに物が飛ばされたり、SRSエアバッグの正常な作動を妨げたりして、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

■ SRSエアバッグシステム周辺を強打したり衝撃を加えたりしないでください

⚠ 警告

ハンドルのパッド部、インストルメントパネル、センターコンソール、フロントシート背もたれ側面、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部、天井、アシストグリップなど、SRSエアバッグシステム構成部品の周辺を強打したり衝撃を加えたりしないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなるなど、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



202792

■ お子さまを乗せるときには次の事項をお守りください

⚠ 警告

- お子さまは後席に座らせて必ずシートベルトを着用させてください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。



200366

- お子さまを SRS エアバッグの前に立たせたり、膝の上に抱いたり、背負ったりした状態では走行しないでください。



100234

- 6歳未満のお子さまはチャイルドシートの着用が法律で義務付けられていますので、必ず（スバル純正）チャイルドシートを使用してください。チャイルドシートの使用方法はチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

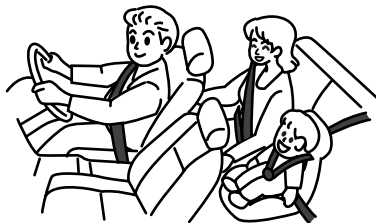
- 助手席に前向き、後ろ向きを問わずチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

事故などで助手席 SRS エアバッグが膨らんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。



500684

- チャイルドシートは必ず後席に取り付けてください。



200127

■運転席SRSエアバッグ

ハンドル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

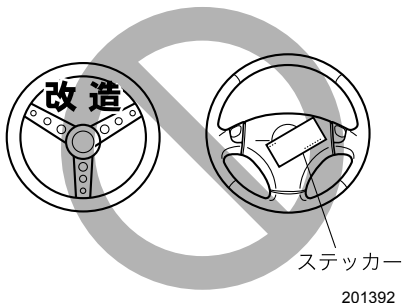


200123

■運転席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- ハンドルを交換したり、センサーパッド部にステッカーなどを貼らないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。
- ハンドルのSRSエアバッグ格納部に手を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。SRSエアバッグが作動したとき、衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



■助手席SRSエアバッグ

助手席インストルメントパネル部に格納されたSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、すぐにしぼみます。

助手席に同乗者がいなくても運転席SRSエアバッグと同時に作動します。



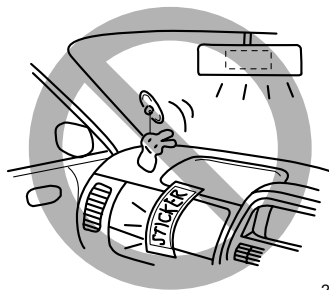
200124

運転
する
前に

■助手席SRSエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- インストルメントパネルのSRSエアバッグ格納部に手や足を置いたり、顔や胸を近づけたり、もたれかからないでください。SRSエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネルの上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリや芳香剤などを置かないでください。また、フロントガラスにアクセサリなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けしないでください。SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらの物が飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- インストルメントパネル上面近くにテレビやナビゲーションシステムを取り付ける場合、スバル販売店にご相談ください。助手席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなったり、作動時にこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200367

■SRSサイドエアバッグ、SRSカーテンエアバッグ

運転席、助手席各シートに格納されたSRSサイドエアバッグと左右のフロントピラー、ルーフサイドに格納されたSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らんだ後にしぼみます。膨らむのは衝撃を受けた側のみです。

SRSサイドエアバッグとSRSカーテンエアバッグは、乗員がいなくても作動します。



101215

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグに関しては、次の事項をお守りください

⚠ 警告

- フロントシート背もたれのSRSサイドエアバッグ格納部に手、足、顔を近づけたり、ドアにもたれかかるような姿勢で座らないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



201352

- お子さまなどに後席からフロントシートの背もたれをかかえこむような姿勢はさせないでください。SRSサイドエアバッグが作動したとき強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



201353

- スバル純正のSRSサイドエアバッグ専用シートカバー以外は使用しないでください。使用する場合には付属の使用説明書をよくお読みください。正しい向き、位置に装着しないとSRSサイドエアバッグシステムが正常に作動しなくなります。

- SRSサイドエアバッグが格納されている付近に物を置いたり、周辺にカップホルダーなどのアクセサリ用品を取り付けしないでください。SRSサイドエアバッグが作動したときこれらが飛び、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。



200370

- ドアにもたれかかったり、フロントピラー・センターピラー・リヤピラーおよびルーフサイド部や天井に近づかないようにしてください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに頭部などに強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。とくにお子さまを乗せるときには注意してください。
- フロントウインドウ、ドアガラス、フロントピラー・センターピラー・リヤピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどSRSカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリやハンズフリーマイクなどを取り付けしないでください。SRSカーテンエアバッグが膨らんだときに、飛ばされて危険です。
- フロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部などSRSカーテンエアバッグ展開部は、強く叩くなど過度の力を加えないでください。SRSカーテンエアバッグが正常に作動しなくなるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

警告

- SRSエアバッグが作動すると、ガス排出穴からガスが抜けて直ちにしぼみ始めます。(SRSカーテンエアバッグを除く)
排出穴からのガスに直接触れた場合に、やけどをすることがあります。
- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグの構成部品に触れないでください。構成部品が大変熱くなっていますので、触れるとやけどをするおそれがあります。
- 大きな衝撃を受けた場合でも SRS エアバッグが作動しないことがあります。必ずスバル販売店で交換してください。SRSエアバッグが正常に作動せず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- SRS エアバッグは膨らんだ後、直ちにしぼんで視界を妨げません。(SRSカーテンエアバッグを除く)
- SRSエアバッグは一度だけ膨らみます。一度作動すると、2回目以降の衝突では再作動しません。
- SRSエアバッグは効果を発揮するために非常に速く膨らみます。このため、展開中のエアバッグと接触して打撲やすり傷、やけどなどを受けることがあります。
- SRSエアバッグが作動すると、作動音とともに白い煙のようなガスが発生しますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。
ただし、残留物（カスなど）が目などに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。皮ふの弱い方などは、まれに皮ふが刺激される場合があります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。スバル販売店で交換してください。

■運転席、助手席SRSエアバッグが作動するとき、しないとき

運転席、助手席SRSエアバッグは車両前方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合に作動し、シートベルトが身体を拘束する働きと併せて、前席乗員の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげる装置です。

車体の衝撃吸収構造により、衝突時のエネルギーは車体がつぶれることで吸収または分散され、車体の損傷が大きくても乗員への衝撃は大きくならない場合もあります。

したがって、車体の損傷が大きくてもSRSエアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

●作動するとき

- 次のようなときに作動します。

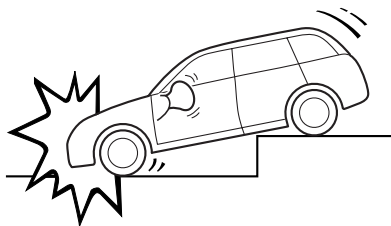
20～30 km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき、また、これと同等以上の衝撃を受けたとき



202123

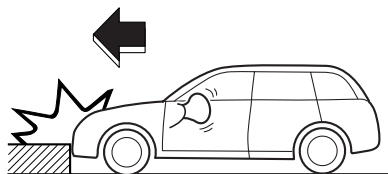
- 走行中路面などから車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。

深い穴や溝に落ちたり、ジャンプして地面にボディ下面を強くぶつけたとき



202124

縁石に衝突したときや、道路上の突起にボディ下面を強くぶつけたとき

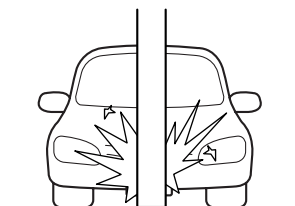


202125

●作動しにくいとき

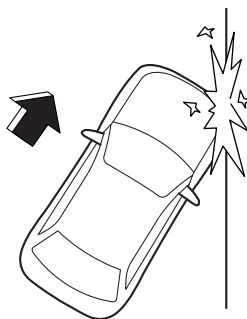
- 次のように、部分的に衝撃を受けたときや車両前方から衝撃が加わらなかったとき。

電柱などに衝突したとき



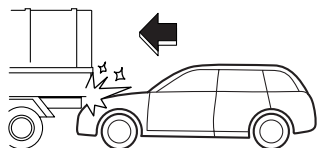
202126

斜め前方への衝突のとき



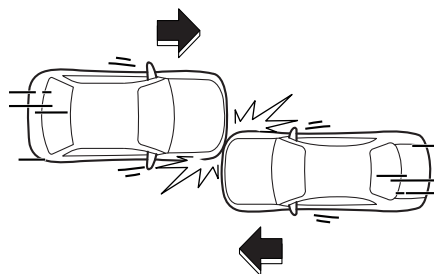
202128

トラックの荷台にもぐり込んだとき



片側衝突（オフセット衝突）のとき

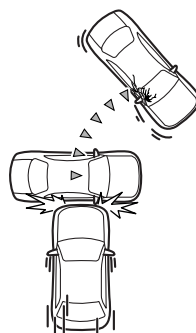
202127



運転する前に

駐車している車両など、衝突の衝撃により移動または変形するものに衝突したとき

202129



202130

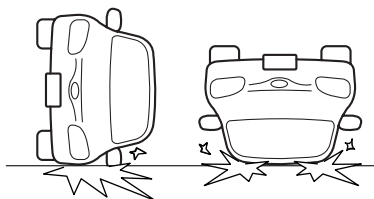
- また、次のような場合はSRSエアバッグがまれに作動することもあります、本来の効果は発揮されません。

後ろから衝突されたとき



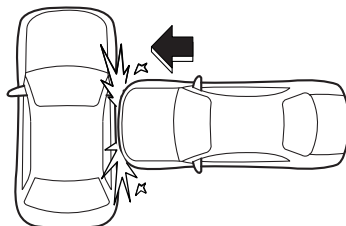
202131

横転や転覆したとき



202132

横方向から衝突されたとき

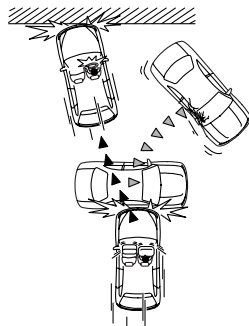


202133

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

一度SRSエアバッグが作動した後の衝突



201239

運転する前に

■SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動するとき、しないとき

SRS サイドエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する動きと併せて、前席乗員の主に胸部や腰部への衝撃をやわらげる装置です。

SRS サイドエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRS カーテンエアバッグは、シートベルトが身体を拘束する動きと併せて、前席と後席乗員の主に頭部への衝撃をやわらげる装置です。

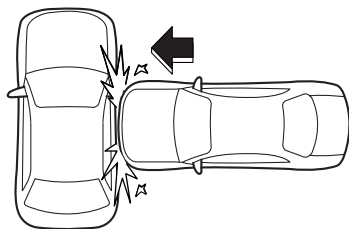
SRS カーテンエアバッグは、車両側方から乗員が重大な傷害を受けるおそれのある大きな衝撃を受けた場合、作動します。

SRSサイドエアバッグおよびSRSカーテンエアバッグの作動・非作動は、衝撃の大きさや衝撃を受けた部位、衝突方向などの条件により変わります。

●作動するとき

- 次のようなとき衝撃が大きいと作動します。

側面に真横から衝突されたとき



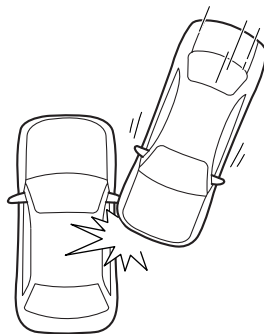
202133

●作動しにくいとき

- 次のようなとき、衝撃の大きさによっては作動しないこともあります。

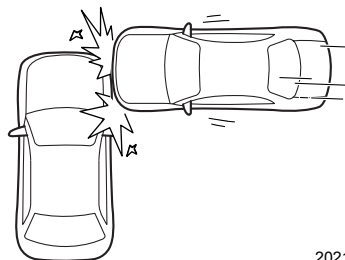
衝突した物が変形したり移動した場合、また、衝突した物の形状や衝突の状態によっては、衝突時の衝撃が弱められるためSRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグは作動しにくくなります。

車両側面に斜めから衝突されたとき



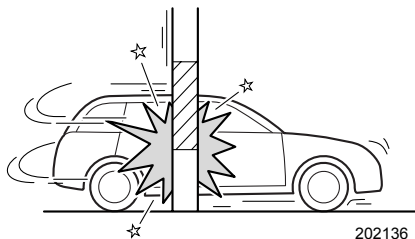
202277

客室以外に側面から衝突されたとき



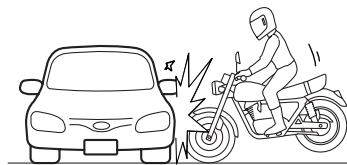
202135

電柱などに衝突したとき



202136

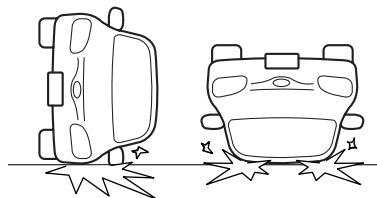
側面にバイクが真横から衝突したとき



202137

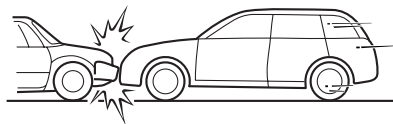
- 次のような場合はSRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグがまれに作動することがありますが、本来の効果は発揮されません。

横転や転覆したとき



202132

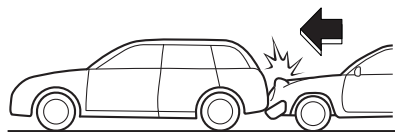
停車中や走行中の車に正面から衝突したとき



202138

運転する前に

後ろから衝突されたとき

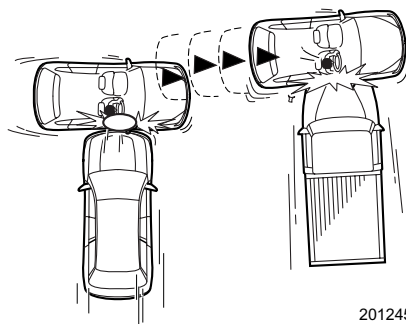


202139

●作動しないとき

- 次のようなときは作動しません。

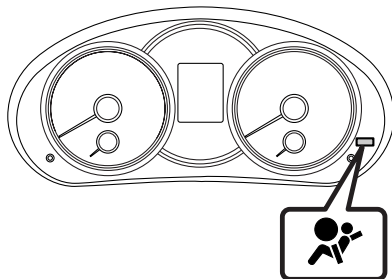
一度SRSサイドエアバッグ・SRSカーテンエアバッグが作動した後の衝突



201245

SRSエアバッグ警告灯

警告灯は、運転席、助手席、サイド、カーテンの各SRSエアバッグ、エアバッグセンサーおよびシートベルトプリテンショナーと兼用になっています。プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。



202773

運転する前に

⚠ 警告

警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。

直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
- 走行中に点灯したとき

⚠ 注意

上記のように警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

車両の整備作業やカー用品を装着するとき

⚠ 警告

車両の整備作業の場合には、必ず次のことをお守りください。守らないとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

これらの作業が必要なときは必ずスバル販売店にご相談ください。

- サスペンションを改造したり、指定サイズ以外のタイヤへの交換はしないでください。車高が変わったり、サスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

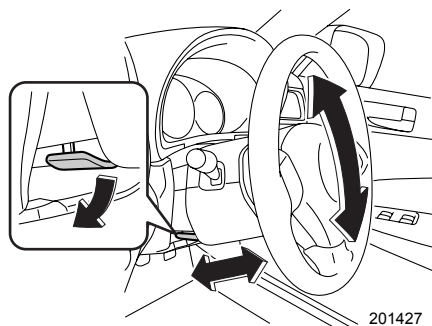
- 車両前部にスバル純正品以外の部品などは装着しないでください。車両前部を改造するとSRSエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動を起こし重大な傷害につながるおそれがあります。
- ハンドル廻りやインストルメントパネル、センターコンソール付近の修理、オーディオシステム、ナビゲーションシステムの交換をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車体前面（車体側面）の板金塗装や修理をする場合は、必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグシステムに悪影響を与え、誤作動により重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントシートの表皮の張り替えやシートの取り外し・取り付け・分解・修理などをしてしないでください。
シートに内蔵されている SRS サイドエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤作動により思わぬ傷害につながるおそれがあります。
- フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイド部の取り外し、取り付けなどSRSカーテンエアバッグ格納部周辺を分解、修理しないでください。
- センターピラー、リヤピラー、後席などのセンサー格納部を分解、修理しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
分解、修理はスバル販売店で行ってください。
- SRSエアバッグが格納されているパッド部およびフロントピラー、リヤピラー、ルーフサイド部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せずスバル販売店で交換してください。
衝突したときなどに SRS エアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
- 無線機などを取り付けるときはスバル販売店にご相談ください。
無線機の電波などは SRS エアバッグを作動させるコンピューターに悪影響を与えるおそれがあります。
- お車や SRS エアバッグを廃棄するときは必ずスバル販売店にご相談ください。SRSエアバッグが思いがけなく作動して重大な傷害につながるおそれがあります。

ハンドルとミラーの調整

チルト／テレスコピックステアリング

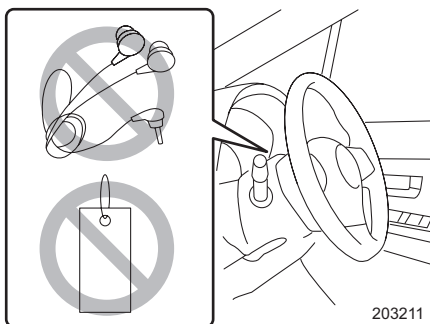
運転姿勢に合わせてハンドル位置を前後または上下に調整できます。

- ① チルト／テレスコピックレバーを押し下げます。
- ② ハンドル位置を合わせます。
- ③ チルト／テレスコピックレバーを引き上げます。
- ④ ハンドルが固定されたことを確かめてください。



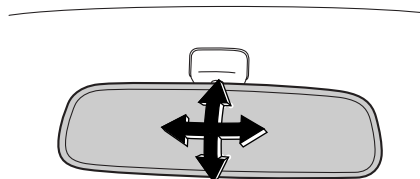
⚠ 警告

- 調整は必ず走行前に行ってください。
 - ー 走行中に操作すると、ハンドルが動いて危険です。
 - ー ハンドル位置を調整した後は、確実に固定してください。固定が不十分な場合、ハンドル位置が突然変わり、重大な事故につながる場合があります。
- ハンドルやその周辺に物を置いたり、ひもやケーブルなどを引っ掛けたりしないでください。スイッチの誤操作を引き起こす原因になるおそれがあるだけでなく、SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。



ルームミラー

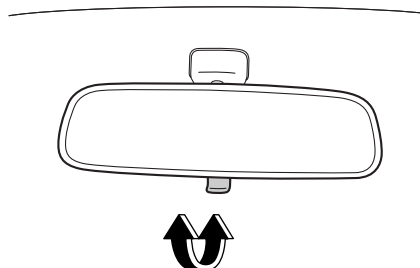
ミラー本体を動かして後方が充分確認できる位置に調整します。



202142

■防眩ルームミラー

通常はレバーを前方に押した位置で使います。夜間走行時、後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引きます。ランプの反射を弱くすることができます。



202143



注 意

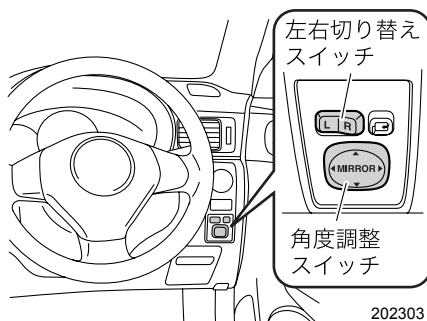
調整は必ず走行前に行ってください。

ドアミラー

■電動リモコンドアミラー

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、ミラーの調整ができます。

- ① 調整するミラーを選びます。
左右切り替えスイッチを調整するミラー側に押して切り替えます。
「L」：左側ミラー、「R」：右側ミラー
- ② 角度調整スイッチを上下左右に動かして後方を充分確認できる位置に調整します。



運転する前に



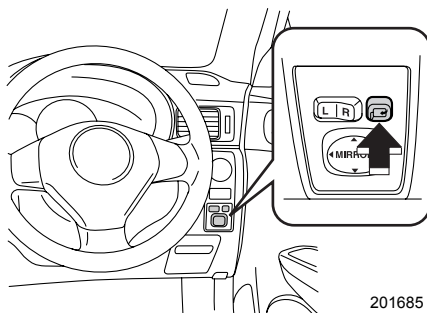
注意

調整は必ず走行前に行ってください。

■電動格納式ドアミラー

プッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき、左右のミラーを同時に格納できます。スイッチを押しこむと格納します。

もう一度押すと通常の使用位置に復帰します。



アドバイス

- 手動で格納または復帰操作をした後にプッシュエンジンスイッチを OFF からACCまたはONにした場合、格納スイッチの状態によってはミラーが動き出すことがあります。
- 手動で格納した場合は、スイッチ操作をするとモーター作動音だけが鳴り、ドアミラーが作動しないことがあります。その場合はもう一度格納スイッチを操作してください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- 手でドアミラーを通常位置よりも前方に倒した場合、格納スイッチの状態によってはプッシュエンジンスイッチをOFFからACCまたはONにしたときに、ミラーが更に前方に倒れることがあります。そのときは、格納スイッチを押して格納→復帰の操作を行ってください。
- 格納状態から手で通常位置に戻すとドアミラーがグラグラすることがあります。通常位置に戻すときは必ずスイッチを使用してください。なお、ドアミラーがグラグラするときは、もう一度格納状態にしてからスイッチ操作で復帰させてください。
- 寒冷時は、作動の途中で止まることがあります。もう一度格納スイッチを押してください。スイッチを操作しても動かないときには、ドアミラーを手で数回動かすと作動するようになります。
- 格納スイッチを連続して「格納⇄復帰」を行うと作動しなくなることがあります。これは異常ではありませんので、しばらく待ってから作動させてください。

■ヒートッドアミラー

プッシュエンジンスイッチがONのとき使用できます。

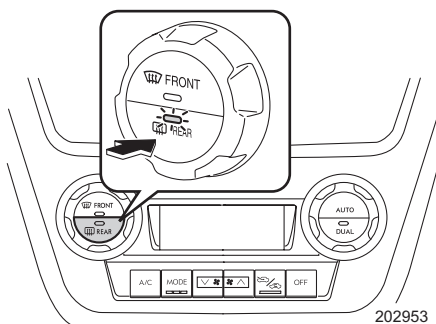
ドアミラーについた霜や曇りを取るときに使います。リヤウインドウデフォグガーに連動して作動します。

- スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。
- 作動中、途中で止めるときはスイッチをもう一度押します。
- リヤウインドウデフォグガーを連続作動に設定している場合は、連動して作動します。

☆3-10ページ参照

- リヤウインドウデフォグガーのカスタマイズに連動し、15分作動／連続作動に設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照



アドバイス

ヒートッドアミラーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。また、雪を溶かすような使いかたは避けてください。

スイッチの使いかた

プッシュエンジンスイッチ	3- 2
ライティングスイッチ	3- 2
オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）	3- 5
方向指示レバー	3- 6
ワイパー&ウォッシャースイッチ	3- 6
リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）	3-10
フロントワイパーデアイサー	3-11
非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチ	3-12
ホーンスイッチ	3-12
イルミネーションコントロールダイヤル	3-13

コンビネーションメーター

メーター	3-14
表 示 灯	3-21
警 告 灯	3-24

運転装置の使いかた

駐車ブレーキ	3-31
--------------	------

CVT車の運転

セレクトレバー	3-32
運転手順	3-36
マニュアルモード	3-40
SI-DRIVE（SUBARU Intelligent Drive）	3-43

アイドリングストップ

アイドリングストップ	3-44
------------------	------

AWD車の運転

運転するとき	3-51
アクティブトルクスプリットAWD	3-52

ブレーキ

ABS（アンチロックブレーキシステム）	3-53
ブレーキブースター（制動力倍力装置）	3-55
ブレーキオーバーライド	3-56
ブレーキアシスト	3-56

VDC

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）	3-57
-----------------------------	------

ハンドル

パワーステアリング	3-62
-----------------	------

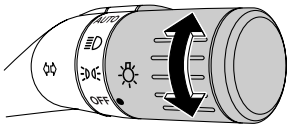
スイッチの使いかた

プッシュエンジンスイッチ

☆2-14ページをご覧ください。

ライティングスイッチ

プッシュエンジンスイッチがONのとき、レバー内のスイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



304305

スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号表示灯、LEDアクセサリライナー
AUTO	自動点灯または消灯	自動点灯または消灯
☀	点灯	
☾	消灯	点灯
OFF	消灯	

ランプ類が点灯しているときに、プッシュエンジンスイッチをOFFにすると自動的にランプ類は消灯します。

自動的に消灯した場合、プッシュエンジンスイッチを押すと、ランプが再び点灯します。AUTO位置のときは周囲の明るさに応じて点灯します。

⚠ 注意

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。また、お車から離れるときは、必ずライティングスイッチをOFFにしてください。バッテリー上がりの原因となります。

🏠 アドバイス

自動消灯後、電源がOFFのときにライティングスイッチをOFFにしてから再度☾または☀にするとランプが点灯します。

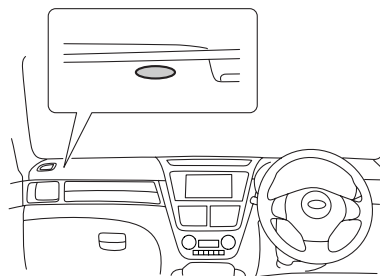
■オートライト

オートライトセンサーは、助手席側インストルメントパネルにあります。

プッシュエンジンスイッチがONのとき、ライティングスイッチをAUTOの位置にすると、周囲の明るさに応じて各ランプが点灯または消灯します。

車外が暗くなると、まず車幅灯、尾灯、番号表示灯、LED アクセサリーライナーが自動的に点灯します。さらに暗くなるとヘッドランプが点灯します。車外が明るくなると、逆の順に消灯します。

ランプ類が点灯したとき、メーター内のライティングスイッチ表示灯に点灯します。



304306

●オートライトの自動点灯・消灯感度のカスタマイズ

スバル販売店でオートライトの自動点灯および消灯の感度を、4段階で設定することができます。

☆1-3ページ参照



アドバイス

- センサーをふさぐようなものをフロントガラス下部に貼ったり、助手席側インストルメントパネルに置かないでください。正常に作動しない場合があります。
- 昼間に濃い霧などが発生して視界が悪いときでも、自動で点灯しない場合があります。このときは手動で点灯してください。
- スイッチがAUTOの場合、連続したトンネルの出口と入口の間隔が短いときはランプが点灯し続けることがあります。
- スイッチがAUTOの場合でも短いトンネルでは点灯しないことがあります。
- プッシュエンジンスイッチがONでライティングスイッチがAUTOのとき、システムに異常があると、周囲が明るい場合でもランプ類が点灯します。この場合はライティングスイッチをAUTO以外で使用してください。またプッシュエンジンスイッチをOFFにするとランプ類は消灯します。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- 強い電磁波などにより誤作動することがあります。

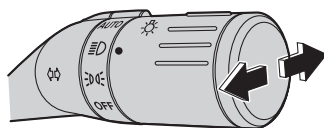
■ランプ消し忘れ警報

プッシュエンジンスイッチの電源がOFFの状態でもランプ類が点灯しているときに、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

■ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押すと上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。

レバーを元に戻すと下向きになります。



305394

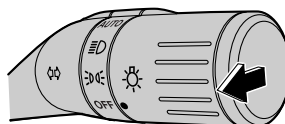


アドバイス

自動的にランプ類が消灯した場合、ハイビーム/パッシング表示灯は点灯しません。

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引くと、ヘッドランプは上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。ライティングスイッチがOFFでも使えます。



304308

オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）

■オートヘッドランプレベラー

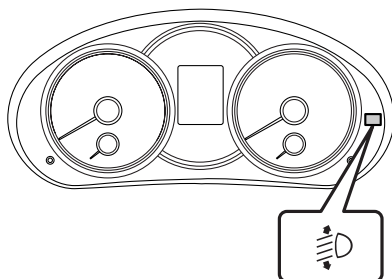
ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。

警告

HID バルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。電球の脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

●オートヘッドランプレベラー警告灯

プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。



301646

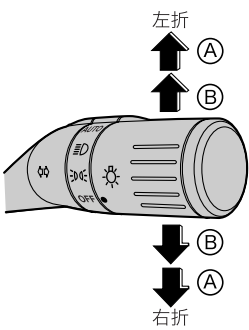
運転するとき

注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

方向指示レバー

ブッシュエンジンスイッチが ON のとき、レバーを ㊦ の位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯◀▶が点滅します。
右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。
車線変更の合図をするときは、㊧ の位置で軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。
手を離すと元の位置に戻ります。



305006

アドバイス

方向指示器の電球が切れたとき、またワット数の異なった電球を使用すると点滅が速くなります。
すみやかに点検し、電球を交換してください。
☆6-23ページ参照

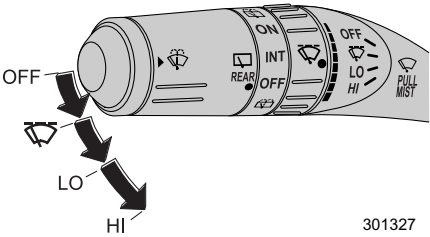
ワイパー&ウォッシャースイッチ

ブッシュエンジンスイッチがACCまたはONのときに使用できます。

■フロントワイパーの作動

レバーを押し下げるとワイパーが作動します。

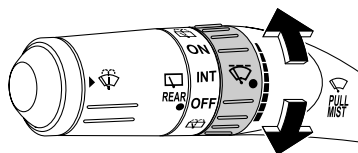
OFF	停止
	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



301327

●間欠作動の時間調整

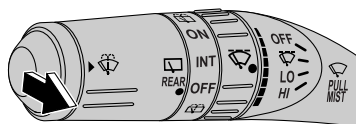
レバーを1段押し下げます。( 位置)
リングを回し間欠作動の間隔を調整します。
作動の間隔は9段階に調整できます。
リングを上に戻すと作動間隔が短くなり、下
に回すと長くなります。



301328

●ワイパーを手動で使いたいときには (MIST)

レバーを手前に引いている間、ワイパーが動
きます。手を離すと停止します。

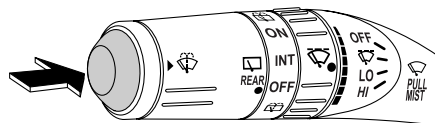


運転するとき

301141

●フロントウォッシャー

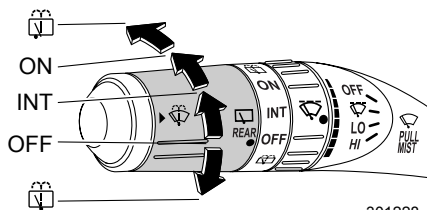
スイッチを押している間、ウォッシャー液が
噴射します。このとき、ワイパーが1～2回動
きます。



301031

■リヤワイパー／ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。



301228

 (上側)	ウォッシャー液が噴射します。手を離すとONに戻ります。
ON	連続作動
INT	間欠作動（車速に応じて変わります）
OFF	停止
 (下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。手を離すとOFFに戻ります。



注意

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ブレードラバーに傷がつき、拭き残しの原因となります。
- 背面キャリアなど、リヤワイパーの動きを妨げる物を取り付けると、リヤワイパー作動時にリヤワイパーが損傷するおそれがあります。リヤワイパーの動きを妨げるものを取り付けしないでください。

🏠 アドバイス

- ガラスに拭き残しができるときにはブレードラバーを交換してください。

☆6-20ページ参照

- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。
- ブレードラバーがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、次の操作を行いガラスを暖めてください。
 - ー フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えダイヤルを☞(デフロスター)にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。
 - ー リヤガラスは、リヤウインドウデフォグガーを使用してください。

☆3-10、3-11ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、お車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。その場合には、お車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。ゴミなどがつまると、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

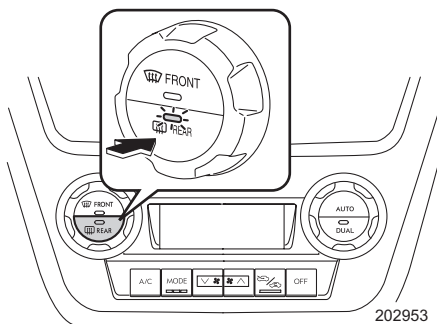
リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）

ブッシュエンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。

電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

■使いかた

スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯）



●リヤウインドウデフォグガーのカスタマイズ

スバル販売店でリヤウインドウデフォグガーを15分作動／連続作動に設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照



アドバイス

- リヤウインドウデフォグガーは消費電力が大きいため必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。

また、雪を溶かすような使いかたは避けてください。

- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- リヤウインドウデフォグガースイッチを押すと、ヒートドアミラーも連動して作動します。
- ☆2-124ページ参照
- リヤウインドウデフォグガースイッチを押すと、フロントワイパーデアイサーも同時に作動します。
- 連続作動は15分間作動し、2分間停止し、再度15分間作動を繰り返します。ただし、2分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。
- 連続作動中にバッテリー電圧が低下すると連続作動は停止します。また、2分間の停止中にバッテリー電圧が低下したときも作動が停止します。

フロントワイパーデアイサー

プッシュエンジンスイッチがONのとき使用できます。リヤウインドウデフォグガーと同時に作動します。

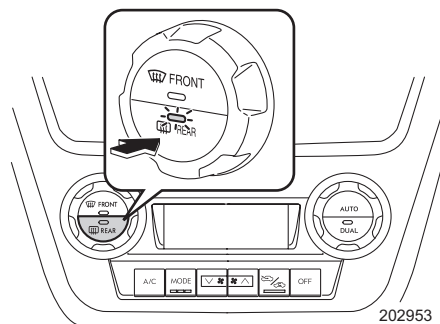
☆3-10ページ参照

フロントワイパーがガラスに凍結しているとき、ガラスを暖めてワイパーが作動できるようにします。

電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

■使いかた

スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が暖められます。約15分後、自動的にOFFになります。作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します（表示灯が消灯）。



運転するとき

●フロントワイパーデアイサーのカスタマイズ

リヤウインドウデフォグガーのカスタマイズに連動し、15分作動／連続作動に設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照



アドバイス

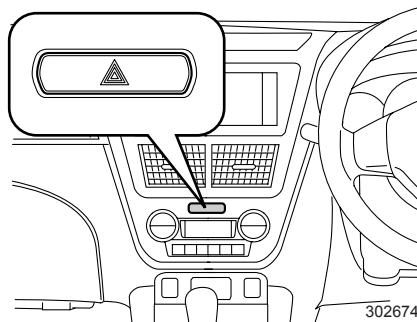
- 外気温度が5℃以上のとき、フロントワイパーデアイサーは作動しません。
- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- 連続作動に設定していても、次の条件のときには、15分後に停止します。
 - ー 外気温度が5℃以上のとき
 - ー SI-DRIVEがI（インテリジェントモード）のとき
 - ー バッテリー電圧が低下したとき
- 連続作動に設定していても、車速約15 km/h以下の状態が15分間続いた場合、自動的にOFFになります。

非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチ

ブッシュエンジンスイッチの状態に関係なく使用できます。

スイッチを押すと、全ての方向指示器のランプが点滅します。

故障などでやむを得ず路上に駐車するとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。



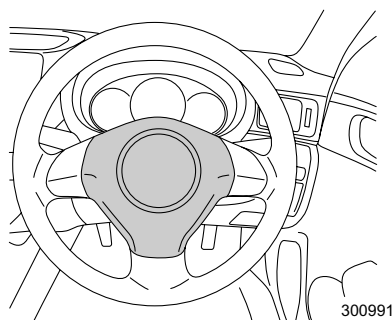
アドバイス

- 非常時にお使いください。
- エンジンが停止した状態で、長時間点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

ホーンスイッチ

ブッシュエンジンスイッチの状態に関係なく使用できます。

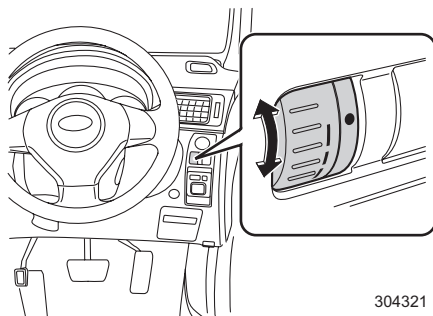
ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



イルミネーションコントロールダイヤル

コントロールダイヤルを回すとコンビネーションメーター、エアコンパネル照明などの明るさを調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。

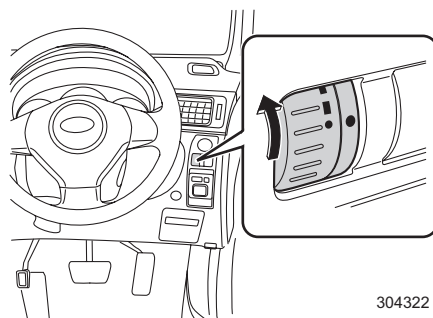


304321

■ ブライト（減光キャンセル）機能

メーター内のライティングスイッチ表示灯 DOE が点灯すると、表示部の明るさが一段減光し、暗くなります。昼間、ランプを点灯させて走るときで表示が見にくい場合は、減光をキャンセルし、明るくすることができます。

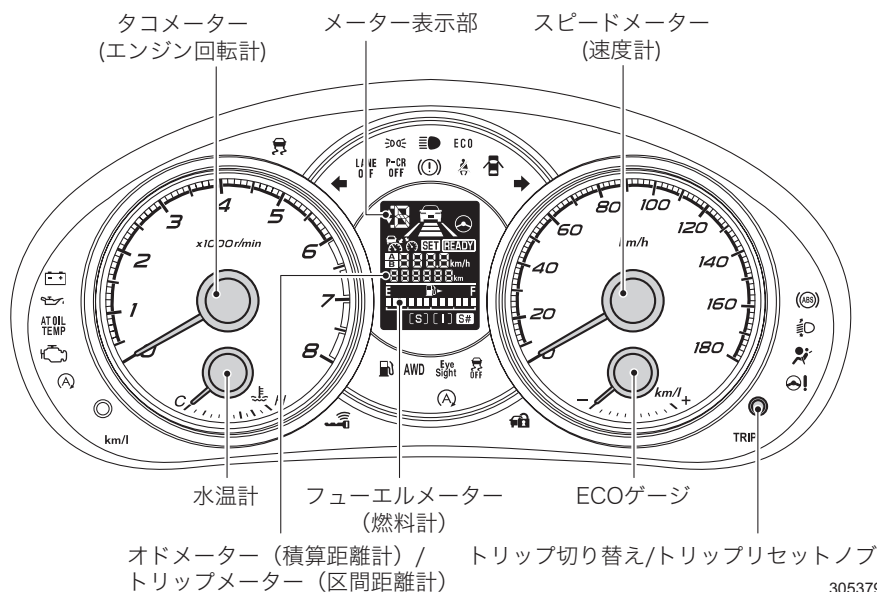
ダイヤルを一番明るい段階からさらに一段階（●印部分）、上方向に回すと減光がキャンセルされ、明るくなります。



304322

運転するとき

コンビネーションメーター



※1 表示灯、警告灯の有無やメーターのデザインは、グレードやオプションなどにより一部異なります。

※2 「EyeSight (アイサイト)」関連の表示灯、警告灯については、別冊の「EyeSight 取扱説明書」を併せてお読みください。

メーター

■ウェルカム/グッバイ照明

ウェルカム照明は、プッシュエンジンスイッチが OFF の状態で運転席のドアを開けると、メーターの指針が一定時間点灯します。

グッバイ照明は、プッシュエンジンスイッチを ON から OFF にすると、メーターの指針が徐々に消灯します。



アドバイス

- ウェルカム/グッバイ照明は、プッシュエンジンスイッチを ON にすると通常の表示に戻ります。
- キーレスエントリー (キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック) でドアを施錠すると消灯します。
- ウェルカム/グッバイ照明は作動あり/作動なしの設定ができます。

☆3-20ページ参照

■メーターの初期作動

メーターは、プッシュエンジンスイッチをONにするとメーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。(スリープ機能)



アドバイス

メーターの初期作動 (スリープ機能) は作動あり/作動なしの設定ができます。

☆3-20ページ参照

■スピードメーター (速度計)

お車の走行速度を示します。

■タコメーター (エンジン回転計)

毎分のエンジン回転数を示します。



注意

指針がレッドゾーン (エンジンの許容回転数を超えている範囲) に入らないように運転してください。

指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。



アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。目盛りが「E」に近づいたら早めに給油をしてください。

☆2-40ページ参照



301648

⚠ 注意

燃料を給油するときは、必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

☆1-30ページ参照

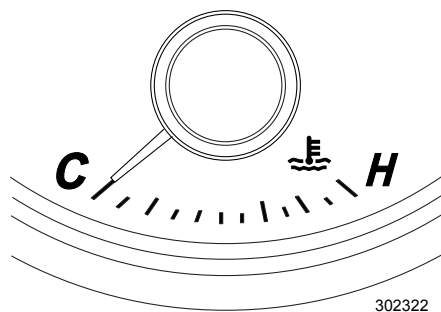
🏠 アドバイス

- プッシュエンジンスイッチがONのとき、燃料の残量を示します。ACCまたはOFFの場合はトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと一定時間、燃料の残量を表示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。
- 目盛りと消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、目盛りが増減することがあります。
- プッシュエンジンスイッチがONのまま燃料を給油すると、正しい燃料残量が表示されません。
- 給油量が少ない場合（約 15L 以下）、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。

■水温計

ブッシュエンジンスイッチがONのとき、エンジン冷却水の温度を示します。

冷却水が暖まると指針はオーバーヒートゾーンより下（ゲージのほぼ中央）を示します。



注意

指針がオーバーヒートゾーンを指したまま下がらないときは、オーバーヒートのおそれがあります。直ちに安全な場所に停車し、必要な処置（エンジンを冷やす）をしてください。

☆7-24ページ参照



アドバイス

ブッシュエンジンスイッチがON以外のときは、指針は冷却水の温度に関係なく「C」を示します。

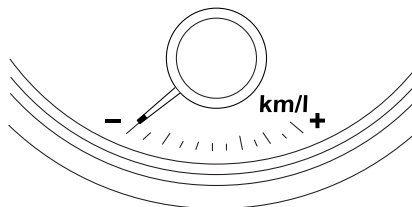
「H」：高温（HOT）

「C」：低温（COLD）

を示しています。

■ECOゲージ

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費と瞬間燃費の差を表示します。平均燃費よりも瞬間燃費が良い場合は+側、悪い場合は-側を表示します。



301650



アドバイス

- ECOゲージはあくまでも目安です。
- 平均燃費は、トリップメーターリセット後、1 km 走行すると表示されます。表示されるまでの間、ECOゲージは作動しません。

■オドメーター（積算距離計）

走行した総距離をkmで表示します。

00 1228 km

304860



アドバイス

プッシュエンジンスイッチがON 以外の状態でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

■トリップメーター（区間距離計）

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。
表示範囲は0.0 km～9999 kmです。

A 122.8

B 119.4

301430



アドバイス

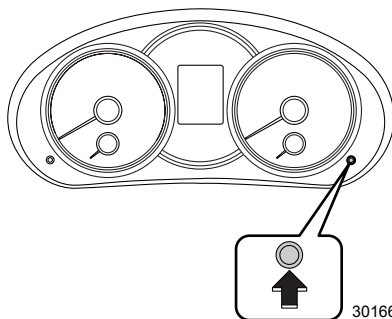
プッシュエンジンスイッチがON 以外の状態でもトリップ切り替え／トリップリセットノブを押すと、一定時間バックライトが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

運転するとき

●オドメーター、トリップA、B切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

TRIP **A** ←→ TRIP **B**



301663

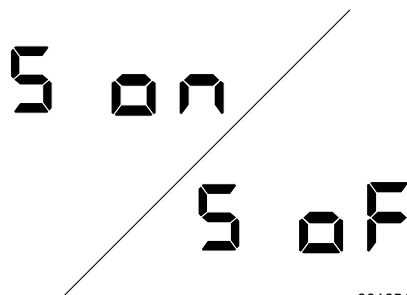
●トリップA、Bを0に戻すとき

トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0.0に戻ります。

■メーターの初期作動（スワイプ機能）の設定のしかた

指針の初期作動は作動あり／作動なしの設定を切り替えることができます。

- ① プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにします。
- ② トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し、表示を切り替えます。
トリップ表示の次に現在の設定が表示されます。
- ③ このときトリップ切り替え／トリップリセットノブを2秒以上押すと切り替わります。
 - 作動あり…S on
 - 作動なし…S oF

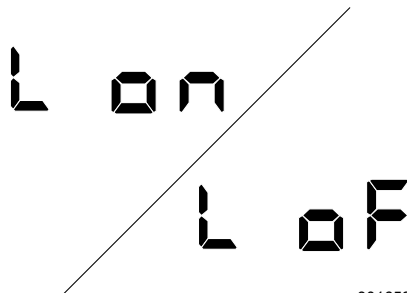


301651

■ウェルカム／グッバイ照明の設定のしかた

ウェルカム／グッバイ照明は作動あり／作動なしの設定を切り替えることができます。

- ① プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにします。
- ② トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し、表示を切り替えます。
指針の初期動作（スワイプ機能）の設定表示の次に、現在の設定が表示されます。
- ③ このときトリップ切り替え／トリップリセットノブを2秒以上押すと切り替わります。
 - 作動あり…L on
 - 作動なし…L oF



301652

表 示 灯

■方向指示器表示灯

方向指示器の点滅を示します。



アドバイス

方向指示器の電球が切れたとき、またワット数の異なった電球を使用すると点滅が速くなります。

すみやかに点検し、電球を交換してください。

☆6-23ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯

ライティングスイッチが☺☺または☺☺位置時に点灯します。

また、ライティングスイッチがAUTOのとき、ランプ類が点灯すると点灯します。



■ハイビーム/パッシング表示灯

ヘッドランプが上向きするとき点灯します。

また、パッシング時も点灯します。



運転するとき

■セキュリティ表示灯

☆2-48ページをご覧ください。



■Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

SI-DRIVEのI（インテリジェントモード）を選択したときに表示灯が点灯します。

☆3-43ページ参照

ECO

次の場合、Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯は消灯します。

- SI-DRIVEをI（インテリジェントモード）以外にしたとき
- セレクトレバーを操作し、マニュアルモードにしたとき



アドバイス

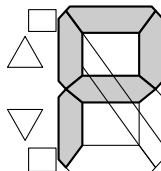
“Info-ECO”表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“Info-ECO”表示灯は消灯します。

“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

■セレクトインジケーター

セレクトレバーの位置を示します。

☆3-32ページ参照



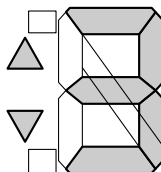
301042

■シフトポジション表示

マニュアルモード選択時、図のようにギヤ位置を表示します。

また、マニュアルモード選択時、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であることを示す◆印が点灯します。

☆3-42ページ参照



300995

■VDC OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたときに点灯します。

☆3-60ページ参照



■I（インテリジェントモード）表示灯

SI-DRIVEのI（インテリジェントモード）を選択すると点灯します。

☆3-43ページ参照



注意

プッシュエンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

[S]

■S（スポーツモード）表示灯

SI-DRIVEのS（スポーツモード）を選択すると点灯します。

☆3-43ページ参照

⚠ 注意

プッシュエンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■S#（スポーツシャープモード）表示灯

SI-DRIVEのS#（スポーツシャープモード）を選択すると点灯します。

☆3-43ページ参照

⚠ 注意

表示灯が点滅しSI-DRIVEセレクターを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

エンジンが冷えているときは、S#（スポーツシャープモード）を選択しても切り替えができません。この場合ブザーが鳴り、切り替えができないことを運転者に知らせます。

運転するとき

■アイドリングストップ表示灯（緑色）

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

アイドリングストップの作動条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンを再始動すると消灯します。

☆3-48ページ参照



■アイドリングストップOFF表示灯（黄色）

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

次のいずれかの場合に点灯します。

- アイドリングストップOFFスイッチを押してシステムを解除したとき
- 通常のエンジン停止状態になったとき

☆3-47ページ参照



警告灯

■ブレーキ警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、駐車ブレーキが解除されている場合は約2秒後に消灯します。

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキペダルが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD) の電子制御システムに異常があるとき

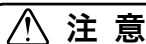
EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-55ページ参照



警告

ブレーキ警告灯が消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。



注意

ブレーキ液が正常で、ABS警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム (ABS) に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯



ブッシュエンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。運転席シートベルトを着用すると消灯します。

運転席シートベルト未着用のまま車速約 20 km/h 以上で走行すると警告灯が点滅し、ブザーが鳴ります。

上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

約2分経過しても運転席シートベルト未着用の場合、警告灯が点滅から点灯に切り替わり、ブザーは停止します。

警告灯は運転席シートベルトを着用するまで点灯します。

☆2-73ページ参照



アドバイス

このとき車速が約20 km/h以下になっても、上記作動は運転席シートベルトを着用するまで約2分間続きます。

■半ドア警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
ブッシュエンジンスイッチの状態に関係なくドアが完全に閉じていないとき
に点灯します。
リヤゲートが完全に閉じていないときも点灯します。



注意

警告灯が点灯したままの状態で行きしないでください。

■ABS警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると
点灯します。

☆3-53ページ参照



注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行
上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにス
バル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

警告灯が次の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速12 km/hになった
とき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■AWD警告灯

AWD

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します。

または4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

警告

- AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

スペアタイヤを装着している際、AWD警告灯が点滅することがあります。

■SRSエアバッグ警告灯



プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。

運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ、カーテンエアバッグ、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。

警告

- 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
 - ー プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
 - ー 走行中に点灯したとき
- 警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■オイルプレッシャー警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。

⚠ 注意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、ブッシュエンジンスイッチをOFFにし、5分程度放置した後でエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

🏠 アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■AT油温警告灯

AT OIL
TEMP

ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。CVTのトランスミッションフルードの温度が高くなると点灯し、トランスミッションに異常があるとき点滅します。

⚠ 注意

- 走行中に点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクタレバーを[P]にしてエンジンを始動したままにしてください。しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- AT油温警告灯が点滅したときは、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■チャージ警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

⚠ 注意

エンジン回転中に点灯したときは、オルタネーターのベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムに異常があると点灯します。
エンジン回転中、触媒を損傷する可能性があるとき点滅します。

⚠ 注意

- エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジン回転中に点滅したときは、触媒を損傷する可能性があります。触媒の損傷を防ぐため、次のことを行ってください。
 - － 速度を落として走行してください。
 - － 急発進、急加速を避けてください。
 - － 急な上り坂を避けてください。
 - － 可能であれば荷物を減らしてください。

上記の処置をしてもエンジン警告灯が点滅したままの場合、または点灯に変わった場合は、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
ブッシュエンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約9L以下になると点灯します。

⚠ 注意

点滅したときはフューエルメーター（燃料計）に異常があります。このとき正しい燃料残量は表示されません。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに給油してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■VDC警告灯/VDC作動表示灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

●VDC警告灯

VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

●VDC作動表示灯

TCS機能作動時、またはVDC作動時に点滅します。

☆3-57ページ参照



注意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - ー プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しない
 - ー エンジン始動後、数分たっても消灯しない
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

- 警告灯が次の場合は正常です。
 - ー エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後再び点灯しない
 - ー エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
 - ー 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■オートヘッドランプレベラー警告灯

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。



注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ステアリング制御警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。

注意

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

パワーステアリングシステムの過熱を防ぐため、次の場合はハンドル操作力が重くなることがあります。しばらくの間ハンドル操作を抑え、通常の操作力に戻ります。

- エンジンを始動した状態で、ハンドル操作を繰り返したとき
- エンジンを始動した状態で、ハンドルをいっぱいまで回した状態を続けたとき

■キー無し警告灯



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。
車内にアクセスキーがない場合に点滅します。

☆2-21ページ参照

■アイドリングストップ警告灯（黄色）



ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

アイドリングストップシステムに異常があるとき点滅します。

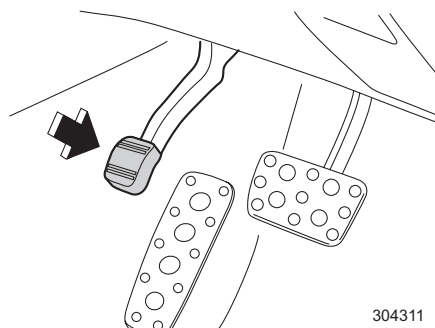
☆3-49ページ参照

運転装置の使いかた

駐車ブレーキ

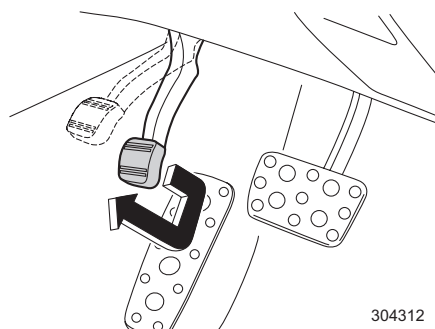
■かけるとき

駐車ブレーキペダルを確実に踏み込みます。同時にメーター内のブレーキ警告灯も点灯します。



■解除するとき

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足で駐車ブレーキペダルを「カチッ」と音がするまで踏みます。ゆっくり左足を離し、駐車ブレーキを解除します。解除したときブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。



運転するとき



注意

- 駐車するときはお車が動き出さないように確実にかけてください。
- 走行するときは、次のことを必ずお守りください。ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
 - ー 駐車ブレーキを解除したときは、ブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。
 - ー 足を駐車ブレーキペダルの上に乘せないでください。

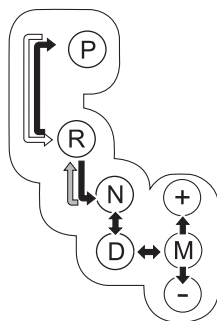
CVT車の運転

セレクトレバー

■各位置での働きと操作方法

 (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけて P にしてください。
 (リバース)	後退位置	ブザーが鳴り、運転者に R であることを知らせます。
 (ニュートラル)	中立位置	—
 (ドライブ)	通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
 (マニュアル)	マニュアルモード走行位置	手動で変速するときに使用します。 ☆3-40ページ参照

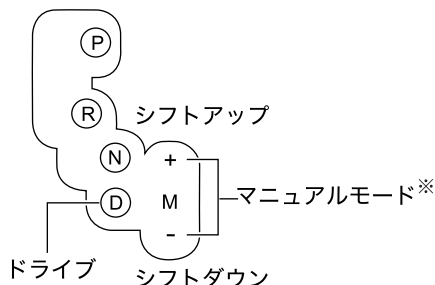
レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。



305106

	ブレーキペダルを踏まないとは操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
	そのままゲートに沿って動かします。ただし、プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにした場合は、ブレーキペダルを踏まないとは操作できません。ブレーキペダルを踏んだまま、ゲートに沿って動かします。
	そのままゲートに沿って動かします。

●各位置とモード



※ マニュアルモード：3-40ページ参照

302677

運転するとき

警告

発進時は、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作を絶対にしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- セレクトレバー周辺に物を置かないでください。誤操作の原因となります。
- **P**でエンジンを始動してください。
Nでもエンジンは始動しますが、安全のため**P**で始動してください。
- **P**、**R**に入れるときは、お車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- **P**以外の状態で長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 切り返しするとき、**D**→**R**、**R**→**D**と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、お車を完全に止めてから行ってください。
- **R**に入るとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんが注意してください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。
- CVTフルードの油温が通常時より高い場合、AT油温警告灯が点灯します。

☆3-27ページ参照

■セレクトレバーの操作方法

アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置に節度をつけ、確実に行ってください。
- **[P]**のときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- プッシュエンジンスイッチがOFFまたはACCのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを**[P]**から他の位置に切り替えられません。

■CVT車の制御

セレクトレバーが**[D]**での走行時、スムーズな走りを実現するための制御を行います。

アドバイス

- 低水温時に暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常時より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 急な上り坂の連続運転など、継続的に負荷のかかる走行を行った場合、車両の冷却性能を維持するためエンジン回転数または車速が自動的に低下することがあります。
負荷が低下し、冷却性能を維持できる状態に戻るとエンジン回転数または車速は元に戻ります。

●登降坂制御

走行中の路面勾配による駆動力とエンジンブレーキ力を最適に制御し、登坂、降坂での運転をアシストします。

●アダプティブ制御 (SI-DRIVEのSまたはS#選択時)

旋回時の遠心力や連続性、アクセル操作などからスポーツ走行と判定した場合は、エンジンを高い回転数に保つことでエンジンブレーキの効きを高め、アクセルを踏んだときのレスポンスを向上させます。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- **[P]**からのレバー操作は、プッシュエンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないといけません。
ー セレクトレバーを**[P]**から他の位置に操作するとき、セレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むと、レバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。

- セレクトレバーが[P]以外ではプッシュエンジンスイッチをOFFにできません。
- セレクトレバーが[N]でプッシュエンジンスイッチをOFFにしようとした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので直ちにブレーキペダルを踏みながら[P]にしてください。

もし、セレクトレバーが[N]から[P]に操作できないときは、プッシュエンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。またはシフトロックを解除してください。

☆3-35ページ参照

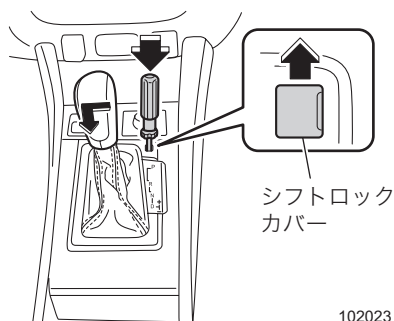
- プッシュエンジンスイッチがONで操作できないときは、プッシュエンジンスイッチをACCにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。(60秒以内)
プッシュエンジンスイッチがONで操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

▼解除のしかた

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② シフトロックカバーを外します。
シフトロックカバーを外すときにマイナスドライバーを使用する場合は、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。
- ③ ブレーキペダルを踏みます。
- ④ シフトロック解除ボタンをドライバーなどで押しながらセレクトレバーを操作します。



102023

🏠 アドバイス

- セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- 外したシフトロックカバーをなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。

運転するとき

運転手順

■エンジンを始動する前に

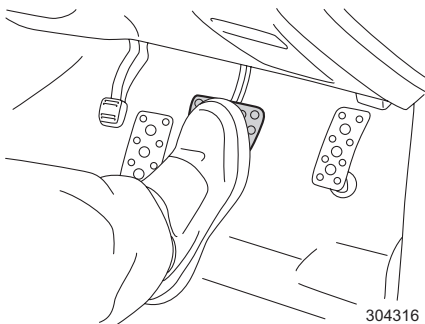
- ①正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。

☆2-54、2-121ページ参照

- ②アクセルペダルの位置を右足で確認します。
③ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。
(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)



304316

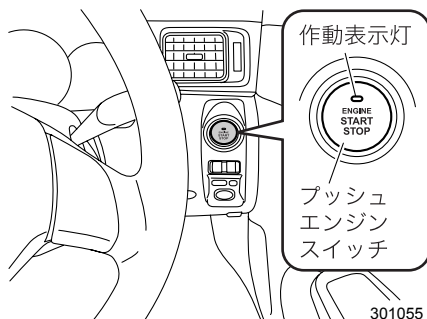
■エンジン始動

- ①駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
②セレクトレバーが[P]であることを確認します。

⚠ 注意

エンジンは[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

- ③プッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色になるまで、ブレーキペダルを踏み込みます（[N]で始動する場合、作動表示灯は緑色になりません）。
④ブレーキペダルを確実に踏んだまま、プッシュエンジンスイッチを押します。
エンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



301055

■発進

- ① ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。



警告

セレクトレバーは確実にブレーキペダルを踏んで操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ② セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
③ セレクトレバーの位置を確認します。
④ 駐車ブレーキを解除します。
⑤ 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。



注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（お車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1-12ページ参照

- 後退するときにはお車の後方に人がいないこと、障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。



アドバイス

- ① 急な坂道での発進は、駐車ブレーキをかけたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルを踏みます。
② お車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキをゆっくりと解除して発進します。

■走行

通常の走行：

Dで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1-12ページ参照

上り坂では：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

また、マニュアルモードにし、勾配に適したギヤを選択するとスムーズな走行ができます。

☆3-40ページ参照

下り坂では：

エンジンプレーキを併用してください。マニュアルモードでシフトダウン、またはセレクトレバーが**D**のときパドルシフトの $\ominus$ 側レバーを手前に引いてシフトダウンします。

急な下り坂では：

マニュアルモードまたはパドルシフトで2速または1速に入れると、さらに強いエンジンプレーキがかかります。



警告

走行中はセレクトレバーを**N**にしないでください。エンジンプレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

シフトダウンによる急激なエンジンプレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。



アドバイス

急発進、急加速など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキング音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■停車

- ① **D**のままブレーキペダルを確実に踏みます。



注意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（お車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。



アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で**P**、**N**以外に入れた状態で、アクセルをふかしながらお車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ② 必要に応じて駐車ブレーキをかけます。
③ 長時間停車するときは**P**にします。
④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーが**D**にあることを確認して発進します。



注意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリープ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、お車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、確実に駐車ブレーキペダルを踏んでください。

■ 駐車

- ① お車を完全に止めます。



注 意

お車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを[P]に入れないでください。
トランスミッション損傷の原因となります。

- ② ブレーキペダルを踏んだままの状態、駐車ブレーキを確実にかけます。

- ③ セレクトレバーを[P]に入れます。

- ④ エンジンを止めます。

☆1-26ページ参照



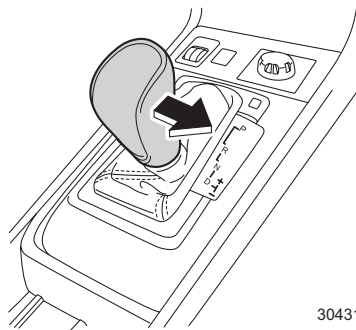
注 意

お車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。
[P]以外でエンジンを止め、お車を放置するとバッテリー上がり
の原因となります。

マニュアルモード

■ マニュアルモードの使いかた

セレクトレバーを[D]からマニュアルゲートに動かすとマニュアルモードになります。



304317

アドバイス

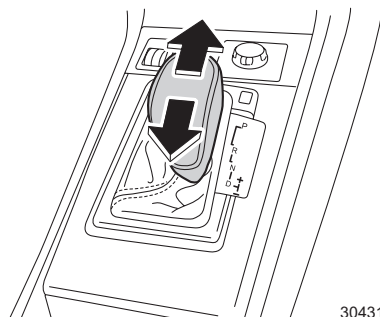
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン付近になる場合）でシフトダウン操作をした場合、ブザー（ピピ）が鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- お車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。
- 下り坂ではエンジンブレーキを併用することをお奨めします。

☆1-20ページ参照

■シフト操作

●セレクトレバー

1 段上のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊕方向に押します。1 段下のギヤに変速するときはセレクトレバーを⊖方向に引きます。



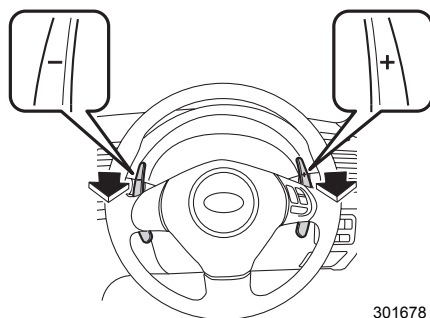
304318

運転するとき

●パドルシフト

右側のレバーが⊕（アップ）になり、左側のレバーが⊖（ダウン）になります。

1 段上のギヤに変速するときは⊕のレバーを手前に引きます。1 段下のギヤに変速するときは⊖のレバーを手前に引きます。



301678

●マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーをマニュアルゲートからDの位置に移動させます。

■Dレンジパドルシフトマニュアル操作機能

走行中、**[D]**のままパドルシフトで変速すると自動変速モードから一時的にマニュアルモードに切り替わり、シフトポジション表示にギヤ位置が表示されます。その後しばらく走行すると通常の自動変速モード（**[D]**）に復帰します。下り坂やカーブの手前など、一時的にエンジンブレーキが必要なときに有効です。

⚠ 注意

パドルシフトレバーにアクセサリなど物をかけないでください。アクセサリなどをかけるとレバーが不意に動き、シフトポジションが変わるおそれがあります。

🏠 アドバイス

操作時の走行状況により、自動変速モードへの復帰時間が異なります。

■滑りやすい路面での発進（2速発進）

雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。

ブレーキを踏んだまま、セレクトレバーまたはパドルシフトを $\oplus$ 側に動かしギヤを2速にします。このときシフトポジション表示は2速を表示します。

🏠 アドバイス

2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速したい場合は、セレクトレバーまたはパドルシフトを $\oplus$ 、 $\ominus$ 側に操作してください。セレクトレバーを**[D]**にすると2速固定は解除され、自動変速モードに戻ります。

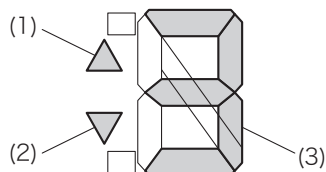
■シフトポジション表示

マニュアルモードが選択されるとギヤ位置を表示します。

シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”が表示されます。

シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が消灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。

- シフトアップ可能表示灯（1）
- シフトダウン可能表示灯（2）
- 変速ギヤ表示（3）



304513

SI-DRIVE (SUBARU Intelligent Drive)

SI-DRIVEは、3つの特性をもった走行モードの、I（インテリジェントモード）、S（スポーツモード）、S#（スポーツシャープモード）を選べるシステムです。

I（インテリジェントモード）：

扱いやすさとストレスのない走行性を実現したモードです。通常走行での使用を推奨します。メーターのInfo-ECO表示灯の点灯により、運転者に燃費の良い走行をお知らせします。

S（スポーツモード）：

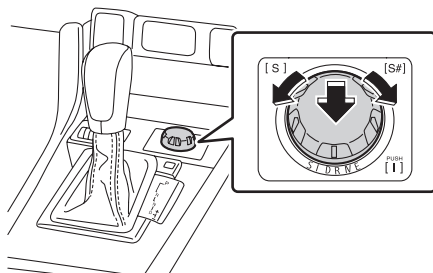
I（インテリジェントモード）よりも走行性を向上させたモードです。高速道路や登坂時の走行に適しています。

S#（スポーツシャープモード）：

エンジン性能を余すことなく引き出すことができるモードです。山間部での走行、または高速道路の合流および追い越し加速時に適しています。

■SI-DRIVEセクター

セクターを左に回すとS（スポーツモード）、右に回すとS#（スポーツシャープモード）、押すとI（インテリジェントモード）になります。操作後、セクターは中立位置に戻ります。



運転するとき

304319



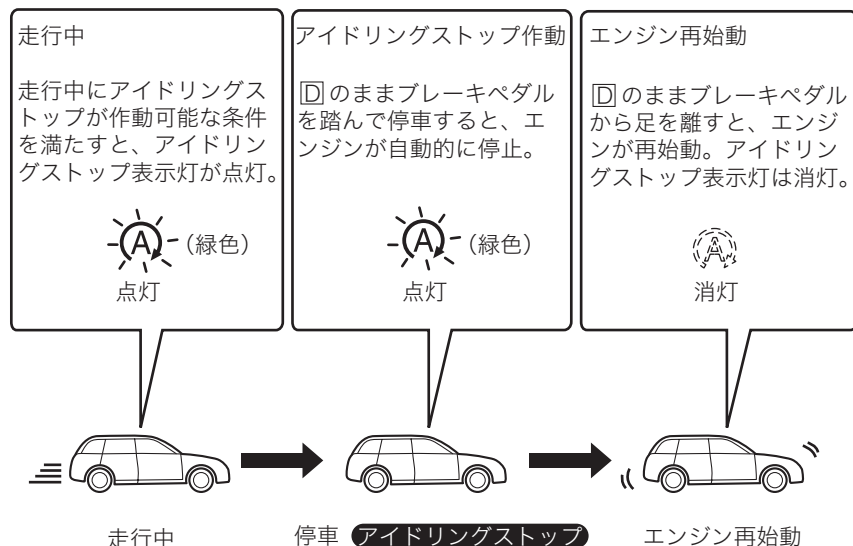
アドバイス

- エンジンが冷えているときは、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。この場合、ブザーが鳴り、切り替えができないことを運転者に知らせます。
- S#（スポーツシャープモード）にしたままエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、S（スポーツモード）になります。
- S（スポーツモード）またはI（インテリジェントモード）でエンジンをOFFにし、再度エンジンをONにした場合、OFFにする前のモードになります。
- エンジン回転中にエンジン警告灯が点灯したときは、どの走行モードに入ってもS（スポーツモード）になります。この場合、S#（スポーツシャープモード）またはI（インテリジェントモード）への切り替えはできません。
- エンジン冷却水の温度が上がりオーバーヒートのおそれがあるときは、S#（スポーツシャープモード）への切り替えができません。S#（スポーツシャープモード）で走行している場合は、S（スポーツモード）になります。

アイドリングストップ

アイドリングストップ

アイドリングストップとは、エンジン暖機後に運転中の信号待ちや渋滞などで車両が停止しているとき、燃費向上・排ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、ブレーキ操作によってエンジンを自動停止させる機能です。また、ブレーキの解除によってエンジンを自動再始動させます。

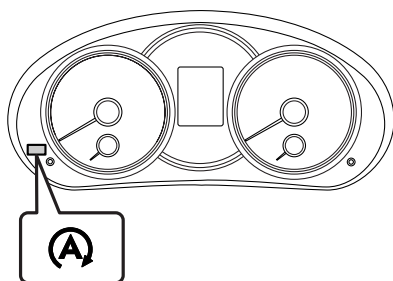


304923

エンジン始動後、走行せずにアイドリングを続けた場合、アイドリングストップは作動しません。また、停車中にアイドリングストップ・再始動を繰り返すこともありません。アイドリングストップは短時間のアイドリング時にエンジンを自動で停止・再始動させる機能です。長時間の駐車時はプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

■アイドリングストップの作動

セレクトレバーが[D]で走行中、アイドリングストップが作動する条件を満たすと、メーター内のアイドリングストップ表示灯（緑色）が点灯します。



302317

ブレーキペダルを踏んで停車すると、アイドリングストップが作動し、エンジンが停止します。エンジン停止中、アイドリングストップ表示灯は点灯し続けます。

[D]のままブレーキペダルから足を離すと自動でエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。走行中に再度アイドリングストップする条件を満たすと、アイドリングストップ表示灯が点灯します。



アドバイス

アイドリングストップ中に、セレクトレバーを[D]または[M]から[N]または[P]に操作しても、アイドリングストップは継続します。
ただし、セレクトレバーを[N]または[P]に操作後、[D]または[M]に操作するとエンジンは再始動します。

運転するとき

●アイドリングストップの作動条件

次の場合、アイドリングストップは作動可能になります。

- エンジンが十分に暖機されている
- 全てのドア（リヤゲートを含む）が閉まっている
- 運転席シートベルトを着用している
- デフロスタースイッチがOFF
- リヤウインドウデフォグスイッチがOFF
- 非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチがOFF
- 方向指示レバーを操作していない※

※ カスタマイズの設定により作動条件は異なります。

☆1-2ページ参照

停車後、次の条件を満たすとアイドリングストップが作動します。

- ハンドルが直進状態のとき
- ハンドルを操作していない



アドバイス

- 次の場合は停車後、アイドリングストップが作動しないことがあります。
 - ー 急な坂道で停車したとき
 - ー 急ブレーキをかけて停止したとき
 - ー ブレーキブースターの負圧が充分でないとき
- 停車時、アイドリングストップが作動せずにアイドリングストップ表示灯が消灯したときは、ブレーキペダルの踏み込みが弱い場合があります。ブレーキペダルをもう少し強く踏んでください。
- 次の場合、アイドリングストップするまで時間がかかるときがあります。
 - ー お車を長期間使用しなかった場合などにより、バッテリーが放電したとき
 - ー 外気温が高いとき、または低いとき
 - ー バッテリー交換などにより、バッテリー端子を再接続したとき

●アイドリングストップが作動しない条件

次のいずれかの場合、アイドリングストップは作動しません。

- アイドリングストップ警告灯／アイドリングストップ OFF 表示灯（黄色）が点滅または点灯している
- エンジン警告灯が点灯している
- ボンネットが開いている
- 標高約1500m以上のとき
- 外気温が約-10℃以下のとき
- トランスミッションフルードの油温が低いまたは、高いとき
- バッテリー状態が良好でない
- エアコン使用時、エアコンの設定温度と車内の温度の差が大きいとき
- エアコン使用時、風量が多いとき



アドバイス

エンジン警告灯など、メーター内の警告灯が点灯・点滅している場合、アイドリングストップが作動しないことがあります。

●アイドリングストップが自動解除する条件

次の操作を行うとアイドリングストップの作動が自動的に解除され、ブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンが再始動します。

- 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動き出したとき
- ブレーキペダルをすばやく踏み増したとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- セレクトレバーを[R]にしたとき
- セレクトレバーを[N]または[P]から[D]または[M]にしたとき
- ハンドル操作をしたとき
- エアコンの吹き出し口をまたはにしたとき
- エアコンが設定温度を維持できなくなったとき
- リヤウインドウデフォグスイッチをONにしたとき
- 非常点滅表示灯（ハザードランプ）スイッチをONにしたとき
- 方向指示レバーを操作したとき※

※ カスタマイズの設定により作動条件は異なります。

☆1-2ページ参照

●アイドリングストップが自動解除しない条件

次の操作を行うと安全を確保するため通常のエンジン停止状態になり、エンジンは再始動しません。この場合、セレクトレバーを[P]にして周囲の安全を確認してから、通常の操作でエンジンを始動するか、プッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。

- ボンネットを開けたとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき）
- 運転席以外のドアを開けたまま、放置したりブレーキペダルから足を離したとき



アドバイス

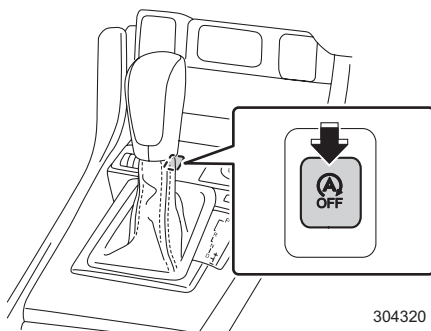
- アイドリングストップ中は、ブレーキペダルが硬く感じる場合がありますが、異常ではありません。
- アイドリングストップ中、次の状態になるとブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動します。
 - ー 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
 - ー バッテリーの放電が進んだとき
 - ー ブレーキブースターの負圧が低下したとき
- 次のときはエンジン停止時間が短くなることがあります。
 - ー 外気温が高いとき、または低いとき（エアコンが設定温度を維持できなくなるため）
 - ー 電装品などの消費電力が多いとき
- アイドリングストップからエンジンが再始動すると、電源ソケットの電圧が低下するので、使用している電装品によっては電装品の電源が一時的にOFFになることがあります。

運転するとき

■アイドリングストップの作動をOFFにするとき

アイドリングストップOFFスイッチを押すとアイドリングストップが作動停止状態となり、メーター内のアイドリングストップOFF表示灯（黄色）が点灯します。もう一度スイッチを押すとアイドリングストップが作動可能な状態になり、アイドリングストップOFF表示灯が消灯します。

アイドリングストップ中にスイッチを押すと、エンジンが再始動します。



304320



アドバイス

- アイドリングストップ作動停止状態でプッシュエンジンスイッチを OFF した場合、エンジンを再始動するとアイドリングストップは作動可能な状態に戻ります。
- お車から離れるときはプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。バッテリー上がりの原因となります。

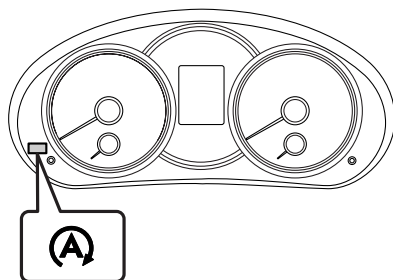
■アイドリングストップ表示灯（緑色）

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

▼点灯するとき

アイドリングストップの作動条件を満たしたとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。

エンジンが再始動すると消灯します。



302317

■アイドリングストップ警告灯 ／アイドリングストップOFF表示灯（黄色）

プッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

●アイドリングストップ警告灯

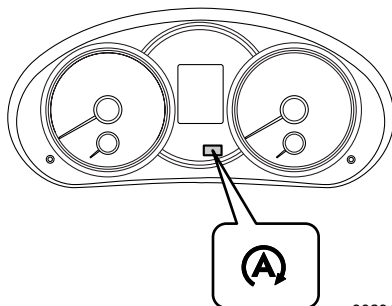
アイドリングストップシステムに異常があるとき、点滅します。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

●アイドリングストップOFF表示灯

次のいずれかの場合に点灯します。

- アイドリングストップOFFスイッチを押してシステムを解除したとき
- 通常のエンジン停止状態になったとき

☆3-47ページ参照



302319



注意

エンジン始動後にアイドリングストップ警告灯／アイドリングストップOFF表示灯が消灯しないまたは、アイドリングストップOFFスイッチを押しても点灯・消灯が切り替わらない場合は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■アイドリングストップ警告ブザー

●ブザー（ピー、ピー）が鳴るとき

アイドリングストップ中に運転席以外のドアを開けるとブザーが鳴り、アイドリングストップ中であることを知らせます。ドアを閉めると停止します。

●ブザー（ピーー）が鳴るとき

アイドリングストップ中に次の操作を行うと安全を確保するため通常のエンジン停止状態になり、ブザーが鳴ります（メーター内の警告灯も点灯します）。この場合、セレクターを[P]にして周囲の安全を確認してから通常の操作でエンジンを始動するか、プッシュエンジンスイッチをOFFにするまでブザーは鳴り続けます。

- ボンネットを開けたとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアをあけたとき）
- 運転席以外のドアを開けたまま、放置したりブレーキペダルから足を離したとき

運転するとき

■バッテリー

アイドリングストップに対応するため、充電受け入れ性能を高めた高性能な専用バッテリーを使用しています。バッテリーを交換するときは、スバル純正のアイドリングストップ専用バッテリーに交換してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

☆8-2ページ



注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリングストップが正常に作動しなくなります。
- バッテリーが上がったときは、救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

☆7-26ページ参照

- 専用バッテリーの充電が不十分なまま使用すると、短時間でバッテリーが上がったり、充電できなくなるおそれがあります。バッテリーが上がったり、救援車のブースターケーブルを接続してエンジンを始動した後は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

バッテリー上がりを防ぐために、スバル販売店での定期点検時のご確認をお奨めします。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入ると異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんので注意してください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WD車（二輪駆動）より安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や、最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、次の事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。
 - 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、次の事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

☆5-2ページ参照

⇒前ページより

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、お車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆7-18ページ参照

アクティブトルクスプリットAWD

アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

ブレーキ

ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合ABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について



注意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 次の状況などではABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
 - － マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面を走行しているとき
 - － 道路のつなぎ目などの段差を走行しているとき
 - － 凹凸路、石畳などの悪路を走行しているとき
 - － 下り坂で旋回をしているとき
 - － 路肩に草や砂利が多い道路を走行しているとき
 - － 砂利道を走行しているとき
 - － 雪道（新雪路、圧雪路、凍結路など）を走行しているとき
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。



アドバイス

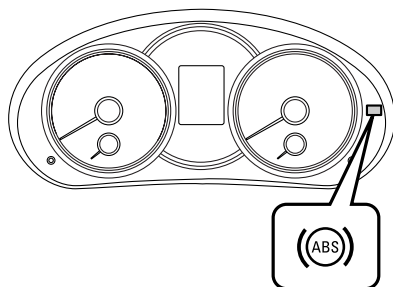
ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンを始動した後、最初の発進時に次の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - ー エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - ー ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

プッシュエンジンスイッチを ON にすると点灯し、約2秒後に消灯します。



301657

⚠ 注意

警告灯が次の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- プッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しない
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしては作動しません)

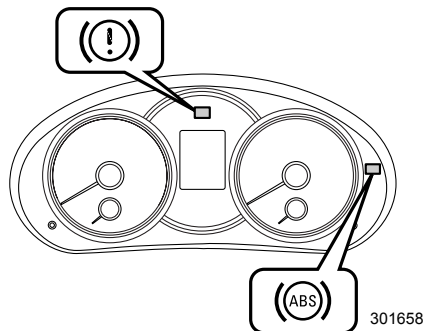
🏠 アドバイス

警告灯が次の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。



⚠ 注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。

点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

🏠 アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキが完全に解除されていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-24ページ参照

ブレーキブースター（制動力倍力装置）

ブレーキブースター（制動力倍力装置）はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

🏠 アドバイス

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと（減速、停止するとき）通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキオーバーライド

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれた場合、ブレーキの制動力を優先させるブレーキオーバーライド機能を備えています。アクセルペダルが全開の状態でも、安全に止まれる可能性があります。また、アクセルペダルが固着して戻りにくい場合でも、ブレーキペダルを踏むことで確実に減速できます。



警告

- ブレーキオーバーライド機能に頼った運転は絶対に行わないでください。あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。
- ブレーキオーバーライド機能の性能には限界があります。誤った使用をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキアシスト

ブレーキを強く踏めないドライバーの操作を補助する装置です。ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。



注意

ブレーキアシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。



アドバイス

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキアシスト機構が正常に機能しているときの現象で、異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くなるようになります。その際、ABSが通常より早く効くことがあります。
- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、コクッと音が聞こえることがあります。

VDC

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。

■VDCの主な機能

●トラクションコントロール（TCS）機能

トラクションコントロール（TCS）機能は、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆3-59ページ参照

●横滑りコントロール（VDC）機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、ブレーキ制御、エンジン出力制御により車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆3-59ページ参照



注意

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- VDCが作動するような路面では車速を十分に落として運転してください。
- サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。

次の事項は必ず守ってください。

- 雪道走行するときは、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
- タイヤチェーンを装着するときは、5-2ページの記載事項をお守りください。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときは、次の項目をお守りください。
 - ー 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - ー 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - ー 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - ー タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。

運転するとき

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- VDC 装備車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。
- VDC が正常に機能しなくなることがありますので、次の事項をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。

☆8-5ページ参照



アドバイス

- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンを始動した後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンを始動した後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDCが作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スペアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずプッシュエンジンスイッチをOFFにしてください。
エンジンを始動したままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6-17、7-7ページ参照

■VDC警告灯／VDC作動表示灯

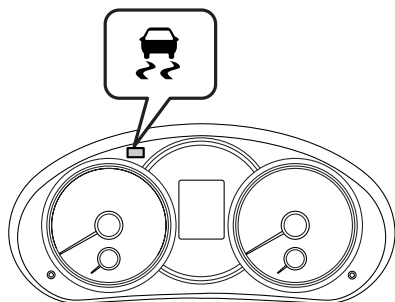
ブッシュエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

●VDC警告灯

VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

●VDC作動表示灯

TCS機能作動時、またはVDC作動時に点滅します。



301659

⚠ 注意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - ー ブッシュエンジンスイッチをONにしても点灯しない
 - ー エンジン始動後、数分たっても消灯しない
 ただし、ブッシュエンジンスイッチを一気に START（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度ブッシュエンジンスイッチをOFFにし、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。
 上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCの付いていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。



アドバイス

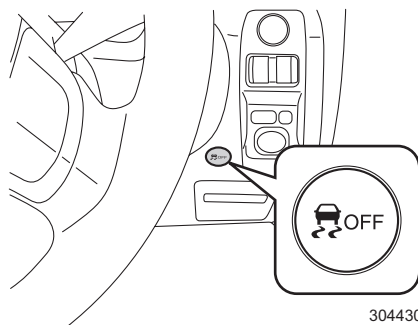
- 警告灯が次の場合は正常です。
 - ー エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない
 - ー エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する
 - ー 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない
- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■VDC OFFスイッチ

VDC OFFスイッチを押すとVDCが解除されます。

次のような特殊な状況下において、VDCを一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、発進できる場合があります。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき。
- ぬかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき。



304430

VDCが解除されるとメーター内のVDC OFF表示灯が点灯します。復帰させるときにはもう一度VDC OFFスイッチを押します。



注意

VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。必要なとき以外は、VDCを解除しないでください。また、VDCを解除したときは、路面状態に応じた安全な速度で慎重な運転を心がけてください。

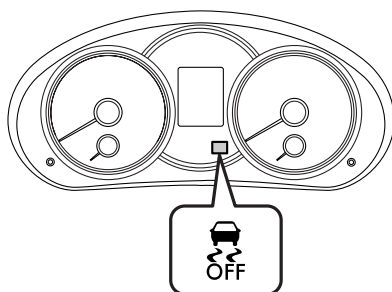
アドバイス

- VDC を解除しても一部のブレーキ制御は作動します。その場合、VDC 作動表示灯は点滅します。
- VDC OFFスイッチを10秒以上押し続けるとメーター内のVDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなります。この場合、VDCは通常のように作動します。一度プッシュエンジンスイッチをOFFまたはACCにし、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動するとVDCは自動的に作動可能状態になります。

■VDC OFF表示灯

プッシュエンジンスイッチがONで点灯し、約2秒後消灯します。

VDC OFFスイッチを押してVDCを解除したとき点灯します。



運転するとき

302672

ハンドル

パワーステアリング

電動パワーステアリングを採用しています。エンジン始動後約2秒後にパワーステアリングが作動します。



アドバイス

車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態が続けた場合は、ハンドル操作が徐々に重くなることがあります。これはコンピューターがシステムの過熱を防止するために作動を制限している現象で、異常ではありません。

しばらくハンドル操作を抑えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。

エアコン

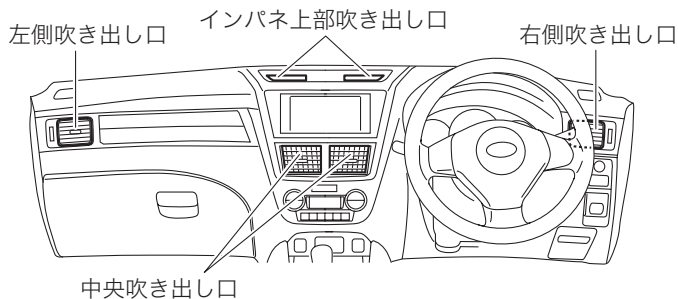
吹き出し口の調整	4- 2
吹き出し口表示と使用目的	4- 4
フルオートエアコンの使いかた	4- 5
感知センサー	4-13
エアコンフィルター	4-13

室内装備

カップホルダー	4-14
ボトルホルダー	4-15
サンバイザー	4-16
小物入れ	4-17
荷室	4-18
電源ソケット	4-21
アシストグリップ（回転式）	4-23
カーゴフック	4-23
買い物フック	4-24
室内の照明	4-26
時計	4-29
インフォメーションメーター	4-30

エアコン

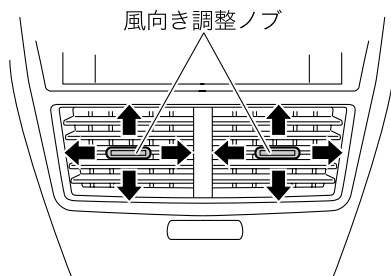
吹き出し口の調整



402190

■中央吹き出し口

吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。



401638

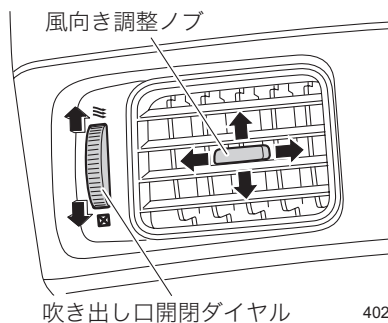
■左右吹き出し口

吹き出し口のノブを上下左右に動かして風向きを調整します。

また、ダイヤルで吹き出し口の開閉を切り替えることができます。

≡ : 開

☒ : 閉



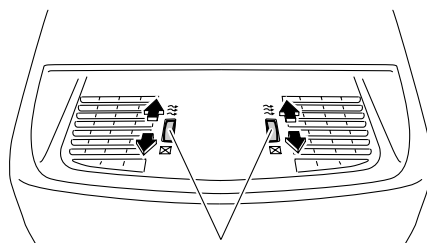
402370

■インパネ上部吹き出し口

ダイヤルで吹き出し口の開閉を切り替えることができます。

≡：開

☒：閉



吹き出し口開閉ダイヤル

401640



アドバイス

後席に送風したいとき使用してください。

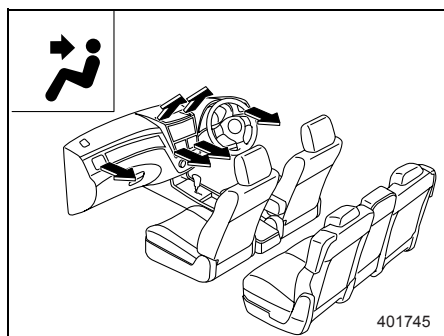
吹き出し口表示と使用目的

使用目的に合わせて吹き出し口を選択してください。

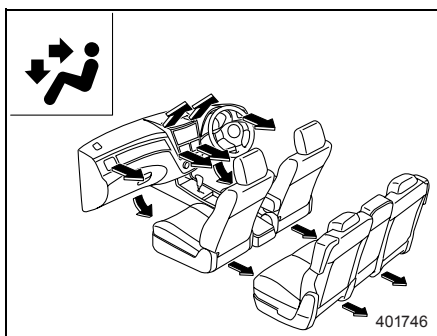
左右の吹き出し口からは、常時送風します。

左右の吹き出し口の送風を止めるときは、ダイヤルを操作して吹き出し口を閉じてください。

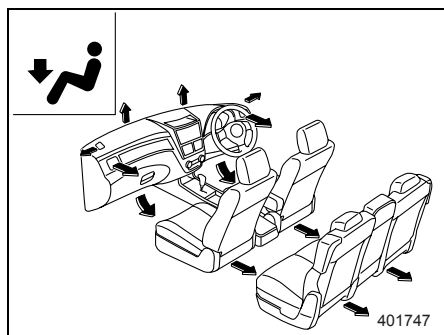
■上半身に送風したいとき



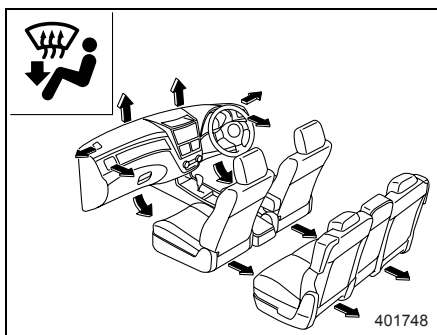
■上半身と足元に送風したいとき



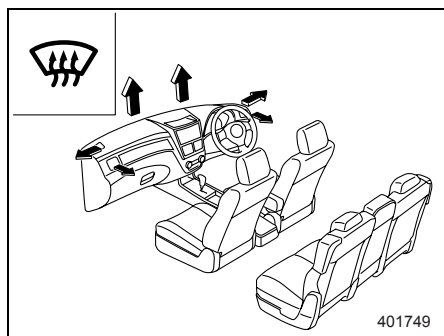
■足元に送風したいとき



■足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



■窓ガラスの曇りを取りたいとき



フルオートエアコンの使いかた

目的 スイッチ	吹き出し口 切り替え	風量調整	A/C	温度調整	内外気 切り替え	アドバイス
冷房	AUTO または 	AUTO または 希望位置	AUTO または ON	希望位置 (25付近 より低め)	AUTO または 外気導入	• 早く冷やしたいときは、内外気切り替えを内気循環にしてください。 • 冷房の効きを高めたいときは、内気循環にしてください。
暖房	AUTO または 	AUTO または 希望位置	AUTO または ON	希望位置 (25付近 より高め)	AUTO または 外気導入	• ウインドウにも少し送風されますが、これはウインドウの曇りを防止するためのものです。※ • 顔部が熱い場合は、温度調整ダイヤルを左側に操作し、適温に調整してください。
曇り除去と暖房	AUTO または 	AUTO または 希望位置	AUTO または ON	希望位置 (25付近)	AUTO または 外気導入	• 温度によっては曇り除去機能が低下する場合があります。
頭寒足熱	AUTO または 	AUTO または 希望位置	AUTO または ON	希望位置 (25付近)	AUTO または 外気導入	• 温度設定を最大暖房または最大冷房にすると頭寒足熱にはなりません。冷風または温風のための吹き出しになります。
曇り除去	AUTO または 	希望位置	AUTO または ON	(25付近 より高め)	AUTO または 外気導入	• 夏場にウインドウの曇りを除去する場合、温度調整は中間より低めで使用してください。 • 外気温度と吹き出し風の温度差が大きいと、ウインドウの外側が曇る場合があります。このときは冷房機能を「OFF」にするか、温度調整ダイヤルを中間より高めで使用してください。
換気	AUTO または 	希望位置	AUTO または OFF	希望位置	AUTO または 外気導入	—

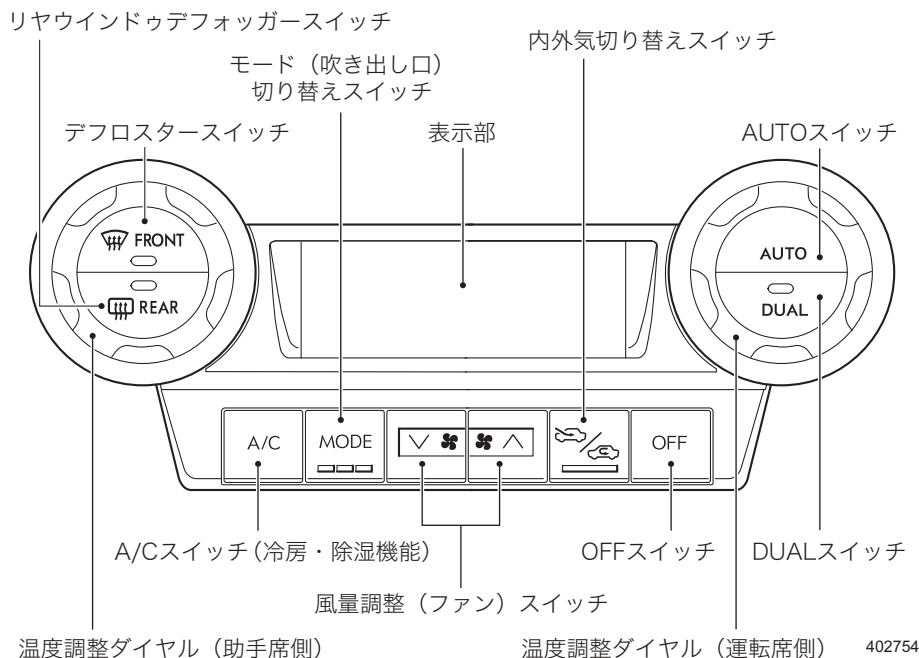
※ 極寒時（外気温-20℃以下）、吹き出し口を  に操作し温度を最大に設定しているとき、ウインドウへの送風を遮断します。
これは、車内全体の暖房を促進させるためのものです。



アドバイス

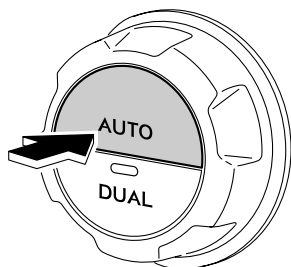
吹き出し口を  あるいは  に切り替えると、効果的に曇りを取るため、自動で除湿機能（A/Cスイッチ）がONになり、外気導入に切り替わります。

フルオートエアコン（左右独立温度調整機構）は、吹き出し口の設定温度を運転席側と助手席側で別々に設定することができます。



■フルオートでの使いかた

エンジンが始動しているとき、AUTO スイッチを押します。温度調整ダイヤルで希望温度を設定します。各機能を自動的にコントロールし、室内を快適に保ちます。表示部に“FULL AUTO”と表示されます。



401112

402371



アドバイス

- エンジンが始動しているときにスイッチを操作してください。
- 冬期などでエンジンが冷えているときは、しばらくの間、デフロスター吹き出しモード、外気導入になり、ファンは低速回転で作動します。
- オート作動中は、気温に応じて冷房・除湿機能が自動的に停止します。気温が低いときの曇り取りや除湿効果を高めたいときは、A/Cスイッチを押してください。ただし、“A/C”表示が点灯していない場合でも、制御上作動することがあります。（その場合はエンジン回転数が高くなります。）
- 設定温度を下げていくと、冷房・除湿機能は自動的に作動し、“A/C”表示が点灯します。
- 次の場合、冷房・除湿機能が作動しない場合があります。
 - ー 室内の温度が低いとき
 - ー 外気温度が0℃付近まで下がったとき
- 冷房中に吹き出し口から白煙が出ているように見えることがあります。これは湿度の高い空気が急激に冷やされて起こる現象で、異常ではありません。
- プッシュエンジンスイッチをOFFにしてエアコンを止めた場合、再始動時は止める直前の状態に戻ります。
- 停車中の冷房効果を上げるため、アイドリング回転が高くなります。クリーブ現象が強くなりますので、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 炎天下に駐車したときには、冷房を使う前にウインドゥを全開にするなどして熱気を追い出してください。
- 長時間冷風を身体に直接あてると、体調を崩す原因となることがありますので注意してください。
- 冷房・除湿機能は装置の各部をオイルで潤滑するためにも月に2、3回程度作動させてください。また、長時間作動させていない場合は、エンジンを低回転（またはアイドリング）の状態で数分間冷房または除湿暖房を行ってください。
- エアコンの送風温度が下がらない場合、冷媒不足も考えられます。お近くのスバル販売店で点検を受けてください。

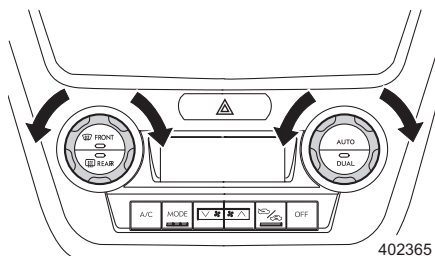
■手動選択で使うとき（マニュアル）

フルオート作動中、各スイッチ（温度調整ダイヤル、DUALスイッチ、リヤウインドゥデフォグスイッチ、OFFスイッチを除く）のいずれかを押すと、押したスイッチの機能のみ固定され、他の機能は自動コントロールされます。このとき表示部の“FULL”が消えます。手動選択を解除するときはAUTOスイッチを押します。

■各スイッチの機能

●温度調整ダイヤル

室内温度を設定するときに使います。
 温度は18.0～32.0の範囲で0.5ずつ設定できます。18.0または32.0に設定したときは、それぞれ最大冷房または最大暖房となります。
 運転席側、助手席側で送風温度をそれぞれ設定できる左右独立機能と、運転席側ダイヤルで運転席側、助手席側の両方の送風温度を設定できる左右連動機能があります。



402365

- 左右独立機能：DUALスイッチ内の表示灯が点灯します。
 左右連動機能から左右独立機能にするにはDUALスイッチを押す、または助手席側ダイヤルを操作します。
- 左右連動機能：DUALスイッチ内の表示灯は消灯します。
 左右独立機能から左右連動機能にするにはDUALスイッチを押します。

表示部には、運転席側、助手席側それぞれの設定温度が表示されます。

- (a) 運転席側設定温度
 (b) 助手席側設定温度



402366

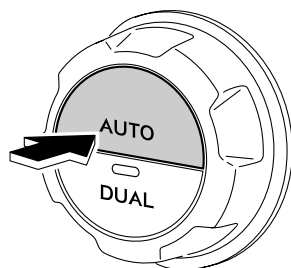


アドバイス

- 運転席側と助手席側の設定温度の差が大きい場合、温度を調整しきれない場合があります。
- 設定温度は記憶されています。ただし、バッテリーの接続を外したときは設定温度がリセットされます。

●AUTOスイッチ

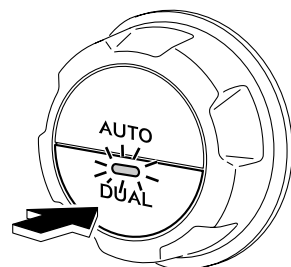
フルオートで使うときに押します。
設定温度に応じて、吹き出し口切り替えや
ファン風量、冷房・除湿機能の作動、内外気
切り替えなどを全て自動制御します。



401112

●DUALスイッチ

DUALスイッチを押すと運転席側、助手席側の
送風温度を別々に設定することができます(左
右独立機能)。左右独立機能を使用していると
きはDUALスイッチの表示灯が点灯します。
解除する場合はDUALスイッチを押します。



401152



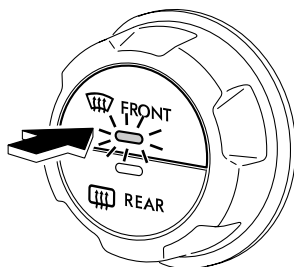
アドバイス

左右独立機能を解除したときは、運転席側の設定温度に切り替わります。

●デフロスタースイッチ

フロントガラス、サイドガラスの曇りや霜を取るときに使います。スイッチを押すと効果的に曇りを取るために、自動的に外気導入、除湿機能作動、デフロスター吹き出しにセットされます。デフロスター作動時は、スイッチ内の表示灯が点灯します。

デフロスタースイッチをもう一度押すと、デフロスター作動前の状態に戻ります。



401115



アドバイス

バッテリーの接続を外したとき、またはバッテリー電圧が低下した場合は表示灯が点滅することがありますが、異常ではありません。ただし、エンジン始動時に必ず表示灯が点滅する場合は電気系統の異常が考えられますので、お近くのスバル販売店で点検を受けてください。

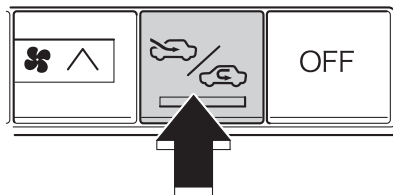
●内外気切り替えスイッチ

一時的に外気を遮断したい場合に使います。スイッチを押すごとに内気循環と外気導入が交互に切り替わります。

早く冷房したいとき、または冷房の効きを高めたいときには、内気循環を使用してください。

 : 外気導入

 : 内気循環



402367



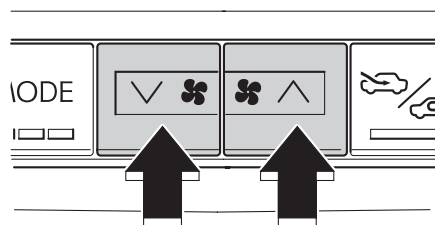
注意

内気循環は必要なときだけ使い、通常は外気導入を使ってください。内気循環で長時間使うと、万一、排気管に腐食や損傷による穴や亀裂が生じた場合、排気ガスによる一酸化炭素中毒の原因になり、最悪の場合、死亡につながるおそれがあります。

また、ガラスが曇りやすくなりますので、内気循環で使用する場合は、A/Cスイッチを押して除湿機能を動かさせて使用してください。

●風量調整（ファン）スイッチ

風量を調整し固定するときに使います。∧を押すと風量が増し、∨を押すと風量が減ります。

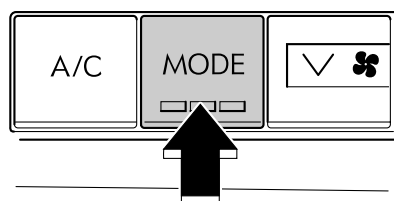


402368

●モード（吹き出し口）切り替えスイッチ

吹き出し口を固定するときに使います。
スイッチを押すごとに切り替わります。

☆4-4ページ参照



401118



アドバイス

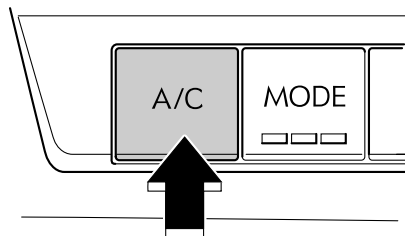
- 吹き出し口を （デフロスター）にするときは、デフロスタースイッチを押してください。

☆4-10ページ参照

- 降雪時はフロントガラスの氷結を防止するため  で走行することをお奨めします。
-  を選択すると自動的に外気導入、除湿機能ONになります。
-  を選択時、顔が熱い場合は、温度調整ダイヤルを操作し、適温になるよう調整してください。
- エアコンをOFFにしているでも、モード切り替えスイッチを押すとファン、冷房・除湿機能を作動させずに走行風だけの空調ができます。走行風による空調では、室内を外気温度より低くすることはできません。

●A/Cスイッチ（冷房・除湿機能）

冷房・除湿機能の作動をONまたはOFFに固定するときに使います。スイッチを押すごとにONとOFFが交互に切り替わります。暖房時でもウインドウの曇りを取る場合や、除湿効果を高めたいときに使います。



401119



アドバイス

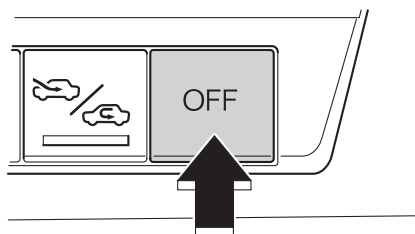
- 冷房・除湿機能はファンが作動していないときにスイッチを押しても作動しません。
- 気温が0℃付近まで下がったときは冷房・除湿機能が作動しない場合があります。

●リヤウインドウデフォグgersスイッチ

☆3-10ページ参照

■停止するとき

エアコン使用中、OFF スイッチを押すとエアコンは止まります。このとき内外気切り替えは外気導入に固定され、表示は消灯します。

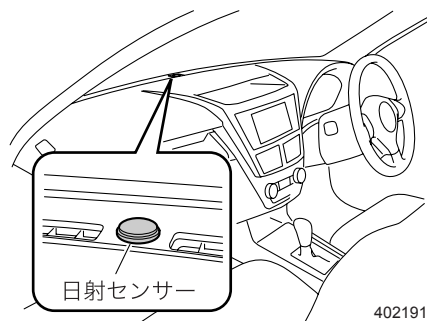


402369

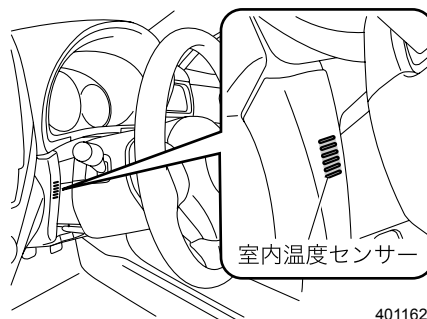
感知センサー

フルオートエアコンは日差しの強さ、室内温度、室外温度を感知するセンサーが付いています。

- 日射センサー（ダッシュボード中央）



- 室内温度センサー（運転席ロアカバー左側）



- 外気温度センサー（フロントバンパー裏側）



注意

室内に装備されている日射センサーおよび室内温度センサーに衝撃を与えたり、水をかけたり、物を置いたりしないでください。温度制御にずれが発生する原因となります。

室内装備品の使いかた

エアコンフィルター

快適にお使いいただくため、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換時期：12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）

☆6-43ページ参照

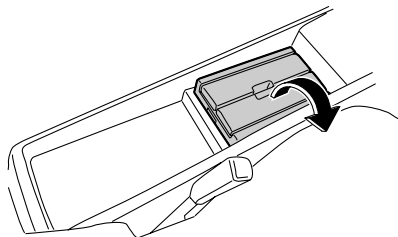
室内装備

カップホルダー

■フロントシート用

センターコンソールに取り外し可能なカップホルダーがあります。

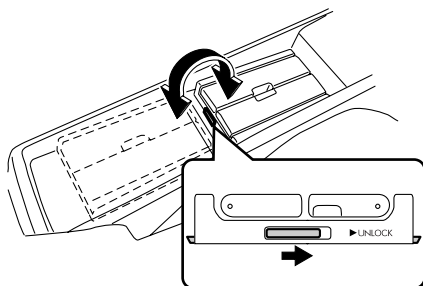
カップホルダーを開いて使用し、使用しないときは折りたたみます。



401126

スライドボタンを“UNLOCK”側に押し、カップホルダーを取り外し、前後に移動させることができます。

空いたスペースは小物置きとして使用できます。

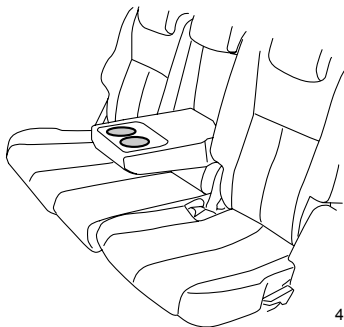


401641

■セカンドシート用

アームレストにあります。

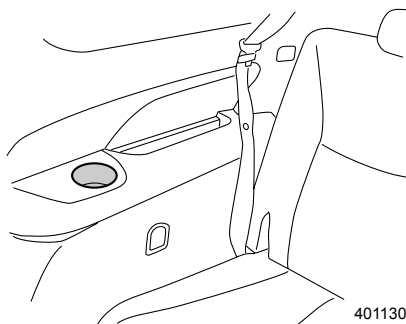
引き出して使います。



401627

■サードシート用

左右に各1つあります。



401130

警告

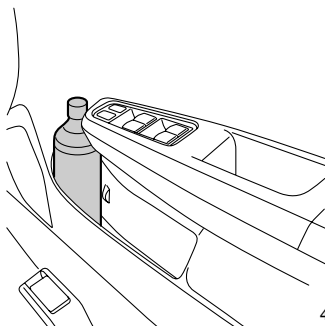
- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアの開閉や走行中の振動、お車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。
- フロントシート用カップホルダーは、飲み物を入れたまま取り外さないでください。

室内装備品の使いかた

ボトルホルダー

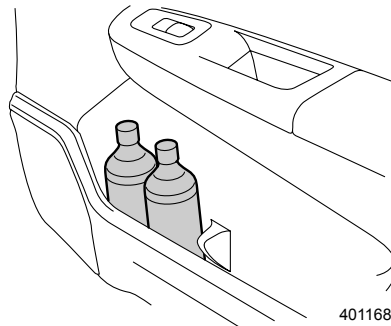
左右のフロントドアに各1つ、リヤドアに各2つの小物入れ兼用のボトルホルダーがあります。

フロントドア



401167

リヤドア



401168

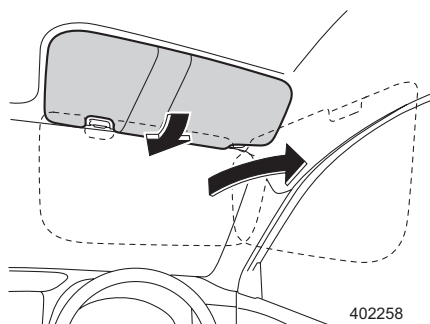
警告

- 飲み物の出し入れは信号待ちなどの停車中に行ってください。走行中の使用は思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ドアの開閉や走行中の振動、お車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。
- 飲み物が入ったままフタをしていないペットボトル、またはフタをすることができない容器（缶やカップなど）を入れないでください。飲み物がこぼれるおそれがあります。

サンバイザー

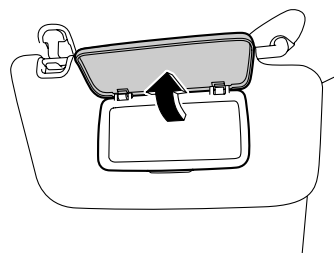
太陽光がまぶしいときにサンバイザーを降ろします。

横に回すときはフックから外して使用します。運転席側にはチケットホルダーが付いています。



■ バニティミラー

運転席、助手席サンバイザー裏側に鏡がついています。



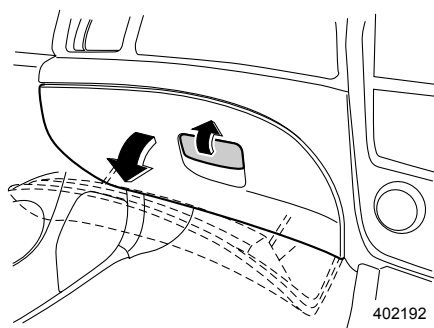
注意

走行中は必ずバニティミラーのフタを閉めてください。

小物入れ

■グローブボックス

小物や書類を入れるのに使います。取っ手を引いて開けます。また、メーター内のライティングスイッチ表示灯 DO が点灯しているとき、フタを開けると照明灯が点灯します。

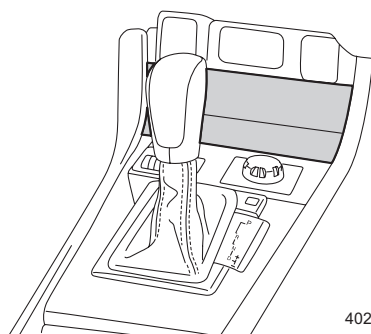


注意

走行中はグローブボックスを必ず閉めておいてください。万一の場合、開いたフタに体が当たるなどして思わぬけがをすることがあります。

■センタートレイ

インストルメントパネル中央下にあります。

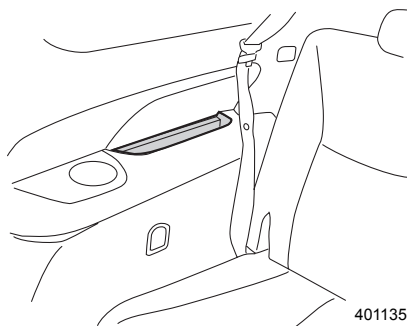


注意

センタートレイ内に、転がりやすい物などを入れないでください。走行中トレイ内の物が飛び出すなど、思わぬけがをされるおそれがあります。

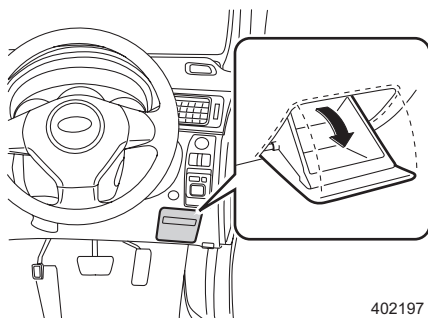
■サイドポケット

サードシートの左右トリム側に各1つあります。



■コイントレイ

取っ手を引いて開けます。



荷室

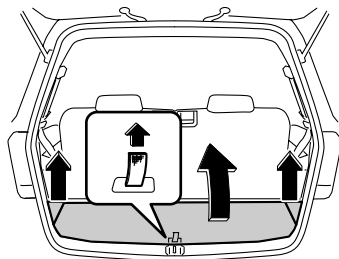
荷室に上段・下段のボックスがあります。

■荷室ダブルアンダーボックス

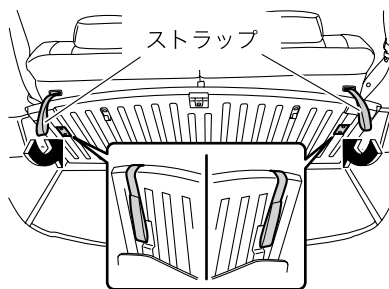
荷物を収納することができます。

●上段

中央のリッド（フタ）を開けます。必要に応じて左右のリッド（フタ）を開けます。



サードシートを立てているときは、背もたれ裏側にあるストラップを中央のリッド（フタ）の裏側に固定することができます。



401180



アドバイス

ストラップは外れないよう確実に固定してください。

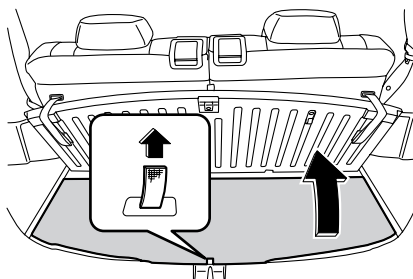
●下段

三角停止表示板を収納することができます。

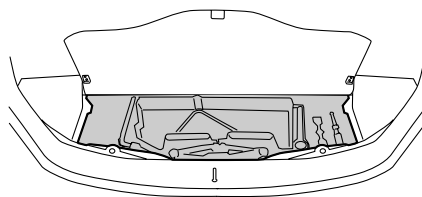
中央のリッド（フタ）を開けます。

☆4-18ページ参照

荷室ダブルアンダーボックス下段のカバーを開けます。



401181



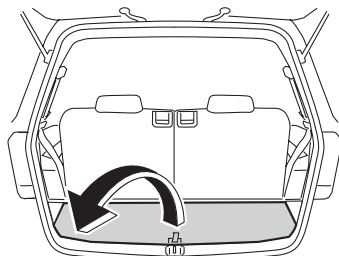
401188

■リバーシブルカーゴフロアボード

リバーシブルカーゴフロアボードを裏返すと、トレイとして使用することができます。その上に荷物を載せたまま持ち運ぶことができます。

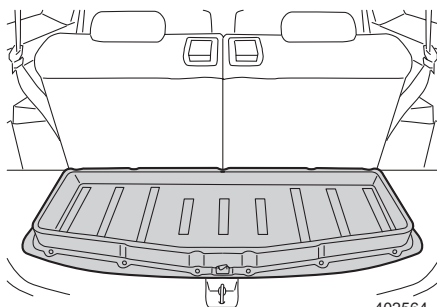
●上段

- ①リバーシブルカーゴフロアボードを取り出します。



402565

- ②リバーシブルカーゴフロアボードを裏返し、荷室に格納します。



402564



注意

リバーシブルカーゴフロアボードの上には、次の重さを超えるものを置かないでください。

許容荷重

15 kg

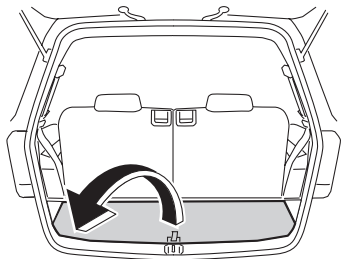


アドバイス

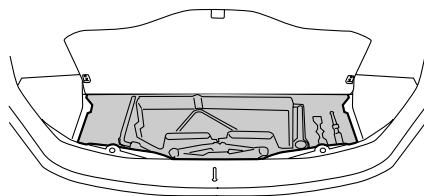
- 使用後は、汚れや水分を拭き取ってください。
- 水洗いはしないでください。

●下段

リバーシブルカーゴフロアボードを取り出し、下段のカバーを開けます。



402565

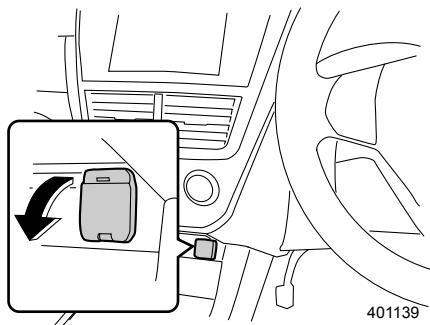


401188

電源ソケット

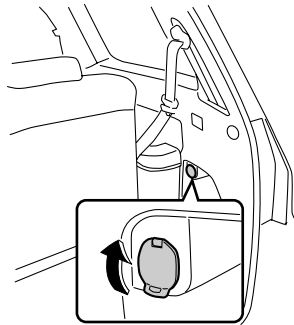
ブッシュエンジンスイッチがACCまたはONのとき12 V直流電流が取り出せます。
自動車用電気製品の電源ソケットとして使用してください。

インストルメントパネル中央下



401139

カーゴルーム右側



401140

注意

電源ソケットから電源を取るときは、スバル純正品の使用をお奨めします。
また、自動車用電気製品は必ず 12 V-120 W 以下のものをご使用ください。
また、ご使用の際、次の項目をお守りください。

- タコ足配線はしないでください。発火することがあります。
- 銀紙、硬貨などの異物を入れないでください。
- 電源ソケットにプラグが合わない（ガタがあったり、きつくて入らない）場合は、接触不良やプラグが抜けなくなる原因となります。ソケットに合ったプラグをご使用ください。
- エンジン停止状態またはアイドリング状態のまま電気製品を長時間使用すると、バッテリー上がりを起こすことがありますので注意してください。
また、走行中の使用でも不要になったら切るように心がけてください。

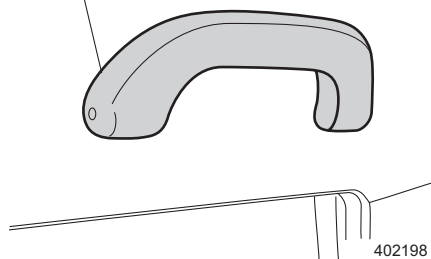
アドバイス

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、電源ソケットの電圧が低下するので、使用している電装品によっては電源が一時的にOFFになることがあります。

アシストグリップ（回転式）

走行中、シートに座っている状態で体を支えるときに使用します。

アシストグリップ



402198

警告

アシストグリップ（回転式）は、乗降時やシートから立ち上がるときになどに使用しないでください。

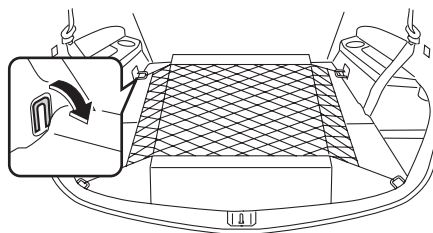
注意

重いものや大きなものをアシストグリップにかけないでください。アシストグリップが折れたり、走行中に外れたりすることがあります。

カーゴフック

4か所取り付けられています。

サードシートを倒しているときに使用できます。カーゴルームネットなどを引っかけるときに使用します。



402194

注意

カーゴフックを使うときは、カーゴルームネットなど軽量物の固定、引っかけの用途だけに限定してください。

許容引っ張り荷重

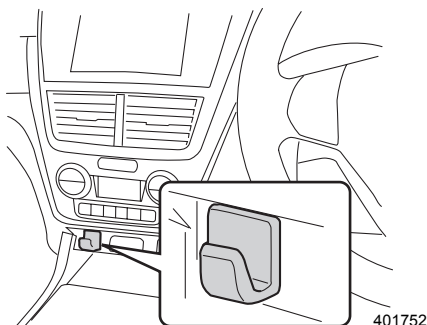
20 kg

買い物フック

買い物袋などが転がらないようにするときに使用します。
袋の底を床につけ、手さげ部分をフックに巻きつけて使ってください。

■インストルメントパネル下側

インストルメントパネル下側にあります。



401752

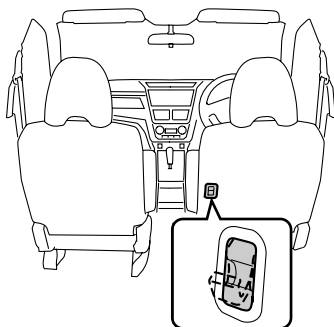
⚠ 注意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

許容引っ張り荷重	2 kg
----------	------

■運転席シート裏側

運転席シート裏側にあります。



401753

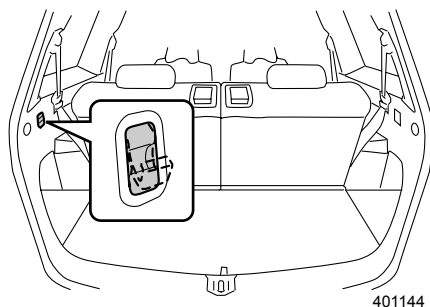
⚠ 注意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

許容引っ張り荷重	3 kg
----------	------

■カーゴルーム

カーゴルーム左側にあります。
フックを使用しないときは格納しておいてください。



401144

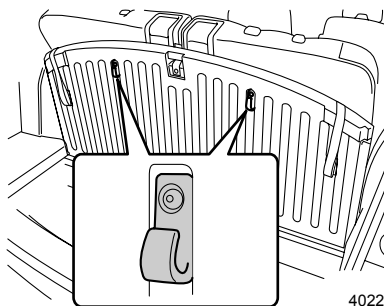

注意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

許容引っ張り荷重	3 kg
----------	------

■荷室ダブルアンダーボックス上段・中央のリッド（フタ）裏面

中央のリッド（フタ）裏面に2つあります。



402259


注意

買い物フックは、買い物袋など軽量物の引っかけの用途だけに限定してください。

許容引っ張り荷重	2 kg
----------	------

室内の照明

■ルームランプ

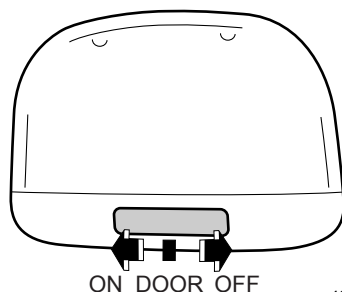
セカンドシートの天井中央にあります。

スイッチの位置により切り替えができます。

ON : 常に点灯します。

DOOR: いずれかのドア（リヤゲート含む）を開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後消灯します。

OFF : 常に消灯します。



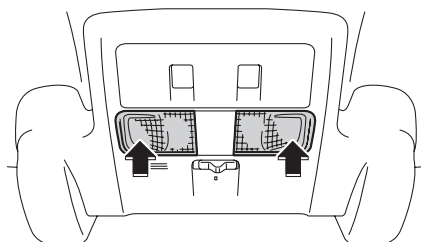
401331

■スポットマップランプ

スポットマップランプの外側を押すとランプが点灯します。

もう一度押すと消灯します。夜間、お車を止めて地図を見るときなどに便利です。

また、ドアを開けたときも点灯し、閉めると一定時間後に消灯します。

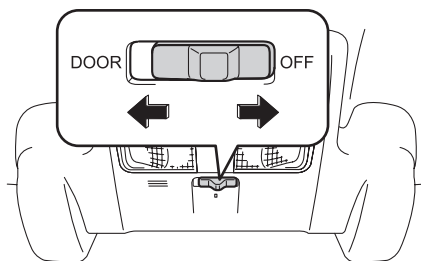


402250

●ドア連動切り替えスイッチ

スイッチの位置により切り替えができます。

- DOOR: いずれかのドア（リヤゲート除く）を開けると点灯し、閉めると一定時間点灯後に消灯します。
- OFF : 常に消灯します。



402074

■オフディレイ機能

ルームランプ、スポットマップランプのスイッチをDOOR位置にしているとき、次の操作を行うと一旦点灯し、徐々に消灯していきます。

- プッシュエンジンスイッチをONからOFFにしたとき
- いずれかのドア（ルームランプはリヤゲートを含む）を開けて閉めたとき
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）で解錠したとき
- 施錠時、アクセスキーを携帯し車両に近づいたとき

また、次の操作を行うと消灯します。

- プッシュエンジンスイッチをACCまたはONにしたとき
- キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）で施錠したとき

●オフディレイ機能のカスタマイズ

オフディレイ機能の作動あり／作動なしの設定と消灯までの時間の設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

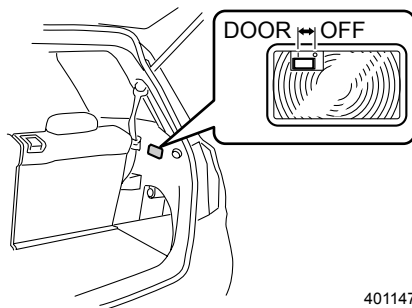


アドバイス

- お車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- エンジンが停止した状態で、長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。
- スポットマップランプはリヤゲートの開閉時のオフディレイ機能と連動していません。

■カーゴルームランプ

- DOOR : リヤゲートを開けると点灯し、閉めると消灯します。
- OFF : 常に消灯します。



401147



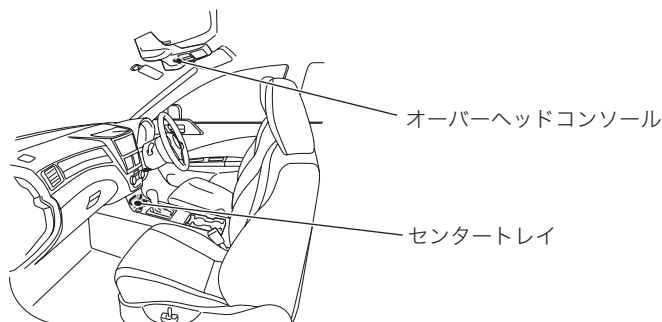
アドバイス

- お車から離れるときには消灯していることを確認してください。点灯しているとバッテリー上がりの原因になります。
- エンジンが停止した状態で、長時間点灯したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

■ブルーイルミネーション

メーター内のライティングスイッチ表示灯が点灯しているとき、次の2か所で青色のイルミネーションが点灯します。

- オーバーヘッドコンソール
- センタートレイ



402196

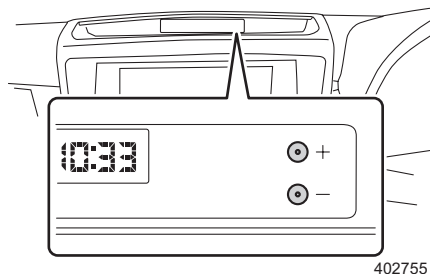


アドバイス

イルミネーションコントロールダイヤルで明るさを調整することができます。
☆3-13ページ参照

時計

プッシュエンジンスイッチがACCまたはON
のとき、時刻が表示されます。



■時刻表示の合わせかた

「+」ボタンまたは「-」ボタンを押すと、1分きざみで時刻が切り替わります。「+」ボタンを押すと表示時刻を進め、「-」ボタンを押すと表示時刻を戻します。また、ボタンを押し続けると連続的に切り替わります。

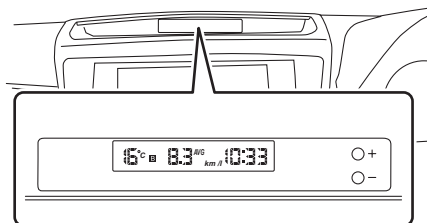


アドバイス

バッテリーの接続を外すと時刻が消去されます。バッテリーを接続後、正しい時刻に修正してください。

インフォメーションメーター

プッシュエンジンスイッチがONのとき、メーター内の切り替えノブを押すごとに表示が切り替わります。



402756

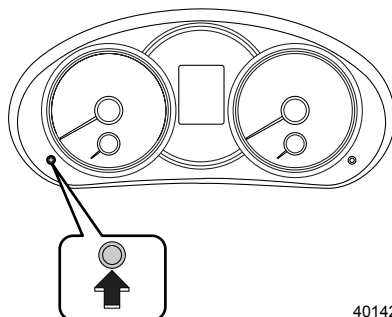
インフォメーション表示切り替えノブを押します。

トリップメーターがトリップAのとき：

瞬間燃費計 ←→ 平均燃費計
(トリップA)

トリップメーターがトリップBのとき：

瞬間燃費計 ←→ 平均燃費計
(トリップB)

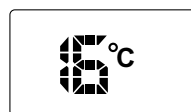


401423

■ 外気温度計

外気温度を表示します。

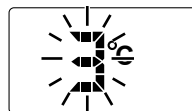
表示範囲は-30°C~50°Cです。



400913

●路面凍結警告表示

外気温度が3°C以下の場合、路面が凍結している可能性があることを知らせるため、温度表示が5秒間点滅します。



400974



アドバイス

- 外気温度計は外気温度センサー取り付け部の温度を表示していますので、実際の外気温度とは異なる場合があります。
- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状態を確認してください。
- 路面凍結警告が一旦表示された場合、外気温が5°C以上に上がらないと再度警告されません。

■瞬間燃費計

走行している瞬間の燃費を表示します。

10.5 km / l

401154



アドバイス

瞬間燃費は、低速走行時には表示されません。

■平均燃費計

トリップメーターをリセットしてからの平均燃費を表示します。

トリップメーターを表示したとき、それぞれの平均燃費を表示します。



The image shows a digital display for average fuel consumption. It features a large '10.3' with 'AVG.' to its right and 'km / l' below it. A small 'A' icon is visible on the left side of the display.

401155



アドバイス

トリップAまたはBをリセットすると、平均燃費計もリセットされます。リセット後は、1km走行するまで表示されません。

■燃費計の消しかた

瞬間燃費計または平均燃費計は、次の方法で表示を消すことができます。

プッシュエンジンスイッチをOFFにして、「+」ボタンを約5秒間押すと燃費表示が消えます。再度「+」ボタンを約5秒間押すと表示されます。



アドバイス

- 走行状態や状況により燃費は変化するため、燃費情報は目安となります。そのため、表示が実際とは異なる場合があります。
- 消灯中でも平均燃費計の数値は積算されます。
- バッテリー交換やヒューズ交換などで、バッテリーとの接続が断たれたときは、自動的に平均燃費の表示に戻ります。

冬の前の準備、点検

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換	5- 2
タイヤチェーンの装着	5- 2
エンジンオイル	5- 3
冷却水の濃度点検	5- 4
ウォッシャー液の濃度調整	5- 4
燃料タンクの水分除去	5- 4
寒冷地用ワイパーブレードの装着	5- 5
バッテリー	5- 5

走行する前に

足廻りの点検	5- 6
ルーフの雪の除去	5- 6
フロントガラス下側の雪の除去	5- 6
ガラス面の雪や霜の除去	5- 6
ドア・リヤゲートを開けるときには	5- 6
乗るときには	5- 7
暖機運転中	5- 7
ワイパーなどの凍結	5- 7
HIDヘッドランプの雪の除去	5- 7

走行するとき、駐車するとき、洗車するとき

走行するときは	5- 8
駐車するときは	5- 9
洗車するときは	5- 9

冬の前の準備、点検

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）への交換

雪道や凍結路では、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着して走行してください。
雪道や凍結路の走行が事前に予測される場合には、あらかじめ冬用タイヤを装着しておいてください。

警告

- 装着についての条例は地区によって異なることがあります。走行する地区の条例にしたがってください。
- 装着のときは、次の事項をお守りください。
 - ー 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - ー タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - ー 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - ー 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

タイヤチェーンの装着

- タイヤチェーンは、予測できない降雪や雪道に遭遇した場合などの非常用装備品です。タイヤチェーンは、前輪に装着してください。後輪にはタイヤチェーンを装着しないでください。
- タイヤチェーンは付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンを装着しても路面の状況によっては極低速でスリップしたり、登坂能力が低下する場合があります。
- タイヤチェーンを取り付けると、アルミホイールが傷つく場合があります。

 注意

- タイヤチェーンを取り付けると前後輪の接地力のバランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。
- 乾いた路面を走行するとチェーンの寿命を短くします。できるだけ避けてください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、後輪タイヤをパンクした前輪に取り付け、後輪に応急用スペアタイヤを取り付けます。そして前輪にタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンを装着したらタイヤの内側の部分がブレーキ配管、サスペンション、車体などに触れていないか必ず確認してください。
- タイヤチェーン装着後はゆっくりと走行し（100 m程度）、異音やタイヤチェーンのゆるみなどを確かめてください。
- タイヤチェーンを取り付けるときに着用する手袋なども準備しておくことをお奨めします。

■ タイヤサイズに合ったものを使用してください

タイヤチェーンは「スバル純正チェーン」を使用してください。
詳しくは、スバル販売店にご相談ください。

エンジンオイル

スバル純正エンジンオイルをご使用ください。

 アドバイス

SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-20のエンジンオイルの使用をお奨めします。

☆8-3ページ参照

冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、スバルスーパークーラントを希釈せずそのまま使用してください。

ウォッシャー液の濃度調整

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温度に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

注意

- 外気温度と希釈割合を合わせてください。希釈割合が適切でないとウィンドウに噴射した液が凍結し、視界不良になるおそれがあります。また、タンク内で凍結することがあります。
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないように注意してください。ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液補充後は、ウォッシャータンクからウォッシャーノズル間に残っている補充前の（濃度の低い）ウォッシャー液を除去するため噴射してください。濃度の低いウォッシャー液が残ったままだとノズルが凍結し、ウォッシャー液が出なくなる場合があります。

燃料タンクの水分除去

燃料タンク内の水分を除去するときは、スバル純正水分除去剤の使用をお奨めします。

寒冷地用ワイパーブレードの装着

- 寒冷地用ワイパーブレードは、ブレードの金属部分への雪の付着を防ぎ、降雪期の視界確保ができます。
- 寒冷地用ワイパーブレードは、お車のサイズに合ったスバル純正部品をご使用ください。

注意

高速走行時には、通常のワイパーブレードより拭き取りにくくなる場合があります。その場合には、速度を落として走行してください。

アドバイス

寒冷地用ワイパーブレードを必要としない時期は、通常のワイパーブレードに交換してください。

バッテリー

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがあります。必要に応じてバッテリー液の点検や補充をしてください。詳しくは「メンテナンスノート」をご覧ください。

走行する前に

足廻りの点検

お車の下をのぞいて足廻り（ブレーキ廻り、ブレーキホース）に雪や氷のかたまりが付着していないか点検してください。

雪道を走行したり、吹雪の中に駐車したときは足廻りに雪や氷が凍結し、ハンドルの切れやブレーキの効きが悪くなることがあります。

付着している雪や氷を取り除いてください。



注意

雪や氷を取り除く場合は鋭利なものや硬いもので叩いたりしてお車を傷つけないでください。

各タイヤの内側にはABSの車輪速センサーを取り付けてあります。これらに傷をつけないようにとくに気をつけてください。

ルーフの雪の除去

走行する前にルーフに積もった雪を取り除いてください。走行中にガラス面に落下すると、視界の妨げとなり危険です。

フロントガラス下側の雪の除去

雪がたまっているとワイパーブレードが定位置まで戻れず、作動し続けることがあります。そのまま作動し続けるとワイパーが損傷する場合がありますので、雪を除去してワイパーを使用してください。

ガラス面の雪や霜の除去

プラスチックの板などを使用し、雪や霜を取り除いてください。



注意

金属製の板を使用するとガラスに傷がつくおそれがあります。

ドア・リヤゲートを開けるときには

ドアやリヤゲートが凍結しているときに無理に開けると、ドア廻りのゴムがはがれたり、亀裂が発生することがあります。ぬるま湯をかけ、氷を溶かしてから開けてください。その後、すぐに水分を充分拭き取ってください。



アドバイス

ドアのキー穴にはぬるま湯をかけないでください。凍結することがあります。

乗るときには

靴についた雪や氷をよく落としてください。

ペダルを操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなってガラスが曇ることがあります。

暖機運転中

アクセルペダル、ブレーキペダルなどの操作が円滑にできるかを確認してください。

ワイパーなどの凍結

ワイパー、電動リモコンミラー、パワーウィンドゥなどが凍って動かない場合はスイッチを押し続けしないでください。装置を傷めたり、バッテリー上がりを起こすおそれがあります。

- ブレードラバーがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、次の操作を行いガラスを暖めてください。無理にワイパーを作動させるとブレードラバーが切れることがあります。

ー フロントガラスは、エアコンの吹き出し口を (デフロスター) にするか、フロントワイパーデアイサーを使用してください。

ー リヤガラスは、リヤウィンドゥデフォグガーを使用してください。

☆3-10、3-11ページ参照

注意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
- 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液を外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。

☆5-4ページ参照

HIDヘッドランプの雪の除去

HIDはHigh Intensity Discharge (高輝度放電) の略です。

HIDランプは発熱量が少ないため、雪道走行の際、レンズ面に積もった雪が溶けにくい特性があります。雪を落として走行してください。

走行するとき、駐車するとき、洗車するとき

走行するときは

■控えめな運転を心がけてください

冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。

エンジンブレーキを使って速度をコントロールするように心がけてください。なお、滑りやすい路面ではシフトダウンによる急激なエンジンブレーキを避けてください。タイヤがスリップするおそれがあります。

☆1-20、1-25ページ参照



アドバイス

雪道や凍結路など滑りやすい道では、2速ギヤでの発進をお奨めします。

セレクトレバーをマニュアルモードの2速にします。

また、マニュアルモード選択時にはパドルシフトで2速にすることもできます。

☆3-40ページ参照

■ブレーキの効きを点検してください

ブレーキに雪や氷が付着して効が悪くなることがあります。

走行を開始するとき、お車や道路の状況に注意してブレーキの効きを確認してください。

効が悪い場合には、回復するまでブレーキを軽く踏み続けてください。

ブレーキの効きが回復しないときはブレーキの異常が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ハンドルの切れを点検してください

走行中、足廻りに雪が付着するとハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどきお車を止め、足廻りを確認し、雪を取り除いてください。

☆5-6ページ参照

■ヘッドランプを点検してください

ヘッドランプが汚れていると正常に照らせませんので、汚れを拭き取ってください。

HIDヘッドランプは、HIDランプの発熱量が少ないため雪が溶けにくい場合があります。雪を落として走行してください。

■積雪などにより、ワイパーが途中で止まったとき

お車を安全な場所に停めてワイパースイッチをOFF、プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。

駐車するときは

■ブレーキの凍結に気をつけてください

駐車ブレーキをかけておくと、駐車ブレーキが凍結することがあります。

駐車ブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。

- セレクトレバーを[P]にします。
- 輪止め（タイヤストッパー）をします。



アドバイス

輪止め（タイヤストッパー）は車載されていませんので必要に応じて準備してください。

■ボンネット側を風下に

風の当たる部分は、予想以上に低温となります。バッテリー上がりを防ぐためにもボンネット側を風下に向けて駐車してください。

■屋外に駐車するときは、ワイパーアームを立てておいてください

ブレードラバーがガラスに凍りつくことを防ぎます。

洗車するときは

■凍結防止剤を散布した道路を走ったとき

早めに洗車してください。洗車するときは下廻りと足廻りも十分に洗ってください。放置すると錆の原因となります。

■洗車のしかた

☆6-10ページ参照

■洗車後の注意

洗車後、ボディ廻りの水分をよく拭き取ってください。とくにドア廻りは凍結しやすいところです。

また、ブレーキも凍結することがありますので、後続車や道路の状況に注意して効きを確認してください。

☆6-10ページ参照

MEMO

日常点検

バッテリー液量の点検	6- 4
ウォッシャー液量の点検	6- 4
タイヤおよびホイール	6- 5

お車の手入れ

日常の手入れ	6- 9
外装の手入れ	6-10
内装の手入れ	6-14
タイヤ・ホイールの交換	6-16
ワイパーブレードの交換	6-18
電球（バルブ）の交換	6-23
ヒューズの点検・交換	6-36
エアコンフィルターの交換	6-43
アクセスキーの電池交換	6-45

日常点検

日常点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務づけられています。

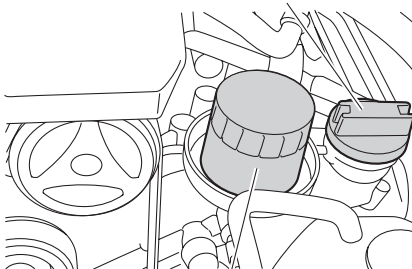
日常点検は、簡単に点検できる項目になっていますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。ここでは、お車特有の点検内容を説明しています。

その他の点検方法および実施時の注意事項は、「メンテナンスノート」をお読みください。

⚠ 注意

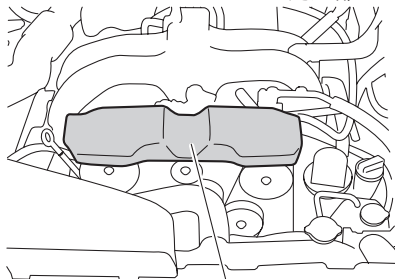
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検をするときは、プッシュエンジンスイッチがOFFでエンジンが冷えていることを確認してください。やむを得ずプッシュエンジンスイッチがONでエンジンルーム内の点検を行う際は、駐車ブレーキを確実にかけお車が動き出さないようにしてください。
- エンジン温度が高いときにプッシュエンジンスイッチをONにすると、冷却ファンが回ることがありますので注意してください。
- エンジン始動中または停止後は、エンジンオイルフィルターが高温になっております。エンジンが完全に冷えるまで、エンジンオイルフィルターには触れないでください。
- エンジンオイル注入口のキャップを脱着するときは、オイルフィルターに触れないよう充分注意してください。手や指を挟んだりやけどをするなど、思わぬけがをするおそれがあります。
- エンジン高温部、回転しているブリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分注意してください。思わぬけがをすることがあります。また、ベルトカバーに触れないでください。手がすべるなどして、思わぬけがをするおそれがあります。

エンジンオイル注入口のキャップ

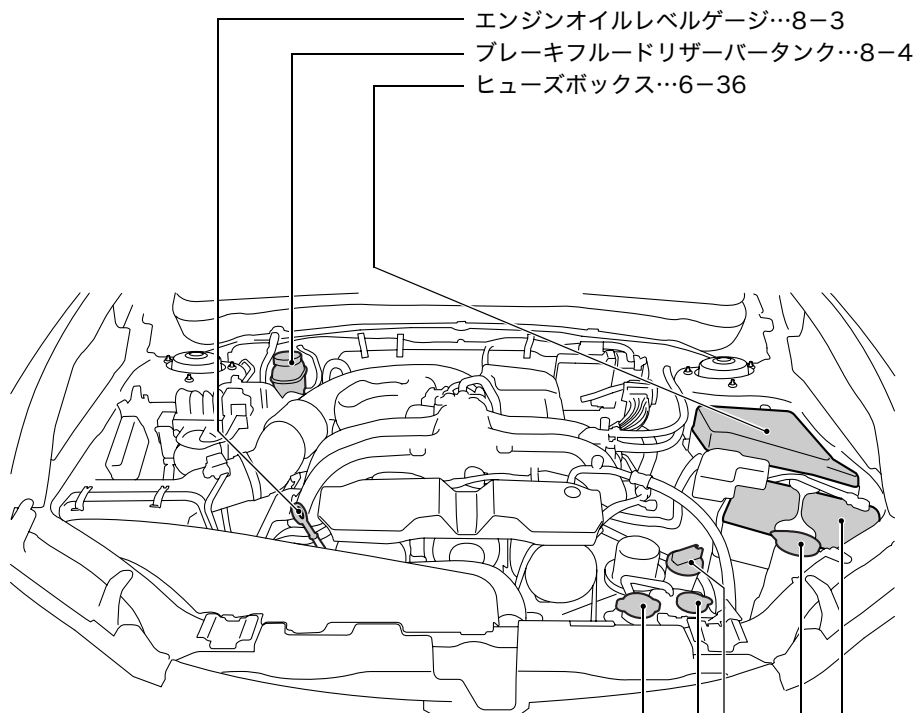


エンジンオイルフィルター 101812

ベルトカバーおよびその周辺部



ベルトカバー 102188



601418

- 冷却水注入口...7-24、8-4
- 冷却水リザーバータンク...7-24
- エンジンオイル注入口...8-3
- ウインドウウォッシャータンク...6-4
- バッテリー...6-4、7-26

バッテリー液量の点検

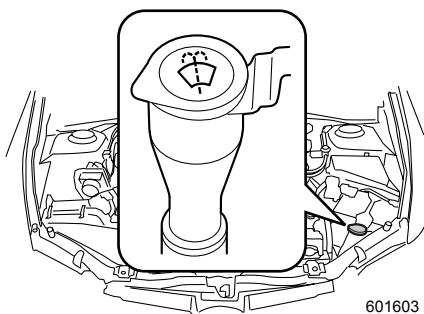
■バッテリーの液量とはときどき点検してください

バッテリーの液量が下限 (LOWER LEVEL) 以下になったまま使用または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量とはときどき点検し、少ないときは上限 (UPPER LEVEL) まで補充してください。

ウォッシャー液量の点検

運転前にウォッシャー液の量を点検してください。

ボンネットを開けると、向かって右側のヘッドランプ後ろに給水口があります。タンクはフロントとリヤの共用になっています。

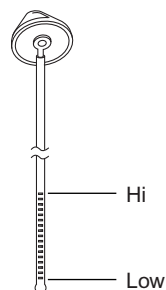


601603

キャップを外し、キャップに付いているレベルゲージで液量を点検します。

レベルゲージ下部の穴 (レベル) に液量の膜が付着していることを確認してください。

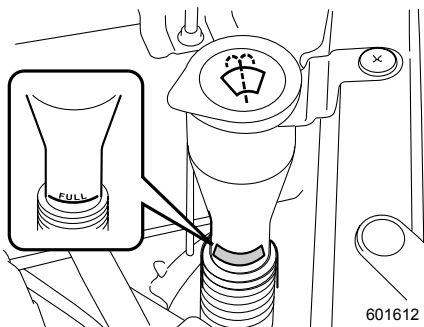
付着していない場合、ウォッシャー液をレベルゲージのHiの位置、あるいは注入口のFULL位置まで補給してください。



300172

補給するときは、注入口のFULL位置以上ウォッシャー液を入れないでください。

(FULL位置は、注水ホースのほぼ中央にあり、エンジン側に記載されています。)



601612

⚠ 注意

- 降雪時、寒冷時には、フロントおよびリヤガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。
ウォッシャー液がガラスに凍りつき視界不良を起こすおそれがあります。
 - 降雪時、寒冷時には、ウォッシャー液は外気温度に合わせた濃度にしてください。濃度がうすいと液がタンク内で凍りつくことがあります。
- ☆5-4ページ参照
- ウォッシャー液注入時、ゴミ、異物などが入らないよう注意してください。
ポンプにつまるなどの作動不良を起こすおそれがあります。

タイヤおよびホイール

■ タイヤの点検

タイヤに大きな傷がないか、くぎがささったり石が噛み込んでいないかを日常的に点検してください。タイヤが異常に摩耗していないかも併せて点検してください。
タイヤの損傷や異常摩耗が見つかったらスバル販売店にご相談ください。

⚠ 注意

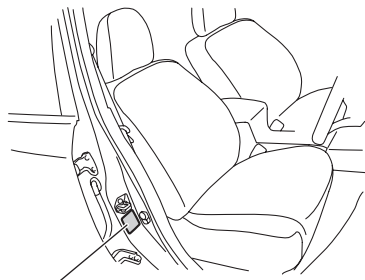
- 縁石にぶつかったときや荒れた路面を走行したときの衝撃でタイヤやホイールが目に見えない損傷を受けることがあります。このような損傷は後にならないとわかりません。縁石に乗り上げないように心がけてください。
やむを得ず縁石に乗り上げる際はゆっくりと、直角に乗り上げるようにしてください。また、駐車するときはタイヤが縁石に押しつけられていないか確認してください。
- 走行中いつもと違う振動を感じたり、車両の直進性が悪いようであれば、いずれかのタイヤおよびホイールが損傷を受けている可能性があります。
お近くのスバル販売店まで安全を確かめながら走行して点検を受けてください。

■タイヤ空気圧と摩耗

タイヤの空気圧を適正に保つことは、タイヤの寿命を延ばすだけでなく走行性能の点で非常に重要です。スペアタイヤを含むタイヤの空気圧は、最低でも月に1回は燃料給油などの際に点検し正しく調整してください。また、長距離走行の前にも必ず点検してください。

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに実施してください。空気圧ゲージを使用し、タイヤ空気圧ラベルに記載されている指定値どおりに調整してください。

タイヤ空気圧ラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。



タイヤ空気圧ラベル

601474

タイヤは、わずかな距離を走っただけでも暖まり、空気圧は上昇します。また、タイヤの空気圧は気温の影響も受けますので、空気圧の点検は屋外で運転開始前に行うのが最良です。タイヤが暖まっていると、タイヤの中の空気が膨張するために空気圧は高くなるので誤って空気圧を下げないでください。

⚠ 注意

- タイヤの空気圧は、見ためではわかりづらいため、必ず空気圧ゲージで点検してください。
- タイヤが暖まっているときは約30 kPa (0.3 kgf/cm²) 空気圧が高くなります。タイヤが冷えたときに再度、空気圧を点検・調整してください。
- タイヤが冷えているときは、お車を3時間以上駐車しておくか、走行距離が1 km以下の状態を意味します。

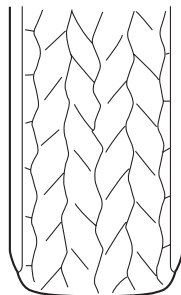
タイヤ空気圧が適正でないと、操縦性能や乗り心地を悪化させるとともに、タイヤの偏摩耗や異常摩耗の原因となります。

- 空気圧が適正である場合…

タイヤの接地面が均一に摩耗。

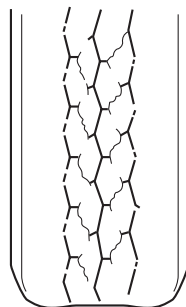
路面との接地性が良くハンドル操作が正確になります。

車輪の抵抗が減るため燃料消費量が減少します。



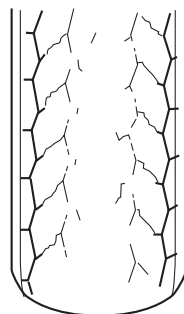
700019

- 空気圧が不足している場合…
タイヤの接地面の端部が摩耗。
車輪の抵抗が増えるため燃料消費量が増加します。



700020

- 空気圧が過大な場合…
タイヤ接地面の中央部が摩耗。
お車の乗り心地が悪くなります。
タイヤが路面の凹凸の影響を受けやすくなり、車両故障の原因になります。



700021



警告

空気圧が低い状態で高速走行するとタイヤは極端に変形し、タイヤ自体の温度が急激に高くなります。タイヤ温度の急激な上昇は、タイヤの接地面にセパレーション（剥離現象）が生じ、タイヤの破裂を引き起こす原因になります。その結果、車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

■ホイールバランス

新車時、各ホイールのバランスは調整してありますが、しばらく使用するとタイヤの摩耗とともにホイールバランスが狂ってきます。

ホイールバランスが適正でないと、特定の速度域でハンドルが小刻みに振動したり、直進性が悪くなったりするばかりか、ステアリング系統やサスペンションの故障およびタイヤの異常摩耗などの原因となります。ホイールバランスの狂いによる振動を感じたら、スバル販売店でホイールバランスを点検・調整してください。

タイヤの修理をした際、またはタイヤを交換した際もホイールバランスの調整をしてください。

■ホイールアライメント

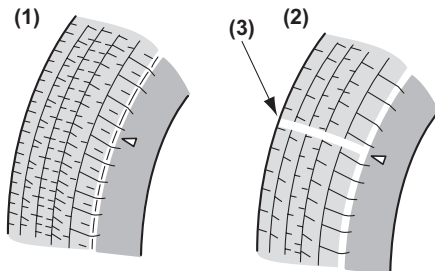
ホイールアライメントとは車の安定性を保つために設定されている、路面や車体に対するタイヤの角度です。タイヤを縁石に強くぶつけたりするとホイールアライメントが狂い、車の安定性が損なわれたりタイヤが異常に摩耗したりすることがあります。

タイヤを縁石などに強くぶつけた場合は、スバル販売店でホイールアライメントのチェックを行ってください。

■ウエアインジケーター

タイヤには、ウエアインジケーター（摩耗表示）がついています。タイヤの接地面の溝の深さが1.6 mm以下になると現れます。タイヤの接地面にウエアインジケーターが現れたときにはタイヤを交換してください。

- 新品タイヤ (1)
- 摩耗したタイヤ (2)
- ウエアインジケーター (3)



700022

⚠ 警告

ウエアインジケーターが1か所でも現れたら、タイヤの摩耗が限度以上になっています。すぐにタイヤを交換してください。

ウエアインジケーターが現れたままで雨天の高速走行をすると、ハイドロプレーニング現象※を起こしやすく、その結果車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

※水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

⚠ 注意

安全のため、タイヤの接地面を定期的に点検し、ウエアインジケーターが現れる前に新品と交換するよう心がけてください。

お車の手入れ

日常の手入れ

■手入れのしかた

次のような場所を走行した後や、塗装面に異物が付着した場合は、必ず洗車してください。

- 凍結防止剤を散布した道路や海岸地帯、ぬかるみ、砂地、砂利道などの走行（錆の原因となりますので車体の下廻り、足廻りを念入りに洗ってください）。
- コールドタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。

また、飛び石などにより、塗装面に傷がある場合、錆の原因となりますので早めに補修してください。

■保管のしかた

お車の保管、長期間の駐車には次のような場所をお奨めします。

- 直射日光が当たらない風通しのよい場所。
- 鉄道線路わき、農薬などの化学薬品が飛散する場所や木のそばから離れた場所。
- いたずらされにくい場所。



アドバイス

- ラフロードなどを走行し、泥や砂が床下部に付着したままで放置すると、錆の原因となります。ラフロードなどの走行後には、床下部を洗車し堆積した泥や砂を洗い流してください。なお、洗車する場合は先の尖ったものや鋭利なものを使わないでください。ブレーキホースや配線などに傷をつけるおそれがあります。
- 夏期の屋外にお車を止めると車内温度が非常に高くなります。可燃物（ライターやスプレー缶など）は置かないでください。また、インストルメントパネルの上、シートの上にゴム類を置かないでください。変色することがあります。
- 長期間お車を使用しない場合には、駐車ブレーキをかけずに次の要領で駐車してください。
 - ーセレクトレバーを[P]にします。
 - ー輪止め（タイヤストッパー）をします。
 また、ワイパーを立てておいてください。ブレードラバーのくせ付きや汚れの付着を防止できます。
- ボディカバーについて、次の点をお守りください。
 - ースバル純正品の中からお車に合ったものを選んでください。
 - ーときどき水洗いして砂ぼこりなどを洗い流してください。
 - ー風で飛ばされないようにしっかりかけてください。
 - ー雨の後はボディカバーを外し、お車とボディカバーを乾かしてください。
 - ーワイパーは立てないでください。

外装の手入れ

■アンテナについて

- アンテナはルーフ後方の中央部に取り付けられています。
- アンテナのロッド部は前後方向に倒れます。ラジオを聞く際は、立てた状態にしてください。
- ロッドは根元を回すことで取り外しできます。



400999



注意

- 車庫、立体駐車場など、低い天井がある場所では、ロッドを倒してください。
- 洗車機で洗車するときは、ロッドを取り外してください。
取り付けたままでは、ルーフに傷がつく場合があります。
- 外したロッドを取り付ける場合は、確実に締め付けてください。

■洗車のしかた

- 水を充分かけながら洗車します。
- ボディは柔らかいスポンジやセーム皮を使って洗います。
- 足廻り、フェンダー内側、下廻りなどを洗うときはゴム手袋を着用し、ハンドブラシなどを使って洗います。泥や砂などをよく落としてください。
- 拭き残しがないようにきれいに水を拭き取ります。
- 汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。

 注意

- 洗車を行う場合は、車体の一点に強い力がかからないように注意してください。力のかけ具合や場所によっては、万一の場合、車体がへこむおそれがあります。
- エンジンルーム内には直接水をかけないでください。エンジン始動不良やエンジン不調、電気部品、配線部、パワーステアリングの故障、ブレーキの効き不良などの原因につながるおそれがあります。
- 足廻り、フェンダー内側下廻りまたはバンパー、排気管などの突起物を洗うときは、手などにけがをしないように注意してください。
- ランプ類には、有機溶剤などを含んだ洗剤は使用しないでください。もし使用した場合には、完全に洗い流してください。ランプの損傷、または劣化を早めたりするおそれがあります。
- 洗車後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。後続車に注意しながらブレーキの効き具合を確かめてください。
- 必ずワイパースイッチをOFFにしてください。ワイパーが作動し、思わぬけがをするおそれがあります。

 アドバイス

- アルミホイールはセーム皮、スポンジなど柔らかいもので洗います。汚れがひどいときは、中性洗剤を使って洗い、ワックスがけをしてください。
- ドアガラスまわりに勢いの強い水をかけると、ドアガラスの内側に水滴が付着することがあります。

●自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納してください。
- 必ずワイパースイッチをOFF にしてください。ワイパーが洗車中に作動すると、損傷するおそれがあります。
- 洗車する場合、上面ブラシやエアブローダクトを使用しないでください。上面ブラシやエアブローダクトがリヤスポイラーに引っかかり、リヤスポイラーを損傷することがあります。
- 自動洗車機の種類によっては、ブラシが引っかかりリヤワイパーを損傷させるおそれがあります。洗車前に自動洗車機の使いかたをよく確認し、リヤワイパーを損傷させるおそれがある場合はリヤワイパーをガムテープで固定してください。係員がいる洗車場では、係員の指示に従ってください。
- 自動洗車機のブラシにより、傷がついて塗装の光沢が失われたり、劣化を早めたりすることがあります。スポンジやセーム皮での手洗いをお奨めします。

●高圧洗車機を使うとき

- 洗車ノズルと車体との距離を充分離してください。(30 cm以上)
- 同じ場所を連続して洗浄しないでください。
- 汚れが落ちにくい場合は手洗いしてください。洗車機から噴射される温水は機種によっては高温・高圧のものがあるので、モールなど樹脂部分の変形、損傷や車内に水が入ることがあります。

■ワックスのかけかた

洗車後、直射日光を避け、ボディの温度が冷えているとき（体温以下）に行います。ワックスかけは月に1回程度を目安に行ってください。

注意

- ワックスかけを行う場合は、車体の一点に強い力がかからないように注意してください。力のかけ具合や場所によっては、万一の場合、車体がへこむおそれがあります。
- ランプ類には、有機溶剤などを含んだワックスは使用しないでください。もし使用した場合には、完全に拭き取ってください。ランプの損傷、または劣化を早めたりするおそれがあります。

アドバイス

お使いになるワックス、コンパウンドの使用上の注意をよく読んでから使用してください。

■バンパー塗装面のお手入れ

バンパーの塗装面を末永くきれいな状態でお乗りいただくために、次の様な日常のメンテナンス方法をお奨めします。

- ① 中性洗剤を用いてバンパーに付着した汚れをよく洗い落としてください。
- ② 塗装表面に汚れが付着した状態で長期間放置すると、汚れが表面に固着して落ちにくくなりますので、こまめな洗車を行ってください。(少なくとも月に1回程度を目安とし、汚れが目立ってきたらその都度洗車してください。)
- ③ 洗車をしてバンパーの汚れが落ちきらない場合は、微粒子コンパウンド、またはコンパウンド入りワックスを用いてのお手入れを行ってください。
- ④ 最後にワックスかけを行ってください。



アドバイス

- バンパーに限らず、雨（酸性雨）が降ったときは、できる限り塗膜上の水分が蒸発する前の洗車をお奨めします。そのままの状態時間が経過すると、塗膜が酸で侵されることがあります。
- 鳥のふん・虫・花粉・樹液などの付着は、放置されると塗膜を侵す原因となりますので早めに洗い落としてください。

■ ガラスの手入れ

油膜などがガラスについてワイパーの拭き残しが出たときは、ガラス洗剤剤を使ってきれいに落としてください。

ガラス洗剤剤はスバル純正品を使用してください。



注意

- フロントガラスにワックスが付かないよう注意してください。ガラスに被膜、油膜が付着していると、ワイパーの拭き取りが悪くなります。また、夜間の雨降りでは、対向車のヘッドランプでガラスが乱反射して見えにくくなり、大変危険です。このようなときは、油膜落とし専用のガラス洗剤で除去してください。
- リヤガラスを車内から拭くときは、ガラス洗剤剤を使わず、柔らかい布などで軽く、電熱線に沿って拭いてください。洗剤剤を使うと、リヤウインドウデフォグの電熱線が損傷することがあります。



アドバイス

フロントガラスにワックスが付着したり、窓ガラス用はっ水剤を使用すると、ワイパーのビビリの原因になります。

● はっ水ガラスについて

フロントドアガラスには、はっ水膜のコーティングがしてあります。

フロントドアガラスについた水滴をはじき、走行中でも視界を良好に保ちます。



アドバイス

ガラスのはっ水加工は消耗品です。はっ水効果の持続期間には限りがありますので、効果を長持ちさせるためにも次の項目をお守りください。

- フロントドアガラスが汚れているときは、柔らかい湿った布などで清掃してください。
- 泥などの汚れがひどいときは、先に汚れを取り除いてからフロントドアガラスの開閉操作を行ってください。
- コンパウンド（みがき粉）入りのガラスクリーナーやワックスなどは使用しないでください。
- ガラスクリーナーを使用したとき、水滴のはじきが悪くなったりフロントドアガラスが曇るなどしたときは、柔らかい湿った布などで拭取ってください。
- 金属製のもので、霜取りなどを行わないでください。
- 自動洗車機を使用するときは、フロントドアガラスの汚れを取り除いてから行ってください。
- 水滴のはじきが悪くなった場合は、補修が必要です。また、コーティングを除去することもできます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

内装の手入れ

- ① カークリーナーや電気掃除機などでほこりを取り除きます。
- ② 水またはぬるま湯を含ませた柔らかい布で軽く拭き取ります。汚れがひどいときは中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
- ③ 直射日光を避け、風通しの良い日陰で乾燥させます。



警告

- シートベルトの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤や漂白剤を絶対に使用しないでください。シートベルトの強度が低下し、衝突などのとき十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受けるおそれがあります。清掃するときは中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾くまでシートベルトを使用しないでください。
- オーディオ、エアコンなどの電装品や各種スイッチ、ならびにこれらの周辺の清掃には、シリコーン（ケイ素高分子化合物）を含有するケミカル剤を使用しないでください。
これらの部品にシリコーン（ケイ素高分子化合物）が付着した場合は、電装品の故障の原因となるおそれがあります。
- 室内の清掃などで車内に水をかけないでください。
オーディオ類やフロアカーペット下の電気部品などに水がかかると火災や故障の原因になるおそれがあります。



アドバイス

- 内装の手入れをするときは、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸性またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変色やシミの原因になります。また、各種クリーナー類には、これらの成分が含まれているおそれがありますのでよく確認のうえ使用してください。
- 液体芳香剤をこぼさないように注意してください。含まれる成分によっては変色やシミ、塗装はがれの原因になるおそれがあります。

■本革内装の手入れ

汚れ落としには、ウール用中性洗剤を5%濃度にうすめた液を柔らかい布に軽く含ませて拭いてください。

残った洗剤分は、真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。

- 乾燥は直射日光を避け、風通しのよい日陰で行ってください。
- ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は変色、シミなどの原因になりますので使用しないでください。
- 本革内装表面に油污れなどがつくとカビやシミなどの原因になります。早めに落としてください。
- 本革内装表面を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因になります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などにビニール類を本革内装の上に置かないでください。室内が高温になるとビニールが変質して本革内装に付着することがあります。

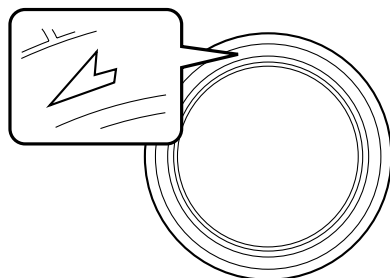
■その他の手入れ

車内のプラスチック部品を清掃するときは、きれいで柔らかい布を水あるいはぬるま湯に浸し、汚れを軽く拭き取ります。

タイヤ・ホイールの交換

■回転方向指定タイヤ

回転方向が指定されているタイヤには回転マークが表示されています。タイヤを取り付けるときには回転方向マークを前進方向に合わせてください。左右を入れ替えないでください。

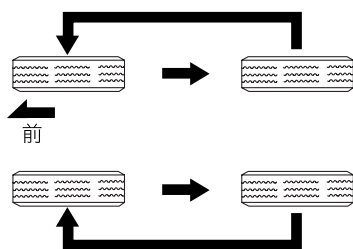


700419

■タイヤの位置交換（タイヤローテーション）

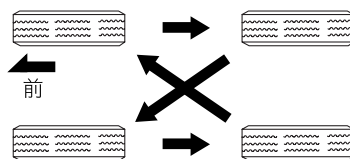
タイヤの摩耗は、各タイヤで異なります。タイヤの寿命を延ばすには、タイヤの摩耗を均一にする必要があります。5,000 kmごとに前後のタイヤの位置交換を行うことが最善です。

回転方向指定タイヤの場合



700400

回転方向指定タイヤ以外の場合



700401



アドバイス

- タイヤの位置交換をする際は、タイヤの偏摩耗や損傷を確認し、必要に応じてタイヤを交換してください。
タイヤの位置交換後、タイヤ空気圧を調整しホイールナットの締め付けを確認してください。
約 1,000 km 走行後にホイールナットの締め付け具合を点検してください。
いずれかのナットがゆるんでいるようであれば締め付け直してください。
- 前輪と後輪ではタイヤの空気圧が異なります。タイヤの位置交換後は、必ず空気圧を調整してください。

■取り付け向き指定タイヤ

取り付け向きが指定されているタイヤには、INSIDE（内側）マーク、OUTSIDE（外側）マークが表示されています。

タイヤをホイールに取り付けるときには、OUTSIDEマークが車両外側から見えるように取り付けてください。

■タイヤの交換

ホイールおよびタイヤは単なる付属品ではなく、設計上でも大変重要な役割を果たしています。

お車には、走行性能と乗り心地と寿命をバランスさせた、お車の性格に最も合ったタイヤが標準装備として取り付けられています。タイヤを交換する際は、タイヤ空気圧ラベルに指定されているタイヤを使用してください。

警告

タイヤを交換するときは、次の事項をお守りください。

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性があります。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、後輪に装着してください。
- なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。
- ラジアルタイヤ以外は装着しないでください。操縦性を危険なものにし、事故につながるおそれがあります。

■ホイールの交換

- ホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のホイールを取り付けてください。
- ホイールのサイズはサービスデータをご覧ください。

☆8-5ページ参照

警告

仕様違いのホイールを装着しないでください。ホイールがブレーキに接触したり、タイヤと車体とのすき間が変わることで操舵時にタイヤが車体に接触し、車両のコントロールができなくなり、事故につながるおそれがあります。

アドバイス

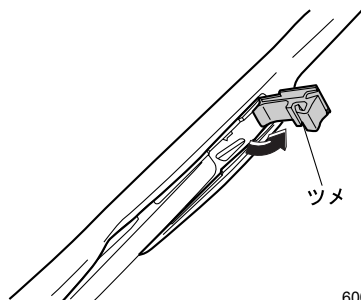
- ホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車の物は使えない場合があります。お手持ちの物をご使用になるときは、スバル販売店にご相談ください。
- アルミホイールには荷重制限がありますので、交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- タイヤやホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

ワイパーブレードの交換

■ワイパー本体の交換

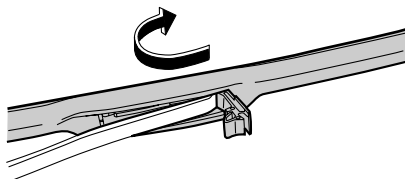
●フロント

- ① ワイパーブレードについているツメを持ち上げます。



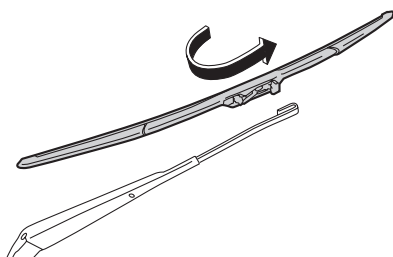
600793

- ② ワイパーブレードを矢印の方向にずらしながら引いて外します。



600794

- ③ 新品のワイパーブレードについているツメを起こし、ワイパーアームにブレードを取り付けます。
このとき、ブレードが確実に固定されていることを確認します。

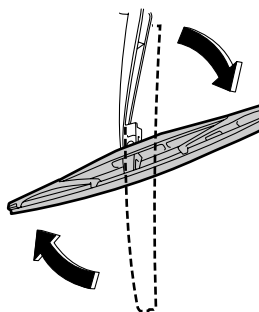


600795

- ④ 手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻します。

●リヤ

- ① ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを図のように回します。

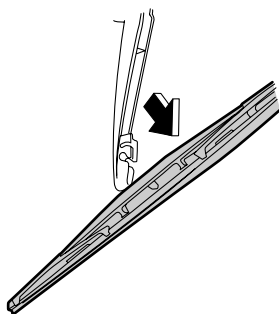


700912

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ②ワイパーアームを手で支えながら、ワイパーブレードを手前に引き、取り外します。



700913

- ③ワイパーアームに、新品のワイパーブレードを取り外しの逆手順で取り付けます。
④手を添えながらワイパーアームを元の位置に戻します。

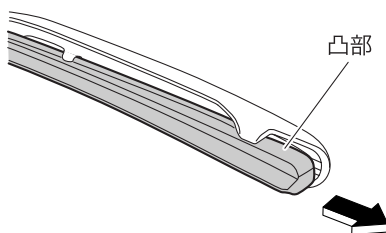
■ブレードラバーの交換方法

●フロント

- ①ワイパーブレードを取り外します。

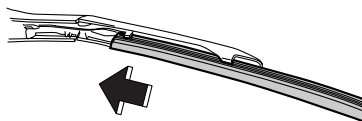
☆6-18ページ参照

- ②ワイパーブレードからブレードラバーの凸部分をつまんで引き抜きます。



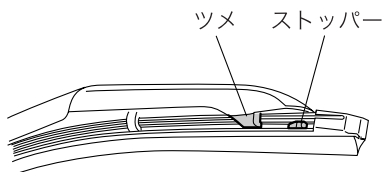
701167

- ③新品のブレードラバーを挿入します。このとき、ラバーの溝を間違えないように挿入してください。



600797

- ④ ブレードラバー先端のストッパーにブレードのツメを確実に挿入します。
適切に挿入されていないとガラス面に傷をつけるおそれがあります。

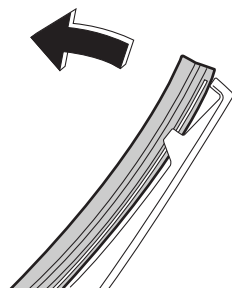


600798

- ⑤ ブレードラバーが確実に固定されていることを確認します。
適切に装着されていないとワイパー作動時、ガラス表面に傷をつけるおそれがあります。
⑥ ワイパーブレードを取り付けます。

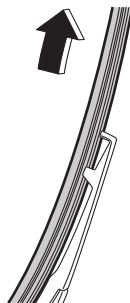
●リヤ

- ① ワイパーブレードを取り外します。
☆6-19ページ参照
② ブレードラバー端部をワイパーブレードから外します。



700914

- ③ ワイパーブレードからブレードラバーを引き抜きます。



700915

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ④ワイパーブレードに新品のブレードラバーを挿入します。このとき、ブレードラバーの溝部にワイパーブレードのツメ部が挿入されていることを確認します。適切に装着されていないと、ガラス面に傷をつけるおそれがあります。
- ⑤ワイパーブレードを取り付けます。



注意

- ワイパーブレードを外したときは、ワイパーアームを倒さないでください。フロントガラスに傷がつくことがあります。
- 起こしたワイパーを戻すときは、手を添えながらゆっくりとウインドウガラス面へ戻してください。スプリングの力だけで離れた位置から戻すとワイパーアームの変形や、フロントガラスに傷がつくことがあります。

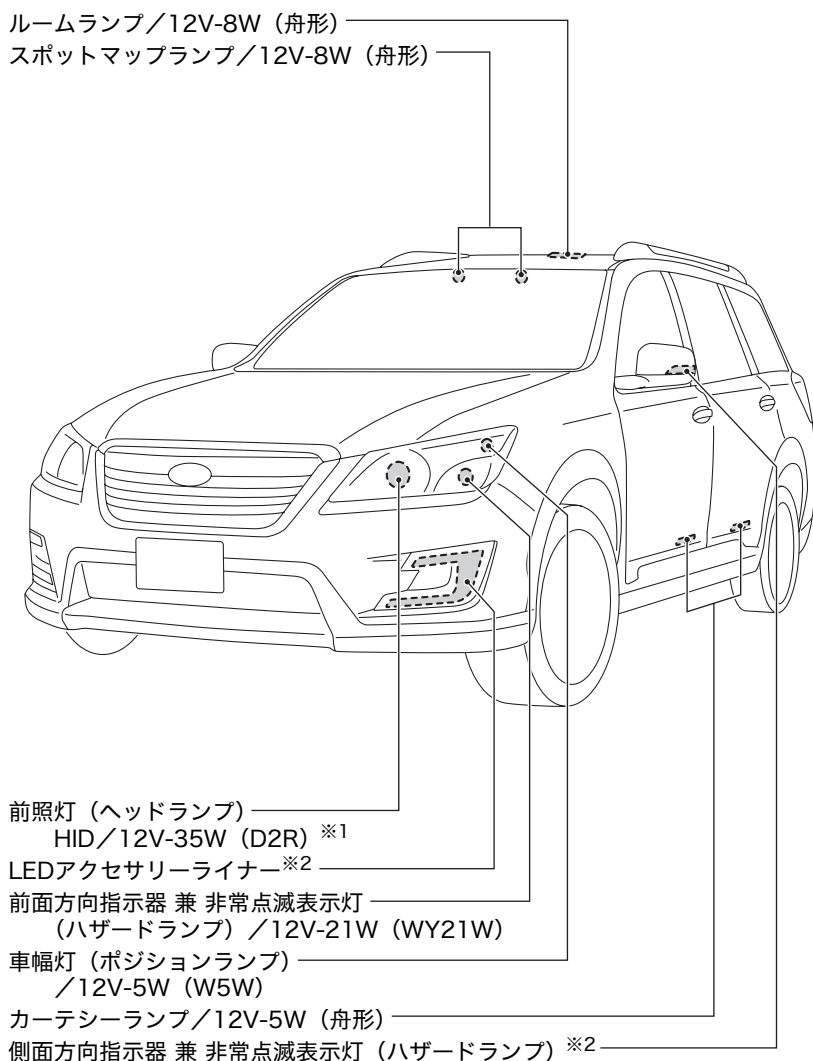


アドバイス

- ワイパーブレード本体およびブレードラバーはスバル純正品をご使用ください。純正品以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- ブレードラバーは交換部品です。傷んだままのブレードラバーを使い続けるとガラスに傷をつけるおそれがあります。払拭性能が落ちてきたり、スジつきが目立つようになったら早めに交換してください。

電球（バルブ）の交換

名称／容量およびワット数（型式）



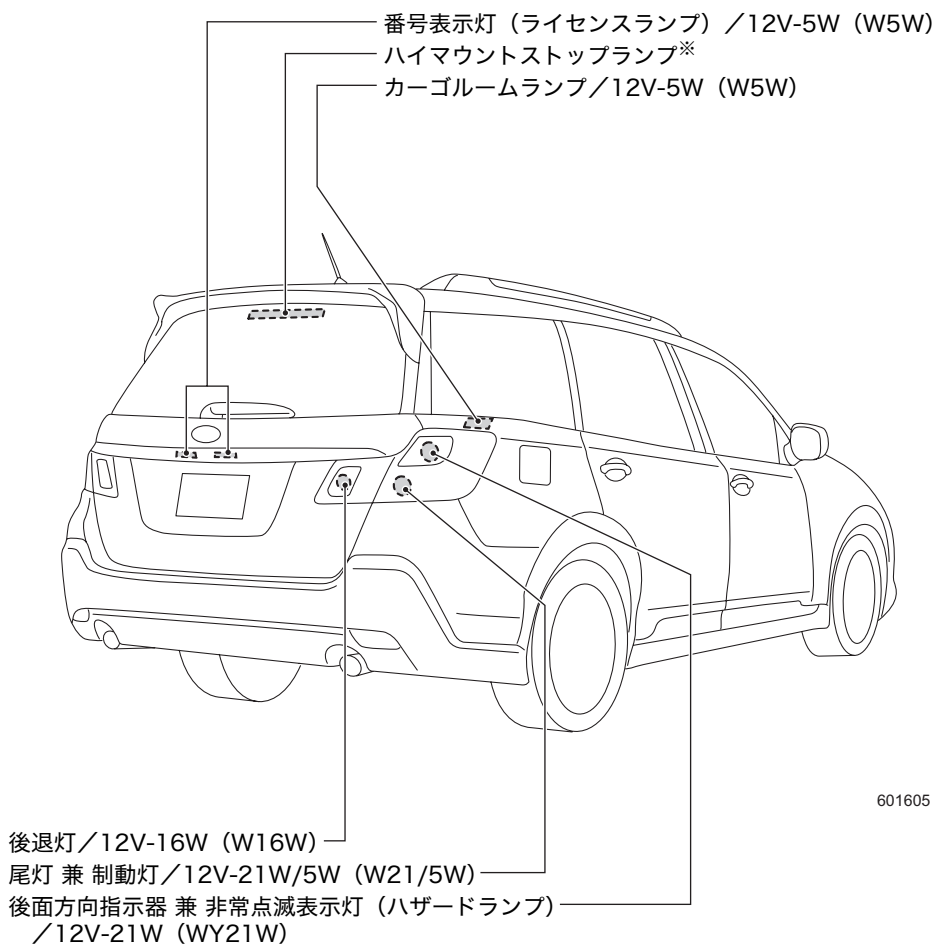
601604

日常点検・お車の手入れ

※1 HIDヘッドランプの交換はスバル販売店にご相談ください。

※2 LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

名称／容量およびワット数（型式）



601605

※LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

 警告

HID ヘッドランプは高電圧を使用しています。不適切な取り扱いや分解を行うと、感電するおそれがあります。HID ヘッドランプの電球交換はスバル販売店にご依頼ください。

 注意

- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- 電球を交換するときは、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。
- 電球を交換するときは、電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

 アドバイス

- 電球が点灯しない場合、ヒューズが切れていることがあります。ヒューズの点検も行ってください。

☆6-36ページ参照

- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差による空気中の水分が付着するもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
- 電球を交換するときに、部品の破損などが心配な方はスバル販売店にご相談ください。
- 室内灯を外す場合などでマイナスドライバーを使用するときは、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
- 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
- ヘッドランプを交換したときは法律で定められた光軸調整が必要となります。スバル販売店にご相談ください。
- ランプ本体をネジで締め付けるとき、締め過ぎてランプ本体を割らないように気をつけてください。

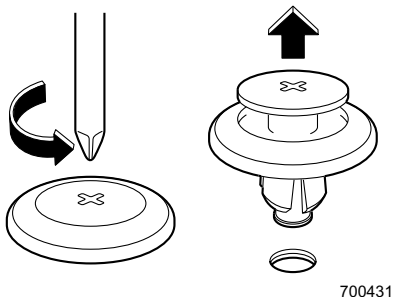
次ページへ ⇒

⇒前ページより

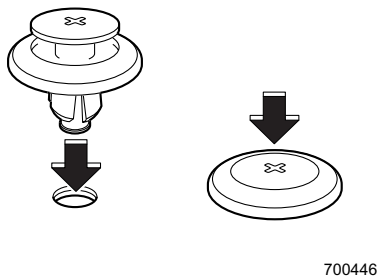
交換する電球によっては、クリップを外す作業があります。クリップは次の手順で取り外します。

タイプA

- ① プラスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
- ② クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

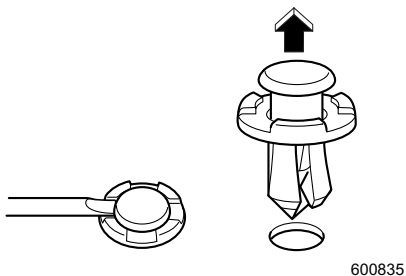


- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

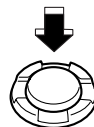
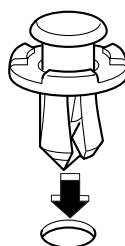


タイプB

- ① マイナスドライバーでクリップ中央部を引き出します。
- ② クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。



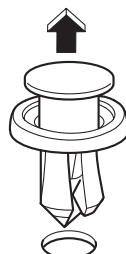
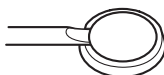
- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。



600836

タイプC

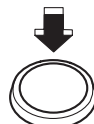
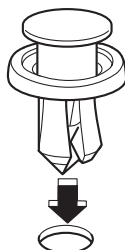
- ① マイナスドライバーでクリップ中央部を引き出します。



601639

- ② クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

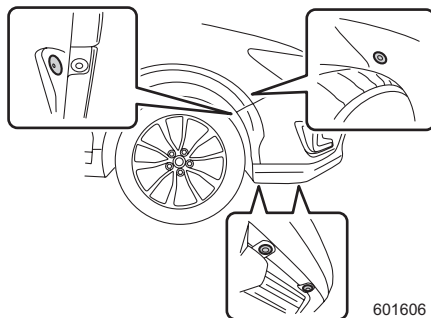


601640

■車幅灯、前面方向指示器 兼 非常点滅表示灯（ハザードランプ）

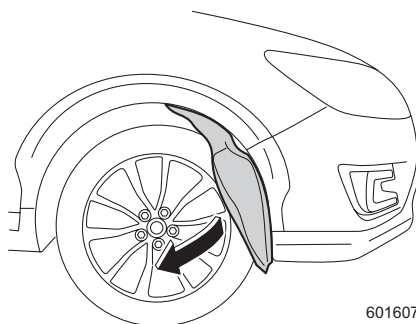
●準備

- ① エンジンを始動し、交換する電球の側と反対側にハンドルをいっぱいに回します。
- ② エンジンを停止します。
- ③ フェンダー内張りのクリップ（4本）を外します。



601606

- ④ 内張りをめくります。



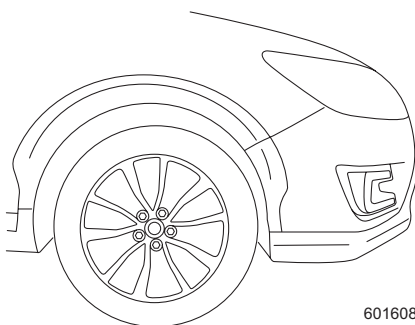
601607



アドバイス

電球交換作業後は、フェンダー内張りを元の状態に戻してからクリップを取り付けてください。

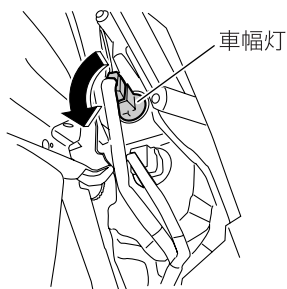
☆6-26ページ参照



601608

●車幅灯（ポジションランプ）

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

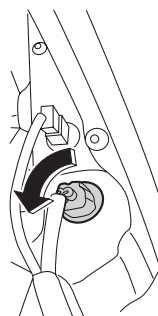


600954

- ② 電球をソケットから引き抜きます。

●前面方向指示器 兼 非常点滅表示灯（ハザードランプ）

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

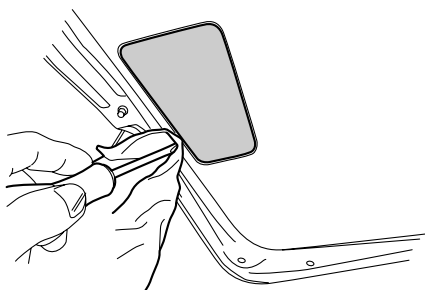


601613

- ② 電球をソケットから引き抜きます。

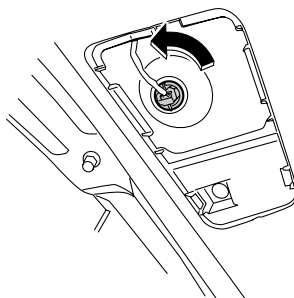
■後退灯

- ① リヤゲート裏の内張りにマイナスドライバーを差し込み、カバーを取り外します。



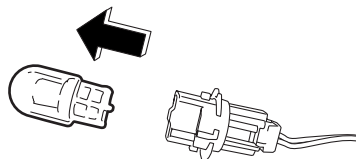
601044

- ② ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。



600957

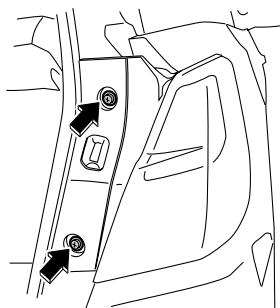
- ③ ソケットから電球を引き抜きます。



600736

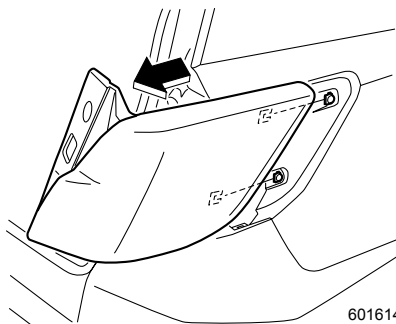
■尾灯 兼 制動灯、後面方向指示器 兼 非常点滅表示灯 (ハザードランプ)

① ネジを2本外します。



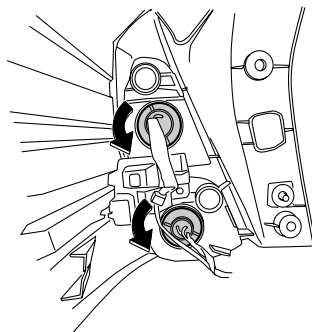
600958

② ランプ本体を後ろに引き、取り外します。



601614

③ ソケットを反時計回りに回し、ソケットを取り外します。



600960

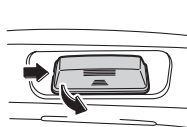
④ ソケットから電球を引き抜きます。

■番号表示灯（ライセンスランプ）

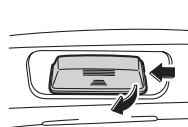
- ① 助手席側の番号表示灯はカバーの左側を右に押してから引き出して、ランプ本体を取り外します。

運転席側の番号表示灯はカバーの右側を左に押してから引き出して、ランプ本体を取り外します。

<助手席側>

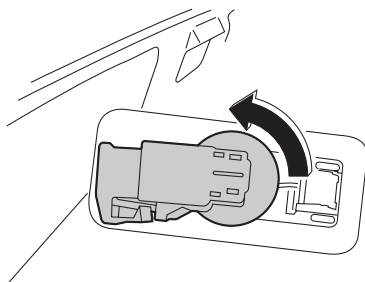


<運転席側>



601685

- ② ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

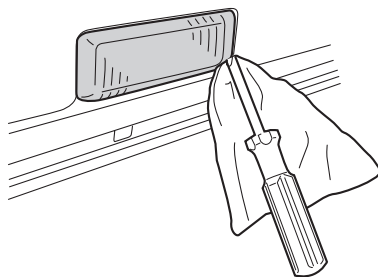


600732

- ③ ソケットから電球を引き抜きます。

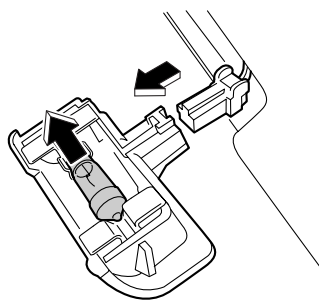
■カーテシーランプ

- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



601615

- ②コネクターを外してから電球を引き抜きます。



600846

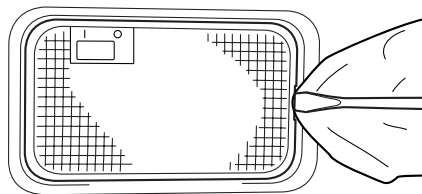


アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

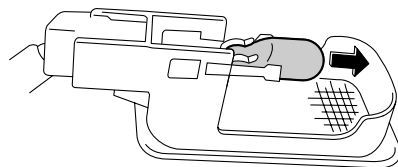
■カーゴルームランプ

- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



600886

- ② 電球を引き抜きます。



600988

⚠ 注意

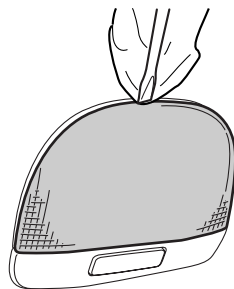
カーゴルームランプは、カーゴルームランプスイッチがDOOR 位置にある場合、リヤゲートが開くと点灯します。交換作業はスイッチをOFFにするか、リヤゲートを閉めて行ってください。新品の電球に交換した際、ランプが点灯しやけどをするおそれがあります。

🏠 アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

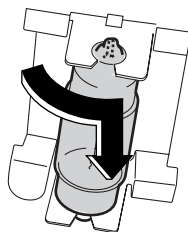
■ルームランプ

- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



800387

- ② 電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。



600963

⚠ 注意

ルームランプは、ルームランプスイッチがON位置、またはDOOR 位置の状態ではドアが開くと点灯します。交換作業はスイッチをOFFにして行ってください。新品の電球に交換した際、ランプが点灯しやけどをするおそれがあります。

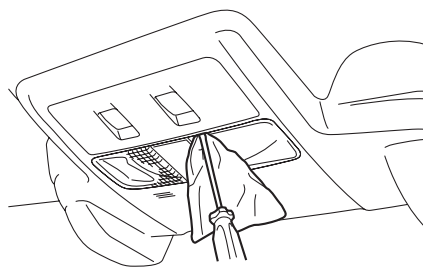


アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

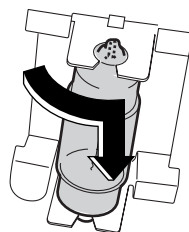
■スポットマップランプ

- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



601573

- ② 電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。



600963



注意

スポットマップランプは、マップランプスイッチが DOOR 位置にある場合、ドアが開くと点灯します。交換作業はスイッチを OFF にするか、ドアを閉めて行ってください。新品の電球に交換した際、ランプが点灯しやけどをするおそれがあります。



アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

■その他のランプ

スバル販売店へ交換を依頼してください。

ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに、ランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。

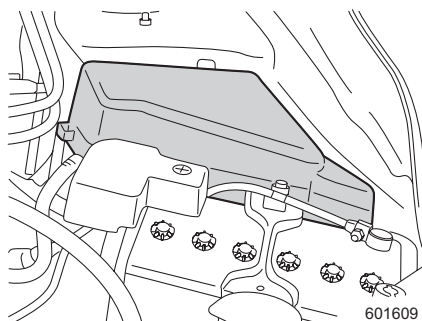
この場合、次の手順で確認してください。

- ① プッシュエンジンスイッチをOFFにします。
- ② ヒューズが切れていないかを点検します。
 - 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏および室内のコイントレイ裏の表示で確認し、点検します。
- ③ 切れているときは、ヒューズを交換します。

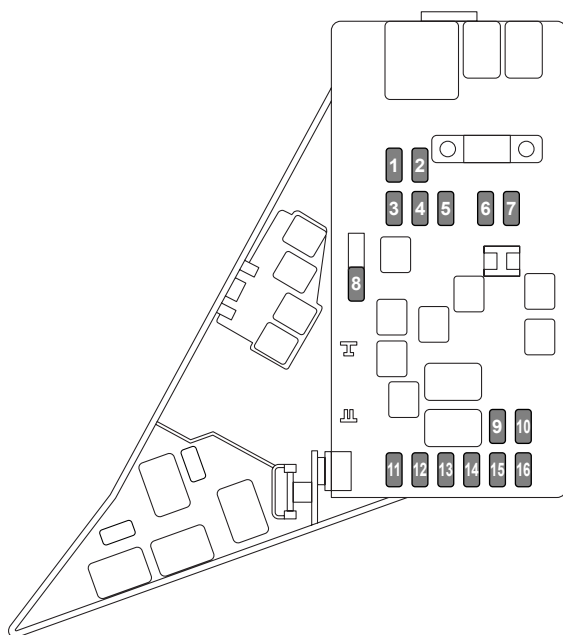
■ヒューズボックスの位置

●エンジンルーム内

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。



エンジンルームヒューズボックス

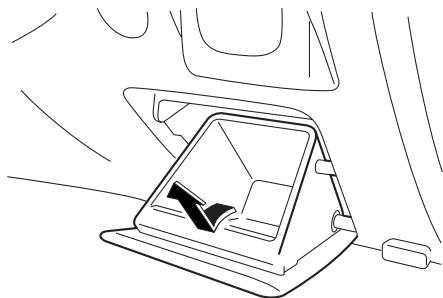


601610

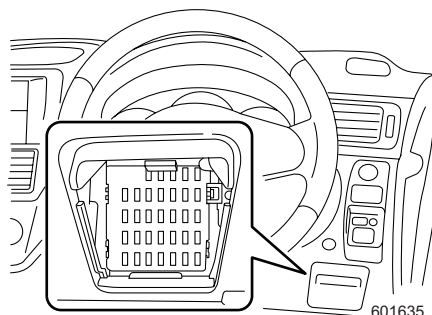
No.	表示	内容	容量 (A)
1	ABS SOL	ABS VDCユニット	30
2	MAIN FAN	ラジエーターメインファン	25
3	SUB FAN	ラジエーターサブファン	25
4	空き	—	—
5	AUDIO AMP	オーディオアンプ	10
6	H/L LH	ヘッドランプ 左側	15
7	H/L RH	ヘッドランプ 右側	15
8	BACK UP	バックアップ (室内ランプ類など)	20
9	HORN	ホーン	15
10	R.DEF	リヤウィンドウデフォグガー	25
11	FUEL PUMP	フューエルポンプ	15
12	AT+B	ATコントロールユニット	15
13	EGI+B	エンジンコントロールユニット	7.5
14	HAZARD	ターンハザード	15
15	LIGHTING	パーキングランプ	15
16	ALT-S	オルタネーター	7.5

●室内

コイントレイを開け、コイントレイを引き上げて取り外します。

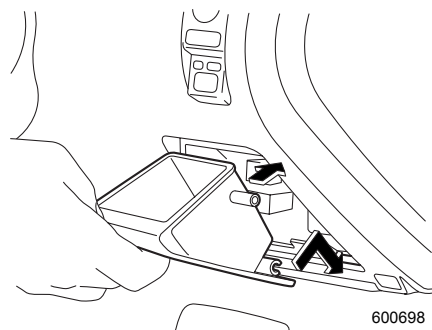


600740



601635

取り付けるときは、上部の突起部を先に入れてから、下側のツメを確実に合わせて取り付けてください。

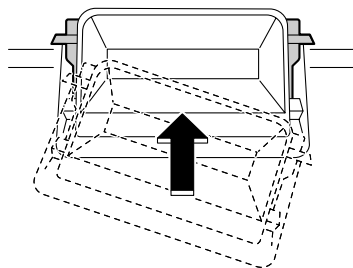


600698



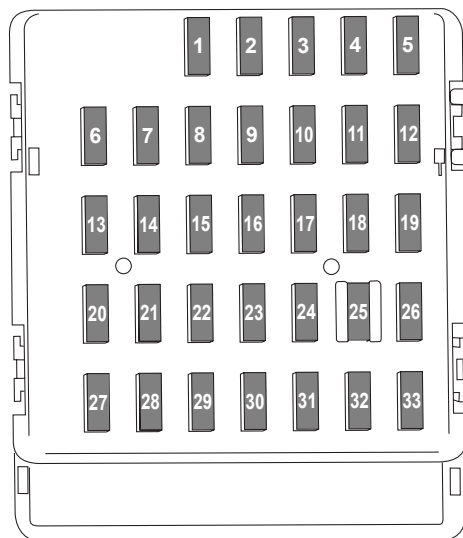
アドバイス

上側の突起部は、コイントレイを図のように斜めにすると出し入れがしやすくなります。



800670

室内ヒューズ&リレーボックス



600701

No.	表示	内容	容量 (A)
1	R.FOG C.FAN TRAIL	—	20
2	(UNIT +B2)	アイサイト	10
3	DOOR LOCK	集中ドアロックスイッチ、 キーレスエントリー	15
4	IG2	ナビゲーションシステム	10
5	METER IG	メーター	10
6	MIR	リモコンミラー	7.5
7	UNIT +B	統合ユニット	15
8	STOP	ストップランプ	20
9	WIPER DEICE	フロントワイパーデアイサーリレー	15
10	D-OP +B	OP用パワーサブライ	7.5
11	TURN IG	ターンシグナルユニット	7.5
12	UNIT IG1	コントロールユニット	15
13	12 V PLUG	電源ソケット	20
14	TAIL CLEAR -ANCE	リヤコンビランプ	15

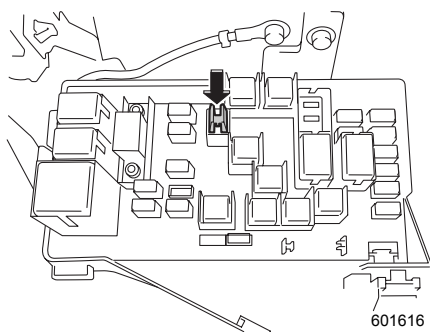
No.	表示	内容	容量 (A)
15	(FWD)	—	—
16	ILM	イルミネーション	10
17	SEAT HTR	シートヒーター	15
18	LAMP IG	バックアップランプ	10
19	空き	—	—
20	CIGAR	シガレットライター、電源ソケット	10
21	START	スターターリレー	7.5
22	A/C IG	エアコン	15
23	R. WIPER WASHR	リヤワイパー & ウォッシャー	15
24	AUDIO NAVI	オーディオ	15
25	SRS AIR BAG	SRSエアバッグシステムメイン	15
26	IG1	パワーウインドゥリレー	7.5
27	BLOWER	ブロアーファンリレー	15
28	BLOWER	ブロアーファンリレー	15
29	F. FOG	フロントフォグランプリレー	15
30	F. WIPER	フロントワイパー	30
31	ACC	オートエアコンユニット	7.5
32	空き	—	—
33	UNIT IG2	ABS VDCユニット	7.5

■ヒューズの点検・交換

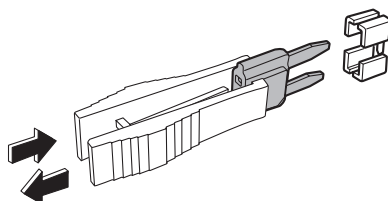
●ヒューズの外しかた

故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏および室内コイントレイ裏の表示で確認します。

ヒューズプラーをエンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。



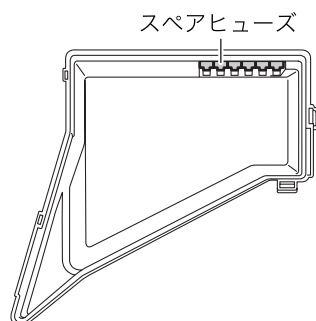
ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。



600160

●ヒューズが切れているとき

ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側にあるスペア（7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A各1個）と交換してください。

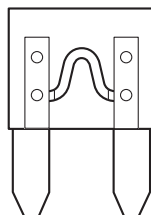


800385

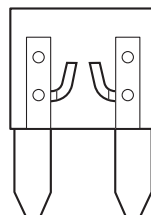
ヒューズボックスカバーの裏

切れたヒューズと同じ容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。

切れていない状態



切れている状態



601389

⚠ 注意

ヒューズを交換するときは次の事項をお守りください。

- 必ずプッシュエンジンスイッチを OFF にしてください。ON や ACC の場合、ショートするおそれがあり危険です。
- 指定容量のヒューズに交換してください。
指定以外のヒューズを使うと故障につながります。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。

🏠 アドバイス

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、スバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。
- ヒューズ交換後はスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒューズが切れていないとき

- ランプ類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。
- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

☆6-23ページ参照

- ランプ類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

エアコンフィルターの交換

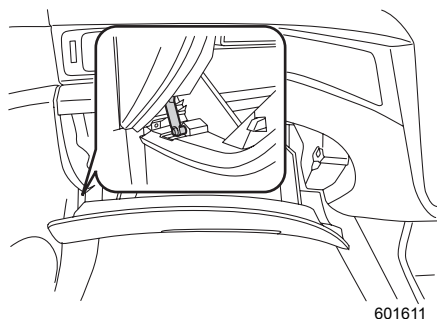
エアコンにはエアコンフィルターが装着されています。
快適にお使いいただくため定期的に交換してください。

■交換時期

12,000 km走行ごとまたは1年ごと（どちらか早い方で実施）

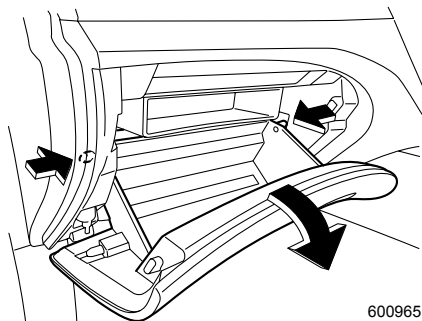
■交換方法

- ①グローブボックスから、グローブボックスを固定しているダンパーを引き抜いて取り外します。



601611

- ②グローブボックスの両側についているストッパーを内側に押し込んで、グローブボックスを取り外します。



600965

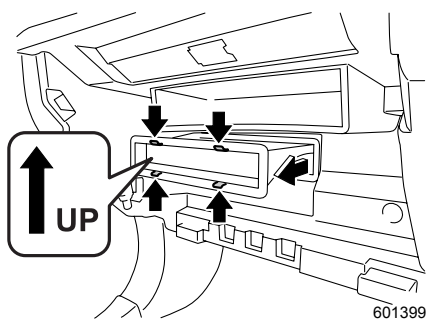
次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ③ ツメを押しながらエアコンフィルターを手前に引き出します。

- ④ 新品と交換します。

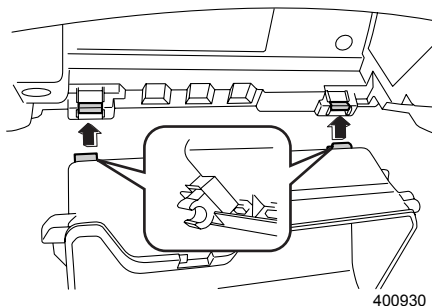
交換するときは、エアコンフィルターの矢印が図のようになるように取り付けます。



アドバイス

古いエアコンフィルターを引き出す際は、付着した異物をフィルター挿入部に落とさないようにゆっくりと引き出してください。

- ⑤ グローブボックス下側にあるツメ部とピン部を合わせ取り付けます。



- ⑥ ダンパーをグローブボックスに取り付けます。



注意

グローブボックス脱着の際、ハーネス（電線）などの部品に触れないようにしてください。

アクセスキーの電池交換

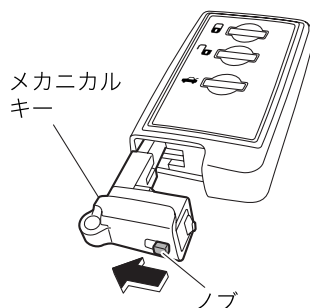
キーレスアクセス & プッシュスタートシステムの作動や電波式リモコンドアロックの作動距離が不安定になった場合は電池の消耗が考えられますので、早めに電池を交換してください。

使用電池……ボタン電池CR1632

電池交換をする場合は、必ず身体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気によりアクセスキーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できる物をあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

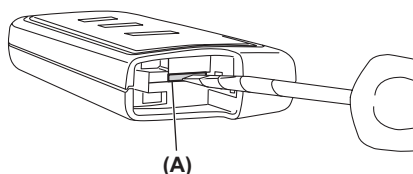
また端子部分などを曲げたり、水や油などでぬらしたり、ゴミなどの異物を入れると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

- ① ノブを引きながらメカニカルキーを取り出します。



201149

- ② 溝部 (A部) にビニールテープや布で覆ったマイナスドライバーを差し込んでカバーを外します。

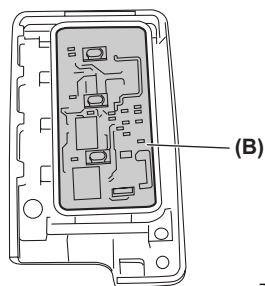


601386

次ページへ ⇒

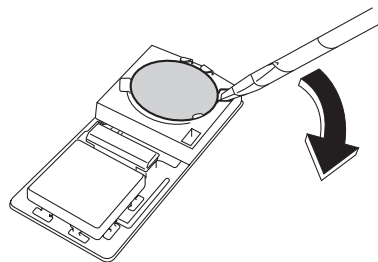
⇒前ページより

- ③ カバー内の基板 (B部) を取り外し、電池面を上 にします。



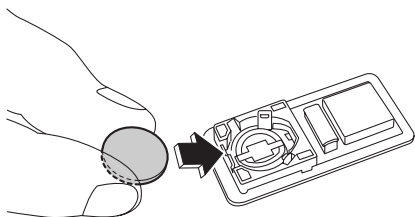
700918

- ④ 電池と基板 (B部) の間に絶縁テープなどを巻いたドライバーを差し込んで図のように取り出します。

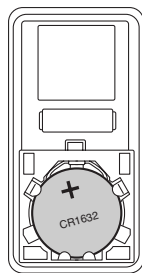


601387

- ⑤ 新しい電池の⊕側を上にして図のように挿入し、カバーを確実に取り付けてください。



S00188



S00189

⚠ 注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないようにとくに注意してください。



アドバイス

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池はスバル販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。
- 電池交換は販売店に依頼することをお奨めします。
- 電池は新品を使用してください。
- 電池交換後はアクセスキーの機能が正常であることを確認してください。
- ボタン電池を廃棄する場合は、テープなどで端子部を絶縁してください。
電池が重なり合ったり、他の金属製品を混ぜたりすると電池がショートして、漏液、発熱、破裂するおそれがあります。また、自治体が条例などを定めている場合は、その条例に従ってください。

MEMO

工具、スペアタイヤ

工具	7- 2
応急用スペアタイヤ	7- 4

パンクしたとき

パンクしたとき	7- 7
タイヤ交換手順	7- 8

発炎筒

発炎筒について	7-14
---------------	------

故障したとき

踏切で動けなくなったとき	7-16
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき	7-16
路上で動けなくなったとき	7-17
故障時の対応方法と連絡先	7-17

けん引のとき

けん引してもらうとき	7-18
他車をけん引するとき	7-22

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき	7-24
-------------------	------

バッテリーが上がったとき

バッテリーが上がったとき	7-26
--------------------	------

事故が起きたとき

対処のしかた	7-29
--------------	------

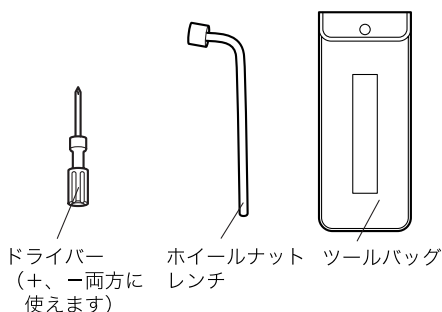
工具、スペアタイヤ

工具

次の工具が装備されています。

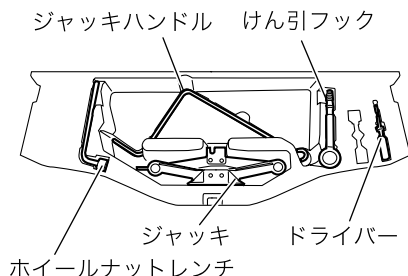
- 基本工具（ドライバー、ホイールナットレンチ）
- ジャッキ・ジャッキハンドル
- けん引フック

工具は定めた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。使用後は元の場所に返してください。



701552

ドライバー、ホイールナットレンチは、荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボードの下段に格納することができます。

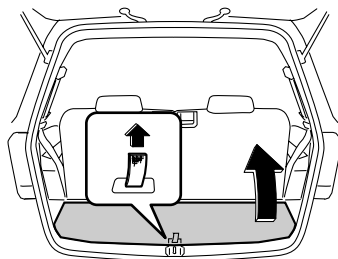


700738

■ジャッキ、ジャッキハンドルの取り出し方

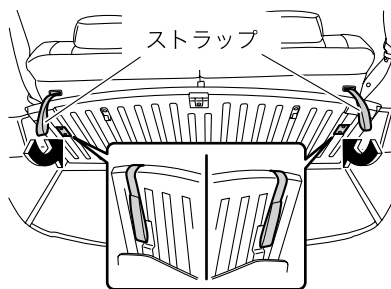
カーゴルームの床下に収められています。

- ① 荷室ダブルアンダーボックス上段の中央のリッド（フタ）を開けます。
またはリバーシブルカーゴフロアボードを取り出します。



700774

- ② 荷室ダブルアンダーボックスの場合は、サードシートの背もたれ裏側にあるストラップを、中央のリッド（フタ）の裏側に固定します。



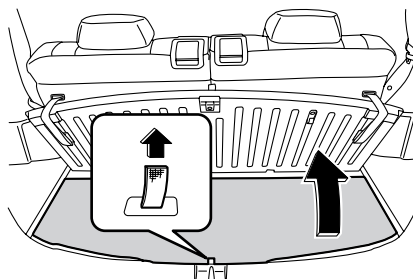
401180



アドバイス

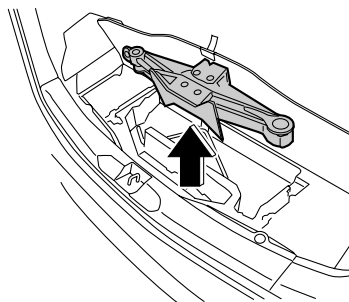
ストラップは外れないよう確実に固定してください。

- ③ 荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボード下段のカバーを開けます。



401181

- ④ ジャッキを取り出します。

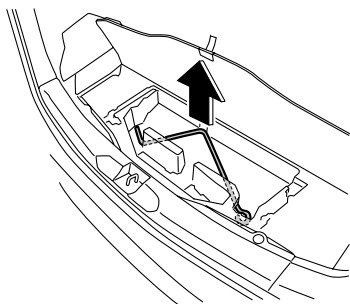


700735

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ⑤ ジャッキハンドルを取り出します。



700736

応急用スペアタイヤ

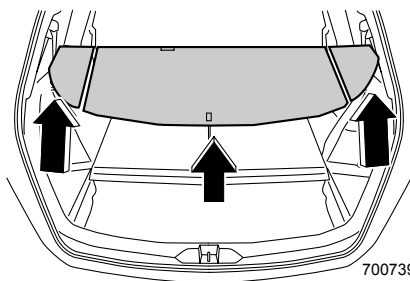
■スペアタイヤの取り出しかた

カーゴルームの床下に収められています。

- ① サードシートの背もたれを前に倒します。

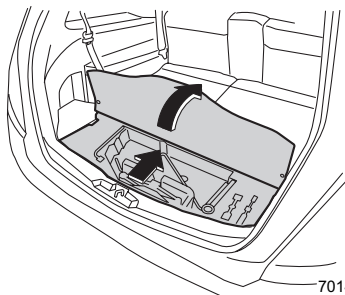
☆2-71ページ参照

- ② 荷室ダブルアンダーボックス上段の中央のリッド（フタ）またはリバーシブルカーゴフロアボードを先に取り出してから、左右のリッド（フタ）を取り出します。



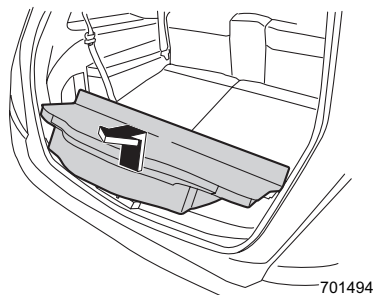
700739

- ③ 荷室ダブルアンダーボックス下段のカバーを開け、ボックスを奥にスライドさせます。



701493

- ④ ボックスを上を持ち上げてから手前に取り出します。



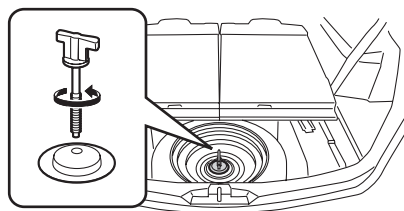
701494



アドバイス

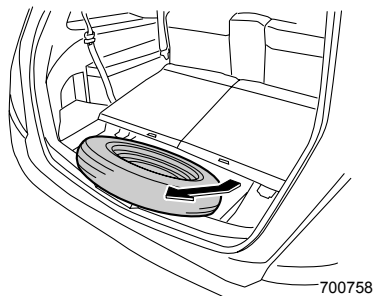
荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボード下段は戻したあと、ボディとのすき間をなくすため手前に引いてください。

- ⑤ スペアタイヤを固定しているネジを外します。



701553

- ⑥ スペアタイヤを一度手前に引いてから、タイヤを斜めに向けて取り出します。



700758

 注意

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことをお守りください。守らないと思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 応急用スペアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください。(月1回程度) 空気圧が不足している状態で走行しないでください。
空気圧：420 kPa (4.2 kgf/cm²) (走行前のタイヤが冷えているとき)
- 指定(車載)の応急用スペアタイヤを使ってください。
この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、80 km/h以下の速度で走行してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- ウェアインジケータが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。
- 同時に2つ以上の応急用スペアタイヤを装着しないでください。

パンクしたとき

パンクしたとき

警告

- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。お車が発進したり、ジャッキが外れるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたら車両の下にもぐり込まないでください。ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- 同乗者がいる場合は、必ずお車から降ろしてください。
- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他のお車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を変形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを[P]にしてください。
- 輪止め（タイヤストッパー）などをしてお車を固定してください。
- ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め付けてください。

☆7-11ページ参照

- 車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。
- ガレージャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

タイヤ交換手順

■交換前にすること

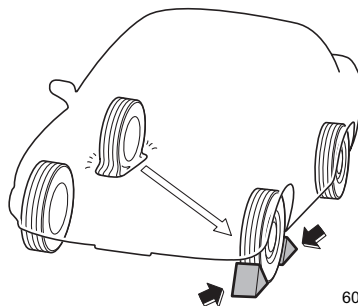
- ① 交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所にお車を止め、エンジンを止めます。



注意

地面が平坦で硬く、お車が安定する安全な場所を選んで止めてください。

- ② 駐車ブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを[P]にします。
- ③ 非常点滅表示灯（ハザードランプ）を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板または停止表示灯を使用します。
- ④ お車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め（タイヤストッパー）をします。
(図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。)



600122

- ⑤ ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、工具を取り出します。
- ☆7-2ページ参照
- ⑥ 応急用スペアタイヤを、交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

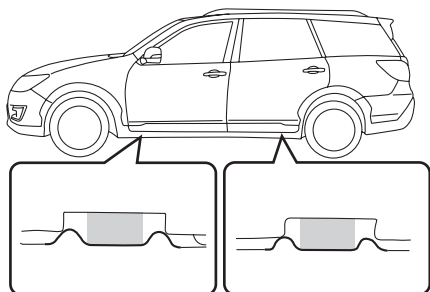


アドバイス

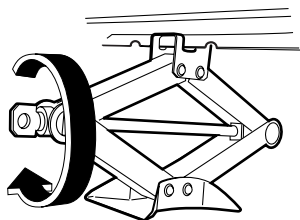
輪止め（タイヤストッパー）および停止表示板または停止表示灯は車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

■ジャッキアップするとき

- ① ジャッキは、交換またはタイヤチェーンを脱着するタイヤに近いジャッキアップポイントの下に置きます。ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。



701534



701123

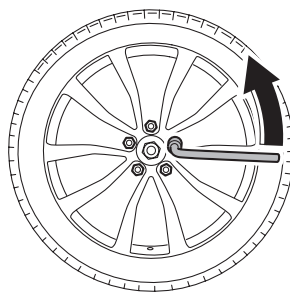


注意

ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。

ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

- ② ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。



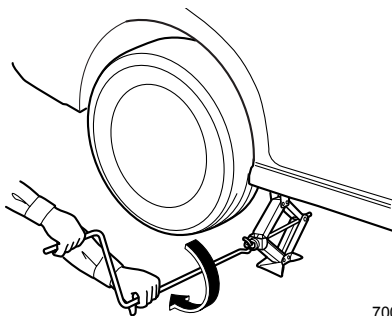
701535

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

⇒前ページより

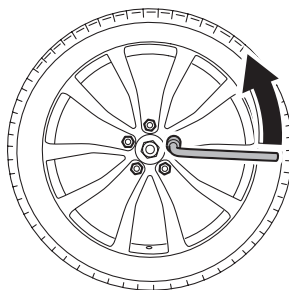
- ③ ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。



700744

■タイヤ交換

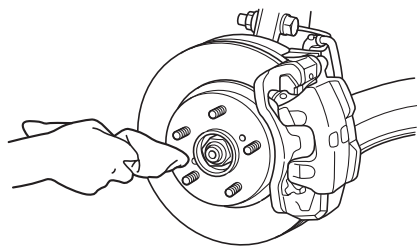
- ① ホイールナットを外します。



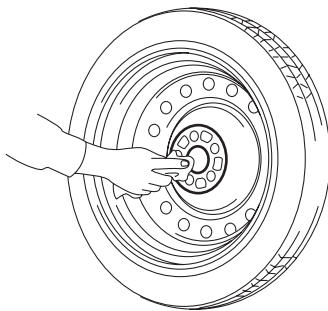
701535

- ② タイヤを付け替えます。

このとき、ホイール取り付け部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。また、ネジ部に傷などの異常がないか確認してください。



600061



600162

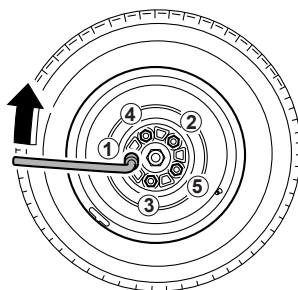
⚠ 注意

ネジ部に異常がある場合は、直ちにスバル販売店にご相談ください。

🏠 アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

- ③ ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
- ④ ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。
- ⑤ ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。



600192

レンチの柄の先端にかける力	締め付トルク（参考）
400～500 N（40～50 kg）	120 N・m（12 kg・m）

⚠ 注意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油がついていると締め過ぎの原因になります。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ⑥ ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチは、荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボードの下段の元の場所に格納します。

☆7-2ページ参照

- ⑦ タイヤ交換後、最初はゆっくり走行し、異音や振動がないか確かめます。
⑧ タイヤを交換した後に1,000 km程度走行したら、手順⑤の要領でもう一度締め付けてください。



注意

車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受けてください。



アドバイス

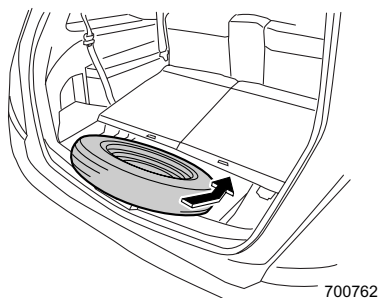
タイヤを交換したときは、スバル販売店で点検することをお奨めします。

■パンクしたタイヤの格納

センターキャップ付ホイール装備車は、センターキャップを取り外してください。

ホイール外側の面を下に向け、タイヤを斜めに向けて入れます。

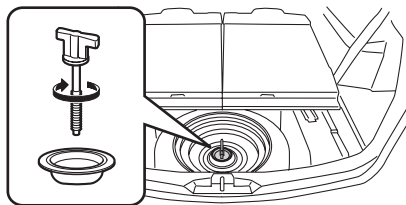
奥へ押し込み、スペアタイヤが格納されていた場所にしまいます。



アドバイス

ホイールに傷が付かないように、注意して入れてください。

スペーサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。



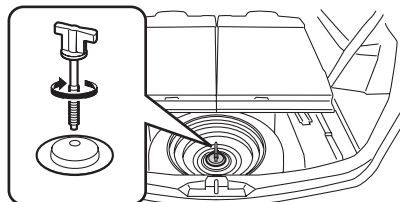
701538



アドバイス

荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボード下段はパンクしたタイヤを格納後、元の場所へ収納できません。下段は荷室に置いてください。

パンク修理後、応急用スペアタイヤを戻すときはスペーサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。



701539

■タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチは、荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボードの下段の元の場所へ戻します。

☆7-2ページ参照

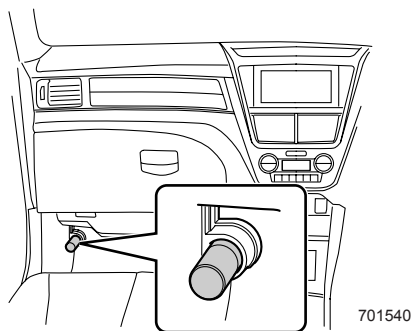
- タイヤ交換後、最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- パンク修理後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤ（修理したタイヤ）に交換してください。

発炎筒

発炎筒について

グローブボックス左下に発炎筒を備えつけています。

発炎筒の外筒に書いてある使用方法を、あらかじめ確認しておいてください。

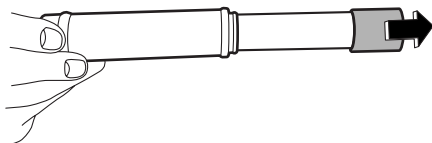


■使いかた

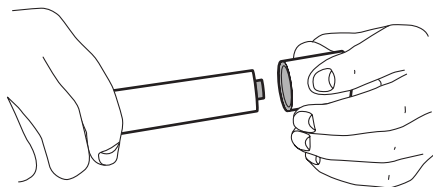
① ケースをひねり、ケースを取り外します。



② ケースを本体の後部に取り付け、本体の白いキャップを取り外します。



- ③ 本体の先端に、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



600031

警告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅表示灯（ハザードランプ）を使用してください。

☆3-12ページ参照

アドバイス

- 発炎筒は常に使えるようにしておいてください。
- 発炎筒には有効期限が明記されています。有効期限が切れる前にスバル販売店でお求めください。

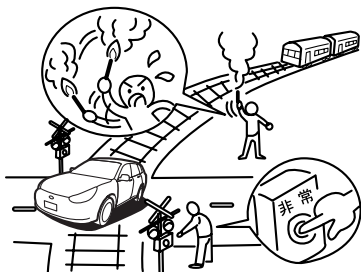
故障したとき

踏切で動けなくなったとき

踏切で脱輪などにより脱出できない場合は、踏切の非常ボタンを押してください。

非常ボタンがない場合、位置がわからない場合、緊急を要する場合は、発炎筒を使い合図をしてください。

☆7-14ページ参照



800462

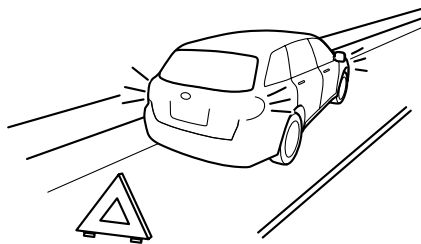


アドバイス

ブッシュエンジンスイッチを押し続けても（スターターを回そうとしている状態）、一時緊急にお車を動かすことはできません。セレクトレバーが[P]または[N]以外ではスターターは回りません。

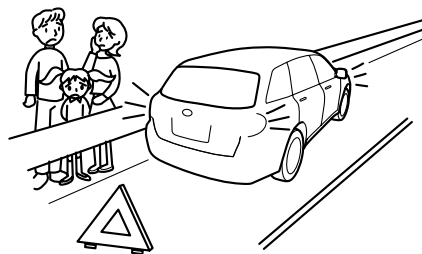
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

- ① お車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅表示灯（ハザードランプ）を点滅させ、お車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。



800463

- ② 全員お車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。



800464

- ③ 安全を確保後、救援をたのみます。



アドバイス

- 停止表示板または停止表示灯の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板または停止表示灯は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

- ① あわてず、もう一度エンジンを始動してみてください。

☆2-17ページ参照

- ② エンジンが始動しないときは、同乗者や付近の人に押してもらって安全な場所へ移動してください。移動するときはセレクトレバーを **N** にします。

故障時の対応方法と連絡先

- ① お車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
- ② お買い求めのスバル販売店または最寄りのスバル販売店に連絡し、ご相談ください。
- ③ スバル販売店に連絡が取れない場合は JAF ロードサービスなどに連絡し、ご相談ください。



アドバイス

万一のために、JAFに入会されることをお勧めします。JAFロードサービスの連絡先は巻末に記載されています。

けん引のとき

お車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。

旅先で最寄りのスバル販売店がわからない場合は、JAF ロードサービスなどに依頼してください。

けん引してもらうとき

■けん引方法の違い

お車の仕様によりけん引方法が違います。

- 車載（4輪持ち上げ）の場合

トランスミッションや駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。

- ロープけん引

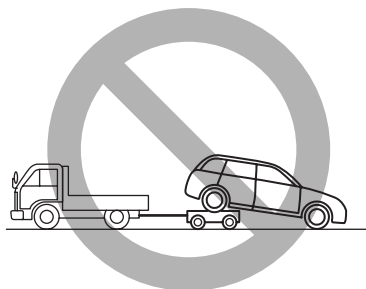
次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。

- ー 速度30km/h以下で走行してください。
- ー 走行距離は30kmを超えないでください。



注 意

前輪のみを持ち上げてのけん引および後輪のみを持ち上げてのけん引は、絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、お車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

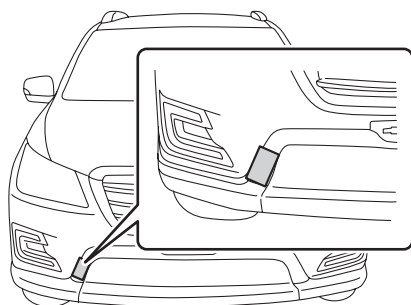


701135

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。

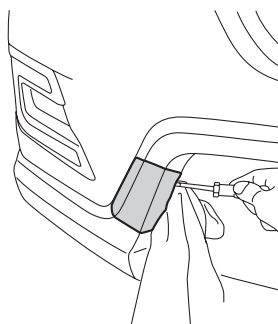
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。



701541

●けん引フックの取り付けかた

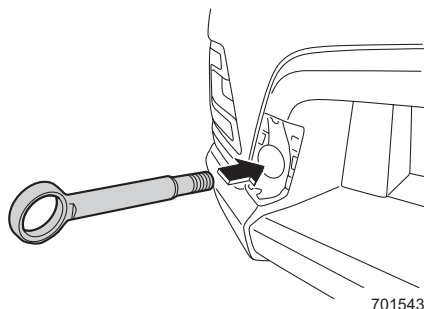
- ① バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。



701542

- ② けん引フックを荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボード下段から取り出し、取り付け部にねじ込んでください。

☆7-2ページ参照



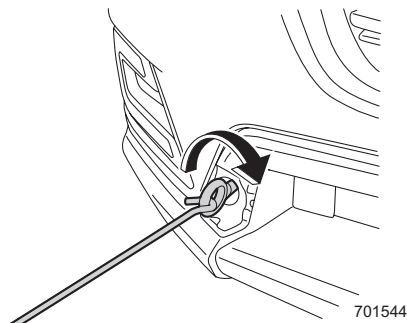
701543

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

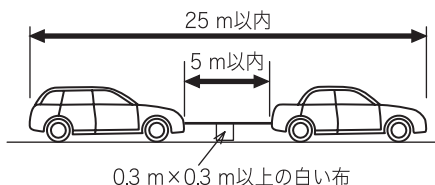
⇒前ページより

- ③ ジャッキハンドルなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。



●けん引方法

- ① ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布 (0.3 m×0.3 m以上) をつけます。



600023

- ② セレクトレバーを **N** にします。
③ プッシュエンジンスイッチをONにします (エンジンは始動しないでください)。

☆2-15ページ参照

- ④ 駐車ブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⚠ 警告

- プッシュエンジンスイッチをOFFにしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

⚠ 注意

- プッシュエンジンスイッチをONにしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- セレクトレバーを[N]にしてください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載（4輪持ち上げ）でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジン进行を止めてけん引するため、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
 - ーブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効きが悪くなります。
 - ーパワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキを確実に解除してください。
- トランスミッションおよび駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で（4輪を持ち上げて）けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

🏠 アドバイス

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引されると、バンパーを損傷するおそれがあります。

他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

警告

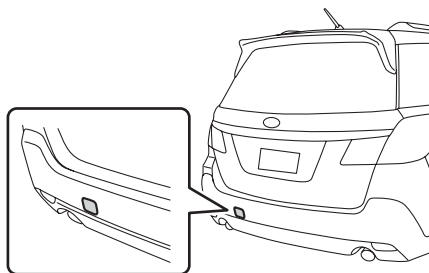
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと衝撃を受けたときフューエルポンプ燃料漏れ制御機能が正常に作動しないことがあります。

アドバイス

- けん引時は、フックにソフトロープをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトロープとバンパーフェース下面のロープとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

■けん引フックの取り付け位置

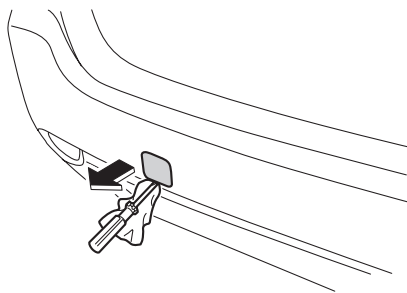
リヤバンパー左下にあります。



701545

■けん引フックの取り付けかた

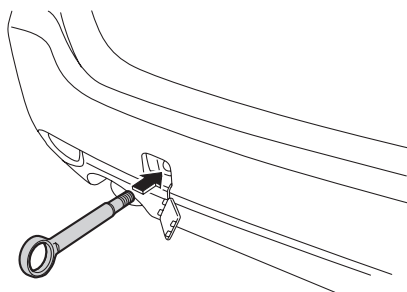
- ① バンパーに傷がつかないようマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。



701546

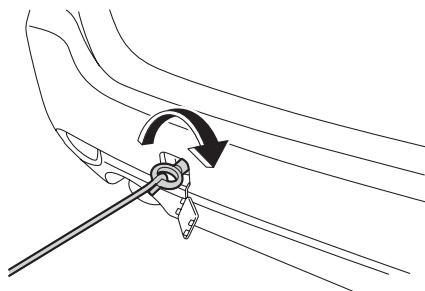
- ② けん引フックを荷室ダブルアンダーボックスまたはリバーシブルカーゴフロアボード下段から取り出し、取り付け部にねじ込んでください。

☆7-2ページ参照



701547

- ③ ジャッキハンドルなどを使って、奥まで確実にけん引フックを締め付けてください。



701548

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき

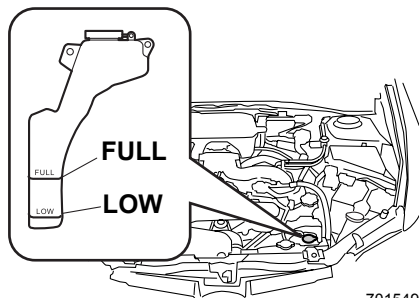
このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温計の針がオーバーヒートゾーンに入ったとき
- エンジンの力が急に落ちたとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

☆3-17ページ参照

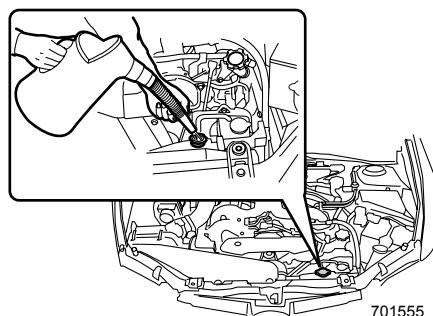
■対処のしかた

- ① 後続車に注意して安全な場所にお車を止め、エアコンを止めます。
- ② 車両の状態に応じて次の処置を行ってください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンを始動したままボンネットを開けて風通しをよくします。冷却ファンが回っている場合は水温計の針がオーバーヒートゾーンより下を示し、時間が充分経過してからエンジンを止めます。冷却ファンが回っていない場合は、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
- ③ エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
- ④ リザーバタンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水はFULL位置まで補給してください。



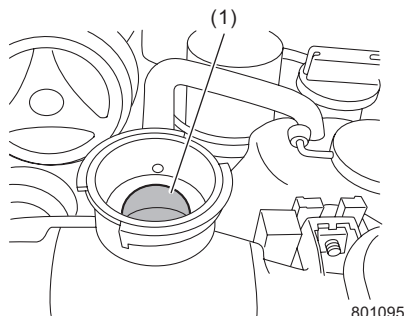
701549

- ⑤ ラジエーターキャップを開け、冷却水を補給してください。



701555

冷却水は注入口の口元（イラストの（１）の位置）まで補給します。



801095

⚠ 警告

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエーターが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターが十分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

⚠ 注意

冷却水は、エンジンが熱いときに入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。

🏠 アドバイス

冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水をご使用ください。

⑥ 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

バッテリーが上がったとき

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンが始動しないとき
- ランプがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき

■対処のしかた

押しがけによる始動はできません。

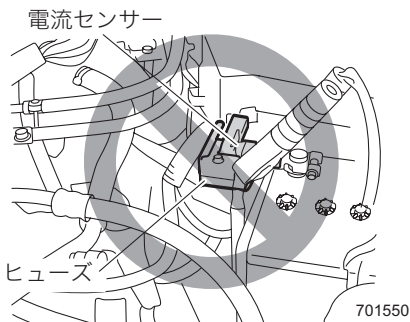
救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

⚠ 警告

- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で充電または使用を続けると、容器内の各部位の劣化を早め、バッテリーの寿命を縮めたり、発熱や破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことをお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。
 - － ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
 - － ⊕端子と⊖端子を接触させないでください。
 - － 自車のバッテリーの⊖端子にケーブルを接続しないでください。

☆7-28ページ参照

- － バッテリー⊕端子付近にある電流センサーやヒューズには絶対にケーブルを接続しないでください。電流センサーやヒューズが破損するおそれがあります。



- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充满すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮ふにつくと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。

⚠ 注意

ブースターケーブルを接続するときは、次の項目をお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。
- バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。始動しない場合は、ステアリングロックの初期化を行ってください。

☆2-16ページ参照

- 専用バッテリーを使用しています。バッテリーが上がったときは、スバル販売店で点検を受けてください。

☆3-50ページ参照

🏠 アドバイス

バッテリー交換などでバッテリー端子を再接続した直後は、エンジンが始動しないことがあります。その場合はプッシュエンジンスイッチをONにし、10秒以上経過してからエンジンを始動してください。エンジン始動直後はアイドリングが不安定になることがありますが、異常ではありません。

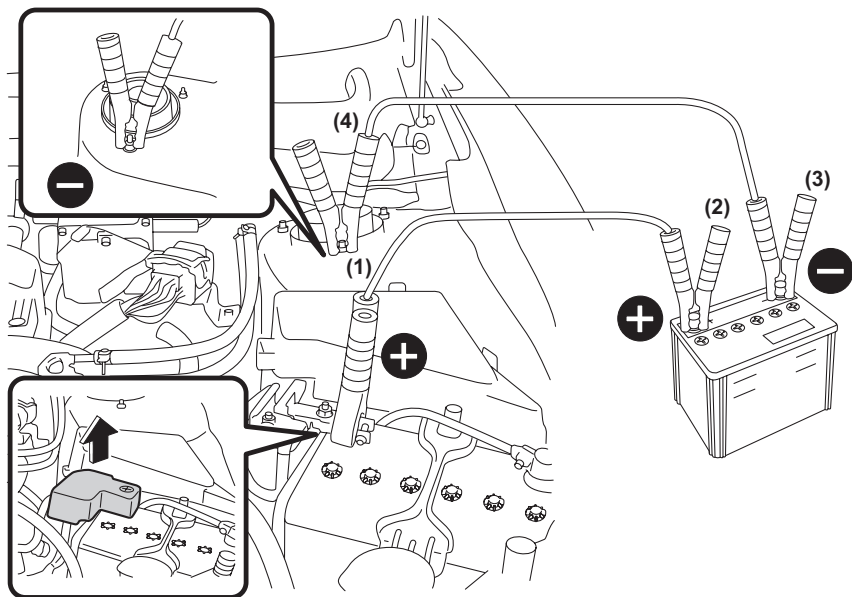
●ブースターケーブルの接続手順

- ① ⊕端子のカバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
- ② 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
- ③ 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
- ④ 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体(バッテリーから離れたボルトなど)につなげます。(4)
- ⑤ 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
- ⑥ 自車のエンジンを始動します。
- ⑦ ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。



アドバイス

早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。



701551

事故が起きたとき

対処のしかた

あわてず次の処置をしてください。

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所にお車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。

同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

SRSエアバッグが作動すると、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限に抑えます。エンジンを始動する必要がある場合は、次の手順で行ってください。

①プッシュエンジンスイッチをACCまたはOFFにします。

②エンジンを始動します。



注 意

エンジンを始動する前に、燃料が漏れていないことを充分確認してください。
地面に濡れたあとがあるなど燃料漏れの可能性がある場合は、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

MEMO

8

サービスデータ

サービスデータ

交換時期については、舗装路を1年に10,000 km程度走行する車を前提に定めてあります。
走行距離の多いお車や未舗装路を走行するなど厳しい使われかたをしたお車については、
「メンテナンスノート」をご覧ください。

オルタネーターベルトのたわみ量 (点検時)		自動調整式のため点検不要		
スパーク プラグ	指定スパークプラグ	品番	メーカー	電極すき間
		SILZKAR7B11※	NGK	1.0～1.1 mm
ブレーキ ペダル	遊び	0.5～2.7 mm		
	踏み込んだときの 床板とのすき間	約300 N (約30 kgf) の 力で踏み込んだとき		85 mm以上
駐車ブレーキペダルの踏みしろ		約300 N (約30 kgf) の 力でゆっくり踏み込んだとき		7～8ノッチ
タイヤ空気圧		8－5ページ参照		
ウォッシャータンク容量		3.0L		
燃料タンク容量		約65L		
指定燃料		無鉛レギュラーガソリン		
エアクリーナー エレメント	使用部品	純正エアクリーナーエレメント		
	交換時期	50,000 kmごと		
バッテリー型式		Q-85		

〈注〉※ イリジウムプラグは、次のことに注意してください。
電極材料に貴金属を使用しています。電極を損傷するおそれがあるため、プラグク
リーナーなどによる清掃やプラグギャップ (電極すき間) 調整は行わないでください。

エンジンオイル※ ¹	使用オイル	SUBARU MOTOR OIL ECO 0W-20※ ²	
		SUBARU MOTOR OIL SN 0W-20	
		SUBARU MOTOR OIL ECO 5W-30	
		SUBARU MOTOR OIL SN 5W-30	
		SUBARU Castrol SLX Professional SM 5W-40	
		SUBARU レ・プレイアード ZERO 0W-30	
	規定量	オイルのみ交換	オイルとフィルター 同時交換
		約4.6L	約4.8L
	交換時期	10,000 kmごと、または12か月ごと (どちらか早いほうで実施)	
エンジンの オイルフィルター	使用部品	純正オイルフィルター	
	交換時期	10,000 kmごと エンジンオイルと一緒に交換することをお奨めします。	
フューエルフィルター	使用部品	純正フューエルフィルター	
	交換時期	100,000 kmごと	

〈注〉※¹ エンジンオイル消費量は新車時から数千km走行すると安定しはじめます。

また、厳しい運転条件（悪路、山道、登降坂路、交差点などでの急加減速の繰り返し、またはエンジンの高回転使用頻度が高い等）での走行時は、通常に比べてエンジンオイルの消費が早くなることがあります。このような使用の頻度が高い場合、1000 km 走行あたり0.5L～1L消費する場合があります。早めの点検・補給をお奨めします。

※² 工場出荷時充填オイル

トランスミッションフルード	使用オイル	スバルCVTフルードリニアトロニックⅡ	
	規定量	約12.4L	
	交換時期	「メンテナンスノート」をご覧ください。	
フロントデファレンシャルオイル	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラMT 75W-80	
	規定量	約1.4L	
	交換時期	40,000 kmごと	
リヤデファレンシャルオイル	使用オイル	スバルギヤオイルエクストラS 75W-90	
	規定量	約0.8L	
	交換時期	40,000 kmごと	
冷却水	使用冷却水	スバルスーパークーラント	
	規定量	約7.6L	
	交換時期	1回目	220,000 kmまたは11年目 (どちらか早いほうで実施)
		2回目以降	120,000 kmごと、または6年ごと (どちらか早いほうで実施)
ブレーキフルード	使用フルード	スバル純正ブレーキフルードまたはDOT3 (銘柄の異なるブレーキフルードを使用しないこと)	
	交換時期	初回3年、以降2年ごと	
ドラムブレーキのシューの ライニング摩耗限度	後輪ディスク ブレーキの 駐車ブレーキ	使用限度：1.5 mm	
ディスクブレーキの パッドの摩耗限度	前輪	使用限度：1.5 mm	
	後輪	使用限度：1.5 mm	
ブレーキディスクの 摩耗限度	前輪/後輪	ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、スバル販売店にご相談ください。	
点火時期 [アイドリング時：エアコンOFF時]		BTDC16° /680 rpm	

＜タイヤ・ホイール＞

標準装着タイヤ、応急用スペアタイヤおよび装着可能なタイヤのサイズと空気圧は、車種・グレードにより異なりますので、運転席ドアを開けたボディ側に貼ってある「タイヤ空気圧」のラベルをご覧ください。

☆6-6ページ参照

■ホイールサイズ

タイヤサイズ	ホイールサイズ		
	リムサイズ	P.C.D	インセット量
215/50R17	17×7J	100	48
T135/80D16 (応急用タイヤ)	16×4T	100	20

■タイヤ空気圧

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 単位：kPa (kgf/cm ²)	
	前輪	後輪
215/50R17	230 (2.3)	220 (2.2)
T135/80D16 (応急用タイヤ)	420 (4.2)	

■タイヤの位置交換と交換時期

タイヤの位置交換（タイヤローテーション）時期	5,000 kmごと
タイヤの交換時期	ウエアインジケーターが現れたとき (タイヤの溝の深さが1.6 mm以下)

MEMO

さくいん

あ

アームレスト	
セカンドシート	2-64
フロントシート	2-60
アイドリングストップ	
OFFスイッチ	3-48
警告灯／OFF表示灯	3-49
警告ブザー	3-49
作動しない条件	3-46
作動条件	3-45
表示灯	3-48
アクセスキー	
作動エリア	2-6
正常に作動しないとき	2-29
施錠・解錠	2-6、2-11
電池交換	6-45
持ち出し警告	2-23
アクティブトルクスプリットAWD	
	3-52
アクティブヘッドレスト	2-56
アシストグリップ（回転式）	4-23
雨の日の運転	1-19
アンチロックブレーキシステム（ABS）	
	3-53
警告灯	3-25、3-54

い

ISO FIX固定バーおよびテザーアンカー	
	2-87
ISO FIX固定バー方式で固定する	
チャイルドシートについて	2-85
イベントデータレコーダー（EDR）	
	1-37
イモビライザー	2-47
イルミネーションコントロールダイヤル	
	3-13
Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯	
	3-21
インフォメーションメーター	4-30

う

ウインカー（方向指示器）	
電球（バルブ）の交換	6-28、6-31
表示灯	3-21
レバー	3-6
ワット数	6-23、6-24
ウインドウデフォグガースイッチ	
	3-10
ウエアインジケーター	6-8
ウェルカム／グッバイ照明	
	3-14、3-20
ウォッシュャー液	
寒冷地での使いかた	5-4
スイッチ	3-6
タンク	6-4
濃度調整	5-4
雨天の走行	1-19
運転装置の使いかた	3-31

え

エアコン	4-2
位置と名称	4-2
エアコンフィルターの交換	6-43
使いかた	4-5
吹き出し口	4-2
AWD（四輪駆動）	
AWD車の運転	3-51
警告灯	3-26
ABS（アンチロックブレーキシステム）	
	3-53
警告灯	3-25、3-54
SRSエアバッグシステム	2-103
警告灯	3-26
作動しないとき	2-115
作動しにくいとき	2-112
作動するとき	2-111

SRSエアバッグシステム（サイド）	
作動しないとき	2-118
作動しにくいとき	2-116
作動するとき	2-115
SI-DRIVE	3-43
表示灯	3-22
エレクトロニックブレーキフォース	
ディストリビューション（EBD）	3-55
エンジン	
警告灯	3-28
始動	2-17
始動警告	2-22
停止	2-20
エンジンオイル	8-3
オイルプレッシャー警告灯	3-27
寒冷地での使いかた	5-3
エンジン始動の作動エリア	2-14
エンジンブレーキ	1-20
お	
オイルプレッシャー警告灯	3-27
応急用スペアタイヤ	
イラスト目次	5、7-4
格納場所	7-4
空気圧	8-5
サイズ	8-5
オートヘッドランプレベラー	
（自動光軸調整機構）	3-5
警告灯	3-5、3-29
オートライト	3-3
オーバーヒートしたとき	7-24
お車の手入れ	6-9
オドメーター	3-18

か

カーゴフック	4-23
カーゴルームランプ	
使いかた	4-28
電球（バルブ）の交換	6-33
ワット数	6-24
カーテシーランプ	
電球（バルブ）の交換	6-32
ワット数	6-23
外気温度計	4-30
外装の手入れ	6-10
買い物フック	4-24
カップホルダー	4-14
ガラスの手入れ	6-13
間欠ワイパー	3-7
寒冷地での使いかた	5-1

き

キー	1-3
閉じ込み防止機能	2-34
キーレスアクセス&プッシュスタート	
	2-2
エンジン始動の作動エリア	2-14
機能の使い方	2-8
機能の停止方法	2-28
作動エリア	2-6
システム異常警告	2-24
施錠および解錠	2-6
キックダウン	1-12

く

クリーブ現象	1-12
グローブボックス	4-17

け

警告音および警告表示による警報	2-21
警告灯	イラスト目次- 8、3-24
警報装置	1-3
作動させてしまったときには	2-51
設定	2-51
表示灯	3-21
けん引のとき	7-18
減光キャンセル機能	3-13

こ

光軸調整機構（ヘッドランプレベラー）	3-5
高速道路、自動車専用道路で	
動けなくなったとき	7-16
後退灯	
電球（バルブ）の交換	6-30
ワット数	6-24
故障したとき	7-16
故障時の対応方法と連絡先	7-17
小物入れ	4-17
コンビネーションメーター	
警告灯	イラスト目次- 8
表示灯	イラスト目次- 7
メーター	3-14

さ

サードシート	2-70
荷室として使用するとき	2-72
ヘッドレストの高さ調整	2-70
サードシートベルト	2-80
サービスデータ	8-1
3点式シートベルト	2-76
サンバイザー	4-16

し

シート	
サードシート	2-70
シートの調整	2-65、2-71
セカンドシート	2-63
正しい運転（乗車）姿勢	2-54
フロントシート	2-56
シートヒーター	2-62
シートベルト	2-73
警告灯	2-78、3-24
3点式	2-76
高さ調整（ショルダージャスター）	2-77
正しい着用	2-73
プリテンショナー	2-79
CVT車	3-32
運転手順	3-36
セレクトレバー	3-32
マニュアルモード	3-40
事故が起きたとき	7-29
自動光軸調整機構	
（オートヘッドランプレベラー）	
警告灯	3-5、3-29
シフトダウン	1-20
シフトポジション表示	3-22
シフトロックシステム	1-16、3-34
解除ボタン	3-35
ジャッキ	イラスト目次- 5、7-2
ジャッキアップポイント	7-9
ジャッキハンドル	7-2
車幅灯	
ワット数	6-23
集中ドアロック	2-33
瞬間燃費計	4-31
ショルダージャスター	2-77

す

水温計	3-17
スタッドレスタイヤ（冬用タイヤ）	1-25、5-2
ステアリング制御警告灯	3-30
スパークプラグ	8-2
スピードメーター（速度計）	3-15
スベアタイヤ	7-4
スポットマップランプ	
使いかた	4-26
電球（バルブ）の交換	6-35
ワット数	6-23
スライド調整（前後の調整）	2-65

せ

セカンドシート	2-63
アームレスト	2-64
ウォークイン機構	2-66
スライド調整（前後の調整）	2-65
荷室を広くするとき	2-68
ヘッドレストの高さ調整	2-63
セカンドシートベルト	2-80
セキュリティシステム	2-47
イモビライザー	2-47
盗難警報装置	2-49
セキュリティ表示灯	3-21
節電機能	2-10
セレクトインジケーター	3-22
セレクトレバー	3-32
洗車のしかた	6-10
センタートレイ	4-17

そ

走行するときには	1-17
走行する前に	5-6
速度計（スピードメーター）	3-15
ソフトフラットシート	2-61

た

タイヤ	
ウエアインジケーター	6-8
応急用スベアタイヤ	イラスト目次-5、7-4
空気圧	6-6、8-5
タイヤ交換	6-17、7-8
タイヤローテーション（位置交換）	6-16
チェーンの装着	5-2
点検	6-5
冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）	1-25
タイヤホイール	6-5
バランス	6-7
タコメーター（エンジン回転計）	3-15

ち

チャージ警告灯	3-27
チャイルドシート	2-82
チャイルドブルーフ	2-35
駐車	
寒冷地での使いかた	5-9
駐・停車するときには	1-26
ブレーキ	3-31
ブレーキ警告灯	3-24
チルト／テレスコピックステアリング	2-121

て

テザーアンカー	2-85、2-88
電球（バルブ）	
交換	6-23
ワット数	6-23、6-24
電源ソケット	4-21
電源の切り替えかた	2-15
電池交換	
アクセスキー	6-45
電動格納式ドアミラー	2-123
電動リモコンドアミラー	2-123

と

ドア	2-31
開閉	2-31
施錠・解錠	2-6、2-11、2-32
半ドア警告灯	3-25
半ドア対策機能	2-34
ドアミラー	2-123
盗難警報装置	1-3、2-49
作動させてしまったときには	2-51
設定	2-51
表示灯	3-21
時計	4-29
トラクションコントロール (TCS)	3-57
トリップメーター	3-19

な

内装の手入れ	6-14
--------	------

に

荷室	イラスト目次-5
荷室ダブルアンダーボックス	4-18
日常の手入れ	6-9

ね

燃費計	4-30
燃料	
燃料給油口	2-40
燃料計	3-16
燃料残量警告灯	3-28

は

ハイビーム/パッシング表示灯	3-21
ハザードランプ (非常点滅表示灯)	
スイッチ	3-12
電球 (バルブ) の交換	6-28、6-31
ワット数	6-23、6-24

発炎筒	7-14
パッシング	3-4
はっ水ガラスについて	6-13
バッテリー	
型式	8-2
寒冷地での使いかた	5-5
警告灯	3-27
バッテリーが上がったとき	7-26
バッテリー上がり防止機能	2-16
パドルシフトレバー	3-41
バニティミラー	4-16
バルブ (電球)	
交換	6-23
ワット数	6-23、6-24
パワーウィンドウ	2-36
パワーシート	2-57
リクライニング調整 (背もたれの角度調整)	2-58、2-66、2-71
パワーステアリング	3-62
パンクしたタイヤの格納	7-12
番号表示灯 (ライセンスランプ)	
電球 (バルブ) の交換	6-32
ワット数	6-24
半ドア警告灯	3-25
半ドア対策機能	2-34
ハンドル	3-62

ひ

ヒートッドアミラー	2-124
非常点滅表示灯 (ハザードランプ)	
スイッチ	3-12
電球 (バルブ) の交換	6-28、6-31
ワット数	6-23、6-24
ヒューズ	6-36
点検・交換	6-41
表示灯	イラスト目次-7

ふ

VDC (ピークルダイナミクス コントロール)	3-57
OFFスイッチ	3-60
OFF表示灯	3-22
警告灯/作動表示灯	3-28
プッシュエンジンスイッチ	2-14、3-2
プッシュエンジンスイッチ作動表示灯の 点滅による警報	2-24
プッシュスタート	2-14
踏切で動けなくなったとき	7-16
フューエルメーター (燃料計) ...	3-16
フューエルリッド (燃料給油口)	2-40
冬の前の準備、点検	5-2
冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ)	1-25、5-2
ブライト機能	3-13
プラグ (スパークプラグ)	8-2
フラットシート	2-61
プリテンショナー付シートベルト	2-79
ブルーイルミネーション	4-28
フルオートエアコン	4-5
ブレーキアシスト	3-56
ブレーキオーバーライド	3-56
ブレーキ警告灯	3-24
ブレーキブースター	3-55
ブレーキペダル	3-33
駐車ブレーキ	3-31
フロントウォッシャー	3-7
フロントシート	2-56
シートヒーター	2-62
上下調整	2-59
スライド調整 (前後の調整)	2-58
パワーシート	2-57
ヘッドレストの高さ調整	2-56
リクライニング調整 (背当て角度の 調整)	2-58

フロントシートベルト	2-76
フロントワイパー	3-6
フロントワイパーデアイサースイッチ	3-11

へ

平均燃費計	4-32
ヘッドランプ	3-4
合図のしかた (パッシング) ...	3-4
オートヘッドランプレベラー (自動光軸調整機構)	3-5
上下を切り替えるとき	3-4
ハイビーム/パッシング表示灯	3-21
ライティングスイッチ	3-2
ライティングスイッチ表示灯	3-21
ヘッドレスト	2-56、2-63、2-70

ほ

方向指示器 (ウインカー) 電球 (バルブ) の交換	6-28、6-31
表示灯	3-21
レバー	3-6
ワット数	6-23、6-24
ホーンスイッチ	3-12
ボディカバー	6-9
ボンネット	2-42

ま

マニュアルモード	3-40
万一のとき	7-1

み

ミスト	3-7
ミラー ドアミラー	2-123
パニティミラー	4-16
ルームミラー	2-122

め

- メーター……………3-14
- 警告灯…………イラスト目次-8、3-24
- 初期作動……………3-15
- 表示灯……………イラスト目次-7
- メカニカルキーによる施錠・解錠
……………2-29

ゆ

- 雪道走行……………1-25、5-2

よ

- 四輪駆動 (AWD)
- AWD車の運転……………3-51
- 警告灯……………3-26

ら

- ライセンスランプ (番号表示灯)
- 電球 (バルブ) の交換……………6-32
- ワット数……………6-24
- ライティングスイッチ……………3-2
- 表示灯……………3-21

り

- リクライニング調整 (背もたれの角度
調整) ……2-58、2-66、2-71
- リバーシブルカーゴフロアボード
……………4-20
- リヤウインドウデフォグスイッチ
……………3-10
- リヤゲート……………2-44
- リヤワイパー／ウォッシャー……………3-8

る

- ルームミラー……………2-122
- ルームランプ……………4-26
- スイッチ……………4-26
- 電球 (バルブ) の交換……………6-34
- ワット数……………6-23

ろ

- 路上で動けなくなったとき ……7-17

わ

- ワイパー／ウォッシャースイッチ
……………3-6
- ワイパーデアイサー ……3-11
- ワイパーブレードの交換 ……6-18

A

ABS（アンチロックブレーキシステム）	3-53
警告灯	3-25、3-54
AWD（四輪駆動）	
AWD車の運転	3-51
警告灯	3-26

C

CVT車	3-32
運転手順	3-36
セレクトレバー	3-32
マニュアルモード	3-40

E

EBD（エレクトロニックブレーキフォー スディストリビューション）	3-55
EDR（イベントデータレコーダー）	1-37

I

ISO FIX固定バーおよびテザーアンカー	2-87
ISO FIX固定バー方式で固定する チャイルドシートについて	2-85

S

SI-DRIVE	3-43
表示灯	3-22
SRSエアバッグシステム	2-103
警告灯	3-26
作動しないとき	2-115
作動しにくいとき	2-112
作動するとき	2-111
SRSエアバッグシステム（サイド）	
作動しないとき	2-118
作動しにくいとき	2-116
作動するとき	2-115

T

TCS（トラクションコントロール）	3-57
-------------------	------

V

VDC（ビークルダイナミクス コントロール）	3-57
OFFスイッチ	3-60
OFF表示灯	3-22
警告灯／作動表示灯	3-28

MEMO

困ったときのQ&A

? ? アクセスキーでドアが開かない



電波ノイズの影響または電池切れが考えられます。



お車に近づいて再度操作してください。
お車の周囲約1m以内で何度か操作をしても開かない場合は、アクセスキーの電池の消耗あるいは故障が考えられます。スバル販売店にご相談ください。

☆2-4ページ参照

☆6-45ページ（アクセスキーの電池交換）参照

? ? エンジンが始動しない



ブレーキペダルの踏み込みが弱いことが考えられます。



ブッシュエンジンスイッチ内の作動表示灯が緑色に点灯するまでブレーキペダルを踏み込み、ブッシュエンジンスイッチを押してください。

なお、エンジン始動前はブレーキペダルが重くなるがありますが、異常ではありません。

☆2-17ページ（エンジンの始動）参照



ハンドルがロックされていることが考えられます。



ハンドルを軽く左右に回しながら、ブレーキペダルを踏み、ブッシュエンジンスイッチを押してください。
表示灯が緑色に点滅しているときはエンジンが始動しません。

☆2-16ページ（ステアリングロックの解除）参照

? ? 後席ドアが中から開けられない



チャイルドブーフが作動していることが考えられます。



車外からドアハンドルを引いて開けてください。
チャイルドブーフを解除するときは、レバーを「FREE」側に動かしてください。

☆2-35ページ（チャイルドブーフ）参照

? ? ハンドルが急に重くなった



電動パワーステアリングの保護システムが作動していることが考えられます。



車庫入れなどでハンドル操作を何度も繰り返すと、保護システムが作動することがあります。このときハンドルが重くなりますが、故障ではありません。通常の操作力に戻るまで、しばらくハンドル操作を控えてください。

☆3-62ページ（パワーステアリング）参照

? ? アイドリングストップしない



アイドリングストップが作動する条件を満たしていないことが考えられます。



走行中、アイドリングストップする条件が揃うとアイドリングストップ表示灯(A)(緑色)が点灯します。作動条件および作動しない条件は「アイドリングストップ」をご覧ください。

☆3-44ページ参照



停車時または停車後のブレーキおよびハンドルの操作が、アイドリングストップが作動する条件を満たしていないことが考えられます。



- ブレーキの踏み込みが弱いとアイドリングストップしないことがあります。停車後、ブレーキを踏み増してください。
- ハンドルは曲がっていませんか？
停車時にハンドルが直進状態でなかった場合または、停車後ハンドルを操作しているときはアイドリングストップしません。

☆3-45ページ（アイドリングストップの作動条件）参照

? ? アイドリングストップした後、ブザーが鳴りエンジンが始動できない



アイドリングストップ中、運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けると、安全を確保するため、強制的にエンスト状態になります。



セレクトレバーを[P]にし、通常の操作でエンジンを始動してください。

☆3-49ページ（ブザー（ピーー）が鳴るとき）参照

ご意見、ご感想、お問い合わせはお近くのスバル販売店
または弊社「SUBARUお客様センター」へお願いいたします。

＊お乗りのお車に関してお電話等でお問い合わせをいただく際は、お客さま
へ正確・迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車
の車検証等をご準備いただきますようご協力をお願いしております。

①車検証記載事項

型式・車台番号・登録番号・登録年月日

②走行距離

③販売店・担当者名

SUBARUお客様センター

SUBARUコール  **0120-052215**

受付時間【平 日】9:00～17:00

【土日祝】9:00～12:00、13:00～17:00

※平日の12:00～13:00および土日祝は

(1) のインフォメーションサービスのみとなります。

SUBARUお客様センターでは下記の内容を承っております。

(1) ご意見／ご感想／ご案内(カタログ、販売店、転居お手続き 他)

(2) お問合せ／ご相談

株式会社SUBARU

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿1-20-8 (エビススバルビル)

JAF ロードサービス
救援コール



ナビダイヤル®

0570-00-8139

通話料は有料(固定電話は1分/10円、携帯電話は20秒/10円)。
ただし、一部のIP電話等からはご利用になれません。

※携帯電話からおかけの場合
基本使用料金に含まれる無料通信分の対象とはなりません。

または **短縮ダイヤル #8139**

通話料は有料。
ただし、固定電話「ダイヤル回線」からはご利用になれません。

全国共通・24時間年中無休

禁複製・転載

編集・発行 **株式会社SUBARU**